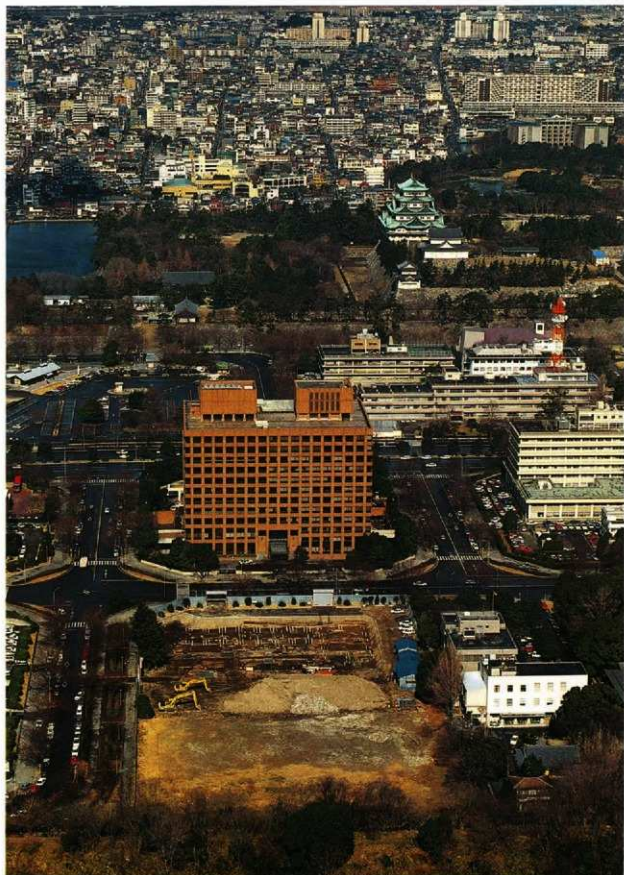


愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第 37 集

なごやじょうさん まる
名古屋城三の丸遺跡(Ⅲ)

1 9 9 2

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター



調査区上空から名古屋城（南から）



色絵婦人座像 (SK52他出土)

序

「尾張名古屋は城でもつ。」といわれ、江戸時代以来、全国にその名を馳せてきた名古屋城は、代表的な近世城郭の一つとして今にその優雅な姿を伝えています。その旧状をよくとどめた本丸・二の丸に対し、外堀に囲まれた三の丸は、早くから開発が進み、今日では一大官庁街となっています。しかし、江戸時代においては、この一帯は、文字どおり、尾張藩城の「三の丸」として、成瀬氏、竹腰氏ら、藩の重臣たちの屋敷が並ぶ武家屋敷となっていました。

こうした三の丸の一角において、税務大学校名古屋研修所の跡地を利用して名古屋家庭・簡易裁判所の建設が建設省中部地方建設局により計画されるにいたり、埋蔵文化財の事前調査が必要となりました。このため、愛知県埋蔵文化財センターでは、県教育委員会を通じ、建設省より委託を受け、平成2年度事業として発掘調査を実施しました。

調査の結果、江戸時代の遺構、遺物だけでなく、古代から戦国時代にいたる遺構、遺物も発見され、多くの新たな知見を得ることができました。本書は、その成果をまとめたものであり、歴史研究の資料として活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いです。

なお、発掘調査の実施にあたっては、関係諸機関、並びに関係者の方々には、多大な御指導と御協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

平成4年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
理事長 高木 鐘三

例 言

1. 本書は、名古屋市中区三の丸に所在する「名古屋城三の丸遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、建設省中部地方建設局による名古屋家庭・簡易裁判所合同庁舎建設に伴うものであり、県教育委員会を通じて委託を受けた、愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は、平成2年10月から同3年3月であり、調査に引き続き、平成3年度には報告書作成のための整理作業を実施した。
4. 調査担当者は、日比寧（本センター主査）・赤塚次郎（調査研究員）・鷲見豊（同）・小塚俊夫（同）・伊藤隆彦（嘱託員）・金子健一（同）であり、他に補助員として、河合明美・木全左奈恵・榎真美子・寺沢なつ江・永草康次・前田弘子・萬谷さつき・八木佳素実の各氏の協力を得た。
5. 調査記録及び出土品の整理等については、調査員・補助員のほか、以下の方々の協力を得た。
赤崎佳奈美・伊藤香代・岩崎繁子・大江聡子・大崎園生・小栗恵美奈・小栗望・加賀良子・加藤久美子・後藤美子・小林裕子・杉山美智子・土居港・中川佐知子・中西純子・苗村明美・奈良康正・林由香子・日榮智子・洞地恭子・源志乃・山田康博
6. 調査にあたっては、県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センターの指導を得たほか、名古屋市教育委員会、建設省中部地方建設局の協力を得た。
7. 本書の執筆分担は、以下の通りであるが、文責については目次及び各文末に記した。なお、編集は金子が担当した。
鷲見Ⅰ-1～4、金子Ⅱ-1～4、Ⅲ-2・3、Ⅳ、赤塚Ⅲ-1・2、松田調（本センター嘱託員）Ⅲ-3、八木Ⅲ-3
また、遺物写真の撮影・図版作成では日榮智子（南山大学学生）の協力を得た。
8. 本書の作成にあたっては、以下の各氏の御指導、御協力を得た。（敬称略）
赤羽一郎、館谷一、井上喜久男、梅本博志、大橋康二、北野隆亮、佐藤公保、柴垣勇夫、下村信博、千田嘉博、横伸一郎、楢崎彰一、仲野泰裕、野嶋喜子、村上伸之
9. 調査記録の座標は、国土座標第七系に準拠する。
10. 調査記録及び出土品は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

第I章 調査概要

第1節 経緯	(驚見)	1
第2節 経過	(驚見)	2
第3節 立地と地理的環境	(驚見)	3
第4節 歴史的環境	(驚見)	5

第II章 遺 構

第1節 基本層序	(金子)	9
第2節 古代の遺構	(金子)	10
第3節 中世の遺構	(金子)	11
第4節 近世の遺構	(金子)	15

第III章 遺 物

第1節 古代の遺物	(赤塚)	37
第2節 中世の遺物	(赤塚・金子)	37
第3節 近世の遺物		
分類と分析の方法	(金子)	42
概要	(金子)	42
陶磁器		50
焼塩壺	(松田)	150
軟質陶器		164
墨書のある遺物		166
人形・玩具類	(八木)	168
瓦		182
木製品		186
金属製品		187
石・ガラス製品		193
自然遺物		196

第IV章 ま と め	(金子)	197
------------------	------------	-----

付表 (遺構一覧表)		199
------------------	--	-----

図版目次

- | | | | |
|------|--|------|------------------------------|
| 図版1 | 名古屋城全景 | 図版18 | 近世の遺物(4) SD12・08 |
| 図版2 | 古代・中世の遺構(1) 調査区全景・SB501 | 図版19 | 近世の遺物(5) SK52 |
| 図版3 | 古代・中世の遺構(2) 南部分・SD506・SD505・506土層セクション | 図版20 | 近世の遺物(6) SK52 |
| 図版4 | 古代・中世の遺構(3) SD501・同西端部分 | 図版21 | 近世の遺物(7) SK52 |
| 図版5 | 古代・中世の遺構(4) SD501西端部分・同コーナー部分・同土層セクション | 図版22 | 近世の遺物(8) SK52 |
| 図版6 | 近世の遺構(1) 調査区全景・調査区及び外堀をのぞむ | 図版23 | 近世の遺物(9) SK52 |
| 図版7 | 近世の遺構(2) 西半部分・東半部分 | 図版24 | 近世の遺物(10) SK78 |
| 図版8 | 近世の遺構(3) 北東部分・南東部分・中央部分 | 図版25 | 近世の遺物(11) SK78 |
| 図版9 | 近世の遺構(4) 調査区全景・南西部分 | 図版26 | 近世の遺物(12) SK78 |
| 図版10 | 近世の遺構(5) SD04・08・SA03・05 | 図版27 | 近世の遺物(13) SK78・135 |
| 図版11 | 近世の遺構(6) SK52・78・SX04土層セクション | 図版28 | 近世の遺物(14) SK135 |
| 図版12 | 近世の遺構(7) SK75・76・126・SD09・10・14・17土層セクション | 図版29 | 近世の遺物(15) SK135 |
| 図版13 | 近世の遺構(8) SD08西端部・同東端部土層セクション | 図版30 | 近世の遺物(16) SK144 |
| 図版14 | 近世の遺構(9) SK26・27・28・136・145・161・SX04遺物出土状態 | 図版31 | 近世の遺物(17) SK144・136 |
| 図版15 | 近世の遺物(1) SK149・33・75 | 図版32 | 近世の遺物(18) SK84 |
| 図版16 | 近世の遺物(2) SK75・SX04 | 図版33 | 近世の遺物(19) SK84 |
| 図版17 | 近世の遺物(3) SX04 | 図版34 | 近世の遺物(20) SK56 |
| | | 図版35 | 近世の遺物(21) SK56・SD03・その他 |
| | | 図版36 | 近世の遺物(22) 焼塩壺 |
| | | 図版37 | 近世の遺物(23) 軟質陶器・墨書のある遺物 |
| | | 図版38 | 近世の遺物(24) 人形・玩具類 |
| | | 図版39 | 近世の遺物(25) 木製品・金属製品・ガラス製品・石製品 |
| | | 図版40 | 調査区全体図(古代・中世) |
| | | 図版41 | 調査区全体図(近世) |

挿図目次

- | | | | | | |
|-----|-------------------|---|-----|-----------------|---|
| 第1図 | 遺跡の位置 | 1 | 第4図 | 名古屋城三の丸遺跡と周辺の遺跡 | 4 |
| 第2図 | 表土剥ぎ風景 | 2 | 第5図 | 遺跡周辺の地形 | 4 |
| 第3図 | 名古屋城三の丸遺跡と調査地点位置図 | 3 | 第6図 | 作業風景 | 6 |
| | | | 第7図 | 現地説明会風景 | 6 |

第8図	名古屋城三の丸遺跡西壁基本層序 模式図……………	9	層セクション……………	32	
第9図	古代の遺構 SB501平面図・断 面図……………	10	第29図	近世の遺構(15) SB01平面図・断 面図……………	33
第10図	名古屋城三の丸遺跡古代・中世主 要遺構配置図……………	11	第30図	近世の遺構(16) SE01……………	34
第11図	中世の遺構(1)SE501……………	12	第31図	近世の遺構(17) SE02……………	34
第12図	中世の遺構(2)SE502……………	12	第32図	古代の遺物 SB501・SK511・522・ 523・SD505……………	38
第13図	中世の遺構(3)SE501・SD501 ・505・506土層セクション……………	13	第33図	中世の遺物(1) SK511・523・530・ 534・560・SD502……………	38
第14図	名古屋城三の丸遺跡近世主要遺構 配置図……………	15	第34図	中世の遺物(2) SK555・558・562・ SD505・506・SE501・502……………	40
第15図	近世の遺構(1) SD08~11・14・17 土層セクション……………	17	第35図	中世の遺物(3) SD501……………	41
第16図	近世の遺構(2) SD03・04・08・14 ・17・20・SA04~06平面図……………	18	第36図	近世の遺物(1) SK149 ①……………	59
第17図	近世の遺構(3) SD08~16平面図……………	19	第37図	近世の遺物(2) SK149 ②……………	60
第18図	近世の遺構(4) SA01~03平面図・ 断面図……………	20	第38図	近世の遺物(3) SK33 ①……………	61
第19図	近世の遺構(5) SA05平面図・断 面図……………	21	第39図	近世の遺物(4) SK33 ②……………	62
第20図	近世の遺構(6) 土坑群B平面図……………	22	第40図	近世の遺物(5) SK75 ①……………	63
第21図	近世の遺構(7) SK38平面図・土 層セクション……………	23	第41図	近世の遺物(6) SK75 ②……………	64
第22図	近世の遺構(8) 土坑群C・D・E 平面図……………	25	第42図	近世の遺物(7) SK75 ③……………	65
第23図	近世の遺構(9) SK78平面図・土 層セクション……………	26	第43図	近世の遺物(8) SX04 ①……………	66
第24図	近世の遺構(10) SK52平面図・土 層セクション……………	27	第44図	近世の遺物(9) SX04 ②……………	67
第25図	近世の遺構(11) SK73~76・126平面 図・土層セクション……………	29	第45図	近世の遺物(10) SX04 ③……………	68
第26図	近世の遺構(12) 土坑群F平面図……………	30	第46図	近世の遺物(11) SX04 ④……………	69
第27図	近世の遺構(13) SK144平面図・土 層セクション……………	31	第47図	近世の遺物(12) SX04 ⑤……………	70
第28図	近世の遺構(14) SX04平面図・土 層セクション……………	31	第48図	近世の遺物(13) SX04 ⑥……………	71
			第49図	近世の遺物(14) SX04 ⑦……………	72
			第50図	近世の遺物(15) SX04 ⑧……………	73
			第51図	近世の遺物(16) SX04 ⑨……………	74
			第52図	近世の遺物(17) SX04 ⑩……………	75
			第53図	近世の遺物(18) SX04 ⑪……………	76
			第54図	近世の遺物(19) SX04 ⑫……………	77
			第55図	近世の遺物(20) SD12 ①……………	78
			第56図	近世の遺物(21) SD12 ②……………	79
			第57図	近世の遺物(22) SD12 ③……………	80
			第58図	近世の遺物(23) SD08 ①……………	81
			第59図	近世の遺物(24) SD08 ②……………	82

第60図	近世の遺物(25)	SD08	③	83	第96図	近世の遺物(61)	SK135	①	119
第61図	近世の遺物(26)	SD08	④	84	第97図	近世の遺物(62)	SK135	②	120
第62図	近世の遺物(27)	SK80	①	85	第98図	近世の遺物(63)	SK135	③	121
第63図	近世の遺物(28)	SK80	②	86	第99図	近世の遺物(64)	SK135	④	122
第64図	近世の遺物(29)	SK80	③	87	第100図	近世の遺物(65)	SK135	⑤	123
第65図	近世の遺物(30)	SK52	①	88	第101図	近世の遺物(66)	SK135	⑥	124
第66図	近世の遺物(31)	SK52	②	89	第102図	近世の遺物(67)	SK135	⑦	125
第67図	近世の遺物(32)	SK52	③	90	第103図	近世の遺物(68)	SK144	①	126
第68図	近世の遺物(33)	SK52	④	91	第104図	近世の遺物(69)	SK144	②	127
第69図	近世の遺物(34)	SK52	⑤	92	第105図	近世の遺物(70)	SK144	③	128
第70図	近世の遺物(35)	SK52	⑥	93	第106図	近世の遺物(71)	SK144	④	129
第71図	近世の遺物(36)	SK52	⑦	94	第107図	近世の遺物(72)	SK144	⑤	130
第72図	近世の遺物(37)	SK52	⑧	95	第108図	近世の遺物(73)	SK144	⑥	131
第73図	近世の遺物(38)	SK52	⑨	96	第109図	近世の遺物(74)	SK144	⑦	132
第74図	近世の遺物(39)	SK52	⑩	97	第110図	近世の遺物(75)	SK136・145		133
第75図	近世の遺物(40)	SK52	⑪	98	第111図	近世の遺物(76)	SK84	①	134
第76図	近世の遺物(41)	SK52	⑫	99	第112図	近世の遺物(77)	SK84	②	135
第77図	近世の遺物(42)	SK52	⑬	100	第113図	近世の遺物(78)	SK84	③	136
第78図	近世の遺物(43)	SK52	⑭	101	第114図	近世の遺物(79)	SK84	④	137
第79図	近世の遺物(44)	SK52	⑮	102	第115図	近世の遺物(80)	SK84	⑤	138
第80図	近世の遺物(45)	SK52	⑯	103	第116図	近世の遺物(81)	SK84	⑥	139
第81図	近世の遺物(46)	SK78	①	104	第117図	近世の遺物(82)	SK84	⑦	140
第82図	近世の遺物(47)	SK78	②	105	第118図	近世の遺物(83)	SK84	⑧	141
第83図	近世の遺物(48)	SK78	③	106	第119図	近世の遺物(84)	SK56	①	142
第84図	近世の遺物(49)	SK78	④	107	第120図	近世の遺物(85)	SK56	②	143
第85図	近世の遺物(50)	SK78	⑤	108	第121図	近世の遺物(86)	SK56	③	144
第86図	近世の遺物(51)	SK78	⑥	109	第122図	近世の遺物(87)	SK56	④	145
第87図	近世の遺物(52)	SK78	⑦	110	第123図	近世の遺物(88)	SK56	⑤	146
第88図	近世の遺物(53)	SK78	⑧	111	第124図	近世の遺物(89)	SD03		147
第89図	近世の遺物(54)	SK78	⑨	112	第125図	近世の遺物(90)	その他	①	148
第90図	近世の遺物(55)	SK78	⑩	113	第126図	近世の遺物(91)	その他	②	149
第91図	近世の遺物(56)	SK78	⑪	114	第127図	近世の遺物(92)	焼塩壺	①	157
第92図	近世の遺物(57)	SK78	⑫	115	第128図	近世の遺物(93)	焼塩壺	②	158
第93図	近世の遺物(58)	SK78	⑬	116	第129図	近世の遺物(94)	焼塩壺	③	159
第94図	近世の遺物(59)	SK78	⑭	117	第130図	近世の遺物(95)	焼塩壺	④	160
第95図	近世の遺物(60)	SK78	⑮	118	第131図	近世の遺物(96)	焼塩壺	⑤	161

第132図	近世の遺物(97) 焼塩壺 ⑥	162
第133図	近世の遺物(98) 焼塩壺 ⑦	163
第134図	近世の遺物(99) 軟質陶器①	164
第135図	近世の遺物(100) 軟質陶器②	165
第136図	近世の遺物(101) 墨書のある遺物①	166
第137図	近世の遺物(102) 墨書のある遺物②	167
第138図	近世の遺物(103) 人形・玩具類①	176
第139図	近世の遺物(104) 人形・玩具類②	177
第140図	近世の遺物(105) 人形・玩具類③	178
第141図	近世の遺物(106) 人形・玩具類④	179
第142図	近世の遺物(107) 人形・玩具類⑤	180
第143図	近世の遺物(108) 人形・玩具類⑥	181
第144図	近世の遺物(109) 瓦 ①	182
第145図	近世の遺物(110) 瓦 ②	183

第146図	近世の遺物(111) 瓦 ③	184
第147図	近世の遺物(112) 瓦 ④	185
第148図	近世の遺物(113) 木製品	186
第149図	近世の遺物(114) 金属製品①	187
第150図	近世の遺物(115) 金属製品②	188
第151図	近世の遺物(116) 金属製品③	189
第152図	近世の遺物(117) 金属製品④	190
第153図	近世の遺物(118) 銭貨	191
第154図	近世の遺物(119) 石製品 ①	193
第155図	近世の遺物(120) 石製品 ②	194
第156図	近世の遺物(121) 石製品・ガラス製品 ③	195
第157図	屋敷地の復元	198

表 目 次

第1表	発掘調査に伴う法的手続き	1
第2表	調査の工程	2
第3表	名古屋城三の丸遺跡開運年表	7
第4表	古代の遺物(1) SB501	38
第5表	古代の遺物(2) SB501・SK511・522・523・SD505	38
第6表	中世の遺物(1) SK511・523・530・534・560・SD502	39
第7表	中世の遺物(2) SK555・558・562・SD505・506・SE501・502	41
第8表	中世の遺物(3) SD501	41
第9表	近世陶磁器分類表	42
第10表	石・ガラス・金属製品、人形・玩具類分類表	43
第11表	近世陶磁器組成表 SK149	50
第12表	近世陶磁器組成表 SK33	50
第13表	近世陶磁器組成表 SK75	51
第14表	近世陶磁器組成表 SX04	51
第15表	近世陶磁器組成表 SD12	52
第16表	近世陶磁器組成表 SD08	52

第17表	近世陶磁器組成表 SK80	53
第18表	近世陶磁器組成表 SK52	53
第19表	近世陶磁器組成表 SK78	54
第20表	近世陶磁器組成表 SK135	54
第21表	近世陶磁器組成表 SK144	55
第22表	近世陶磁器組成表 SK136	55
第23表	近世陶磁器組成表 SK145	56
第24表	近世陶磁器組成表 SK84	56
第25表	近世陶磁器組成表 SK56	57
第26表	近世陶磁器組成表 SD03	57
第27表	石・ガラス・金属製品、人形・玩具類組成表	58
第28表	近世の遺物(1) SK149①	59
第29表	近世の遺物(2) SK149②	60
第30表	近世の遺物(3) SK33 ①	61
第31表	近世の遺物(4) SK33 ②	62
第32表	近世の遺物(5) SK75 ①	63
第33表	近世の遺物(6) SK75 ②	64
第34表	近世の遺物(7) SK75 ③	65
第35表	近世の遺物(8) SX04 ①	66

第36表	近世の遺物(9)	SX04 ㉔	67	第72表	近世の遺物(45)	SK52 ㉞	103
第37表	近世の遺物(10)	SX04 ㉕	68	第73表	近世の遺物(46)	SK78 ㉟	104
第38表	近世の遺物(11)	SX04 ㉖	69	第74表	近世の遺物(47)	SK78 ㊱	105
第39表	近世の遺物(12)	SX04 ㉗	70	第75表	近世の遺物(48)	SK78 ㊲	106
第40表	近世の遺物(13)	SX04 ㉘	71	第76表	近世の遺物(49)	SK78 ㊳	107
第41表	近世の遺物(14)	SX04 ㉙	72	第77表	近世の遺物(50)	SK78 ㊴	108
第42表	近世の遺物(15)	SX04 ㉚	73	第78表	近世の遺物(51)	SK78 ㊵	109
第43表	近世の遺物(16)	SX04 ㉛	74	第79表	近世の遺物(52)	SK78 ㊶	110
第44表	近世の遺物(17)	SX04 ㉜	75	第80表	近世の遺物(53)	SK78 ㊷	111
第45表	近世の遺物(18)	SX04 ㉝	76	第81表	近世の遺物(54)	SK78 ㊸	112
第46表	近世の遺物(19)	SX04 ㉞	77	第82表	近世の遺物(55)	SK78 ㊹	113
第47表	近世の遺物(20)	SD12 ㉟	78	第83表	近世の遺物(56)	SK78 ㊺	114
第48表	近世の遺物(21)	SD12 ㊱	79	第84表	近世の遺物(57)	SK78 ㊻	115
第49表	近世の遺物(22)	SD12 ㊲	80	第85表	近世の遺物(58)	SK78 ㊼	116
第50表	近世の遺物(23)	SD08 ㉟	81	第86表	近世の遺物(59)	SK78 ㊽	117
第51表	近世の遺物(24)	SD08 ㊱	82	第87表	近世の遺物(60)	SK78 ㊾	118
第52表	近世の遺物(25)	SD08 ㊲	83	第88表	近世の遺物(61)	SK135㉟	119
第53表	近世の遺物(26)	SD08 ㊳	84	第89表	近世の遺物(62)	SK135㊱	120
第54表	近世の遺物(27)	SK80 ㉟	85	第90表	近世の遺物(63)	SK135㊲	121
第55表	近世の遺物(28)	SK80 ㊱	86	第91表	近世の遺物(64)	SK135㊳	122
第56表	近世の遺物(29)	SK80 ㊲	87	第92表	近世の遺物(65)	SK135㊴	123
第57表	近世の遺物(30)	SK52 ㉟	88	第93表	近世の遺物(66)	SK135㊵	124
第58表	近世の遺物(31)	SK52 ㊱	89	第94表	近世の遺物(67)	SK135㊶	125
第59表	近世の遺物(32)	SK52 ㊲	90	第95表	近世の遺物(68)	SK144㉟	126
第60表	近世の遺物(33)	SK52 ㊳	91	第96表	近世の遺物(69)	SK144㊱	127
第61表	近世の遺物(34)	SK52 ㊴	92	第97表	近世の遺物(70)	SK144㊲	128
第62表	近世の遺物(35)	SK52 ㊵	93	第98表	近世の遺物(71)	SK144㊳	129
第63表	近世の遺物(36)	SK52 ㊶	94	第99表	近世の遺物(72)	SK144㊴	130
第64表	近世の遺物(37)	SK52 ㊷	95	第100表	近世の遺物(73)	SK144㊵	131
第65表	近世の遺物(38)	SK52 ㊸	96	第101表	近世の遺物(74)	SK144㊶	132
第66表	近世の遺物(39)	SK52 ㊹	97	第102表	近世の遺物(75)	SK136・145	133
第67表	近世の遺物(40)	SK52 ㊺	98	第103表	近世の遺物(76)	SK84 ㉟	134
第68表	近世の遺物(41)	SK52 ㊻	99	第104表	近世の遺物(77)	SK84 ㊱	135
第69表	近世の遺物(42)	SK52 ㊼	100	第105表	近世の遺物(78)	SK84 ㊲	136
第70表	近世の遺物(43)	SK52 ㊽	101	第106表	近世の遺物(79)	SK84 ㊳	137
第71表	近世の遺物(44)	SK52 ㊾	102	第107表	近世の遺物(80)	SK84 ㊴	138

第108表 近世の遺物(81) SK84 ⑥	139	第128表 近世の遺物(101) 人形・玩具類①	174
第109表 近世の遺物(82) SK84 ⑦	140	第129表 近世の遺物(102) 人形・玩具類②	175
第110表 近世の遺物(83) SK84 ⑧	141	第130表 近世の遺物(103) 瓦 ①	182
第111表 近世の遺物(84) SK56 ①	142	第131表 近世の遺物(104) 瓦 ②	183
第112表 近世の遺物(85) SK56 ②	143	第132表 近世の遺物(105) 瓦 ③	184
第113表 近世の遺物(86) SK56 ③	144	第133表 近世の遺物(106) 瓦 ④	185
第114表 近世の遺物(87) SK56 ④	145	第134表 近世の遺物(107) 木製品	186
第115表 近世の遺物(88) SK56 ⑤	146	第135表 近世の遺物(108) 金属製品①	187
第116表 近世の遺物(89) SD03	147	第136表 近世の遺物(109) 金属製品②	188
第117表 近世の遺物(90) その他 ①	148	第137表 近世の遺物(110) 金属製品③	189
第118表 近世の遺物(91) その他 ②	149	第138表 近世の遺物(111) 金属製品④	190
第119表 近世の遺物(92) 焼塩壺 ①	152	第139表 近世の遺物(112) 銭貨	192
第120表 近世の遺物(93) 焼塩壺 ②	153	第140表 近世の遺物(113) 石製品 ①	193
第121表 近世の遺物(94) 焼塩壺 ③	154	第141図 近世の遺物(114) 石製品 ②	194
第122表 近世の遺物(95) 焼塩壺 ④	155	第142表 近世の遺物(115) 石製品 ③	195
第123表 近世の遺物(96) 焼塩壺 ⑤	156	第143表 近世の遺物(116) ガラス製品	195
第124表 近世の遺物(97) 軟質陶器①	164	第144表 名古屋城三の丸遺跡近世遺構 出土の自然遺物	196
第125表 近世の遺物(98) 軟質陶器②	165	第145表 居住者の変遷	198
第126表 近世の遺物(99) 墨書のある遺物①	166		
第127表 近世の遺物(100) 墨書のある遺物②	167		

第 I 章 調査概要

調査前風景（南から）



第 I 章 調査概要

第 1 節 経 緯

名古屋城三の丸遺跡は、名古屋市中区三の丸地内に所在する弥生時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。本遺跡は、ごく最近の1987年に確認されたばかりであり、それまで名古屋城跡としては、本丸跡や二の丸庭園など一部の遺構の存在が知られていたのみで、三の丸郭内一帯は既に官庁街として開発が進められたため、遺構の存在は疑問視されていた。しかし、1987年名古屋市公館の建設に先立ち、名古屋市教育委員会が試掘調査を実施したところ、近世を主体とする遺構・遺物が多数確認された。このため、同教育委員会は、翌年名古屋遺跡分布図の改定を行い、中区三の丸一丁目から四丁目地内（名古屋城の内堀と外堀に囲まれた地域）を名古屋城三の丸遺跡としたのである。

以後、この名古屋市公館地点（1987～88年調査、名古屋市教委）をはじめとして、丸の内中学校地点（1987～88年調査、名古屋市教委）、愛知県図書館地点（1988年調査、愛知県教委及び財団法人愛知埋蔵文化財センター）、名古屋地方第一合同庁舎地点（1988年調査、財団法人愛知埋蔵文化財センター）と次々に発掘調査が実施された。

これまでの調査総面積は、今回の名古屋家庭・簡易裁判所合同庁舎地点と、平成3年度に当センターで調査を実施した愛知県警察本部地点（3600㎡）を含めると約22000㎡に及ぶ。これは、名古屋城三の丸遺跡の総面積約620000㎡のわずか4%にも満たない。三の丸郭内一帯は、現在も公共施設移転・改築などの再開発が進められており、今後の発掘調査の進展が待たれている。

（鷲見 豊）



第 1 図 遺跡の位置

区 分	建 設 省 中部地方建設局	(財)愛知埋蔵 文化財センター	名古屋 市教育委員会	愛 知 県 教 育 委 員 会	文 化 庁
文化財保護法第57条の3 (通)	2、9、27 建第72号	—	3、3、29	3、5、9 3教文27-138号	—
文化財保護法第57条 (届)	—	2、9、27 2埋セ161・2号	3、3、29	3、4、17 3教文27-139号	3、5、29 委保第5-153号
文化財保護法第60条に 基づく埋蔵文化財発出書	(中警署署) 3、4、2	—	—	3、5、29 (認定)	—
埋蔵文化財保管証	—	3、3、30	—	3、5、29 (認定)	—

第 1 表 発掘調査に伴う法的手続

第2節 経過

建設省中部地方建設局は、中区三の丸地区の再開発に伴い、三の丸一丁目の税務大学校跡地に名古屋家庭・簡易裁判所合同庁舎の建設を計画した。この地点は、名古屋地方第一合同庁舎と同様、遺構が残されている可能性が極めて高いと判断されたため、県教育委員会では、建設者に対し、建設予定地について発掘調査の実施を指導した。このため、建設省中部地方建設局は、県教育委員会を通じ、発掘調査及び報告書の作成を御愛知県埋蔵文化財センターに委託した。これを受けた当センターでは、発掘調査を平成2年度事業、その報告書作成を翌年度事業としてその実施にあたった。

調査面積は約2800㎡であり、調査は明治期以後の整地層をバックホウを用いて除去する作業から始めた。調査区の北辺及び東辺には、税務大学校の校舎や講堂の基礎として使用されたコンクリート杭が地中深く打ち込まれたまま多数残存しており、表土掘削は難渋を極めた。しかし、遺構の遺存状態は概ね良好であった。近世の遺構の検出は、暗褐色シルトの中世以前の遺物包含層の上面で実施し、中世以前の遺構の検出は、基盤である黄褐色粘質土（熱田層）の上面で実施した。遺構の測量は、上層・下層とも国土座標による基準杭を設置し、ヘリコプターによる航空写真を実施した。図化にあたっては、調査区全面の1/50基本平面図を写真測量により作成したほか、必要に応じて、土層断面図などを作成し、記録写真を撮影した。

出土品については、現地での調査と並行して、洗浄などの基礎的な整理作業を実施した。また、平成3年度には、報告書作成のため、遺物実測図の作成などの整理作業を実施した。

調査成果の公表については、平成3年2月26日に委託者である建設省中部地方建設局の関係者などを対象とした見学会を実施したのをはじめ、3月23日には市民を対象とした現地説明会を実施し、合わせて400人余りの参加者を得た。また、出土品の一部は、平成3年度の「埋蔵文化財展」などの機会に展示し、一般に公開した。

(鷲見 豊)



第2図 表土掘削風景

工程	期間	90			91			92			92								
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
整理	発掘調査	[Patterned]			[Patterned]														
	基礎整理				[Patterned]			[Patterned]											
	報告書作成							[Patterned]											

第2表 調査の工程

表土掘削
 上層(近世)
 下層(古代・中世)

第3節 立地と地理的環境

名古屋城三の丸遺跡は、名古屋台地の北西端に位置し、標高13m程を測る。城は、台地端に本丸、その南西に西の丸、南東に二の丸を配し、さらにその南から東にかけて三の丸が設けられている。城の北側には、深井丸が配されるのみであるが、この辺りは台地をおりた「名古屋新層」とよばれる沖積低地にあたり、その標高差が自然の要害を形成している。

15世紀末から16世紀にかけて、尾張支配の重要な拠点であった清須城は、総構えを超える外町の形成などにより、慶長14（1609）年頃には都市の再編成が望まれていた。このため、当時、大坂城の豊臣氏と対立を強めつつあった徳川家康が、同年、尾張を固めるためにこの地への築城を決断したとされている。以後、江戸時代を通じて、尾張徳川家62万石の藩城としてその威容を誇ったのである。

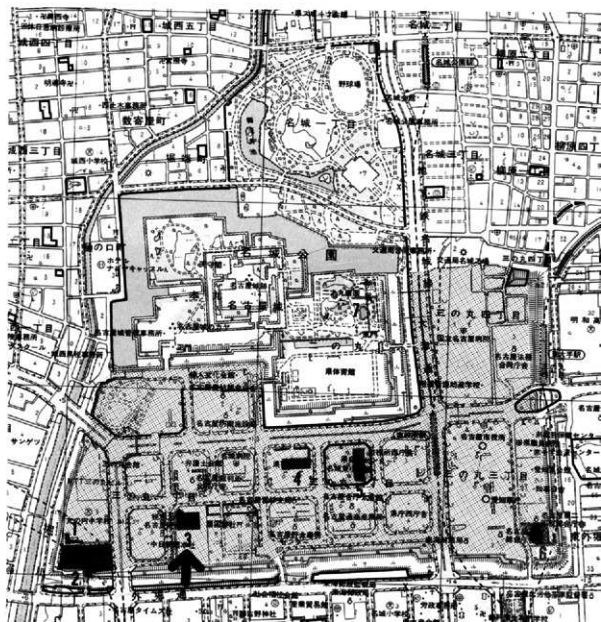
一方、城下町は、三の丸の南から東にかけて、北に広く南に狭い逆三角形形状に、台地に沿って展開していた。城の防衛のため、南と東には武家屋敷地を、また、城の大手門から南に延びる本町筋周辺には町屋を、さらに、防衛上重要な地点には寺社を集中させるなど、蕃整割り状の都市計画がなされていた。また、台地の西縁に沿う形で、延長6km余りの「堀川」が開削され、東海道の熱田港へ通じる重要な水上交通路となっていた。

（鷲見 豊）

第3図
名古屋城三の丸遺跡と
調査地点位置図（1：10000）

1. 丸の内中学校地点
2. 愛知県図書館地点
3. 名古屋家範・簡易裁判所
合同庁舎地点
4. 愛知県警察本部地点
5. 名古屋地方第一合同庁舎地点
6. 名古屋市公館地点
7. 二の丸庭園地点

■ 名古屋城三の丸遺跡

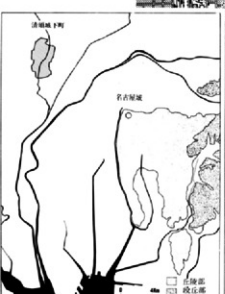


第4図
名古屋城三の丸遺跡
と周辺の道跡
(1:50000)

- 1 坂井戸城跡
 - 2 名塚登跡
 - 3 安井城跡
 - 4 西志賀道跡
 - 5 志賀公園道跡
 - 6 守山城跡
 - 7 田嶋城跡
 - 8 押切城跡
 - 9 横下小学校道跡
 - 10 名古屋城跡
 - 11 名古屋城三の丸遺跡
 - 12 東二美町道跡
 - 13 長久寺道跡
 - 14 井山神社道跡
 - 15 建中寺(尾張藩御所跡)
 - 16 小島町道跡
 - 17 蟹三蔵道跡
 - 18 旧紫川道跡
 - 19 白川公園道跡
 - 20 末盛城跡
 - 21 大須二子山古墳
 - 22 富士見町道跡
 - 23 八幡山古墳
 - 24 正木町道跡
 - 25 古渡城跡
 - 26 伊勢山中学校道跡
 - 27 古沢町道跡
 - 28 尾張元興寺跡
 - 29 東古渡町道跡
 - 30 高塚貝塚
 - 31 新天山古墳
 - 32 白鳥古墳
 - 33 熱田神社
 - 34 御浜御殿跡
 - 35 八高古墳
 - 36 瑞穂道跡
 - 37 大曲輪貝塚
 - 38 桜本町1丁目道跡
 - 39 曹池道跡
 - 40 戸部一色城跡
 - 41 笠寺観音道跡
 - 42 見崎台道跡
 - 43 寺部城跡
 - 44 市場城跡
 - 45 船島道跡
 - 46 星崎城跡
 - 47 丹下登跡
- 古墳
▲ 城跡跡
■ 寺社
太字は近世を含む道跡



第5図
遺跡周辺の地形



第4節 歴史的環境

a. 周辺の遺跡

名古屋城とその城下町が位置する名古屋台地とその南に細長く伸びる熱田台地には、台地の縁辺部に沿って、弥生時代中頃以降の各期にわたる多くの遺跡が立地している。

弥生時代から古墳時代にかけての遺跡としては、名古屋台地の北縁に、片山神社遺跡・東二葉町遺跡など、台地の西縁から南縁にかけては、大須二子山古墳・古沢町遺跡・高蔵貝塚・断夫山古墳・白鳥古墳など、当地方の原始・古代を語る上で欠かせない遺跡が存在している。

奈良時代から平安時代にかけての遺跡としては、名古屋台地の南縁に位置する尾張元興寺跡が知られている。ここからは、忍冬・蓮華文をもつ軒丸瓦などが大量に出土しており、名古屋市内における最古の寺院と考えられている。

鎌倉時代から安土桃山時代にかけての遺跡としては、伊勢山中学校遺跡が知られている。ここでは、1987年の第4次調査で、幅5m・深さ3.4mを測る戦国期の「栗研堀」の大溝が確認されており、さらに、同時期に改修の手が加えられていることが判明している。この大溝は、城館の堀に比定しうるものであり、名古屋城三の丸遺跡で確認された同時期の大溝との類似性が注目されよう。

江戸時代の遺跡としては、名古屋城三の丸遺跡以外では、名古屋城跡・二の丸庭園跡をはじめ、以下に述べる名古屋城下町に相当する遺跡が知られている。

b. 名古屋城三の丸遺跡調査史

名古屋城三の丸遺跡における弥生時代から古墳時代にかけての遺構は、これまで名古屋台地の西縁にあたる三の丸郭内の南西隅部分（丸の内中学校地点・愛知県図書館地点）で、数十棟の堅穴住居と数基の墳丘墓などが確認されたにとどまっている。

奈良時代から平安時代にかけての遺構についても、やはり三の丸郭内の南西隅部分（丸の内中学校地点・愛知県図書館地点）で、数十棟の堅穴住居と大型の掘立柱建物などが確認されている。

鎌倉時代から安土桃山時代にかけては、平安時代末頃、三の丸一帯には、藤原氏一族の荘園として、藤原顯頼の子の顯恵を開発領主とする「那古野荘」のあったことが文献にみられる。那古野荘は鎌倉時代を経て南北朝時代頃まで存続していたとされているが、その荘域や規模などの詳細は明らかではない。

戦国時代になると、駿河の今川氏の力がこの地にまで及び、大永4（1524）年頃、今川義元の父の氏親が尾張進出の橋頭堡として、現在の二の丸周辺に「那古野城」を築いたとされる。那古野城は、天文元（1532）年頃、織田信秀により奪取され、同3年には、長子の織田信長もこの城で誕生したとされている。信長は、弘治元（1555）年、清須城を居城としたため、那古野城は叔父の織田信光、そののち重臣の林通勝に譲られるが、天正8（1580）年頃には一旦廃城になったと考えられている。

これまで、戦国期の那古野城については、ほぼ同じ位置に、それをはるかに上回る規模で、近世名古屋城が築造されたため、その遺構は全く残されていないと考えられ、わずかな文献と伝承から二の丸周辺がその故地とされてきた。このような中で、二の丸の南に位置する次の2地点の調査成果は注

目に値する。その第一は、名古屋地方第一合同庁舎地点で確認された、幅6.5m・深さ3mの大溝の存在であり、断面V字形の「薬研堀」から「箱堀」に一部改削されていたことが判明している。次に、愛知県警察本部地点でも幅4m・深さ3.5m前後の「薬研堀」の大溝が、2通りの方向性を持って数条確認されたのである。以上のような遺構のあり方と出土遺物の検討から、これらの大溝が那古野城の堀である蓋然性は極めて高く、城郭内部の構造のみならず、城下町をも含めた城の範囲を考える上で、貴重な資料を追加することとなった。

名古屋台地の北西端に位置する名古屋城は、御三家の筆頭、尾張徳川家62万石の居城として造営された近世の代表的城郭建築の一つである。同城は、慶長15(1610)年、徳川家康により幕府直轄の工事として築城が始められ、慶長17年には本丸天守閣が、翌18年には三の丸土塁・堀普請が完成し、大坂の陣を目前にした慶長19(1614)年頃には城郭としての体数が整えられたとされている。城の内堀と外堀に囲まれた三の丸は、総面積620000㎡もの敷地を持つ広大な郭で、成瀬氏・竹腰氏ら尾張藩の重臣約80名の上屋敷をはじめ、城の鎮守天王社や東照宮などが連ち並んでいたところである。

名古屋城に関する発掘調査としては、1976～77年に、名古屋市教育委員会により、二の丸庭園の調査が実施され、池や建物跡などが確認されている。三の丸郭内における調査は、本章第1節で述べた通りであるが、いずれの地点においても、武家屋敷に伴う様々な遺構が確認されており、その屋敷割りには若干の変遷を経てはいるものの、現存する絵図などの記載とよく一致することが判明している。

三の丸郭内の各調査地点における成果の概要は以下の通りである。まず、南東隅部分に当たる名古屋市公館地点の調査では、武家屋敷地2～3軒とその間を通る「南御土居筋」と「東御土居通」が検出された。また、これらに伴う区画溝・廃棄土坑・門遺構なども確認された。次に、南西隅部分に当たる丸の内中学校地点・愛知県図書館地点の調査では、武家屋敷地3軒とそれに伴う溝・井戸・廃棄土坑・地下室などが検出された。また、北側と西側の屋敷地の間では「西御土居筋」が、南東部分では「御園御門」内側の「内片端」広場が確認された。さらに、中央部分に当たる名古屋地方第一合同庁舎地点及び愛知県警察本部地点では、武家屋敷地3～4軒とそれに伴う溝・井戸・廃棄土坑・建物跡・汚水だめなどが検出された。



第6図 作業風景



第7図 現地説明会風景

年 代	藩 主	記 事	区 分
歴史		九条民部卿顯頼の子、小野法印顯忠（～1175）を開発領主として「那古野荘」が成立 大須真福寺文庫の「大師入定勅決記」奥書に「那古野荘」の記載 「漢濟准后日記」に今川氏所領として「尾張那古野」の記載	那古野在湖
1364 1433	貞治3 永享5		
1524 1532 1534 1555 1582 1584 1585	大永4 天文1 天文3 弘治1 天正10 天正12 天正13	この頃、今川氏親「那古野城」を築き、氏豊を城主とする この頃、織田信秀、今川氏より那古野城を奪い居城とする 信秀、那古野城に入る。織田信長、同城に生まれる 信長、清須城に移り、織田信光（後に林通勝）を那古野城主とする この頃、那古野城廃城となる 小牧・長久手の戦い 天正大地震（11月）	那古野城期
1609 1610 1611 1612 1613 1615 1616 1617 1619 1620 1633 1644 1660 1663 1664 1700 1702 1706 1707 1741 1743 1745 1752 1757 1767 1782 1794 1806 1807 1824 1825 1854 1858 1858	慶長14 15 16 17 18 元和1 2 3 5 6 寛永10 正保元 万治3 寛文3 4 元禄13 15 宝永3 4 元文6 寛保3 延享2 宝暦2 7 明和1 天明2 寛政6 文化3 4 安政1 文政7 8 安政5	徳川 義直① （～1650） 本丸・二之丸・深井丸で門・櫓・長屋等の仕事始まる 大天守、小天守等の仕事始まる。城下の検地・町割り始まる 清須越の諸士・町人等の居住地が定まる 本丸御殿完成、大坂夏の陣 家康没。義直統府より名古屋へ移り本丸に居住 二之丸殿舎完成 三之丸に東照宮を勧進 義直二之丸に移る 将軍家光上洛に備え、本丸に御成書院作事、この以前に名古屋城内に聖堂完成 三之丸兼松原兵衛方より出火。書院、広間、長屋を除き焼失 三之丸小笠原平弥方に放火（1月）城下で大火（1月） 二之丸の成瀬・竹腰の両屋敷を三之丸へ移す。 三之丸内の屋敷数多数 三之丸石黒作兵衛方焼失（10月）。評定所をおき、私宅での会議をやめる。城下で大火（3月） 城下で大火（2月） 三之丸成瀬藤太夫方から出火。向側の津田十郎兵衛方に飛火、両家共に全焼（3月） 三之丸鈴木伊予守方から出火。隠居家を焼き焼失（11月） 三之丸中小路筋角の御殿から出火。屋敷一軒を焼失（11月） 地震。海岸部津波（10月） 城下で大火 三之丸中小路の松井市右衛門方から出火（長屋から出火）（5月） 松山君平『士林函圖』完成 大天守修理始まる 庄内川等決壊（宝暦の洪水） 庄内・矢田・天白川氾濫（明和の洪水） 城下で大火（1月） "（4月） 三之丸御殿より出火（3月） "。御長屋焼失（3月） 三之丸中小路太鼓橋東側赤林方より出火。全焼（2月）。地震（11月） 城下で大火（12月） 二之丸御殿大改造 奥村得義『金城温古録』完成	名古屋城期
1871 1873 1874 1891	明治4 6 7 24	義宣② （1862 ～1875） 二之丸陸軍省兵営となる 名古屋鎮台を名古屋城内に設置 三之丸金城を陸軍省へ移管。三之丸竹腰邸から東本願寺名古屋別院へ果庁移転 濃尾地震（10月）	陸軍兵営期

第3表 名古屋城三の丸進路関連年表

c. 名古屋城下町調査史

名古屋城下町に関する発掘調査は、名古屋市教育委員会により、幅下小学校遺跡（中区）・小島町遺跡（中村区）・堅三藏通遺跡（中区）・白川公園遺跡（中区）・尾張藩御廟所遺跡（東区）・旧柴川遺跡（中区）など市内各所で実施されている。

まず、城の西の武家屋敷地に当たる幅下小学校遺跡では、武家屋敷地間及び町屋との境界溝・石垣遺構などが検出されている。また、武家屋敷地と町屋に当たる小島町遺跡では、武家屋敷地と町屋との境界溝・石積み護岸の溝・上水道施設と考えられる木樋などが検出された。さらに、城の南の武家屋敷地に当たる堅三藏通遺跡では、武家屋敷地間の境界溝・井戸・廃棄土坑などが検出された。

次に、城下における寺社及び墓地の調査例としては、南寺町に当たる白川公園遺跡で、養林寺の墓地が検出され、南北に並行して伸びる墓道に沿って、整然と配置された墓の様相が明らかになった。また、尾張藩主の菩提寺である建中寺の一角に当たる尾張藩御廟所遺跡では、第14代藩主徳川慶勝の6男秋英院の墓所などが確認された。また、南寺町の南端に当たる古渡城遺跡では、東本願寺名古屋別院関連の遺構が検出された。

このほか、城下を流れた川に当たる旧柴川遺跡では、自然の谷地形を利用して改削された人工の流路が確認され、護岸の石垣が確認された。

以上のように、名古屋城及び城下町の発掘調査は年々その事例を増しつつあり、着実にデータの蓄積が計られている。今後、発掘調査及び各遺跡の資料の比較・検討を進めることにより、近世名古屋のより具体的な姿が判明してこよう。 (鷲見 豊)

名古屋城発掘調査関係文献

愛知県教育委員会	1991	『愛知県中世城館跡調査報告Ⅰ（尾張地区）』
財団法人愛知県埋蔵文化財センター	1990	『名古屋城三の丸遺跡Ⅰ』
	1990	『名古屋城三の丸遺跡Ⅱ』
名古屋市教育委員会	1976	『名古屋城二之丸庭園跡』
	1983～87	『旧名古屋城下町遺跡発掘調査概要報告書Ⅰ～Ⅵ』
	1984	『幅下小学校遺跡第2次発掘調査概要報告書』
	1984	『尾張藩御廟所遺跡発掘調査概要報告書』
	1984～88	『堅三藏通遺跡発掘調査概要報告書1～7』
	1985	『第Ⅲ次幅下小学校遺跡発掘調査概要報告書』
	1986	『白川公園遺跡発掘調査概要報告書』
	1989	『名古屋城三の丸遺跡 一・二・三調査の概要一』
名古屋市見晴台考古資料館	1989	『城と町のデザイン 戦国～江戸の考古学』
江戸遺跡研究会	1991	『発掘された江戸時代』江戸遺跡研究会第4回大会発表要旨
南山大学古渡城発掘調査会	1991	『古渡城跡現地説明会資料』

第II章 遺 構

遺構検出作業



第II章 遺 構

第1節 基本層序

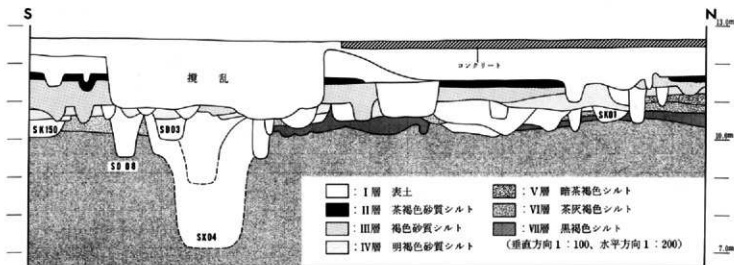
調査地点の基本層序は大きく4層に分けることができる。現地表面から近・現代整地層（第I層）、近世整地層（第II～V層）、古代～中世包含層（第VI層・VII層）、基盤層の順である。

第I層は、多量の瓦礫を含む近・現代の整地層で、層厚は約1m、現代のコンクリートの下には明治期の陸軍兵舎のものと考えられる煉瓦の建物基礎が一部認められた。

第II層からV層は褐色砂質土及び砂質シルトから成る近世整地層で、層厚は4層合わせて80cm前後を測る。これらの近世整地層の形成過程あるいは近世生活面のあり方については、数次の調査を経た現在でもなお数多くの問題が存在する。その一つに、これらの整地層が17世紀初頭、三の丸造成時に一括して形成されたものか、あるいは数次にわたる生活面造成に伴う整地の結果なのかという問題がある。前者の立場をとれば、基本的に生活面は1面であり、近世を通じて包含層形成による若干の生活面の上昇があったという解釈になる。もっとも、旧地形や利用条件による部分的な2次整地の存在は考えられる。一方、後者の立場をとれば、近世の中に整地を伴う幾つかの遺構の画期一火災・震災等に伴う災害復旧や屋敷の全面的な建て替えを認め、その度に生活面が上昇し続けたという解釈になる。今回、いずれの立場をとるかについてはデータ不足ということもあり断断は避けるが、土層を観察する限り、後者の解釈を積極的に支持しうる様相は看取できなかった。ただ、第II層については、薄層ながら安定した層厚と一定の広がりを持つことから、新たな生活面の確保を意図したものと考えられ、この面(標高約11.7m)が近世、特に幕末時の生活面であった蓋然性は高いものと考えられる。⁽¹⁾

第VI・VII層は、前者が茶褐色シルトを主体とする戦国期頃から三の丸造成直前まで、後者が暗茶褐色シルトを主体とする古代から中世にかけての包含層であるが、ともに遺物はほとんど含まれていなかった。ここから復元される戦国期の生活面は標高11.0m前後であったと考えられる。

基盤層は、黄褐色・黄白色のシルト質および砂質土からなる、いわゆる熟田層である。(金子健一)



第8図 名古屋城三の丸遺跡西壁基本層序模式図

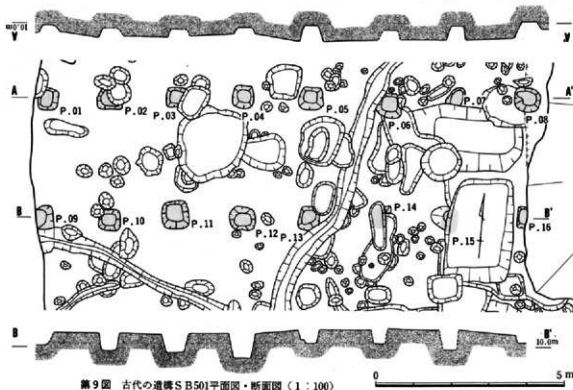
第2節 古代の遺構

今回の調査地点は、おびたしい近世の地業をうけ、第VI層以下で古代・中世の遺構が良好に残存するのは、調査面積の約15%、約400㎡にすぎなかった。また、遺構出土の遺物もごく微量であるため、時期の把握は困難で、古代の遺構としては、奈良時代のもと考えられるS B501と奈良～平安時代にかけての数基の土坑を確認したにとどまった。

S B501はE-5°-Nの方向性を持つ、南北方向1間、東西方向7間の掘立柱建物である。ただ、東西方向の規模については、両端が調査区外とS D501内にかかるため不明であるが、更に両方向に延びる可能性が高いことから、かなり細長いプランをもつ建物であることが考えられる。

柱穴は一辺60～70cmの方形の掘り形を持つもので、埋土中に径10cm前後の柱痕があるものも認められた。底のレベルは、北側の柱列が標高10.1m前後であるのに対し、南側の柱列は標高10.0m前後とやや深し上、高低差にも幅が認められる。また、柱穴の間隔は、南北方向が約3.15m、東西方向が約1.75mである。⁴⁾ なお、南側柱列西半の2m南には、同様の方形のピットがやはり1.75m間隔でS B501と平行に4基並んでいる。これらのピットは、S B501の柱穴とは若干埋土が異なる点、東から2つ目のピットが近世の遺構の掘り込みと重なりその存在を確認できない点、いずれも無遺物である点などから、S B501と一連の遺構であるとは即断はできない。しかし、前述のようなピットの形状や間隔、S B501との位置関係などを考え合わせると、必ずしも無関係とは言えず、一連のものである可能性が高い。

以上のような遺構のあり方と、柱穴中やその周辺から出土する布目瓦や瓦塔などの遺物の存在とを考え合わせると、ここには瓦葺きの回廊状建物の存在を想定することができよう。(金子健一)



第9図 古代の遺構S B501平面図・断面図(1:100)

第3節 中世の遺構

概要

中世の遺構についても、遺存状況は古代と同様であり、ピット、土坑、井戸、溝を確認したものの、遺物がごく少量であるため時期を決定しうる遺構は必ずしも多くはなかった。また、近世遺構の埋土や中世包含層に含まれる当該期の遺物も決して多くないことから、元来、全体に遺構は希薄であったものと考えられる。しかし、S D501のような当該地域の戦国期の様相を考える上で重要になるであろう遺構も確認されていることから、ここでは、敢えて時期区分を行い、遺構群の変遷を追ってゆきたい。なお、遺物は主に14～16世紀にかけてのものが出土しており、S B501以降しばらく人跡の途絶えていたことが窺われる。

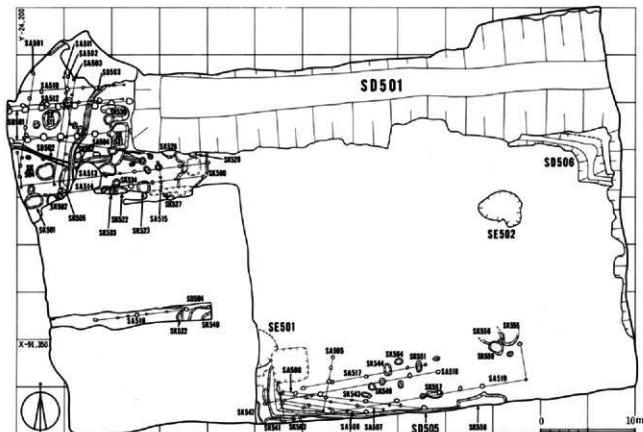
中世Ⅰ期……S K511・512・523・530・532・534・536・557・560、S D502

中世Ⅱ期……S K504・505・555・558・562、S D503・505・506、S E501・502、S A501～508

中世Ⅲ期……S D501、S A510～519

(1) 中世Ⅰ期の遺構

この時期は、遺存状況の良い調査区北西部で土坑群を確認している。



第10図 名古屋城三の丸遺跡 古代・中世主要遺構配置図 (1:400)

- S K 511 一辺約1.5mの崩れた平面形をもつ方形土坑で、深さは60～70cmを測る。底部は船底状を呈する。
- S K 523 一辺約1.2mの方形土坑で、深さは40～50cmである。底部は平坦である。土坑の長軸方向はN-11'-Wである。
- S K 530 約1.7×3mの方形土坑で、深さは70～90cmを測る。底部は平坦だが、西に向かって下り傾斜となっている。土坑の長軸方向は、偏差はほぼ0で東西方向を示している。

(2) 中世II期の遺構

この時期は、小・中規模の土坑や溝、2基の井戸を確認しているが、S D 506のような掘としての機能を想定しうる溝の出現など、I期とは様相が若干異なる。なお、このII期は、遺物中の大窯製品の有無で2時期に細分が可能である。

II-1期

- S D 505 調査区南辺に沿う逆L字形の溝で、幅0.5～1.4m、深さは40～55cmを測る。主軸方向は東西方向部分がE-10'-Sである。溝の断面は東西方向部分は逆台形、南北方向部分はU字形で、底部は、屈曲部分から東へ約5mの地点を最高所として両方向へ下り傾斜となっている。埋土は地山ブロックを含む暗茶褐色シルトを主体としたものである。
- S K 504 一辺0.9～1.5mの平面五角形の土坑で、深さは25cm弱である。
- S K 555 近世遺構に北半部を切られて全形は不明であるが、幅1.7m、深さ30～45cmの楕円形の土坑と考えられる。土坑の長軸方向はN-7'-Eである。
- S K 558 東西方向の長さ5.2m、深さ50～60cmを測る長方形の土坑で、南半は調査区外にかかっており全形は不明である。また、底部は西に向かって下り傾斜となっている。土坑の長軸方向はE-7'-Nで、他の同時期の遺構とは異なる方向性を持っている。

II-2期

- S D 503 調査区北西部を南北に蛇行する溝で、幅約0.5m、深さは20～30cmを測る。溝の断面はU字形で、底部は南に向かって下り傾斜となっている。
- S D 506 調査区東端部を東西方向にクランク状に走る溝で、主軸方向はE-8'-Sである。溝の幅は最も残りのよい南北方向部分で2.8m、深さは同じ部分で約1.2mを測る。底部は西に向



第11図 中世の遺構(1) S E 501

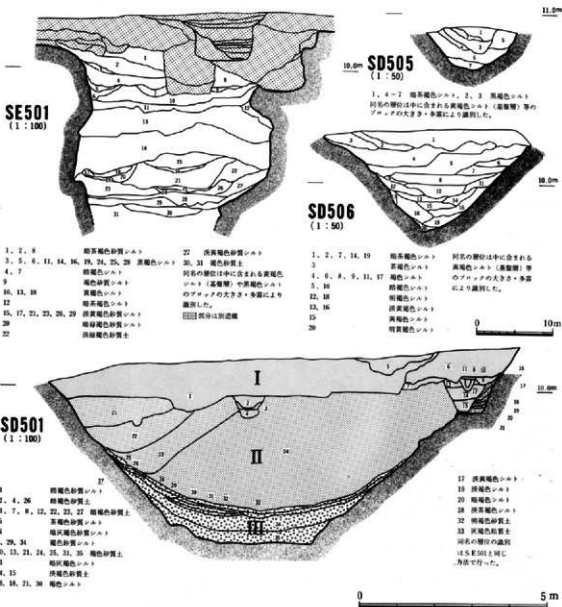


第12図 中世の遺構(2) S E 502

かって上り傾斜となっており、比高差は約36cmである。断面は東西方向部分が逆台形、南北方向部分はV字形を呈する。埋土はS D505同様、地山ブロックをふくむ茶褐色シルトを主体としたものである。この溝は幅や深さ、断面形状を見る限り、堀としての機能を十分持ちうるものであり、II-1期のS D505と同列に置るべきものではなからう。

S K 505 長径2.4mの楕円形の土坑で、深さは50cmである。ただ、東半部をS D503に切られており、全形は不明である。土坑の長軸方向はN-6°-Eである。

S E 501 S D505東端部のやや北に位置し、開口部は直径約5.3mの円形をなす。掘り形の立面形は開口部下約1.5mまで徐々に狭まった後一旦広がり、開口部下約3.5m辺りから再び狭まるという中膨れの形態を呈する。なお、開口部下約4.5m（標高6.0m）まで掘り下げたものの、底部及び桶などの内部構造物は確認できなかった。なお、S E502についても同様の



第1323 中世の遺構(3) S D501・505・506、S E501土層セクション(1 : 50, 1 : 100)

構造・埋土が確認されていることから、やはりⅡ期に属するものと考えられる。

- S A 501 調査区北西・南辺部に展開する、 $E-8^{\circ}\sim 9^{\circ}-S$ 、及びそれに直交する $N-8^{\circ}\sim 9^{\circ}-E$
～508 の方向性を持つ櫛列で、中には建物の一部を構成するものが含まれている可能性もある。
柱穴の間隔については、0.9～3.4mの間で必ずしも一定しておらず、何らかの尺度に基づ
くものか否かは不明である。また、根石等の基礎施設を伴うものも確認できなかった。な
お、柱穴出土の遺物がごく微量なため時期決定は困難であるが、S D 505、506の主軸方向
との類似性からⅡ期のものと判断した。

(3) 中世Ⅲ期の遺構

この時期の遺構は、S D 501と若干の櫛列が認められるのみで、Ⅱ期とはかなり様相を異にする。S D 501は城郭の堀に比定しうる規模の遺構であり、空間の性格が大きく変わったことが窺われる。

- S D 501 調査区北・東辺に沿う形で逆L字形に伸びる延長75m、幅13m、深さ4～4.5mの大溝であ
る。なお、本章第1節で述べた戦国期の生活面と考えられるレベル（標高11.0m）からは
最大5.2mもの深さとなる。主軸方向は $E-5^{\circ}-N$ とそれにはほぼ直交する $N-3^{\circ}-W$ であ
り、直前のⅡ期の溝、櫛列の主軸方向とは明かに異なる。また、溝の断面形状は逆台形の
箱状を呈し、底面から0.5m程上部の両壁面には部分的に犬走り状の張り出しが認められ
た。埋土は大きく3層に分かれるが、最下層の第Ⅲ層は褐色砂質土と砂質シルトの互層で
あり、砂質土中には鉄分が含まれることから、滞水下における自然堆積によるものと考え
られる。ただ、顕著な沈鉄層が認められないことから常時滞水していたとは考えにくく、
空洞としての性格が強かったものと考えられる。なお、底部は標高5.8mを測るが、このレ
ベルでは湧水が認められた。第Ⅱ層は、基本的には褐色砂質土の単一層であり、その絶大
な層厚と中に含まれる地山ブロックのあり方に大きな特徴がある。まず、地山ブロックに
ついてはセクション図中には表れていないものの、北上がりの急傾斜を持つ帯状を呈して
介在しており、その傾斜の下端（南寄り）に近づくほど地山ブロックの粒径は大きくなっ
ている。また、この第Ⅱ層中には遺物がほとんど含まれていないことも合わせて考えると、
S D 501はごく短期間の内に溝の北側から埋め戻されたことが想定される。更に、この流入
状況はS D 501の北側に土塁の存在を示唆するものであり、北側が大溝によって囲まれた空
間であったことを物語っている。第Ⅰ層は還元作用を受けた第Ⅱ層と同質の砂質土及び近
世遺構の埋土であり、基本的には第Ⅱ層と同じ性格を持つものと考えられる。

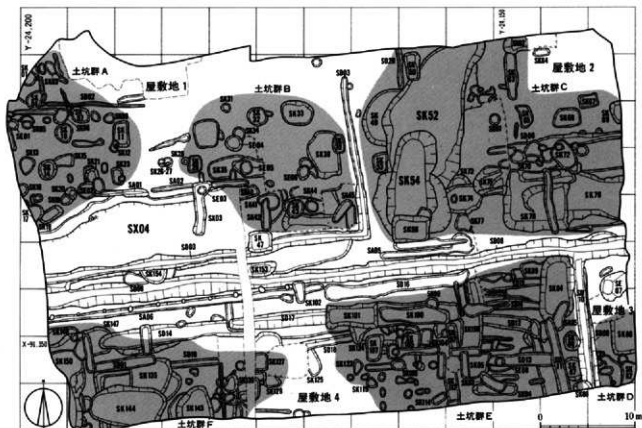
- S A 510 Ⅱ期同様、調査区北西・南辺部に櫛列と考えられる柱穴群を確認している。主軸方向は E
～519 $-4^{\circ}\sim 10^{\circ}-N$ とそれにはほぼ直交する $N-7^{\circ}\sim 8^{\circ}-W$ であり、S D 501と同様の方向性を
示している。柱穴の間隔についてはⅡ期の櫛列同様一定しておらず、規則性は読み取れな
かった。また、柱穴から時期を確定しうる遺物が出土していないことから、主軸の方向性
によりⅢ期に属するものと判断した。 (金子健一)

第4節 近世の遺構

概要

第1章第2節で述べたように、調査区のかなりの面積が現代の建物下であったにもかかわらず、近世遺構の残存状況は極めて良好であった。また、明治以降、三の丸に駐屯した陸軍に関連する遺構がほとんど存在しなかったこともあり、当該期の遺構として多数の土坑、ピット、井戸、溝等が調査区全面にわたり検出された。これらの遺構が尾張藩の上級家臣の上屋敷に伴うものであることは様々な文献資料や過去の調査結果から疑う余地のないところであるが、調査地点が三の丸の屋敷割の中でどの位置にあたり、また、これらの遺構群がどのような空間を規定するのかという点は、今回の調査に限らず最も重要な課題の1つである。前者の界内における調査区の位置については、絵図をはじめとする数多くの文献資料からのアプローチが最も有効な手段であるが、後者のようなより緻細な視野に資する文献資料はごく一部を除いて見あらず、遺構の内包する様々な属性の分析に頼る部分が極めて大きいといえよう。

先述のように本地点においても多種多様の遺構が確認されている。それを巨視的に捉えると、調査区を4分割するかの如く走る数条の溝や櫛列、それらに隣接する形で展開する土坑群及び大型土坑、そして、それらの遺構に囲まれた形で残る無遺構部分といった構図を看取できる。この無遺構地帯には近世を通じて庭園及び建造物の存在が想定されるが、今回、それらの痕跡は確認できなかった。そ



第14図 名古屋城三の丸遺跡近世主要遺構配置図（1：400）

ここで、これらの遺構を最も基本的な属性に即して、溝、塀・柵、土坑、井戸、建物、その他に分類した上で、以下各々の記述を進めていきたい。なお、各遺構の深さについては本章第1節で述べた近世の推定生活面（第II層下の標高約11.5mの面）からの数値を記した。

(1) 溝

今回、近世の溝は各時期合わせて大小20数本確認されたが、その主軸方向は大部分がE-4°~8°-N、それに直交する方向がN-4°~8°-Wの範囲に収まっている。これは、近世を通じて主軸の方向性、すなわち三の丸郭内の地割方向に大きな変化がなかったことを意味しており、他の調査地点においても同様の傾向が確認されている。溝遺構の全体のあり方としては、①調査区を4分割するSD03・04・08を基本ラインとして、それに隣接もしくは重複する形で繰り返し掘削されるパターン、②それらの溝と同じ方向性を持ちながら分布に特徴が見られず、結果的に土坑群と重なって存在するパターンの2通りが指摘される。まず、①類型の溝を概観すると、SD08に代表されるような規模の大きな箱形の掘り形を持ち、その周辺に土坑や井戸など性格の異なる遺構がほとんど見あたらないことから、かなり性格的に限定された重要な施設であったことが窺われる。また、これらの溝は埋土中にごく少量しか遺物を含まないことから、溝への物の投棄が規制・回避されていたことも考えられる。なお、この①類型の溝の埋土はごく短時間に埋め戻された様相をしており、その廃絶時には他の遺構を含む遺構全体の大きな画期が存在した可能性が高い。これらの諸要素を総合すると、①類型の溝は、本地点に想定される4軒の武家屋敷地の境界を構成する施設と想定される。なお、この4軒の武家屋敷地については、若干の変遷は認められるものの、以下の記述の便宜上、第14図に示したように屋敷地1~4と表記してゆくこととする。一方、②類型の溝は①類型の溝に比べ全体に規模が小さく、規模、断面形態ともに一定しないことから個々の性格を特定するのは困難であるが、屋敷地内において小・中区画の設定、排水等の機能を担う、より日常的な施設であったと考えられる。

①類型の溝 SD03・04・08~10・25

SD08 調査区中央をE-6°-Nの方向に走る近世最大規模の溝で、幅1.3~2.2m、深さ1.7~2.5mを測る。断面形態は幅狭の逆台形を呈し、部分的に壁面が直立する区間もみられた。また、底部は東西方向へ下がっており、その比高差は約50cmである。埋土はほぼ灰褐色シルトの単一層で、調査区内で確認する延長60mの中は同一の埋土で占められていることから、ごく短期間の内に埋め戻された可能性が高い。なお、第15図のSD08②土層セクションを観察すると、SD08開削以前に、ほぼ重なる位置にやや小規模ながら同様の溝が見られるが、この溝は、調査区中央部まで重なり続くことが確認されており、やはり同じ性格を持つものと考えられる。また、図示はしていないが、SD08埋設後、SD09・10との接点から東へ向かう部分の埋土上に、やや小規模ではあるが同様の溝が改削されている。

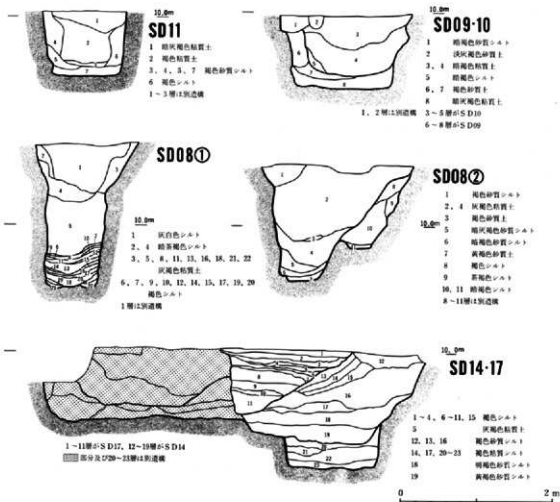
SD03 SD08の北側を逆L字形に走る溝で、幅1~1.3m、深さ1.3~2m、調査区内の総延長約51mを測る。主軸方向はE-8°-N及びそれに直交するN-8°-Wを示し、断面形態はSD08よりやや小規模ながら、同じ幅狭の逆台形を呈する。底部は東西方向部分が西下がりとなっており、その比高差は約70cmである。なお、北端部は上部をかなり削平されているものの、SD04同様、明瞭に終結しているものと考えられる。埋土は確認しうる範囲はす

べて灰褐色粘質土で占められており、SD08同様、ごく短期間の内に埋め戻された可能性が高い。なお、この溝は後述のSX04廃絶後、その埋土上に開削されている。

SD04 SD03と同じ意図のもとに掘削された溝と考えられ、03に切られる形で存在する。しかし、他の①類型とは主軸方向が異なり、E-1'-S、直交方向がN-12'-Eを示している。また、南北方向部分の長さもSD03とは著しく異なり、屈曲部分から僅か4mの長さで明確に終結している。溝の幅は1-1.8m、深さは1.7-2.1mを測り、断面形態は逆台形を呈する。調査区内の総延長は、西端部が未確認ながら30m以上あるものと考えられる。

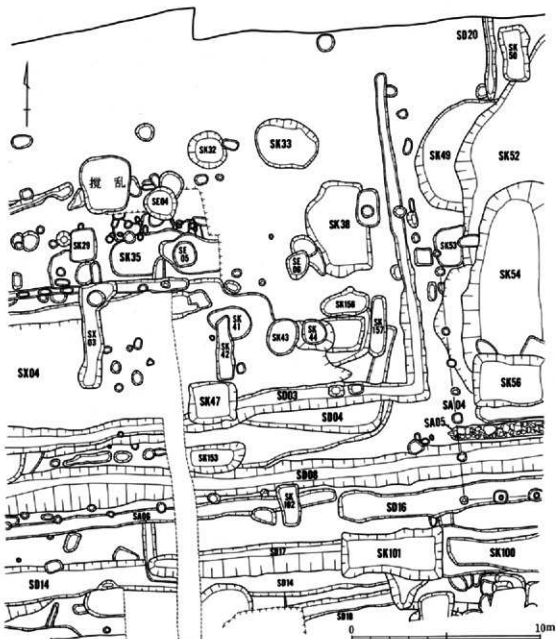
SD09 とともにSD08から分岐する形で南へのびる溝で、幅1.5m、深さ1.5-2m、調査区内の延長・10 13-13.5mを測る。溝の主軸方向はともにN-6'-Wである。断面形態はSD08より小規模ながらともに逆台形を呈しており、底部は20cmの比高差を持って北上がりに傾斜している。なお、SD09はSD08もしくはSD25と共存関係にあると想定されるが、その北端部はSD08・25直前で終結しており、ともに接続していなかったものと考えられる。

②類型の溝 SD06・11・14・15・17・19・20



第15図 近世の遺構(1) SD08・09・10・11・14・17土層セクション (1:50)

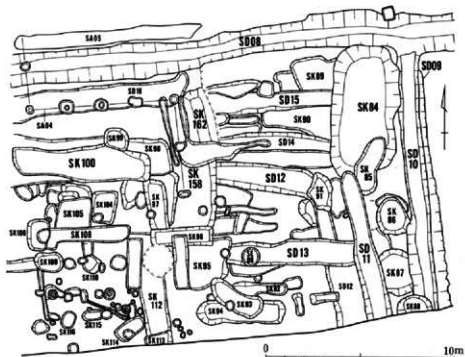
- S D19 土坑群Fの下層を通るL字形の溝で、主軸方向はE-6°-N及びそれに直交するN-8°-Wである。溝の幅は0.7~1m、深さ1.1~1.5mを測り、断面形態は逆台形を呈する。調査区内の総延長は、東端部が未確認ながら20m前後を測るものと考えられる。また、底部は、約35cmの比高差を持って東下りの傾斜がついている。なお、このL字状にまわる溝の外側には、ほぼ同時期の土坑群が溝に沿う形で展開しており、溝の性格を考える上で示唆的なあり方を示しているといえよう。
- S D14 S D08の南約2.7mの位置をE-4°-Nの方向性を持って走る溝で、幅1.5~2m、深さ1.2~1.5m、調査区内の総延長約46mを測る。この溝の西端部は底部がゆるやかに上がる形



第16図 近世の遺構(2) S D03・04・08・14・17・20, S A06 平面図(1:200)

で終結しており、この点において①型の溝とは様相が異なる。なお、東端部は遺構が著しく重複しており判別は困難であるが、SK84と僅かに重なる位置で終結しているものと考えられる。

- SD11** SD14の東端部にほぼ接する位置から南へ伸びる溝で、幅1.4m、深さ1.2~1.3m、調査区内の延長約8mを測り、N-13°-Wの方向性を持つ。断面形態は逆台形を呈する。以上のような諸属性を見る限りSD14・11は共存関係にはないものの、ともに①型典型的な性格を多分を持つ溝といえる。なお、第15図の土層セクションを観察すると、SD11埋没後、全く重なる位置にSD11より一回り小さい箱型の溝が改削されており、やはり同様の性格を持つものと考えられる。
- SD17** SD14とほぼ重なる位置に、同じ方向性(E-6°-N)で走る幅1.5m、深さ1.3~1.5mの溝である。調査区内の総延長は、東端部が未確認ながら約10m前後と考えられる。溝の断面形態は、底部が北に片寄ったV字形を呈しており、溝の西端部は明瞭な形で終結している。また、埋土も褐色砂質シルトと暗褐色シルトが版築状に堆積しているなど、本地点で確認された他の近世溝には見られない諸特徴を持つことから、若干性格を異にする施設であったことが窺われる。
- SD06** SD06はSK78・79の北側に位置し、E-7°-Nの方向性を持って走る溝で、幅1m、深さ1.2~1.6m、調査区内の延長は約14.5mを測る。SD20はSK52の西側に位置し、N-4°-Wの方向性を持って走る溝であるが、上半部が削平されており幅0.5m、深さ0.2~0.4mを残すのみである。しかし、SD06とほぼ直交する位置にあることや当時の生活面のレベルから考えれば、SD06同様1.5m前後の深さを持つものであったと考えられる。調査区



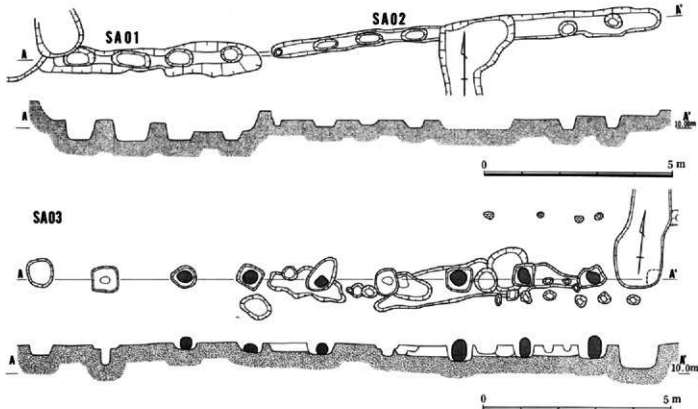
第17図 近世の遺構(3) SD08~16平面図(1:200)

内の延長は約4.5mである。

(2) 堀・溝

今回、堀・溝と考えられる遺構は6例ほど認められたが、いずれも異なる地葉が施されていることからそれぞれ異なる構造の上部施設の存在が想定される。なお、これらの遺構が溝遺構で提示した①・②類型のいずれに相当するののかについては、規模、構造上の共通項が乏しいため特定・類別が困難であることから、個々の遺構の記述の中で触れていきたい。

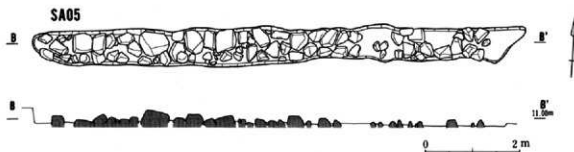
SA01 SA01はSK04の北側に位置し偏差0で東西方向に走る溝状遺構である。底部に4つの柱・02穴を有する。溝は幅0.8m前後、深さ1.3~1.6m、長さ6mを測る。底部の柱穴は長辺50~100cm、短辺45cmの楕円形を呈し、深さは溝の底部から50~55cmで、柱穴底部のレベルは4基ともほぼ一定している。また、柱穴の間隔は柱穴中央で計測した場合、約1.4mとなる。SA02は01東端部の東約30cmの位置からE-5°-Nの方向性を持って走る溝状遺構で、やはり底部に柱穴を有する。溝は幅0.7m前後、深さ1.2~1.3m、長さ10.3mを測る。底部の柱穴は長辺60~70cm、短辺30cm前後の楕円形及び径20~45cmの円形を呈し、深さは溝の底部から15~20cmで、柱穴底部の標高はSA01より25~30cm高いレベルでほぼ一定している。また、柱穴の間隔は柱穴中央で計測した場合、約1.2mとなる。このSA01・02は遺構の形態上共通する部分が多いことから、上部施設の構造や性格はかなり似通ったものと考えられる。その性格は、全長がごく限られていることから、屋敷地内の小・中区画の設定等の機能を持つものと考えられる。ただ、主軸方向や規模に微妙な差が認められ



第18図 近世の遺構(4) SA01・02・03 平面図・断面図(1:100)

ることから共存した可能性は低いものと考えられる。

- S A 03 S X 04埋没後、その埋土上に構築された、E-5°-Nの方向性を持つ柱穴列である。柱穴は全部で9ヶ所確認されており、一辺50~70cm、推定生活面からの深さ70~80cmの方形の掘り形を呈する。その内6ヶ所については、長径30~80cmの濃飛流紋岩の円礫を利用した礎石が認められ、柱痕のある柱穴も1ヶ所確認されている。なお、柱穴の間隔は柱穴中央で計測した場合、約1.8mとなる。なお、礎石の大きさから類推される上部施設はかなり堅固な枮状の施設であることから、この遺構は屋敷地の境界を構成する施設であった可能性も考えられる。
- S A 06 S D 08のすぐ南に位置し、E-7°-Nの方向性を持つ溝状遺構で、溝の北肩には柱穴が2.8m間隔で付随している。溝は幅約70cm、深さは推定生活面から50~65cmで、付随する柱穴は径30~50cm、深さはやはり推定生活面から60~70cmである。遺構の西端は調査区外となるため未確認であるが、東端は調査区のはほぼ中央で確認されている。この遺構はその形態から上部施設として支柱を持つ枮状の施設を想定しうが、施設の構造上、北側からと南側からとでは景観が異なる点に留意すべきであろう。つまり、北側からは柱によって支えられた、いわば“裏”が見渡されるため、この施設は南側の居住者の意識をより強く反映した①類型のな性格をもつものといえることができる。
- S A 04 調査区中央のやや東寄りをタランタ状に走る柱穴列で、南北方向がN-7°-8°-W、東西方向がE-5°-Nの方向性を持つ。柱穴は全部で13ヶ所確認されているが、礎石は認められず、柱痕を持つものがいくつか確認された。なお、柱穴は径40~50cm(東西方向の3ヶ所は一辺70cmの方形)、深さは推定生活面から15~40cm(南北方向の3ヶ所は80~90cm)を測り、その間隔は南北方向が1.6m(北側部分)と2.5m(南側部分)、東西方向が2mとなっている。この遺構は、①類型の溝とは位置的にずれるものの、その形態から屋敷地の境界を構成する枮状の施設に相当するものと考えられる。
- S A 05 S D 08の北側に隣接し、E-4°-Nの方向性を持つ溝状の敷石遺構で、幅約1m、長さ約10mを測る。敷石は長径10~64cmの大小の角礫の平坦面を上に向けて並べ、標高11.0m前後の水平面を作り出している。この遺構はその独特で丁寧な作りから、他の遺構とは異質の上部施設が想定され、位置的にも屋敷地の境界を構成するものと考えられる。しかし、全長が比較的短い上、対となるべき同様の遺構も見あたらないことから、具体的な構造は



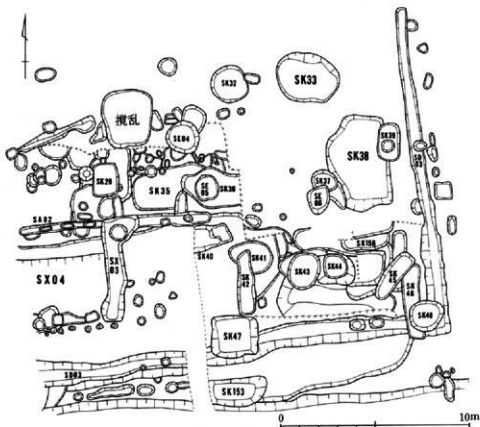
第19図 近世の遺構(5) SA05 平面図・断面図(1:80)

不明である。

(3) 土坑

今回の調査では、大小300基前後の土坑が確認されている。これらの土坑はその大部分が物の廃棄を目的として掘削されたものと考えられ、江戸時代を通じて絶えることなく形成されたものである。これらが、本地点に想定される4軒の屋敷地の中でどのようなあり方を示すのかについては、先の全体の概要の中で指摘した通り、各々の屋敷地のコーナー部分及び縁辺部分に群集する土坑と、それに囲まれ、取り残された形で存在する無遺構部分という2種分化の構造が看取できる。なお、それらの土坑の分布については、分布密度により大きく6つの群（土坑群A～F）に分けることができる。これらの土坑群のあり方は、形成された時期、地域により必ずしも一様ではなく、各々の土坑群はそれぞれを特徴づける要素を多かれ少なかれ有している。ここでは、それらの土坑群ごとに、群としての特徴を踏まえつつ、その中の代表的な遺構を選んで記述を進めていきたい。

土坑群A 調査区の北西部、屋敷地1の南辺に展開する土坑群で、長径0.5～2.5m、推定生活面からの深さ0.5～0.8mの小・中の土坑により構成されている。この土坑群は、分布密度が他の土坑群に比べて低く、遺構の重複も少ないことから、長期間にわたって形成されたものとは考えにくく、その大部分が17世紀代に属するものと考えられる。また、個々の土坑に含まれる遺物も総じて少量であった。なお、この群の土坑はその平面形と大きさにより若干の分類が可能のため、その分類に従って記述を進めていきたい。



第20図 近世の遺構(6) 土坑群B 平面図(1:200)

SK04・07・13

長径約2m前後、短径1.7m前後の一端が尖った楕円形を呈する土坑で、箱型の掘り形を持ち、底部はほぼ平坦である。長軸の方向はSK04がN-38°-E、SK07がN-50°-W、SK13がN-8°-Eである。深さは推定生活面から約1~1.2mである。

SK05・08・09・16・19・20・176・177

長径が1.1~1.3mの円形もしくは楕円形を呈する土坑で、大部分が箱型の掘り形を持ち、底部はほぼ平坦である。深さは推定生活面から約1.1m~1.5mである。長軸方向はSK05がE-8°-N、SK08がE-39°-S、SK19がW-38°-S、SK177がW-35°-Sである。

SK06・10・14・17・21・178

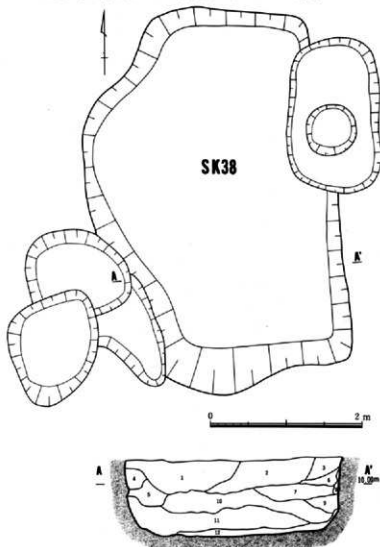
長辺1.6m前後（SK06・21・178）と長辺2.1m前後（SK10・14・17）の円形もしくは楕円形を呈する土坑で、掘り形はやはり箱型が多く、底部はやや中央部が下がっている。深さは前者が推定生活面から約1.0~1.8m、後者が1.2~1.4mである。長軸方向はSK06がN-20°-E、SK10がN-10°-W、SK17がE-33°-N、SK21がN-9°-W、SK178がN-16°-Wである。

SK11・18・23・175・179

長辺1.5~1.8m、短辺1m前後（SK23・179）及び長辺2.5m、短辺1.2~1.8m（SK11・18）の長方形を呈する土坑で、いずれも箱型の掘り形とほぼ平坦な底部を特徴としている。深さは前者が推定生活面から約1.2m、後者が1.4~1.8mである。長軸方向はSK11が偏差0で南北方向を、SK18がE-35°-N、SK23がN-3°-W、SK175がN-12°-W、SK179がN-3°-Wである。

土坑群B

この土坑群はSD03・04の屈曲部分の内側、層敷地1の南隣部分に形成されたもので、



- | | | |
|----------------|----------------|--------------|
| 1, 5 暗灰褐色砂質シルト | 6, 11 暗褐色砂質シルト | 同色の層位は中に含まれる |
| 2, 9 褐色砂質シルト | 7 褐色粘質土 | プランクの塊・大きさ・多 |
| 3, 10 暗茶褐色シルト | 8, 12 暗褐色粘質土 | 墓により崩壊した。 |
| 4 灰褐色砂質土 | | |

第21図 近世の遺構(7) SK38 平面図・土層セクション(1:50)

中には両溝の廃絶後、その埋土上から掘削されたものも見受けられる。群としてのあり方は、SX04の東端部埋土上にあたるSK44を中心とした一群と、そこから若干の距離を置いて群を取り巻くSK29・32・33・38という形が看取できる。前者については、著しく遺構が重複していることから、長期間にわたり繰り返し掘削・投棄された状況が窺われ、SX04埋没後、18世紀から幕末にかけて形成された土坑群であると考えられる。そのため、各遺構のプランの検出・確定は非常に困難な状況であった。なお、土坑群A・Bの北側に屋敷地の無遺構部分が存在する。

SK29 長辺1.8m、短辺1.4mの長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約2mである。底部はほぼ平坦になっており、長軸方向はN-3°-Wである。埋土は他の土坑とは異なり、淡灰褐色細砂で占められていた。

SK32 直径約2mの円形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約1.9mである。

SK33 長径約6.8m、短径約5mの楕円形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約1.8-2.2mである。底部は平坦であるが、南東方向へ下り傾斜となっている。土坑の長軸方向はE-8°-Sである。

SK38 長辺4.5-5m、短辺2-2.5mの変形した長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約1.8-2.3mである。底部は平坦だが、北半と南半では0.5mの比高差がついている。土坑の長軸方向はN-4°-Wである。

SK39 SK38を切る形の長辺2m、短辺1.1mの隅丸長方形の土坑で、平坦な底部のほぼ中央に直径0.6m前後の円形の掘り込みが存在する。推定生活面からの深さは約1.5mで、円形部分は周囲より10-15cm程低くなっている。土坑の長軸方向はN-1°-Wである。

SK40 長辺2m以上、短辺1-1.5mのやや崩れた長方形を呈する土坑で、底部東端にテラス状の高まりを有する。推定生活面からの深さは約1.8mで、テラス状の部分はそれより60-65cm程高くなっている。土坑の長軸方向はE-14°-Nである。なお、埋土中には炭化物の小片が多量に含まれていた。

SK41 長径2.4m、短径1.8mの楕円形の土坑で、推定生活面からの深さは約1.2mである。底部は平坦で、土坑の長軸方向はE-8°-Sである。

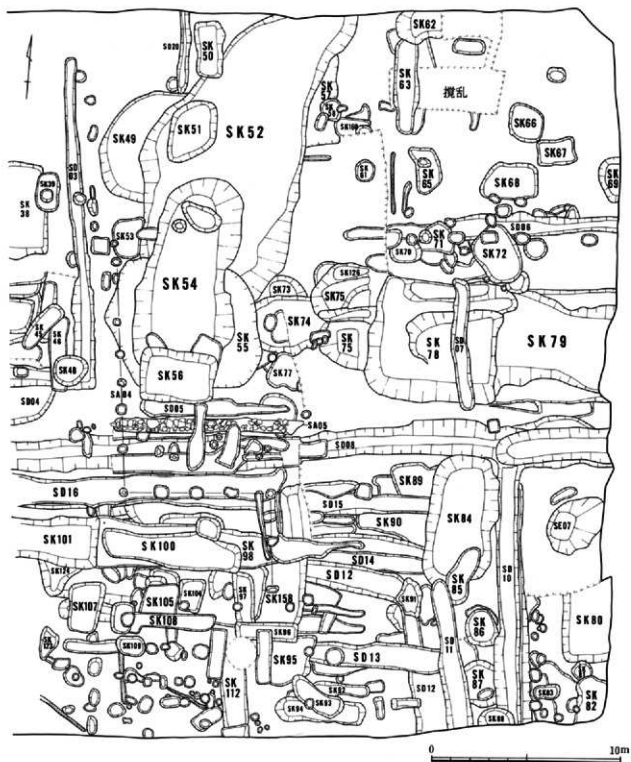
SK42・45・46

長辺3.4m (SK42)、2.9m (SK45)、4m (SK46)、短辺はいずれも1m前後の細長い土坑で、推定生活面からの深さはSK42が1.2-1.3m、SK45が1m前後、SK46は約0.8mである。土坑の長軸方向はSK42がN-3°-W、SK45がN-35°-E、SK46がN-1°-Eである。なお、これらの土坑はその切り合い関係から、SD03廃絶後、掘削されたものであることが判明しており、土坑群中、最も新しい遺構であると考えられる。

SK44 長辺3.8m、短辺1.5-1.8mの隅丸長方形の土坑で、底部東半部はテラス状の高まりになっている。推定生活面からの深さは西半部が約3m、東半部のテラス状部分は約2.2mである。土坑の長軸方向はE-15°-Nである。

SK47 一辺2-2.4mのほぼ正方形を呈する土坑で、SD03廃絶後、その埋土上から掘削された

新しい遺構である。掘り形は箱型を呈し、推定生活面からの深さは約2.3m、底部は平坦である。土坑の長軸方向はE-2°-Nである。



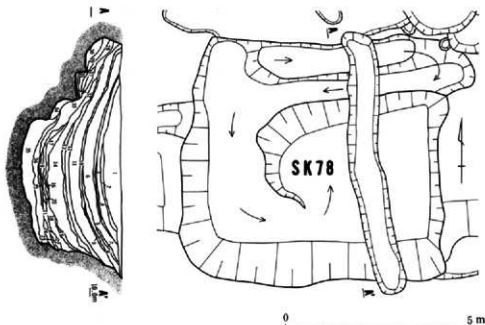
第22図 近世の遺構(8) 土坑群C・D・E 平面図(1:200)

土坑群C この土坑群は調査区の北東部分、屋敷地2の南西隅に展開しており、概要で指摘した通りのあり方を示している。しかし、群を構成する個々の土坑の規模や形成過程は、他の土坑群と比べ若干異質である。中でも、SK52・54・78・79のような隔絶した規模を持つ土坑の存在は特筆すべき特徴といえよう。また、形成された時期についても、17世紀から幕末にかけてのほぼ全時期にわたっているものの、その中心はSK52・78が掘削された18世紀前半に求められるものと考えられる。なお、これらの土坑群に囲まれる形で、SK66の北側に屋敷地2の無遺構部分が認められる。

SK52 SD03・20に沿う形で掘削された、南北に細長い不定形の土坑である。長径は推定約18m、短径8.5mを測り、推定生活面からの深さは第24図の土層セクション部で約1.9m、南端の最深部では3.1mにも及ぶ。埋土は灰褐色シルト及び砂質シルトが大部分を占めており、各土層はかなり似通っていることから、長期間にわたって堆積したものは考えにくい。また、全体がかなり還元された土質であったため、貝殻・骨などの自然遺物も良好に遺存していた。

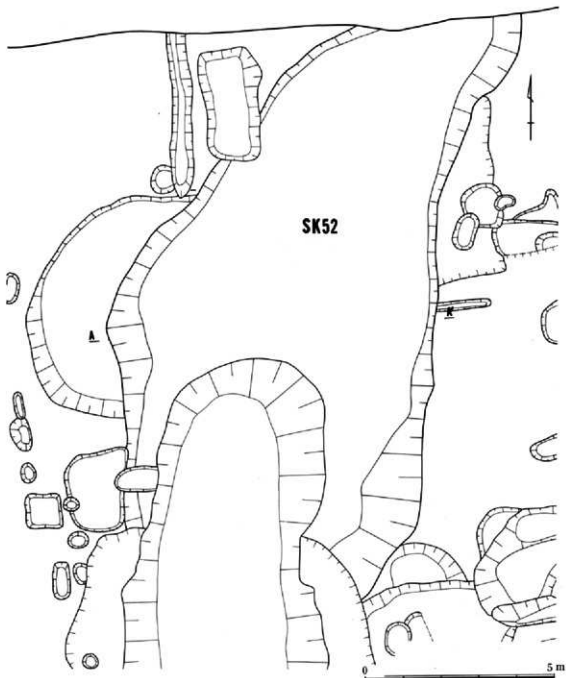
SK54 SK52・55の埋土上に掘削された平面長円形の土坑で、長径は推定10.5m、短径5.3m、推定生活面からの深さは約1.5mである。土坑の長軸方向はN-1'-Eである。

SK55 一辺5.5~6.5mの崩れた正方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約3mである。なお、この土坑は後述するSK78と形状・規模が類似していることから、同様の性格をもつ遺構の可能性も考えられる。



1, 8, 10, 12, 14, 23, 26, 28, 30	褐色砂質土	13, 31	黄褐色シルト	19	淡灰褐色砂質土	同名の層位は色調の明暗、中に含まれ
2, 3, 4, 5, 6, 27, 34	褐色砂質シルト	15	褐色粘質土	20, 29, 35	灰褐色砂質シルト	もフロンタの隆起・大きさ・多量によ
7, 24	褐色シルト	16, 17	褐色粗砂	22	灰白色粘質シルト	り識別した。
9	淡黄褐色砂質シルト	18, 21, 32, 33	灰褐色粘質土	25	灰褐色シルト	
11	茶褐色砂質シルト					

第24図 近世の遺構(9) SK78 平面図・土層セクション(1:100)



- | | | | |
|---------------|-----------------|--------------------------------------|----------|
| 1, 3, 5, 8 | 灰褐色粘質土 | 14, 17 | 暗灰褐色砂質土 |
| 2, 10, 13, 16 | 褐色砂質シロト | 15 | 灰褐色粘質シロト |
| 4, 6 | 灰褐色砂質シロト | 18 | 暗褐色粘質土 |
| 7, 11 | 灰褐色シロト | 同凡の層位は中に含まれるゾーンの
縁部・大きき・多量により識別した | |
| 9 | 褐色砂質土と灰褐色粘質土の互層 | | |
| 12 | 暗褐色シロト | | |

第24図 近世の遺構SK52 平面図・土層セクション (1:100)

- S K 56 長辺 4 m、短辺 2.5~2.8 m の平面長方形の土坑で、推定生活面からの深さは約 1.3 m である。箱型の掘り形を持ち、土坑の長軸方向は W-4'-N である。
- S K 63 長さ 5.2 m、幅 1.3 m の細長い溝状の土坑で、推定生活面からの深さは約 1.7 m である。長軸方向は N-3'-W で、掘り形は箱型を呈する。
- S K 67 長辺 2 m、短辺 1.4 m の長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約 1.2 m である。掘り形は箱型で、長軸方向は E-10'-N である。
- S K 68 長辺 2 m 及び 3 m、短辺 2 m の台形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは 0.9~1.1 m である。掘り形は箱型を呈し、長軸方向は E-8'-N である。
- S K 78 一辺 6.5~7 m のほぼ正方形を呈する土坑で、最深部の深さは推定生活面から約 3.4 m である。掘り形は第 23 図の土層セクション図から、土坑の北壁が階段状になっていることがわかる。しかし、これは実際には第 23 図の平面図に示したように、矢印の方向になだらかに下がってゆく螺旋状のスロープとなっている。また、この土坑は堆積状況に大きな特徴があり、2~5 枚の薄い土層と 1 枚の厚い土層が交互に堆積していることがわかる。このような堆積状況からその埋没過程については、短期間内の人為的な埋め戻しより、長期間にわたる漸移的な堆積を想定したほうがより妥当であろう。こうした掘り形を持つ遺構がどのような性格を持つものかについては、同様の遺構が確認された東京大学本郷橋内の遺跡の御殿下記念館地点において「探土坑」と推察されている¹⁰⁾。

S K 73~76・126

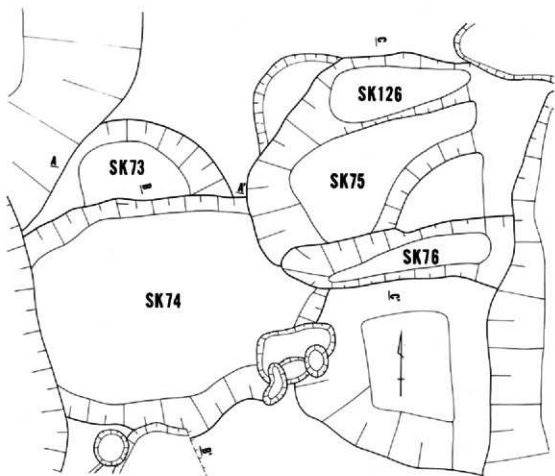
いずれも切り合い関係や出土遺物から S K 52・78 掘削以前の土坑と考えられる。S K 73 は推定直径 2.8 m 前後、推定生活面からの深さ約 1.7 m の円形の土坑と考えられる。S K 74 は推定長径 4.5 m、短径 3.1 m、推定生活面からの深さ約 1.6 m の楕円形の土坑と考えられる。S K 75・76・126 はほぼ同一箇所に繰り返し掘削された土坑である。土層セクションから類推される掘削順序は S K 75→S K 126→S K 76 であり、S K 126 と S K 76 の間には平面図には図示しえない土坑が一基存在する。各々の規模や平面形は明らかにし得ないが、推定生活面からの深さは 1.9~1.2 m を測る。

土坑群 D この土坑群は調査区南東隅部分、屋敷地 3 の北西隅部分に形成された土坑群である。屋敷地 3 はこの一角しか調査区にかかっておらず、この僅かな範囲をもって土坑群と判断するのは早計とも考えられるが、他の土坑群のあり方から、屋敷地内のこの位置に土坑群が形成されている可能性は高く、S K 80・82 等は土坑群を構成する遺構の一部と判断した。

S K 80 長辺 3.5 m 以上、短辺 2.5 m 以上の隅丸長方形の平面形を持つ土坑と考えられる。推定生活面からの深さは 1 m 以上を測る。

土坑群 E この土坑群は調査区南東部分、屋敷地 4 の北東隅部分に形成されている。この土坑群は既述の②類型の溝 (S D 11・14・15) に重複する形で展開しており、特に S K 105 を中心とした一帯は遺構が密集し、複雑な様相を呈する。また、この土坑群は東西方向に細長い溝状の土坑が目立つことも特徴の一つである。

S K 84 長辺 7 m、短辺 3.7 m の隅丸長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは 2.1 m 以上を

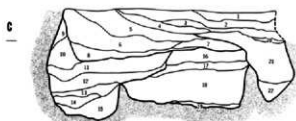
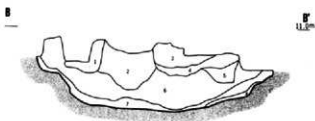


0 2 m



- 1, 8 褐色砂質シルト
2, 5, 6 暗褐色砂質シルト
3 明褐色砂質シルト
4 暗褐色粘質シルト
7 褐色シルト
1-5 跡は別図

- 1, 5, 6, 7 明褐色砂質シルト 同名の層位中に含まれるブロックの
2, 3, 8 灰褐色砂質シルト 種類・大きさ・分布により識別した。
4 褐色砂質シルト 以下SK74, 75, 76について同様。
9 暗褐色砂質シルト

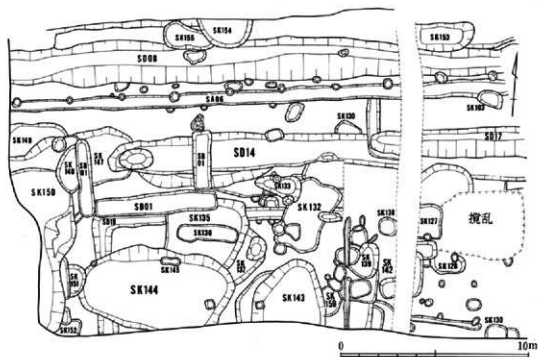


- 1, 4 明褐色砂質シルト 9-15層がSK126
2, 19 褐色シルト 16-19層がSK75
3 明褐色シルト 20-22層がSK76
5, 7, 9, 17 褐色砂質シルト 1-8層は別図
6, 14, 18 暗褐色粘質土
8, 15 褐色粘質土
10, 13 灰褐色砂質シルト
11, 12 灰褐色粘質土
16 黄褐色砂質シルト
20, 21 黄褐色シルト
22 暗褐色粘質土

第25図 近世の遺構① S K73・74・75・76・126 平面図・土層セクション (1:50)

測り、底面は東へ向い下り傾斜となっている。土坑の長軸方向は偏差0で南北方向を示している。なお、この土坑はその切り合い関係からSD08・10廃絶後、掘削されたものと考えられる。

- SK94 長辺4.7m、短辺1.3mの細長い溝状の土坑で、推定生活面からの深さは約0.8mである。土坑の長軸方向はE-1'-Sである。
- SK96 長辺3.3m、短辺1mの細長い長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約0.5mである。土坑の長軸方向はE-2'-Nである。
- SK97 長辺2.7m以上、短辺1.1mの細長い長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは0.65mである。土坑の長軸方向はN-9'-Wである。
- SK100 長辺7.3m、短辺1.3~2mの細長い長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約0.7mである。土坑の長軸方向はE-2'-Sである。
- SK101 長辺5.4m、短辺2.6mの長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは約1.5mである。土坑の長軸方向はE-2'-Nである。
- SK107 長辺2.7m、短辺1.9mの長方形を呈する土坑で、推定生活面からの深さは0.75mである。底部は北下がりの傾斜がついており、比高差は約20cmである。土坑の長軸方向はN-1'-Eである。
- SK112 長辺3m以上、短辺1.3mの細長い溝状の土坑で、推定生活面からの深さは0.45mである。土坑の長軸方向は、N-9'-Wである。
- 土坑群F この土坑群は、調査区南西隅部分、屋敷地4の北西部分に形成されている。この土坑群の



第26図 近世の遺構② 土坑群F 平面図(1:200)

形成過程については、先に溝の記述（SD19）の中でも述べたが、時期的、地域的に大きく2つに分けることができる。つまり、L字形にまわるSD19の外側に沿う形で、溝と相前後する時期に掘削されたSK147~150及びSD19埋没後、主にその内側に重複する形で掘削されたSK132~136・144の2種類である。こうした土坑群のあり方、特に前者のような土坑群と溝の位置関係や結び付きの一端を物語る事例は、屋敷地内の空間構成を考える上で極めて示唆的なものと言えよう。

- SK135** 概要で述べた通り、SD19埋没後掘削された一群の中の土坑である。規模と形状は、一辺4m前後の方形を呈し、推定生活面からの深さは約1.8mを測る。
- SK144** 同じくSD19埋没後掘削された遺構の一つで、群中、最大規模の土坑である。規模と形状は長径8m、短径4.3mの楕円形を呈し、推定生活面からの深さは約2.1mである。底部は南東隅に向かって下り傾斜となっている。また、長軸の方向はE-6°-Sである。
- SK150** SD19と共存関係にあると考えられる土坑の一つで、SD19の南北方向部分に沿う位置に掘削されている。規模は南北方向が8.5m、東西方向は調査区内で約3mを測る。土坑の長軸方向は、SD19とは並行するN-10°-Wである。推定生活面からの深さは2.3m以上で、土坑東辺中央部の深さ約1.2mの地点には、テラス状の狭小な平坦面が認められた。

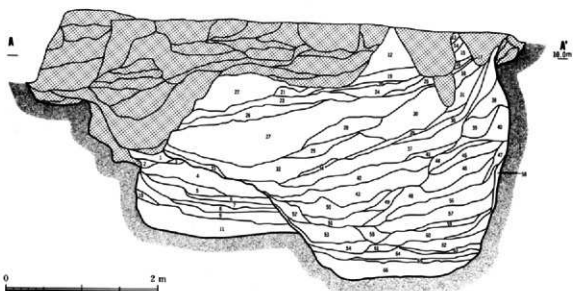
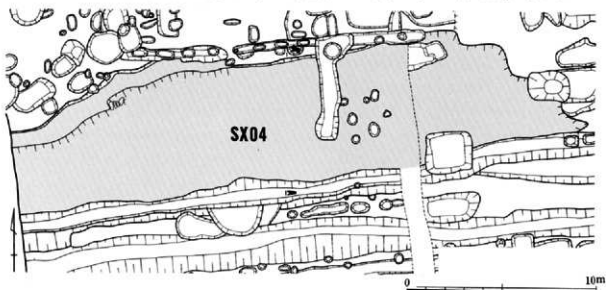
(4) 大型土坑

今回の調査では、前述のように多種多様な規模・形状の土坑が確認されている。その大半は廃棄や土取りを目的としたものと考えられるが、中にはそれらの理由をもってしては理解しがたい遺構も存在する。以下に紹介するSX04はその代表的存在であり、隔絶した規模や独特の構造など他に類を見ない特徴を有している。



第27図 近世の遺構③ SK144 平面図・土層セクション（1：80）

SX04 調査区東半部の中央、屋敷地1の南辺に沿う形で、東西方向に延びる細長い土坑である。その規模は、調査区内の延長30m、南肩を他の近世遺構により削平されているものの、最大幅は4.5m以上を測る。全体の形状は細長い溝状を呈するが、端部は西端部が調査区外で不明、東端部も他の近世遺構により削平され、原形をとどめていない。推定生活面からの深さは約4.5mを測り、北肩西半部の深さ約1mの地点には、幅0.7~1m、延長約13mのテラス状の平坦面が確認された。この平坦面のほぼ中央には、この面から底部へ降りるた



- | | | | | |
|---|----------|--------------------|------------|-----------------------------|
| 1, 12, 13, 15, 18, 22, 30, 31, 32, 35, 39, 40, 43, 56 | 褐色砂質ソルト | 12, 14, 20, 34, 37 | 茶褐色ソルト | |
| 2, 3, 4, 46 | 褐色ソルト | 21 | 灰褐色砂質土 | 同名の層は色調の相違、中に含まれるブロックの数量・大き |
| 5 | 黄褐色砂質ソルト | 41, 44 | 灰褐色砂質土 | 中に含まれるブロックの数量・大き |
| 6, 25, 42, 43, 45, 50, 51, 55, 59 | 灰褐色砂質ソルト | 53 | 陥凹状褐色砂質ソルト | 3・多量により識別した。 |
| 7, 16, 26, 28, 29, 33, 47, 57, 64, 66 | 褐色砂質土 | | | ②③ 部及び9・11層は別遺構 |
| 8, 11, 23, 27, 34, 43 | 灰褐色粘質土 | | | |
| 9, 34, 48, 52, 60 | 灰褐色ソルト | | | |

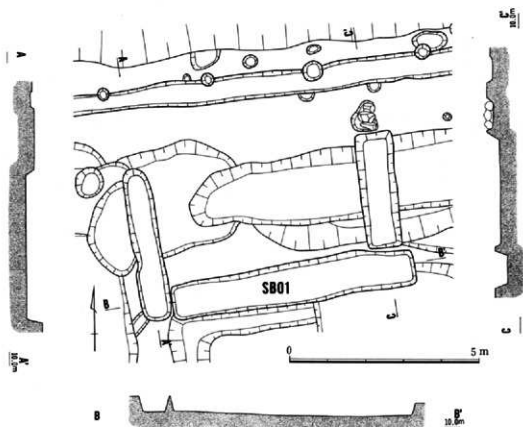
第28図 近世の遺構04 SX04 平面図(1:200)土層セクション(1:50)

めの階段が地山を削り出して作り付けてあり、残存する5段分が確認された。底部は幅約1.4mの平坦面となっており、東端部に向けてゆるやかな上がり傾斜となっている。また、南北の土坑の壁面は、屋敷地の内側にあたる北壁が急傾斜で立ち上がるのに対し、境界に接する南壁はかなりゆるやかな傾斜を見せている。埋土は上層から下層まで極めて多岐にわたり、埋没の過程が一様でなかったことを物語っているが、下層には水分を多く含んだ層位も見られ、特に第32・50・51層からは多量の植物繊維や木製品が出土している。

(5) 建物

これまで、名古屋城三の丸遺跡では明確な建物遺構、特に母屋などの主要建築物の遺構は確認されていない。今回の調査においても状況は同じであり、以下に紹介するSB01を確認したにとどまった。なお、各調査地点に共通するこのような状況は、建物の構造そのものに起因するものと考えられ、名古屋城本丸御殿などにみられるような礎石を用いた建物であったことが想定される。先にも述べたが、三の丸には明治7(1874)年以降、陸軍が入城しており、それに伴う大規模な改修が存在したことは想像に難くない。その際、建物の上層とともに礎石も撤去された可能性が高く、調査時点においてはその部分が無遺構部分として検出されたものと考えられる。

SB01 先に述べた土坑群Fの上層に築かれており、他のあらゆる遺構より新しいことから、三の丸最終段階の遺構と考えられる。遺構の構造は、溝状の細長い長方形の掘り形をコの字形に組合せており、中には硬く叩き締めた土を充填している。その規模は、西辺にあたる掘



第29図 近世の遺構⑨ SB01 平面図・断面図(1:100)

り形が幅0.8m、長さ4.1m、東辺が幅1m、長さ3.1m、南辺が幅1.1m、長さ6.5mを測る。推定生活面からの深さは、西・東辺が約1m、南辺が1～1.2mである。これら3基の掘り形を組み合わせた全体の大きさは長辺7.1m、短辺4.2mを測る。各掘り形の底部は平坦で、西・東辺が南下がり、南辺が東下がりとなっている。また、各辺の長軸方向は、西辺がN-9°-W、東辺がN-5°-W、南辺がE-8°-Nである。なお、掘り形のない北辺については、そのやや北側に、SB01の長軸方向とはほぼ平行して屋敷地の境界をなすSA06が走っている。両者はともに出土遺物は少量ながら、近接した時期の遺構と考えられ、あるいは構造的に共存関係にあったことも想定される。

(6) 井戸

今回の調査では、合計8基の井戸が確認された。その構造は、平面円形を呈し、開口部からやや狭まった後、筒状に掘り下げた素掘りのものがほとんどで、桶や石組みなどの内部構造は確認されなかった。また、規模は直径1m前後のものが3基（SE01・03・08）、1.2～1.5mのものが2基（SE05・06）、1.7～2mのものが2基（SE02・04）、2.5～3.6mの楕円形を呈するものが1基（SE07）確認された。推定生活面からの深さはSE01が約3.5m、SE02が約5.6mを測り、基盤層（熟田層）の粘土・シルト層を掘り抜き、砂層まで達している。しかし、台地上という立地条件から、総じて極めて深いものが多く、その大半は底部を確認し得なかった。一方、井戸の分布については顕著な傾向がみられ、屋敷地1内で6基が検出された他は、屋敷地3・4内で1基ずつ確認されたにとどまった。この屋敷地1部分は屋敷地全体の中では南東隅にあたることから、一軒の屋敷地内における井戸の分布傾向や周辺の空間の性格を考える上で、示唆に富んだ事例といえよう。



第30図 近世の遺構06 SE01



第31図 近世の遺構07 SE02

(7) その他の遺構

SK136・145

土坑群Fのほぼ中央に位置し、土坑群の埋没後設置されたと考えられる植木鉢埋設土坑である。SK136は幅0.8～1m、長さ3.2mの長細い土坑で、中には植木鉢が7鉢横一列に並べられていた。東半部には2ヶ所間隙がみられ、抜き取られている可能性もある。一方、SK145は0.3～0.4m、長さ1mの長円形を呈する土坑で、中には植木鉢が4鉢横一列に並べられていた。ところで、この2基の土坑の検出面及び植木鉢の口縁の標高は約10.7～10.9mであり、先に述べた近世を通じての推定生活面が標高11.5mであることを考えれば、植木鉢は設置時点で既に地表下0.6～0.8mの地点にあったことが想定される。これについては、この2基の土坑が当初から0.6～0.8mの深さで掘削され、その中に植木鉢が埋設された状態で機能していたという理解も成り立つ。また、東京都染井遺跡において確認されているような、植木などの保存を目的とした簡便な地下室の存在⁽⁴⁾も、遺構としては確認できなかったものの、一応想定され得るものであろう。(金子健一)

註

- (1) この近世生活面の標高(約11.7m)については、本遺跡の愛知県図書館地点でも同様の値が確認されている。
- (2) この柱穴の間隔は、一尺29.6cmとされる大宝令制下の小尺に換算すると、南北方向が10.5尺、東西方向が6尺となる。この小尺を利用したと考えられる同時期の掘立柱建物が、本遺跡の愛知県図書館地点でも一棟確認されている。ただ、同地点では他にも7～10世紀にかけての掘立柱建物や竪穴住居が多数確認されているが、このSB501と同様の主軸方向を示すものは認められなかった。
- (3) 東京大学埋蔵文化財調査室 1990 「東京大学本郷橋内の遺跡 山上会館・御殿下記念館地点 第2分冊 御殿下記念館地点の調査」P. 79・81
- (4) 東京都豊島区教育委員会 1990～1991 「染井I～IV」

第三章 遺物

遺物出土狀態



第三章 遺物

第1節 古代の遺物

調査区北西部に存在する建物SB501及び調査区南隅の一带から、奈良時代に所属する遺物が若干出土している。特に瓦の出土（約30点）はこれらの遺構周辺部に限定して認められ、瓦の使用を前提とした建物群を想定することが可能である。

第32図1はSB501の北側柱列P.01より出土した須恵器杯蓋である。口径24cmを測り、口縁端部は下方に折り返す。やや器高が高くなる傾向を示すものの、大型の器形を考慮すれば岩崎25号窯式を大きく降る資料ではなからう。

第32図2は軒平瓦の一部で、おそらく均整唐草文を構成するものと思われる。圏線を巡らせるが、外区は無文で、瓦当部幅は比較的狭い。頸部は断頸となる。焼成は軟質。表面は塊状で黒灰色を呈する。3・4・6は平瓦で、2の軒平瓦と3・4はSB501の周辺より、6はSD505より出土している。3・6は凸面ナワタタキで、「潰れ」が顕著に認められる。凹面には明瞭な稜痕は認められないものの、布目痕の「潰れ」と、タタキ調整によると考えられる側面平行の条線が存在する。側面は傾斜を持ち、2段のケズリと凹面側にケズリを施す。こうした凸・凹面潰れを持つ「再調整技法」は勝川遺跡出土瓦に共通する技法と思われる。ただ本遺跡出土のものは端面の調整に、指ナゲ、指頭庄痕が著しく、やや新しい傾向をとどめる。平瓦の製作技法は以上の状況から粘土板桶巻作りの可能性を残しながらも、再調整技法の存在を考慮すると、一枚作りへの過渡的なものとも考えることも可能であろう。なお、4は凸面ケズリ技法を採用するものである。5は玉縁付丸瓦で、SB501北側柱列P.08より出土している。凸面は横方向のナゲ調整で、側面には切断面を残し、凹面側のみにケズリを施す。

以上のことを総合すると、平瓦の製作技法から一枚作りに移行する時期のものと考えられる。軒平瓦は文様は不明瞭ながら頸部の形態と瓦当部の形状から奈良時代でも新しい傾向を持つものと推定できる。こうした瓦から見た所属時期は、1の須恵器杯蓋の特色から導き出される年代と矛盾するものではない。ここでは8世紀中～後葉にかけての時期を想定しておきたい。（赤塚次郎）

第2節 中世の遺物

中世の遺物は、その主体となる遺物のあり方から、次の3段階に大別することができる。なお、各段階の遺物の編年観については生産地において明かになっているものによった⁽¹⁾。また、表中の用途・器種分類については、基本的には後述する近世陶磁器の分類に従った。

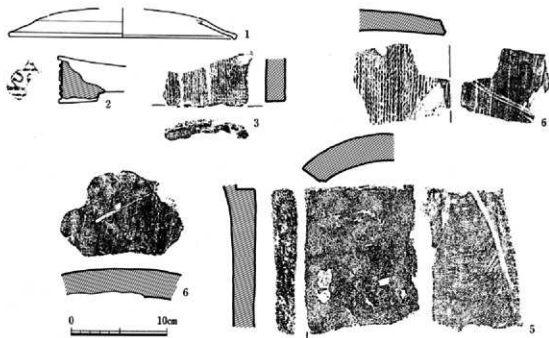
中世Ⅰ期：灰釉系陶器（「均質手山茶碗」）が主体となる段階

中世Ⅱ期：施釉陶器（古瀬戸後期様式～大窯第1・2段階）が主体となる段階

中世Ⅲ期：施釉陶器（大窯第3段階～進房式登窯初期）が主体となる段階

(1) 中世Ⅰ期の遺物（第33図）

第33図7～23の内、7～18・20・21は灰釉系陶器。19・22は施釉陶器。23は土鍋である。碗はすべ



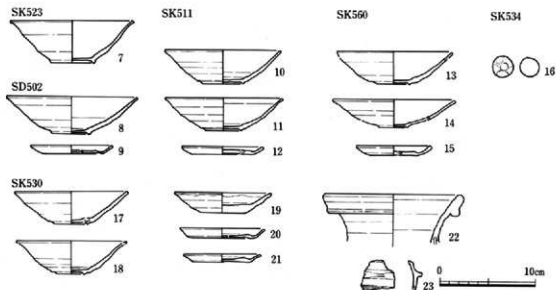
第32図 古代の遺物 SB501, SK511・522・523, SD505 (1:4)

図版番号	遺構	器種		材質	法量				軸差・調整等		備考	登録番号
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
32-1	SB501	その他	蓋	須恵器	—	(23.9)	—	—	—	—	自然軸	E-1

第4表 古代の遺物(1) SB501

図版番号	遺構	種類	軒丸瓦 (cm)				軒平瓦 (cm)			備考	登録番号
			径	内区径	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚		
32-2	SK511	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	—	缺損	E-2
3	SK523	平瓦	—	—	—	—	—	—	2.0	—	E-3
4	SD605	*	—	—	—	—	—	—	2.1	—	E-4
5	SB501	丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	厚さ2.4cm	E-5
6	SK522	平瓦	—	—	—	—	—	—	2.9	—	E-6

第5表 古代の遺物(2) SB501, SK511・522・523, SD605



第33図 中世の遺物(1) SK511・523・530・534・560, SD502 (1:4)

て精製の東濃地方を中心として生産される、いわゆる「均質手山茶碗」である。口径は12～13cmに集中し、器高は3.5～4cm、底径は4.5～5cmを測る。SK523・511・560と変遷が辿れる。灰軸系皿は精製品で、口径8～9cm、器高1cm未満。底径6.5cm前後を測る。器壁は極めて薄く、底部は上げ底状になる。19は口径10.4cm、器高2.2cm、底径4.6cmを測るもので、口縁部に灰釉を施す「緑釉皿」。16は口径14.4cmを測る壺頸部。16は精製の陶丸。

以上の遺物は調査区北西に展開する土坑群から出土したもので、おおよそ14世紀後半から末葉にかけての時期に所属するものであろう。(赤塚次郎)

(2) 中世II期の遺物(第34回)

このII期については、大窯製品の有無により2段階に細分が可能である。

II-1期 この段階は施釉陶(古瀬戸様式)が出土遺物の大半を占めている。第34回SD505からは緑釉皿(24・25)・折縁深皿(26・27)・鉢(28)・播鉢(29)などが出土している。これらの遺物には時期幅が認められ、折縁深皿(26)が古瀬戸中期様式と考えられるほかは、播鉢や緑釉皿など後期様式III期に属するものが多く、15世紀中葉の時期が想定される。SK555・558については、折縁深皿(35)が中期様式に属するほかは、天目茶碗(31)・仏餉具(32)・火除け付の釜(33)・卍皿(34)は後期様式IV期に属するものと考えられ、15世紀後半の時期を想定しうる。

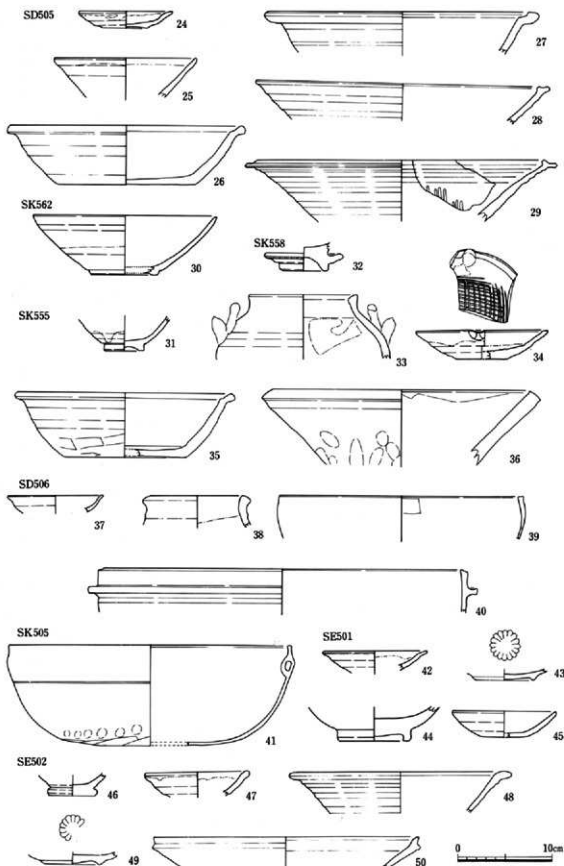
II-2期 この段階になると大窯製品と内耳鍋が出現する。第34回、SD506・SK505・SE501・SE502からは端反皿(37)・壺(38)・内耳鍋(39・41)・緑釉皿(42・47)・印花文のある丸皿(43・49)・仏餉具(46)・播鉢(50)が出土しており、陶器類は全て大窯第1・2段階の特徴を有し、内耳鍋は形状に古相をとどめることから、16世紀前半の時期が想定されよう。44は輸入陶磁の青磁碗、45は土器の皿である。

(3) 中世III期の遺物(第35回)

このIII期については、遺構・遺物とも極めて少なく、SD501からごくわずかな遺物を得たに過ぎない。

図版番号	遺構	器			法			軸差・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
33-7	SK523	供膳具	碗	灰釉陶器	4.5	12.9	—	4.6	指ナゲ	—	E-7	
8	SD602	—	—	—	4.0	[13.8]	—	4.5	—	—	E-8	
9	—	—	皿	—	0.9	[8.6]	—	5.4	—	—	E-9	
10	SK511	—	碗	—	3.6	[12.2]	—	4.8	—	—	E-10	
11	—	—	—	—	3.5	[12.4]	—	5.0	—	—	E-11	
12	—	—	皿	—	0.8	[8.6]	—	[6.3]	—	—	E-12	
13	SK560	—	碗	—	[3.4]	[12.0]	—	[3.4]	—	—	E-13	
14	—	—	—	—	[3.0]	[12.7]	—	[3.1]	—	—	E-14	
15	—	—	皿	—	1.0	[8.0]	—	[5.0]	—	—	E-15	
16	SK534	その他	陶丸	—	1.9	—	2.0	—	—	—	精製品	E-16
17	SK530	供膳具	碗	—	3.5	[12.0]	—	[4.6]	—	—	E-17	
18	—	—	—	—	—	—	—	[4.2]	—	—	E-18	
19	—	—	陶器	—	2.2	[10.4]	—	4.6	灰釉	灰釉	E-19	
20	—	—	陶器	—	1.0	[9.0]	—	[6.4]	—	—	E-20	
21	—	—	—	—	0.8	[8.2]	—	6.2	—	—	E-21	
22	—	野庭器	陶器	—	—	[13.6]	—	—	灰釉	灰釉	E-22	
23	—	調理具	鍋	土器	—	—	—	—	—	—	羽釜	E-23

第6表 中世の遺物(1) SK511・523・530・534・560, SD502

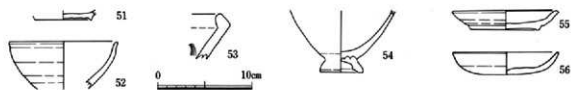


第34図 中世の遺物(2) SK555・558・562、SD505・506、SE501・502 (1:4)

図版番号	遺構	器 種		法 量				軸葉・調整等		備 考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
34-24	SD505	供膳具	皿	陶器	1.8	9.6	—	4.4	灰軸	灰軸	瀬戸美濃	E-24	
25	〃	〃	鉢	〃	—	(14.7)	—	鉄軸	鉄軸	〃	E-25		
26	〃	〃	〃	〃	6.2	(24.4)	—	(14.4)	灰軸	灰軸	内面僅付着	E-26	
27	〃	〃	〃	〃	—	(28.0)	—	—	—	—	〃	E-27	
28	〃	〃	〃	〃	—	(30.6)	—	—	—	—	〃	E-28	
29	〃	調理具	搦鉢	〃	—	(30.0)	—	—	鉄軸	鉄軸	〃	E-29	
30	SK562	供膳具	鉢	〃	6.3	(19.0)	—	(6.8)	灰軸	灰軸	〃	E-30	
31	SK555	〃	碗	〃	—	—	—	4.1	〃	〃	〃	E-31	
32	SK558	神仏具	仏軸具	〃	—	—	—	5.0	鉄軸	—	〃	E-32	
33	〃	調理具	鍋	〃	—	(11.4)	—	—	〃	鉄軸	釜	E-33	
34	〃	調理具	おろし皿	〃	3.0	(13.8)	—	(5.5)	灰軸	灰軸	〃	E-34	
35	〃	供膳具	鉢	〃	6.8	(22.4)	—	(13.0)	〃	〃	〃	E-35	
36	〃	調理具	〃	〃	—	(27.0)	—	—	—	—	焼締め	E-36	
37	SD506	供膳具	皿	〃	—	(19.0)	—	—	灰軸	灰軸	瀬戸美濃	E-37	
38	〃	貯蔵具	壺	〃	—	(9.6)	—	—	〃	〃	〃	E-38	
39	〃	調理具	鍋	土器	—	(25.6)	—	—	—	—	外面僅付着(内耳鍋)	E-39	
40	〃	〃	〃	〃	—	(37.4)	—	—	—	—	(羽釜)	E-40	
41	SK505	〃	〃	〃	10.7	(29.3)	—	—	—	—	油煙、灰化物付着(内耳鍋)	E-41	
42	SE501	供膳具	皿	陶器	—	(10.6)	—	—	灰軸	灰軸	瀬戸美濃	E-42	
43	〃	〃	〃	〃	—	—	—	6.2	〃	〃	印花文、底部トタン痕	E-43	
44	〃	〃	鉢	〃	—	—	—	(7.2)	—	—	青磁、底部、蛇の目軸割ぎ	中国	E-44
45	〃	灯火具	皿	土器	2.7	(10.8)	—	(4.2)	—	—	瀬戸美濃	E-45	
46	SE502	神仏具	仏軸具	陶器	—	—	—	(4.8)	鉄軸	鉄軸	底部糸切り痕	〃	E-46
47	〃	〃	皿	〃	—	(10.8)	—	—	灰軸	灰軸	外面僅付着	〃	E-47
48	〃	〃	〃	〃	—	—	—	5.4	〃	〃	印花文	〃	E-48
49	〃	〃	鉢	〃	—	(22.4)	—	—	〃	〃	〃	〃	E-49
50	〃	調理具	搦鉢	〃	—	(27.8)	—	—	鉄軸	鉄軸	〃	E-50	

第7表 中世の遺物(2) SK555・558・562、SD505・506、SE501・502

かった。これらの遺物は、前章第3節のSD501の説明の中にあるように、溝の存続期間内の自然堆積層(Ⅲ層)出土のものと廃絶時の一括流入層(Ⅰ・Ⅱ層)出土のものに分けることができる。51は鉄軸を施した皿で高台内と底部内面に輪トチ痕が認められる。52は天目茶碗、53は鉄軸(錆軸)を施した搦鉢である。これらはⅢ層内の遺物であり、皿と搦鉢は大塚第3段階、16世紀後半に属するものである。一方、Ⅱ層内の遺物である54の杯、55の皿は、ともに長石軸を施した連房式登窯の製品であり、54は17世紀前半、55は17世紀末に位置づけられる。こうしたわずかな遺物から埋没時期を決定するのは困難であるが、恐らく、17世紀初頭、三の丸造成時に埋め戻されたものと考えられる。(金子健一)



第35図 中世の遺物(3) SD601(1:4)

図版番号	遺構	器 種		法 量				軸葉・調整等		備 考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
35-51	SD601	供膳具	皿	陶器	—	—	—	5.8	鉄軸	鉄軸	内面、高台内輪トタン痕	瀬戸美濃	E-51
52	〃	〃	碗	〃	—	(11.3)	—	—	〃	〃	〃	〃	E-52
53	〃	調理具	搦鉢	〃	—	—	—	—	〃	〃	〃	〃	E-53
54	〃	供膳具	碗	〃	—	—	—	—	長石軸	長石軸	〃	〃	E-54
55	〃	〃	皿	〃	2.0	10.6	—	7.1	〃	〃	内面、高台内トタン痕3ヶ所	〃	E-55
56	〃	灯火具	皿	土器	2.3	10.9	—	4.1	—	—	底部糸切り痕	〃	E-56

第8表 中世の遺物(3) SD601

第3節 近世の遺物

分類と分析の方法

今回の調査では、整理用コンテナ約550箱にもおよび、陶磁器をはじめとする多種多様な近世の遺物が出土している。その詳細は以下の図版と表に委ねるが、ここでそれらの前提となる分類と分析の方法について若干触れておきたい。

まず、分類（用途・器種・材質・産地）については第9表に示した通りであるが、今回の整理・報告を通じて意図したのは個々の遺物の用途に着目した分類であった。出土遺物の用途をある程度特定し、その組成を分析することで、遺構や周辺の空間の性格を明らかにし得ると考えたからである。従って、遺物の外形的な要素に頼る分類のみならず、使用の痕跡などを手がかりにより具体的な用途を想定した器種も存在する。その最も顕著な例が皿であり、長石釉の丸皿と灰釉の輪皿、土器の皿は、外形的には一般的な供膳具であるが、口縁部に炭化物（油煙）が付着する例が一定量認められることから、灯火具の皿として扱った。しかし、碗については、供膳具の他に化粧具・神仏具として使用されていたものが混在することは十分考え得るが、使用痕が認められない上、明確な外形上の分類基準を持たないため、今回は分類し得なかった。ただ、天目茶碗については本来の用途が明らかことから、一般的な供膳具の碗とは分離することが可能で、喫茶具として独立させることとした。なお、各器種内の細分については、用途に主眼を置いた方針をより明確化するため敢えて割愛したが、これは分析結果から得られる情報量を自ら制限する結果となり、今後に課題を残した。

分析方法については、用途・器種別に口縁部の残存率を計測し、個体数を算出する方法をとった。なお、より正確な構成比の算出を期すため、 $\frac{1}{2}$ 以上残存する破片は全て計測の対象とした。また、陶磁器以外の遺物（人形・玩具類、金属・石・ガラス製品）については接合後の全破片点を数える方法をとった。しかし、瓦・木製品・自然遺物の計測については、サンプリングや計測の方法、遺存状況などに問題があることから、今回は取り上げなかった。

概要

本節における遺物の記述は、一部の遺物を除き、今回資料化した遺構出土遺物の各種組成(第11～26

陶器	生産地	用途		器種・器形	
		用途	器種・器形	用途	器種・器形
陶器	瀬戸・美濃 常滑 京都・吉原	供膳具	碗・杯	火具	鉢（火鉢・煎茶・風呂・火盆・手箱・水置）
			小瓶・小杯・窪口		壺（火筒し壺）
			皿		その他（風鈴・七輪・敷いぶし）
磁器	丹羽	調理具	鉢（向付類を含む）	化粧具	紅皿
			その他（通壺）		壺（お歯黒壺・髪油壺）
			鍋（内耳鍋・地鍋・行平・釜・陶製鍋）		びんだらい
土器	關西 備前	貯蔵具	鉢（片口鉢・縁鉢）	神仏具	その他
			漆鉢		瓶（神酒徳利・仏花瓶）
			瓶（土瓶・徳利・鏡子・急須）		香炉
瓦器	肥前 北九州 志戸呂	貯蔵具	その他	喫茶具	仏教具
			壺（風・徳利・水注・丹次）		その他（観音立・観音筒）
			壺（壺・茶壺・茶入）		碗（天目茶碗）
瓦器	輸入 不明	灯火具	鉢（平銅鉢・常滑櫻桃大鉢）	その他	鉢（植木鉢・銅鉢・銅鉢・徳利鉢）
			蓋物（投壺・香合を含む）		水盂
			皿（灯明皿・灯明受皿・行灯皿）		その他（花堂・水筒・水入れ・水置・水筒・しびん）
			皿（ひょうそく）		
			その他（瓦盤・燗台）		

第9表 近世陶磁器分類表

石製品	
用途	器種
文房具	硯
雑具	砥石・碁石
その他	

ガラス製品	
用途	器種
文房具	罇
供膳具	容器(鉢・壺)
その他	

金属製品	
用途	器種
建具	釘・錠・飾金具・針金・その他
武具	武器・小柄・鞘・刀装具・その他
調理具	匙・鍋・火箸・その他
装身具	簪・キセル・その他
雑具	把手・錠・釣針・その他
銭貨	古寛永・新寛永・渡来銭・その他
その他	

材質		
鉄	銅	その他

人形・玩具類	
土製	
陶製A (低火度焼成・施釉)	
陶製B (陶器と同質)	
磁製	

第10表 石・ガラス・金属製品、人形・玩具類分類表

表)の検討を中心に進めてゆきたい。従って、従来、本文の大半を占めていた遺物個々についての記述は、年代決定の指標となるものや特徴的なもの以外は極力おさえ、その任は図版中の観察表に委ねることとした。なお、各々の年代決定にあたっては、瀬戸美濃産の陶磁器および肥前産の磁器を主な手がかりとしたが、それぞれの編年観については各生産地で明らかになっているものによった。以下、遺構ごとに記述を進めてゆきたい。

S K 33 (第12・30・31表、第38・39図)

データ化し得た個体数は少ないが、その組成は陶器5割強、磁器1割、土器3割強という比率を示している。器種ごとに見れば、土器の灯火具の皿が最も多く、次いで、陶器・磁器の供膳具の碗・杯、陶器の灯火具の皿(長石釉の丸皿)が、やや目立った存在となっている。そのため用途の上では灯火具の占める割合が最も高くなっている。また、磁器については、中国(明)産のものが圧倒的に多く、肥前産のものはほとんど含まれていない。なお、陶磁器以外の遺物については、鉄製品が若干認められただけであった。これらの遺物から想定される遺構の年代は、天目茶碗(第38図96・97)、丸碗(94・95)、笠原鉢(第39図113)などから、17世紀中葉に位置付けられよう。

S K 149 (第11・28・29表、第36・37図)

やはり個体数は少ないものの、組成上では比較的明瞭な傾向を示す遺物群である。最大の特徴は、土器が全体の約半数、中でも灯火具と考えられる皿がその大多数を占めている点である。なお、この灯火具は、陶器のもの(長石釉丸皿・灰釉輪壳皿)も含めるとその占有率は全体の5割以上にも達し、用途分類の中で最も大きな部分を占めている。またS K 33同様陶磁器の生産地が、陶器は瀬戸美濃産、磁器は肥前産および中国(明)産に限られているのも特徴の一つである。器種的には陶器の供膳具の皿、磁器の供膳具の碗・杯が多数を占めている。なお、陶磁器以外の遺物は金属製品が若干認められただけであった。これらの遺物から想定される遺構の年代は、第36図57の尾呂茶碗のようにやや下るものも認められるものの、天目茶碗(第36図60)、輪壳皿(64)、笠原鉢(70)、播鉢(72)、高台無釉の小杯(第37図81)などから17世紀中葉とすることができよう。

S K 75 (第13・32～34表、第40～42図)

依然、生産地はごく限られたものとなっており、丹波産の播鉢がわずかに目立つ程度である。組成上の特徴はS K 33と比較的類似しているが、やや磁器の占める比率が高くなっており、その分陶器の比率が低くなっている。また、喫茶具の天目茶碗が陶器の供膳具の碗・杯を数量的に上回っている点には他には見られない特徴である。磁器は肥前産のものがその大半を占めており、中でも供膳具の碗・杯の比率が高くなっている。土器は3割台を保持しているが、その中の灯火具の皿は器種単独の絶対量では最大となっておりS K 33・149のあり方を踏襲したものとされている。陶磁器以多の遺物としては、砥石と鉄製の建具が多く出土している。これらの遺物の年代観については、尾呂茶碗(第40図124)など18世紀初頭に下がるものが若干含まれるものの、中心となるのは天目茶碗(第40図125～128)、型打ちの菊皿(133)笠原鉢(135)などの17世紀中葉から後半に位置付けられるものである。また、磁器は丸碗(第41図141)、筒形碗(142)、青磁の鉢(144・146)など陶器よりやや古相を示しており、17世紀第2四半世紀頃のものと考えられる。以上のことから、本遺構には17世紀中葉から後半にかけての時期が与えられよう。

S X 04 (第14・35～46表、第43～54図)

本遺構は、第II章第4節第28図に示したように上層にかなり後世の遺構による攪乱を受けており、出土遺物にはかなりの年代幅が認められた。そこでこれらの遺物を敢えて上下2層に分け、ここでは下層の遺物について検討を加えていきたい。本遺構の組成上の特徴としては、灯火具の圧倒的多数と磁器の少量化が最も顕著なものとして挙げられよう。まず、灯火具の卓越については先述のS K 149・33においてもある程度認められたが、本遺構では一層明確化している。引続き土器の皿が多量に認められるのに加え、陶器の皿(長石釉を施した丸皿)の大量加入がこの傾向の大きな要因となっている。一方、磁器の少量化については、主に肥前産磁器に見られる現象である。輸入磁器については組成表には表れていない(口縁部が少なく、体部・底部が多量に出土)が、むしろ他遺構より高い比率で含まれているものと推測される。陶器については、喫茶具の天目茶碗が多量に出土しているほか、肥前産・備前産のものなど一部、遠隔地のものが見られるようになる。陶器以外の遺物としては、石・鉄・銅製品、人形・玩具類がほとんどの用途・器種にわたり出土している。また、本調査地点では唯一の木製品が出土しており、家紋の入った碗・蓋・箸・下駄(第148図1～12)などが確認されている。これらの遺物の年代観については、碗・皿の中に若干新しいものが含まれるものの、概ね全ての器種において17世紀中葉を中心とした時期を想定できよう。その中には織部の碗・鉢・鉢・汁次(第44図173、第46図197、第47図202、第49図224)、御深井釉を施した型打ちの皿(第45図193・194)、第51～53図中の輸入磁器など、遺跡の性格を反映するものも含まれている。

S D 08 (第16・50～53表、第58～61図)

屋敷地の区画溝という性格上、他の廃棄土坑と同列には語れない遺構であり、遺物もごく少量出土したのみで、一括投棄などの状況は看取できなかった。組成上の大きな特徴は認められないが、灯火具の土器の皿の卓越や瀬戸美濃産以外の陶器の存在など、この時期の他の遺構とよく似たあり方を示していると言えよう。陶磁器以外の遺物については、金属製品が少量確認されただけであった。これらの遺物の年代観については、溝という継続使用される遺構の性格上、ある程度の年代幅が認められ

る。例えば、天目茶碗（第58図336）、白天目茶碗（338）、鉄絵皿（344）、播鉢（第59図355・356）、肥前産磁器（第60図362～367、第61図370）などは17世紀前半に、天目茶碗（第58図337）、尾呂茶碗（340）、播鉢（第59図357・358）、仏飯具（第60図369）などは17世紀後半から18世紀初頭に位置付けられよう。以上のことからS D 08は三の丸造成当初の17世紀前半から18世紀初頭にかけて存続していたものと考えられる。

S D 12（第15・48・49表、第55～57図）

供膳具が6割近くを占め、灯火具が3割にとどまっている点、その表裏一体の現象として灯火具の土器の皿が相対的に少量である点、陶器の中に肥前産など瀬戸美濃・常滑産以外のものが見られる点などが組成上の特徴として挙げられる。なお、陶磁器以外の遺物については、第27表の通り、各材質のものが一通り出土している。これらの遺物の年代観については、煙燻箱（第55図314）や口縁部が受口状を呈し始めた播鉢（第56図320）の存在などから17世紀後半から18世紀初頭にかけての時期が想定できよう。なお、鉄絵（南蛮人）を施した型打ちの皿（第55図311）は、同じ名古屋城三の丸遺跡の名古屋地方第一合同庁舎地点でも2点出土しており、三の丸郭内に集住する重臣クラスの共通する嗜好性的一端を反映した好例と言えよう。

S K 80（第17・54～56表、第62～64図）

組成上の特徴としては、やはり灯火具の土器の皿の卓越が指摘できる。本遺構ではこの土器の皿が単独で全体の5割以上を占めており、陶器が全体の2割強と少量であることと相俟って大きな特徴となっている。また、信楽、肥前産など瀬戸美濃産以外の陶器が微量ながら含まれており、この時期の一連の傾向として理解できる。陶磁器以外の遺物としては、石・金属製品が少量出土したにとどまった。これらの遺物の年代観については、若干古いものも含まれるが、天目茶碗（第62図385）、香炉（387）、播鉢（390）、肥前産磁器碗（第63図391）、皿（400）などから17世紀後半から18世紀初頭にかけての時期が想定されよう。

S K 52（第18・57～72表、第65～80図）

今回の調査地点の中では、質量ともに最も充実した遺物を出土した遺構である。組成上の特徴としては、同時期のS K 80と似通った傾向を示しており、陶器の少量化、土器の卓越が顕著に表れている。特に、灯火具の土器の皿の絶対的多数は動かし難く、個体数の極めて多い本遺構でも単独で5割を上回っている。これに対して、陶器の灯火具の皿（長石釉の丸皿や灰釉の輪壳皿など）はほとんど出土しておらず、S X 04とは好対照をなしている。また、詳細については別項に譲るが、焼塩壺も多量に出土しており、形状、刻印などから一括性の高いものであることが判明している。陶器については、産地の多様化が一層進み、瀬戸美濃産以外のもの（特に肥前産の碗）が陶器の2割強を占めるまでになっている。器種的には、極めて多岐にわたっており、S K 80以前の遺構との較差は一つの画期の存在を示唆するものといえよう。また、碗・皿・播鉢に加え、神仏具の香炉が多く見られるのも本遺構の特徴の一つである。磁器についても陶器と同様の傾向が見られ、器種の多様化、碗・小碗・神仏具の仏飯具の卓越などが明確に表れている。陶磁器以外の遺物としては、砥石、鉄製の建具、土製の人形類、貝殻・獣骨などの自然遺物が多量に認められたのをはじめ、各材質の遺物が多く出土している。これらの遺物の年代観については、やや新しいものがわずかに含まれるものの、尾呂茶碗（第65図418）、

天目茶碗 (421・422)、腰鎗茶碗 (第66図431)、御室茶碗 (432)、肥前産の京焼風陶器 (第67図)、播鉢 (第70図474・475)、香炉 (483~487)、色絵婦人座像 (口絵2)をはじめとする大半の肥前磁器 (第73~78図)は17世紀末葉から18世紀初頭に位置付けられるものであろう。このことから、本遺構は廃棄土坑として極めて一括性の高いものであることが考えられよう。

S K 78 (第19・73~87表、第81~95図)

S K 52と並び、質量ともに充実した遺物が出土した遺構である。組成についてもS K 52と酷似していることから、ここでは繰り返しを避け、若干異なる点を挙げてゆきたい。まず、陶器の瀬戸美濃産のものについては碗に比して皿が極端に少量である点S K 52と比べ、喫茶具の天目茶碗の占める割合がかなり低くなっている点が挙げられる。また、肥前産の陶器については、S K 52でほとんど碗のみが見られたのに対し、本遺構では碗・皿はほぼ同数出土している点が挙げられる。これらの現象は、同一時期に同一屋敷内に形成された土坑に見られる較差であることから、時期差や地域差に起因するものではありえず、廃棄パターン等にその原因を求めるべきであらう。また、磁器についても、S K 52に比べ仏飯具がやや少量となっている。陶磁器以外の遺物についても、S K 52と比べ人形類が少ないのに対し、銭貨・鉄製の建具 (特に釘類) は極めて多量に出土している。これらの遺物の年代観については、やはり内容的に類似したS K 52とほぼ重なる時期になるものと考えられ、17世紀末葉から18世紀初頭に比定することができよう。

S K 144 (第21・95~101表、第103~109図)

本遺構の組成は、全体の傾向としてはS K 33・S D 12・S D 08など17世紀代の遺構のそれと似通ったものとなっている。しかし、その構成要素はS K 52・78以来のものを受け継いでいることが看取される。具体的には、陶器の多器種性・産地の多様化に代表されるものである。特に後者については京・信楽産の上絵付け製品 (第104図900~902) が多く見られ、肥前産が大きく後退している点において、既にS K 52・78とも様相が異なっているといえよう。なお、陶磁器以外の遺物としては、やはり鉄製の建具が多量に出土している。これらの遺物の年代観については、播鉢 (第105図920~922) や磁器碗 (第107図944)・蕎麦猪口 (949・950) など18世紀末葉に位置付けられるものが含まれるものの、主体となる丸碗 (第103図883~887)、腰鎗茶碗 (889)、天目茶碗 (891)、灯明受皿 (第104図914)、その他の肥前産磁器 (第107・108図) の形状、前述の上絵付け製品、腰折れ茶碗 (第103図895・896) の存在から18世紀中葉前後の時期を想定しておきたい。

S K 135 (第20・88~94表、第96~102図)

本遺構の組成上の特徴は、陶器の比率増大と磁器・土器の比率縮小現象である。特に土器の減少は顕著であり、S K 78以前の遺構では単独で全体の3~5割を占めていた灯火具の土器の皿の激減が大きく影響しているものと考えられる。陶器については、引続き多器種で推移しているものの、産地については、再び瀬戸美濃産の比率が大きくなっている。また、陶器の灯火具として、鉄軸を施した灯明皿 (第97図823~825)・受皿 (826) が引続き見られるほか、植木鉢 (第99図853)・半胴甕 (第100図856)・水甕 (857)・蕎麦猪口 (第101図862・863) など新たに登場する器形が多く含まれている。なお、これらの遺物の年代観については、丸碗 (第96図807~810)、腰鎗茶碗 (814)、播鉢 (第98図837)、徳利 (838) などの器形と前述の新器種の存在から、18世紀末葉から19世紀初頭の時期を与えることがで

きよう。

SK136・145 (第22・23・102表、第110図)

この2遺構は第II章において述べたように、植木鉢埋設を目的とした土坑である。その後、物を投棄した痕跡がないことから、廃棄を目的とした、あるいは廃棄用に転用された土坑とは明かに性格が異なる。そのため、廃棄土坑や溝からの出土遺物に試みた一連の組成分析は、あまり有効とは考えられず、この2遺構については組成表を提示するにとどめた。なお、設置されていた植木鉢から導かれる年代観は、18世紀末葉から19世紀初頭にかけての時期と考えられる。

SK84 (第24・103～110表、第111～118図)

本遺構の組成上の特徴は、一層の土器の減退、陶器の増大に代表されるであろう。灯火具においては陶器の灯明皿の増加・ひょうそくの出現が土器の皿の減少を招き、調理具の鍋についても陶器の鍋・行平が半数を占めるに至って、土器全体の減少傾向は決定的なものになったといえよう。また、陶器については、およそ陶器で賄い得る器種についてはほとんど網羅されており、産地も瀬戸美濃産のものがその大半を占めている。磁器についても増加傾向にあり、従来どおり供膳具主体の組成を示している。陶磁器以外の遺物については、各材質のものが広く出土しているが、鉄貨および土製のものを主体とした人形類の出土量が多くなっている。これらの遺物の年代観については、若干新しいもの(第116図1043の蓋など)が含まれるものの、信楽産の小杉茶碗(第111図990)、瀬戸美濃産の刷毛目の碗(第111図991)、同じく瀬戸美濃産の長石釉に上絵付けを施した碗(994・995)、陶胎染付けの碗・皿(第112図1000・1006)、梅文皿(1008)、馬の目皿(第113図1010)、播鉢(第114図1021・1022)、肥前産の小型丸碗と筒型碗(青磁染付)(第117図1051・1052・1056・1057)などから、18世紀末葉から19世紀初頭にかけての瀬戸産の磁器が流通する直前の時期に比定できよう。

SD03 (第26・116表、第124図)

本遺構は個体数がやや不足していることもあり、データの信頼性に若干不安が残る。しかし、陶器の卓越、2割台の占有率を保つ磁器、1割前後に減少した土器といった一連の流れに逆らわない組成となっている。これらの遺物の年代観については、土瓶(第124図1132)や肥前産の広東碗(1133・1134)、そして瀬戸産の磁器碗(1135)が含まれることから19世紀前半に比定することができよう。

SK56 (第25・111～115表、第119～123図)

本遺構についても、やはり一連の流れに沿ったものとなっており、7割の陶器、2割の磁器、1割の土器というあり方はこの時期の組成の一つの典型を示すものといえよう。陶器は多器種にわたりつつも、そのほとんどすべては瀬戸美濃産となっている。磁器については、用途的には供膳形態に限られる一方、瀬戸産の磁器が増加し、肥前産の磁器を量的に上回っている。土器については、調理具の鍋・灯火具の皿が、ともにその主体を陶器の鍋・灯明皿・ひょうそくに譲っている。しかし、この段階まで土器の皿が残存するのも事実であり、そこには灯火具の空間的・階層的な使い分けが存在する可能性も考えられる。なお、陶磁器以外の遺物としては、金属製品、中でも銅製の建具がやや多めに出土している。これらの遺物の年代観については、SK84・SD03と共通する遺物が多いものの、瀬戸産の磁器(第122図・第123図)の増加を考えれば、19世紀前半から幕末にかけての時期が想定できよう。

まとめ

これまで、遺構ごとに組成のあり方を概観したわけであるが、その中から次のような組成上の大きな変遷の流れを読み取ることができよう。以下、材質・生産地・用途・器種ごとにその概要を述べていきたい。

まず、材質の上では、土器の占有率が最も大きく変化しており、18世紀前半を境に減少傾向に転じ、19世紀には1割前後まで減退している。陶器は、近世を通じて5～7割の占有率を保ち安定しているが、SK80・52・78にみられるように17世紀末から18世紀初頭にかけての遺構においては2割台まで大きく落ち込んでいる。この現象は、瀬戸美濃産の陶器の激減を直接の原因としているのであるが、これが各遺構の個性などの内的要因に帰する性格のものであるのか、あるいは、この時期に瀬戸において生産量が大きく減退していることと何らかの関係があるのかについては、ここでは明かにし得ないが、興味ある事実といえよう。一方、磁器は全時期を通じて最も安定しており、1割台後半から2割の占有率を保持している。このような材質面での組成のあり方は、同じ名古屋城三の丸遺跡の愛知県図書館地点においても指摘されており^甲、大きな流れとしては一応の妥当性を持つものであろう。

生産地の上では、陶器は17世紀後半以降、肥前産、京・信楽産など様々な窯業地の製品が種類・量とも増加する傾向にある。しかし、当地は一大生産地である瀬戸・美濃を背後に控えていることから、その影響は避けがたく、前述の3遺構を除き、常に瀬戸美濃製品が8～9割を占めている。この点が、江戸遺跡など大生産地と直結していない消費地遺跡^乙との最大の相違点の一つである。磁器については、19世紀に瀬戸製品が出現するまで、基本的には肥前製品の独占状態にあると見てよい。輸入製品は、上級武家屋敷地という遺跡の性格上、やや多く出土するものの、組成を大きく左右するようなあり方は終始見せていない。土器については、依然、生産地は明かではないが、中世以来、在地において連続と生産されている可能性が高い。ただ、胎土・成形技法等の差異から複数の生産地の存在が窺われる。これらの生産地の動向についても、先の愛知県図書館地点で同様の傾向が確認されている。

用途の上では、供膳具が常に3～5割を占めており、時代が下るにつれやや増加する傾向にある。調理具・貯蔵具についても、18世紀後半以降、やや増加傾向にあるものの、それまでは1割未満の占有率で推移している。一方、灯火具については逆の傾向を示しており、それまで3～6割を占めていたものが、18世紀後半以降、1～2割台に大きく減退している。この現象は、材質の上で土器（すなわち、灯火具の皿）が減退する時期と符合しており、他の陶器製の灯火具も含めた動向から当地方における近世灯火具の変遷が浮かび上がってこよう。

また、用途を構成する個々の器種・器形の動向については、遺構や廃棄パターンの性格を最もよく反映するものと考えられ、今回提示した組成をもって、これを各時期における一般的なあり方と判断することは多分に危険性を伴うものであろう。ここでは個々の遺構についての詳細な分析を展開しておらず、多くを語ることはできないが、18世紀以降、著しい多器種化が進むことは明かであり、生産・消費の構造の上で、大きな画期が存在したことが想定できよう。

以上、主に時間軸に沿った組成のあり方を概観してきたわけであるが、今後、より多くのデータの蓄積が進む過程で、遺跡・遺構の存在する空間や廃棄パターンの性格、居住者の階層性などについても明かにしていかなければならない。それには、今回ほとんど触れることのできなかった陶磁器以外

の遺物についても、十分な検討がなされねばならず、出土遺物の総合的な分析が必要不可欠になって
こよう。 (金子健一)

註

- (1) 藤澤良祐 1990「瀬戸地区の北部系山茶碗」〔尾呂本文編〕瀬戸市教育委員会
同上 1984「『古瀬戸』概説」〔美濃陶磁歴史館報Ⅲ〕土岐市美濃陶磁歴史館
同上 1991「瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年—」〔研究紀要Ⅹ〕瀬戸市歴史民俗資料館
同上 1986「瀬戸大窯発掘調査報告」〔研究紀要Ⅴ〕瀬戸市歴史民俗資料館
- (2) 瀬戸市歴史民俗資料館 1987～1989 〔研究紀要Ⅵ～Ⅷ〕
有田町史編纂委員会 1988 〔有田町史 古窯編〕
大橋康二 1989 〔考古学ライブラリー55 肥前陶磁〕
- (3) 佐藤公保 1990「近世の陶磁器・土器」〔名古屋城三の丸遺跡(Ⅰ)〕(財)愛知県埋蔵文化財センター
- (4) 鈴木裕子 1990「東京大学御殿下記念館地点出土の陶磁器 その変遷と組成」〔江戸の陶磁器 江戸遺跡研究会第3回大会 発表要旨・資料編〕江戸遺跡研究会
成瀬晃司、堀内秀樹 1990「東京大学構内遺跡病院出土の陶磁器 その変遷と組成」〔江戸の陶磁器 江戸遺跡研究会第3回大会 発表要旨・資料編〕江戸遺跡研究会

以上の文献を参考にさせて頂いたほか、大橋康二・井上喜久男・仲野泰裕の各氏には実地に御指導・御助言を頂いた。記して謝意を表す次第である。

用途	器種・器形	産 品										土器	瓦器	器種別小計 (%)	用途別合計 (%)		
		奈良	宮内	吉備	丹波	伊予	備前	肥前	北九州	尾道	瀬戸					輸入	
供養具	陶・鉢	0.5										2.5	0.9		3.9(42.0)	0.3 (26.3)	
	小瓶・小杯・覆口											0.8			0.8(8.6)		
	鉢(向付物を含む)	4.1													4.1(44.1)		
調理具	鉢(内耳鉢・船形・行平・釜・陶製鍋)													0.2	0.2(40.0)	0.5 (2.1)	
	鉢(片口鉢・輝鉢)	0.3													0.3(60.0)		
	甕(土甕・磁器科・鉄子・急須)														()		
貯蔵具	甕(土甕・磁器科・水缸・汁甕)														()	0.4 (1.6)	
	甕(甕・茶甕・茶入)	0.1													0.1(25.0)		
	甕(平胴甕・常滑焼大甕)	0.1												0.2	0.3(75.0)		
灯火具	燈(灯明籠・灯別受籠・行灯籠)	1.2												11.3	12.5(96.2)	13.0 (83.9)	
	ひょうろく	0.5													0.5(3.8)		
	その他(瓦器・陶器)														()		
火 具	鉢(火鉢・煎鉢・風炉・火甕・手燈・水甕)													0.2	0.2(100.0)	0.2 (0.8)	
	甕(火消し甕)														()		
	その他(磁器・七輪・鉄いぶし)														()		
化粧具	紅土														()	()	
	甕(赤土甕・製油甕)														()		
	びんだら														()		
神仏具	甕(神酒鉢科・仏花甕)														()	0.8 (3.3)	
	香炉	0.8													0.8(100.0)		
	仏教具														()		
陶系瓦	陶(瓦目瓦)	0.1													0.1(—)	0.1(0.4)	
	鉢(磁木鉢・煎鉢・煎鉢鉢・燈籠鉢)														()		
	水甕														()		
合計	生産地別小計(各材質内構成比 %)	8.0 36.0	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	3.4 37.1	1.0 22.7	
	材質別合計(全体構成比 %)														8.0 (32.9)	4.4 (18.1)	11.9 (49.0)

第11表 近世陶磁器組成表 SK149

用途	器種・器形	産 品										土器	瓦器	器種別小計 (%)	用途別合計 (%)		
		奈良	宮内	吉備	丹波	伊予	備前	肥前	北九州	尾道	瀬戸					輸入	
供養具	陶・鉢	3.2										0.3	1.8		5.3(72.6)	7.3 (26.8)	
	小瓶・小杯・覆口	0.2												0.4	0.4(5.5)		
	鉢(向付物を含む)	1.2												0.1	0.4(5.5)		
調理具	鉢(内耳鉢・船形・行平・釜・陶製鍋)													1.3	1.3(65.0)	2.0 (8.4)	
	鉢(片口鉢・輝鉢)	0.5													0.5(25.0)		
	甕(土甕・磁器科・鉄子・急須)	0.2													0.2(10.0)		
貯蔵具	甕(土甕・磁器科・水缸・汁甕)	1.0													1.0(50.0)	1.8 (7.6)	
	甕(甕・茶甕・茶入)		0.1												0.3(16.7)		
	甕(平胴甕・常滑焼大甕)														()		
灯火具	燈(灯明籠・灯別受籠・行灯籠)	4.6												6.5	11.1(108.0)	11.1 (48.8)	
	ひょうろく														()		
	その他(瓦器・陶器)														()		
火 具	鉢(火鉢・煎鉢・風炉・火甕・手燈・水甕)														()	()	
	甕(火消し甕)														()		
	その他(磁器・七輪・鉄いぶし)														()		
化粧具	紅土														()	()	
	甕(赤土甕・製油甕)														()		
	びんだら														()		
神仏具	甕(神酒鉢科・仏花甕)														()	()	
	香炉														()		
	仏教具														()		
陶系瓦	陶(瓦目瓦)	1.5													1.5(—)	1.5(6.3)	
	鉢(磁木鉢・煎鉢・煎鉢鉢・燈籠鉢)														()		
	水甕														()		
合計	生産地別小計(各材質内構成比 %)	13.0 92.1	0.1 (0.4)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	0.3 115.9	2.3 88.5	
	材質別合計(全体構成比 %)														13.1 (53.3)	2.6 (11.0)	8.0 (33.7)

第12表 近世陶磁器組成表 SK33

用途	器種・器形	陶										磁器	土器	瓦器	総額別小計 (%)	用途別小計 (%)		
		赤土	常滑	石川	内焚	滑	関西	備前	肥前	北九州	北九州						不備	伊予
供養具	陶・鉢	2.9						1.0							4.0		7.9(38.3)	30.4 (56.5)
	小碗・小鉢・胃口	1.2													1.8		3.0(14.7)	
	皿	5.3						0.7							0.1	0.9	7.0(34.3)	
	鉢(向付類を含む)	2.1														0.4	2.5(12.3)	
調理具	その他(運搬)																0.6(40.0)	1.5 (4.2)
	鉢(内耳鍋・陶器・行平・漆・陶製鍋)																0.2(13.3)	
	鉢(行平鍋・輝鉢)	0.2															0.5(33.3)	
	輝鉢	0.5															0.2(13.3)	
貯蔵具	土(土瓶・甕・漆・漆子・魚置)											0.2						0.5 (1.4)
	その他																	
	瓶(瓶・漆料・水注・汁次)																	
	壺(壺・茶壺・茶入)												0.2				0.3(60.0)	
灯火具	燈(手鍋蓋・常滑焼師大燈)																0.2(40.0)	11.2 (31.8)
	漆物(設置・器合を含む)																	
	その他																	
	燈(灯明籠・灯明受籠・行灯籠)	3.4															7.8	
火具	ひょうそく																	0.3 (0.8)
	その他(瓦器・備合)																	
	鉢(火鉢・風扇・風炉・火筒・手摺・水壺)																0.3(100.0)	
	燈(火筒し燈)																	
化粧具	その他(襦袢・七輪・敷いよし)																	
	紅藍																	
	壺(お盆蓋壺・製壺壺)																	
	びんだら																	
神仏具	その他																	
	瓶(神佛漆料・仏花瓶)																	
	香炉																	
	仏教具																	
樂系具	その他(鐘堂立・鐘堂鐘)																	0.3 (0.8)
	陶(土目茶碗)	0.3																
	鉢(燗木鉢・煎鉢・煎茶鉢・櫻餅籠)	0.6																
	水壺																	
その他	その他(花生・漆器・火入・瓦蓋し・壺蓋し・びん)	1.3																1.3(68.4)
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	17.8 (96.6)	()	()	()	()	()	()	()	1.7 (8.6)	()	()	()	()	0.2 (1.0)	()	6.6 (36.4)	
合計	材質別合計(全体構成比 %)								19.7 (54.6)						6.6 (18.3)		8.8 (27.1)	36.1 (100%)

第15表 近世陶磁器組成表 SD12

用途	器種・器形	陶										磁器	土器	瓦器	総額別小計 (%)	用途別小計 (%)				
		赤土	常滑	石川	内焚	滑	関西	備前	肥前	北九州	北九州						不備	伊予	美濃	関西
供養具	陶・鉢	2.3													1.9		4.2(44.2)	9.5 (41.3)		
	小碗・小鉢・胃口														0.1		0.1(1.1)			
	皿	2.6													0.1	0.1	3.5(36.8)			
	鉢(向付類を含む)	1.5															1.7(17.9)			
調理具	その他(運搬)																	1.3 (5.7)		
	鉢(内耳鍋・陶器・行平・漆・陶製鍋)																0.3(23.1)			
	鉢(行平鍋・輝鉢)																			
	輝鉢	0.4			2.4														0.8(61.5)	
貯蔵具	土(土瓶・甕・漆・漆子・魚置)	0.2																0.2(15.4)	1.6 (7.0)	
	その他																			
	瓶(瓶・漆料・水注・汁次)																			
	壺(壺・茶壺・茶入)																	1.1(68.8)		
灯火具	燈(手鍋蓋・常滑焼師大燈)																	0.2(31.2)	7.8 (34.4)	
	漆物(設置・器合を含む)																			
	その他																			
	燈(灯明籠・灯明受籠・行灯籠)	1.5																6.3		7.8(100.0)
火具	ひょうそく																	0.6 (2.6)		
	その他(瓦器・備合)																			
	鉢(火鉢・風扇・風炉・火筒・手摺・水壺)																		0.1	0.5(100.0)
	燈(火筒し燈)																			
化粧具	その他(襦袢・七輪・敷いよし)																			
	紅藍																			
	壺(お盆蓋壺・製壺壺)																			
	びんだら																			
神仏具	その他																	0.2 (0.9)		
	瓶(神佛漆料・仏花瓶)																			
	香炉																			
	仏教具																		0.2(100.0)	
樂系具	その他(鐘堂立・鐘堂鐘)																	0.7 (3.1)		
	陶(土目茶碗)	0.7																		
	鉢(燗木鉢・煎鉢・煎茶鉢・櫻餅籠)	0.8																		
	水壺																			
その他	その他(花生・漆器・火入・瓦蓋し・壺蓋し・びん)	0.3																0.3(61.5)		
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	10.8 (93.3)	0.3 (2.8)	()	0.4 (3.7)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	2.6 (32.5)	17.1	
合計	材質別合計(全体構成比 %)								16.7 (47.1)						2.8 (12.3)		8.7 (26.1)	8.5 (23.2)	33.7 (100%)	

第16表 近世陶磁器組成表 SD08

用途	器種・器形	陶器										磁器		器種別小計	用途別合計	
		器種	常備	古・古	内器	器	陶器	陶器	肥前	北九州	北九州	輸入	不明			器種
伊具	瓶・鉢	2.3					0.3	0.1					2.2	0.2	5.1(50.5)	19.1 (31.0)
	小瓶・小鉢・瓶口	6.2										0.7	1.3	2.0(19.8)		
	盆											0.8	0.1	1.1(10.9)		
	鉢(向付類を含む)	1.7										0.2		1.9(18.8)		
調理具	その他(湯壺)														()	1.9 (5.8)
	鍋(内耳鍋・地鍋・行平・釜・陶製鍋)												0.8	0.8(42.1)		
	鍋(片口鍋・練鍋)													()		
	鍋類	1.1												1.1(52.9)		
貯蔵具	瓶(土瓶・甕・餅干・菓子・急須)														()	1.5 (4.6)
	その他														()	
	瓶(瓶・壺・水注・行次)	6.2												6.2(13.3)		
	壺(壺・茶壺・系入)												1.3	1.3(66.7)		
灯火具	燈(手刷燈・常滑燈燵)														()	17.0 (52.1)
	蓋物(夜重・香合を含む)														()	
	その他														()	
	燈(灯明籠・灯燵受皿・行灯籠)												17.0	17.0(100)		
火具	灯(ろうそく)														()	0.3 (0.9)
	その他(反燈・燗台)														()	
	鉢(火鉢・風炉・風炉・火管・手炉・漆器)												0.3	0.3(100)		
	壺(大甕し器)														()	
化装具	その他(鏡伊・七輪・敷いぶし)														()	()
	紅蓮														()	
	壺(神倉風壺・菱油壺)														()	
	びんだらい														()	
神仏具	その他														()	1.0 (3.1)
	壺(神倉風壺・仏花籠)												0.3	0.3(30.0)		
	香炉	0.6											0.1	0.7(70.0)		
	仏器具														()	
菓茶具	その他(磁器立・漆器類)														()	0.8(2.5)
	瓶(天目茶碗)	0.8													0.8(—)	
	鉢(楕圓鉢・圓鉢・割圓鉢・楕圓鉢)														()	
	漆器														()	
その他	その他(花生・木彫・木入・瓦蓋・噴霧しびん)														()	()
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	6.9 (94.5)	()	()	()	()	0.3 (4.1)	0.1 (1.4)	()	()	()	()	4.3 (74.9)	1.6 (27.1)	()	
	材質別合計(全体構成比 %)						7.3 (22.4)						5.9 (18.1)	19.4 (59.5)	()	
															32.6 (100%)	

第17表 近世陶磁器組成表 SK80

用途	器種・器形	陶器										磁器		器種別小計	用途別合計	
		器種	常備	古・古	内器	器	陶器	陶器	肥前	北九州	北九州	輸入	不明			器種
伊具	瓶・鉢	55.1	2.5		2.7	24.8					3.0		52.9	0.4	161.4(52.1)	247.6 (28.8)
	小瓶・小鉢・瓶口	4.1				1.9							26.1	0.6	28.6(12.4)	
	盆	39.9				2.3							20.0	0.2	63.3(25.6)	
	鉢(向付類を含む)	7.3				2.6							0.7	1.3	12.1(4.9)	
調理具	その他(湯壺)														()	37.6 (6.7)
	鍋(内耳鍋・地鍋・行平・釜・陶製鍋)													37.1	37.1(64.4)	
	鍋(片口鍋・練鍋)	3.3													3.3(5.7)	
	鍋類	16.3													16.3(28.3)	
貯蔵具	瓶(土瓶・甕・餅干・菓子・急須)														0.5(1.6)	33.0 (6.1)
	その他	0.9													0.9(2.7)	
	瓶(瓶・壺・水注・行次)	6.3												0.5	6.8(13.1)	
	壺(壺・茶壺・系入)	2.8	1.9								0.5		0.3	31.8	36.4(70.0)	
灯火具	燈(手刷燈・常滑燈燵)	0.8												2.5	3.1(6.0)	439.2 (51.1)
	蓋物(夜重・香合を含む)	2.0												0.5	5.7(11.0)	
	その他														()	
	燈(灯明籠・灯燵受皿・行灯籠)	4.5											0.5	433.3	438.3(96.3)	
火具	灯(ろうそく)	0.9													0.9(0.2)	1.6 (0.2)
	その他(反燈・燗台)														()	
	鉢(火鉢・風炉・風炉・火管・手炉・漆器)													1.4	1.4(100)	
	壺(大甕し器)														()	
化装具	その他(鏡伊・七輪・敷いぶし)														()	8.6 (1.0)
	紅蓮														()	
	壺(神倉風壺・菱油壺)	4.2												1.0	1.0(11.6)	
	びんだらい	2.4													5.2(60.5)	
神仏具	その他														()	38.0 (4.4)
	壺(神倉風壺・仏花籠)	1.6												3.4	5.0(13.7)	
	香炉	11.8												0.8	12.6(33.2)	
	仏器具	1.0												19.4	20.4(53.7)	
菓茶具	その他(磁器立・漆器類)														()	54(6)
	瓶(天目茶碗)	4.9													4.9(—)	
	鉢(楕圓鉢・圓鉢・割圓鉢・楕圓鉢)	1.9													1.9(27.9)	
	漆器														()	
その他	その他(花生・木彫・木入・瓦蓋・噴霧しびん)														()	9.4 (1.1)
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	174.1 (79.7)	1.9 (0.5)	2.5 (1.1)	()	()	2.7 (1.2)	30.1 (11.8)	()	()	()	8.0 (3.7)	121.1 (94.0)	1.4 (1.4)	()	
	材質別合計(全体構成比 %)						218.4 (25.4)						133.9 (15.6)	506.9 (59.0)	8.2 (0)	
															899.4 (100%)	

第18表 近世陶磁器組成表 SK52

用途	器種・形状	輸 入										数量小計 (%)	用途別合計 (%)							
		豪米	官米	不付	内装	扉	開閉	備前	紀前	北九州	戸部			輸入	不明	東米	関西	輸入	土庫	天幕
炊飯器具	飯・炊	49.8	1.1			1.4						1.5		29.8	0.8			83.7(50.6)	137.2 (31.2)	
	小鍋・小杯・燗口	4.2												17.4	0.6			22.0(14.1)		
	鍋	3.9	0.3											18.5	1.0			21.8(20.3)		
	鉢(向付類を含む)	5.6													0.3			6.6(6.0)		
	その他(運搬)																			
調理器具	鍋(内耳鍋・物括・行平・蒸・陶製鍋)	0.3														22.5		22.8(50.8)	39.3 (7.8)	
	鉢(片口鉢・深鉢)	1.9																1.9(4.8)		
	飯鉢	14.3		0.3														14.6(37.2)		
	飯(土瓶・燗徳利・鍋子・急須)																			
	その他																			
貯蔵器具	瓶(瓶・壺・水注・汁次)	6.2					0.8							1.3				8.3(27.9)	29.7 (5.9)	
	徳(徳・茶壺・茶入)	0.5														14.4		14.9(50.2)		
	徳(半銅徳・常滑焼徳大徳)															0.5		0.5(1.7)		
	蓋物(成蓋・喜合を含む)	3.3						0.6							2.1			6.0(20.2)		
	その他																			
灯火具	燈(行燈籠・行燈受籠・行灯籠)	3.4										0.7						231.2	235.0(96.6)	236.3 (46.8)
	ひょうそく	1.0																1.0(0.4)		
	その他(瓦燈・燗台)																			
火 具	鉢(火筒し燈)																2.8	2.8(100.0)	2.8 (0.6)	
	その他(燗炉・七輪・炊いぶし)																			
	紅土										0.1							0.1(0.8)		
化粧具	瓶(山崎黒徳・製曲徳)	3.3												1.0				3.3(33.0)	10.0 (2.0)	
	びんだらい	5.8																5.8(58.0)		
	その他																			
神仏具	瓶(神前徳利・仏花瓶)											0.8		2.3				3.1(12.9)	24.0 (4.8)	
	香炉	12.4										0.8		0.8				14.8(56.3)		
	仏教具	1.1												5.8				6.9(28.8)		
喫茶具	徳(天目茶碗)	0.8				0.4	0.5											1.7(—)	1.7(0.3)	
	鉢(建水鉢・銅鉢・銅湯鉢・覆鉢)	1.7																1.7(47.2)		
	その他	0.5														1.1		1.6(44.4)		
その他	その他(花笠・漆器・木箱・火鉢・灰皿・燗釜・しづん)																0.3	0.3(8.3)	3.4 (0.7)	
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	118.0 (79.6)	1.4 (0.9)	0.3 (0.2)		1.8 (1.2)	0.8 (0.5)	22.9 (33.3)				4.1 (2.7)			81.2 (37.9)	2.1 (1.1)				
	材質別合計(全体構成比 %)					149.3 (29.6)								82.9 (18.4)		172.4 (34.6)				504.6 (100%)

第19表 近世陶磁器組成表 SK78

用途	器種・形状	輸 入										数量小計 (%)	用途別合計 (%)							
		豪米	官米	不付	内装	扉	開閉	備前	紀前	北九州	戸部			輸入	不明	東米	関西	輸入	土庫	天幕
炊飯器具	飯・炊	9.1	0.2									1.9		2.4				13.5(46.4)	29.1 (40.8)	
	小鍋・小杯・燗口													1.7				1.7(5.8)		
	鍋	8.4					0.8	0.9						1.2				11.3(38.8)		
	鉢(向付類を含む)	1.8														0.4	0.1	2.6(8.9)		
	その他(運搬)																			
調理器具	鍋(内耳鍋・物括・行平・蒸・陶製鍋)	0.3														2.7		2.9(61.7)	4.7 (6.4)	
	鉢(片口鉢・深鉢)	0.4																0.6(8.5)		
	飯鉢	1.3																1.3(27.7)		
	飯(土瓶・燗徳利・鍋子・急須)	0.1																0.1(2.1)		
	その他																			
貯蔵器具	瓶(瓶・壺・水注・汁次)	3.6																3.6(27.7)	13.0 (18.2)	
	徳(徳・茶壺・茶入)															2.7		2.7(20.8)		
	徳(半銅徳・常滑焼徳大徳)	1.8	1.0													0.6		3.4(26.1)		
	蓋物(成蓋・喜合を含む)	3.3																3.3(25.4)		
	その他																			
灯火具	燈(行燈籠・行燈受籠・行灯籠)	5.2																9.3	14.7(100.0)	14.7 (20.6)
	ひょうそく																			
	その他(瓦燈・燗台)																			
火 具	鉢(火筒し燈)																1.7	3.2(100.0)	3.2 (4.5)	
	その他(燗炉・七輪・炊いぶし)																			
	紅土																			
化粧具	瓶(山崎黒徳・製曲徳)	3.3																3.3(100.0)	3.2 (4.5)	
	びんだらい																			
	その他																			
神仏具	瓶(神前徳利・仏花瓶)																			
	香炉	1.4																1.4(100.0)	1.4 (2.0)	
	仏教具																			
その他(燗香立・燗香筒)																				
喫茶具	徳(天目茶碗)	0.1																0.1(—)	0.1(0.1)	
	鉢(建水鉢・銅鉢・銅湯鉢・覆鉢)	0.9																0.9(47.4)		
	その他																			
その他	木箱																			
	その他(花笠・漆器・木箱・火鉢・灰皿・燗釜・しづん)															1.0		1.0(52.6)		
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	42.3 (30.4)	1.0 (2.1)	0.2 (0.4)		0.8 (1.7)		3.0 (6.3)							5.7 (8.3)	0.1 (1.7)				
材質別合計(全体構成比 %)					47.3 (66.3)									5.8 (8.1)		18.2 (25.4)		71.3 (100%)		

第20表 近世陶磁器組成表 SK135

用途	器種・器形	陶										磁				備註別小計 (%)	用途別小計 (%)						
		専業	定備	定備	内装	界	厨内	備前	徳島	北九州	山口	輸入	不備	専業	国内			徳島	輸入	土器	瓦器		
伊織具	瓶・杯	17.8	10.3									1.2		4.1						34.2(45.5)	25.1 (49.4)		
	小瓶・小杯・瓶口	3.1	0.7											5.3	0.3					9.4(12.5)			
	皿	22.9	0.1											4.2						27.5(36.6)			
	鉢(向付類を含む)	3.5												0.2	0.2					4.0(5.3)			
調理具	その他(湯壺)	0.6																4.9		5.5(7.4)	10.5 (6.8)		
	鍋(内耳鍋・陶器・行平・釜・陶製鍋)	1.6																		1.6(15.2)			
	鉢(片口鉢・練鉢)	2.3																		2.3(21.9)			
	飯(土瓶・陶器・鍋子・急須)	0.8	0.1																	0.9(8.6)			
貯蔵具	その他																				14.4 (9.4)		
	瓶(瓶・壺・水注・汁次)	1.8																		1.8(12.5)			
	壺(壺・茶壺・茶入)	0.5																		0.5(3.8)			
	蓋物(半銅蓋・甕付陶製大蓋)	4.0	0.7																	1.9(13.2)			
灯火具	蓋物(燈籠・甕付を含む)	1.7														1.7				3.4(23.6)	40.7 (28.5)		
	その他																						
	皿(灯明皿・灯明受皿・灯行皿)	3.4																		37.3			
	ひょうそく																						
火具	その他(瓦器・備前)																				2.5 (1.6)		
	鉢(大鉢・飯鉢・風呂・火筒・手筒・木蓋)	0.4																		1.6			
	壺(火筒し壺)																			0.2			
	その他(備前・七輪・飯いぶし)																						
化粧具	紅藍																				1.5 (1.0)		
	壺(針金黒・壺油壺)	1.5																					
	びんだらい																						
	その他																						
神仏具	瓶(神佛供養・仏花瓶)	1.0																		0.8	4.1 (2.7)		
	香炉	1.2																		0.9			
	仏教具																						
	その他(鎌倉立・鎌倉壺)																						
電茶具	瓶(天目茶瓶)																				1.6(0.7)		
	鉢(根本鉢・煎鉢・煎茶鉢・練茶鉢)	1.2																					
	水筒																						
	その他(注湯壺・水筒・火入れ・沢瀉し壺・湯しびん)	1.3																					
合計	生産地別小計(各材質内構成比 %)	68.2	0.7	11.2																17.2	0.5		
	材質別合計(全体構成比 %)	22.9	(0.5)	(13.4)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()

用途	部 種・部 形	陶 器										土 器	部 種 小 計 (%)	用途割合計 (%)		
		磁石	磁青	白磁	丹 塗	青 磁	陶 磁	磁 器	磁 器	磁 器	磁 器				磁 器	
供養具	筒・鉢															
	小瓶・小杯・壺口															
	皿	0.1														0.1 (2.4)
	鉢(向付類を含む)															
	その他(漆器)															
調理具	鍋(内耳鍋・地鍋・行平・釜・陶製鍋)															
	鉢(内口鉢・漆鉢)															
	漆鉢															
	甗(土甗・精糖利・鍋子・急須)															
	その他															
貯蔵具	甗(甗・徳利・水注・汁次)															
	甗(甗・茶壺・茶入)															
	甗(手割甗・常滑焼罎大甗)															
	漆物(漆甗・甗台を含む)															
	その他															
灯火具	皿(行燈皿・行燈受皿・行燈蓋)															
	灯ようそく															
	その他(瓦甗・燗台)															
	鉢(大鉢・磁甗・風炉・火管・手箱・水甗)															
	甗(大甗(七甗))															
火 具	その他(磁炉・七輪・飯いぶし)															
	紅藍															
	甗(如倉黒甗・製糖甗)															
	びん(だらい)															
	その他															
神仏具	甗(神道徳利・仏花甗)															
	香炉															
	仏器具															
	その他(銀香立・銀香甗)															
	甗(天目茶甗)															
陶瓦具	鉢(磁木鉢・漆鉢・陶磁鉢・漆納鉢)	2.8														2.8 (100.0)
	水甗															
	その他(瓦生・水甗・火入か承蓋(燗敷)L(びん))															
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	2.9 (100.0)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	材質割合計(全体構成比 %)															

第23表 近世陶磁器組成表 SK145

用途	部 種・部 形	陶 器										土 器	部 種 小 計 (%)	用途割合計 (%)		
		磁石	磁青	白磁	丹 塗	青 磁	陶 磁	磁 器	磁 器	磁 器	磁 器				磁 器	
供養具	筒・鉢	23.7	0.5													
	小瓶・小杯・壺口	0.4														
	皿	17.8														
	鉢(向付類を含む)	3.7														
	その他(漆器)															
調理具	鍋(内耳鍋・地鍋・行平・釜・陶製鍋)	2.9														
	鉢(内口鉢・漆鉢)	0.2														
	漆鉢	4.7														
	甗(土甗・精糖利・鍋子・急須)	3.3														
	その他															
貯蔵具	甗(甗・徳利・水注・汁次)	3.9														
	甗(甗・茶壺・茶入)	1.5														
	甗(手割甗・常滑焼罎大甗)	1.6														
	漆物(漆甗・甗台を含む)	3.3														
	その他															
灯火具	皿(行燈皿・行燈受皿・行燈蓋)	5.7														
	灯ようそく	6.3														
	その他(瓦甗・燗台)															
	鉢(大鉢・磁甗・風炉・火管・手箱・水甗)	1.3														
	甗(大甗(七甗))															
火 具	その他(磁炉・七輪・飯いぶし)															
	紅藍															
	甗(如倉黒甗・製糖甗)	2.0														
	びん(だらい)	0.1														
	その他															
神仏具	甗(神道徳利・仏花甗)															
	香炉	1.8														
	仏器具	0.9														
	その他(銀香立・銀香甗)															
	甗(天目茶甗)															
陶瓦具	鉢(磁木鉢・漆鉢・陶磁鉢・漆納鉢)	0.6														
	水甗	1.7														
	その他(瓦生・水甗・火入か承蓋(燗敷)L(びん))	2.8														
	生産地別小計(各材質内構成比 %)	89.6 (100.0)	0.5 (0.5)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	材質割合計(全体構成比 %)															

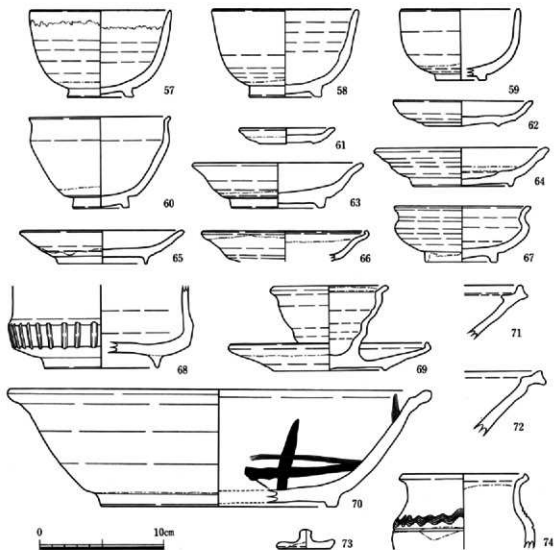
第24表 近世陶磁器組成表 SK84

用途	器種・器形	陶 器										磁 器			土器	瓦器	器種別小計 (%)	用途別合計 (%)	
		茶・湯	食器	茶・湯	丹波	伊 賀	備前	備前	肥前	北九州	伊予	輸入	不明	茶・湯					食器
伊瓶瓦	柄・杯	2.7																8.2(38.7)	21.2 (39.4)
	小瓶・小鉢・瓶口	1.3											2.3	0.4	0.8			4.8(22.6)	
	皿	6.3											9.9	0.4				7.6(35.8)	
	鉢(向付盤を含む)	0.3													0.3			0.6(2.8)	
調理具	その他(運筆)																	()	17.1 (32.0)
	鍋(内釜鍋・銅鍋・行平・釜・陶製鍋)	7.1																8.0(46.8)	
	鉢(片口鉢・練鉢)	1.7																3.7(9.9)	
	燗鉢	1.3																1.3(7.8)	
貯蔵具	瓶(土瓶・燗徳利・磁子・急須)	6.0													0.1			6.1(35.7)	4.0 (7.5)
	その他																	()	
	瓶(壺・徳利・水注・汁次)															1.0		1.0(5.0)	
	瓶(壺・茶袋・茶入)	0.5																0.2(1.0)	
灯火具	燗(平網燗・常滑燗大燗)	1.8																2.5(62.5)	7.5 (14.0)
	燗(湯室・湯室を含む)	0.3																0.3(7.5)	
	その他																	()	
	燗(灯明燗・灯明受皿・行灯燗)	4.2																6.5(86.7)	
火 具	ひょうそく	1.0																1.0(13.3)	1.3 (2.4)
	その他(瓦器・陶器)																	()	
	鉢(火鉢・燗鉢・風炉・火筒・手摺・木燗)	0.3																1.3(100)	
	燗(火鉢し壺)																	()	
化粧具	その他(磁器・七輪・乾いぶし)																	()	0.1 (0.2)
	紅燗																	()	
	燗(お煎茶壺・煎茶壺)	0.1																0.1(100)	
	びんだらい																	()	
神仏具	その他																	()	0.8 (1.5)
	瓶(神酒徳利・仏花瓶)																	()	
	燗鉢	0.6																0.8(100)	
	仏器具																	()	
喫茶具	燗(天目茶碗)	0.1																0.1(-)	1.4 (2.6)
	鉢(緑木鉢・煎鉢・煎茶鉢・燗徳利)	1.2													0.2			1.4(100)	
その他	茶燗																	()	53.5 (100%)
	その他(煮茶・水筒・火入れ・茶通し燗壺・しびん)																	()	
合 計	生産地別小計(各材質内構成比 %)	36.5 (92.1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1.1 (2.9)	6.6 (60.0)	0.4 (3.0)	4.9 (36.4)	()
	材質別合計(全材質構成比 %)														37.6 (79.3)	11.8 (20.4)	4.8 (9.8)	0.1 (0.2)	53.5 (100%)

第25表 近世陶磁器組成表 SK56

用途	器種・器形	陶 器										磁 器			土器	瓦器	器種別小計 (%)	用途別合計 (%)	
		茶・湯	食器	茶・湯	丹波	伊 賀	備前	備前	肥前	北九州	伊予	輸入	不明	茶・湯					食器
伊瓶瓦	柄・杯	2.7					0.1	0.1										7.0(28.7)	8.9 (36.4)
	小瓶・小鉢・瓶口																	0.8(9.0)	
	皿	0.4																0.7(7.9)	
	鉢(向付盤を含む)	0.4																0.4(4.3)	
調理具	その他(運筆)																	()	2.6 (14.8)
	鍋(内釜鍋・銅鍋・行平・釜・陶製鍋)	0.3																1.0(38.5)	
	鉢(片口鉢・練鉢)	0.5																0.5(19.2)	
	燗鉢	0.3																0.3(11.5)	
貯蔵具	瓶(土瓶・燗徳利・磁子・急須)	0.8																0.8(30.8)	2.0 (11.4)
	その他																	()	
	瓶(壺・徳利・水注・汁次)	1.0																1.1(35.0)	
	瓶(壺・茶袋・茶入)																	()	
灯火具	燗(平網燗・常滑燗大燗)	0.3																0.4(30.0)	2.4 (13.6)
	燗(湯室・湯室を含む)	0.3																0.5(25.0)	
	その他																	()	
	燗(灯明燗・灯明受皿・行灯燗)	0.9																1.5(62.5)	
火 具	ひょうそく																	0.9(37.5)	0.4 (2.3)
	その他(瓦器・陶器)																	()	
	鉢(火鉢・燗鉢・風炉・火筒・手摺・木燗)																	0.2(50.0)	
	燗(火鉢し壺)																	0.2(50.0)	
化粧具	その他(磁器・七輪・乾いぶし)																	()	0.4 (2.3)
	紅燗																	0.4(100)	
	燗(お煎茶壺・煎茶壺)																	()	
	びんだらい																	()	
神仏具	その他																	()	0.6 (3.4)
	瓶(神酒徳利・仏花瓶)																	()	
	燗鉢	0.3																0.3(100)	
	仏器具																	()	
喫茶具	燗(天目茶碗)	0.1																0.1(-)	0.2(11.1)
	鉢(緑木鉢・煎鉢・煎茶鉢・燗徳利)	0.2																0.2(100)	
その他	茶燗																	()	()
	その他(煮茶・水筒・火入れ・茶通し燗壺・しびん)																	()	
合 計	生産地別小計(各材質内構成比 %)	9.5 (37.9)	()	()	()	()	0.1 (1.0)	0.1 (1.0)	()	()	()	()	()	()	0.8 (15.4)	4.4 (84.6)	()	()	
	材質別合計(全材質構成比 %)						9.7 (55.1)								5.2 (29.3)	2.7 (15.3)	()	17.6 (100%)	

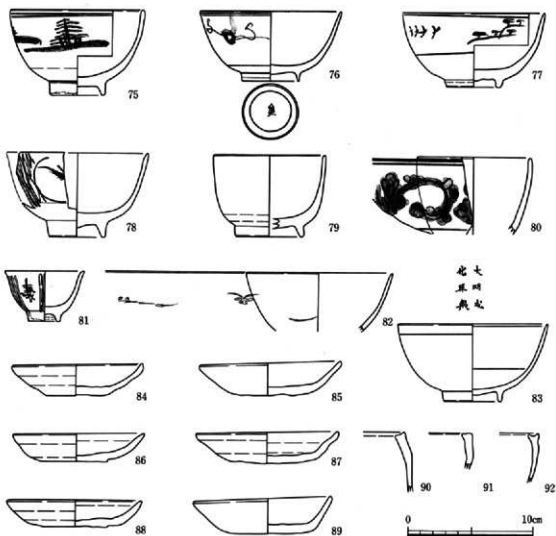
第26表 近世陶磁器組成表 SD03



第36図 近世の遺物(1) SK149D

図版番号	遺構	器種		材質	法				軸差・調整等		備考	登録番号	
		用途	形状		器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
36-57	SK149	供膳具	碗	陶器	7.1	(11.0)	—	5.4	鉄軸	鉄軸	うのふ軸流し掛け、尾呂系軸	瀬戸美濃	E-57
58	〃	〃	〃	〃	7.2	(11.6)	—	5.6	長石軸	長石軸	〃	〃	E-58
59	〃	〃	〃	〃	5.8	(9.4)	—	(4.0)	〃	〃	〃	〃	E-59
60	〃	燗茶具	天目茶碗	〃	7.4	(11.1)	—	4.5	鉄軸	鉄軸	〃	〃	E-60
61	〃	灯火具	皿	〃	1.3	7.5	—	4.2	長石軸	長石軸	〃	〃	E-61
62	〃	〃	〃	〃	2.1	11.1	—	5.9	〃	〃	〃	〃	E-62
63	〃	供膳具	〃	〃	3.6	13.4	—	7.4	灰軸	灰軸	軸先け	〃	E-63
64	〃	灯火具	〃	〃	3.2	13.5	—	7.9	長石軸	長石軸	軸先け、口縁部分炭化物付着	〃	E-64
65	〃	供膳具	〃	〃	2.7	12.9	—	7.2	灰軸	灰軸	〃	〃	E-65
66	〃	〃	〃	〃	—	13.2	—	—	灰軸	灰軸	口縁部鉄軸掛け	〃	E-66
67	〃	〃	鉢	〃	4.5	11.0	—	4.8	〃	灰軸	〃	〃	E-68
68	〃	〃	〃	〃	—	—	—	(9.2)	灰軸	灰軸	〃	〃	E-69
69	〃	灯火具	灯明具	〃	6.9	8.9	—	9.0	鉄軸	鉄軸	〃	〃	E-70
70	〃	供膳具	鉢	〃	9.4	34.2	—	(19.4)	灰軸	灰軸	内面に鉄紐+殺輪ちらし	〃	E-71
71	〃	調理具	鉢鉢	〃	—	—	—	—	鉄軸	鉄軸	〃	〃	E-72
72	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	〃	〃	〃	〃	E-73
73	〃	その他	蓋	〃	1.6	4.2	—	—	—	—	〃	〃	E-74
74	〃	貯蔵具	壺	〃	—	9.8	—	—	緑色灰軸	緑色灰軸	外面に波状文	〃	E-75

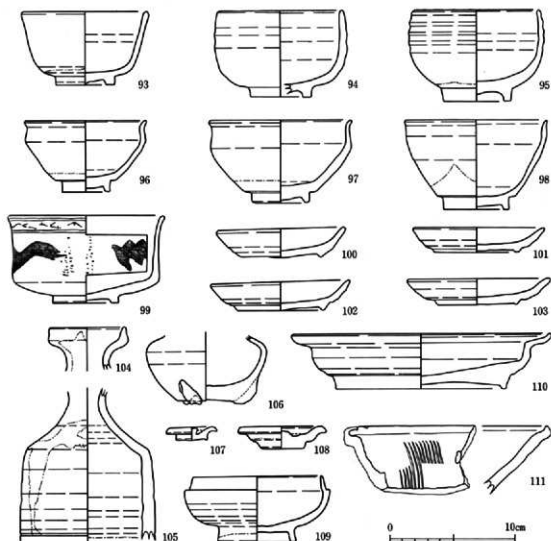
第28表 近世の遺物(1) SK149D



第37図 近世の遺物(2) SK149②

図版番号	遺構	器 種				測 量				軸差・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
37-75	SK149	供膳具	碗	磁器	7.0	(10.4)	—	4.3	—	—	山水文?	肥前	E-76
76	〃	〃	〃	〃	5.7	(11.1)	—	4.5	—	—	朝霞文?	〃	E-77
77	〃	〃	〃	〃	6.2	(11.2)	—	6.2	—	—	山水文	〃	E-78
78	〃	〃	〃	〃	6.9	(11.2)	—	4.4	—	—	一室綱目	〃	E-79
79	〃	〃	〃	〃	6.7	(8.8)	—	(5.4)	—	—	口縁	〃	E-80
80	〃	〃	〃	〃	—	(9.2)	—	—	—	—	唐草文	〃	E-81
81	〃	〃	小杯	〃	4.1	6.2	—	2.5	—	—	寿字文、ヘツ彫り	〃	E-82
82	〃	〃	碗	〃	—	12.0	—	—	—	—	上給付(磁)	〃	E-83
83	〃	〃	〃	〃	6.2	11.9	—	4.5	—	—	—	中国	E-84
84	〃	灯火具	皿	土器	2.5	10.6	—	5.0	—	—	—	—	E-85
85	〃	〃	〃	〃	2.6	11.3	—	6.8	—	—	—	—	E-86
86	〃	〃	〃	〃	2.2	11.8	—	5.0	—	—	—	—	E-87
87	〃	〃	〃	〃	2.6	11.3	—	6.4	—	—	—	—	E-88
88	〃	〃	〃	〃	2.1	11.0	—	5.2	—	—	—	—	E-89
89	〃	〃	〃	〃	2.8	11.2	—	6.0	—	—	—	—	E-90
90	〃	調理具	鍋	〃	—	—	—	—	—	—	内耳鍋	〃	E-93
91	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	—	—	〃	〃	E-94
92	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	—	—	〃	〃	E-95

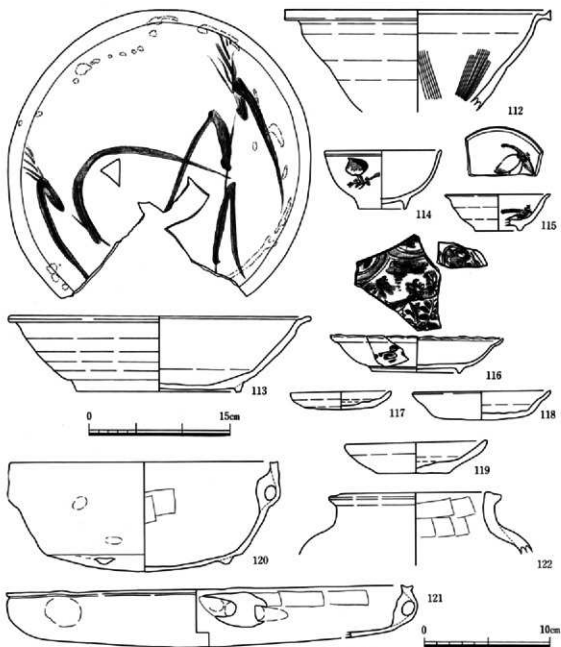
第29表 近世の遺物(2) SK149②



第38図 近世の遺物(3) SK33①

図版番号	遺構	器 種		法	量			軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面			外面
38-93	SK33	供膳具	碗	陶器	6.0	[10.0]	—	4.6	灰釉	灰釉	瀬戸美濃	E-96
94	"	"	"	"	7.0	[9.8]	—	[4.8]	鉄釉	鉄釉	"	E-97
95	"	"	"	"	7.4	[9.8]	—	5.4	灰釉	灰釉	"	E-98
96	"	喫茶具	天目茶碗	"	5.8	9.65	—	3.8	鉄釉	鉄釉	"	E-99
97	"	"	"	"	6.8	[11.2]	—	4.5	"	"	"	E-100
98	"	"	"	"	7.8	[11.2]	—	5.2	"	"	"	E-101
99	"	供膳具	碗	"	7.1	[12.3]	—	5.2	灰釉	灰釉	鉄輪、山本文と下り藤か	E-102
100	"	灯火具	皿	"	2.3	10.1	—	6.6	長石釉	長石釉	"	E-103
101	"	"	"	"	2.0	10.2	—	6.8	"	"	"	E-104
102	"	"	"	"	2.35	10.8	—	7.0	"	"	"	E-105
103	"	"	"	"	2.1	11.1	—	6.2	"	"	"	E-106
104	"	貯蔵具	瓶	"	—	6.0	—	—	鉄釉	鉄釉	灰輪渡し掛け	E-107
105	"	"	"	"	—	[10.8]	—	—	"	"	"	E-108
106	"	その他	花生	"	—	—	—	4.7	長石釉	長石釉	"	E-109
107	"	"	蓋	"	1.1	4.0	—	—	"	"	"	E-110
108	"	"	"	"	1.8	7.0	—	—	鉄釉	鉄釉	底部糸切痕	E-111
109	"	貯蔵具	蓋物	"	5.3	10.2	—	6.2	"	"	"	E-112
110	"	供膳具	皿	"	4.4	[20.8]	—	13.8	灰釉	灰釉	御深井	E-113
111	"	調理具	鐶鉢	"	—	—	—	—	鉄釉	鉄釉	"	E-114

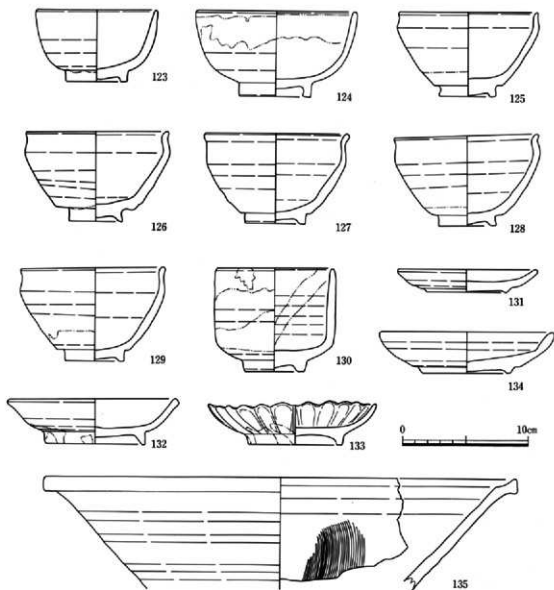
第30表 近世の遺物(3) SK33①



第39図 近世の遺物(4) SK33② (112, 113, 120~122は1:4)

図版番号	遺構	器種		法量				軸差・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
39-112	SK33	調理具	漆鉢	陶器	—	[14.8]	—	—	鉄軸	鉄軸	瀬戸産物	E-115	
113	〃	供養具	鉢	〃	8.0	32.8	—	8.4	長石軸	長石軸	鉄軸、縁軸ちらし	〃	E-116
114	〃	〃	碗	磁器	4.7	9.3	—	3.7	—	—	牡丹文(3ヶ所)	中国	E-117
115	〃	〃	杯	〃	2.9	[8.6]	—	[3.8]	—	—	〃	〃	E-118
116	〃	〃	皿	〃	2.8	[14.0]	—	[7.1]	—	—	〃	〃	E-119
117	〃	〃	〃	土器	1.4	8.1	—	5.5	—	—	口縁の一部に油漉付着、底部糸切り痕	〃	E-120
118	〃	〃	〃	〃	2.3	[11.0]	—	6.2	—	—	〃	〃	E-121
119	〃	〃	〃	〃	2.4	11.3	—	5.6	—	—	〃	〃	E-122
120	〃	調理具	鍋	〃	8.8	[21.8]	—	[16.0]	ナデ	—	外面保付着	〃	E-123
121	〃	貯蔵具	壺	陶器	4.5	[33.6]	—	—	〃	番ねえ	炮烙、(内耳3ヶ所)	〃	E-124
122	〃	貯蔵具	壺	陶器	—	[11.4]	—	—	鉄軸	—	〃	常滑	E-125

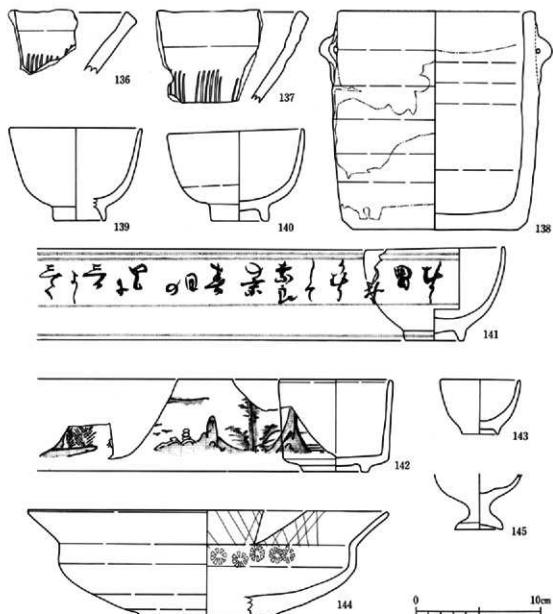
第31表 近世の遺物(4) SK33②



第40図 近世の遺物(5) SK75D

図版番号	遺構	器種		法量			軸差・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径			内面	外面
40-123	SK75	供膳具	碗	陶器	5.8	9.4	—	4.8	灰胎	灰胎	瀬戸黄瀬	E-126
124	〃	〃	〃	〃	6.9	6.2	—	2.8	鉄胎	鉄胎	うのふ輪流し掛け、尾呂茶碗	E-127
125	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	6.7	(11.0)	—	4.5	〃	〃	〃	E-128
126	〃	〃	〃	〃	7.2	11.0	—	4.2	〃	〃	〃	E-129
127	〃	〃	〃	〃	7.2	(11.2)	—	4.8	〃	〃	〃	E-130
128	〃	〃	〃	〃	7.2	11.4	—	4.5	〃	〃	〃	E-131
129	〃	〃	〃	〃	7.5	11.2	—	4.7	〃	〃	〃	E-132
130	〃	供膳具	碗	〃	8.3	9.1	—	4.6	鉄+灰胎	鉄+灰胎	灰胎流し掛け	E-133
131	〃	〃	皿	〃	1.8	10.8	—	6.4	灰胎	灰胎	〃	E-135
132	〃	〃	〃	〃	3.3	(13.7)	—	7.0	〃	〃	〃	E-136
133	〃	〃	〃	〃	3.6	13.2	—	8.0	〃	〃	〃	E-137
134	〃	〃	〃	〃	3.4	13.4	—	7.5	〃	〃	内面布目肌	E-138
135	〃	調理具	摺鉢	〃	—	(37.6)	—	—	鉄胎	鉄胎	〃	E-139

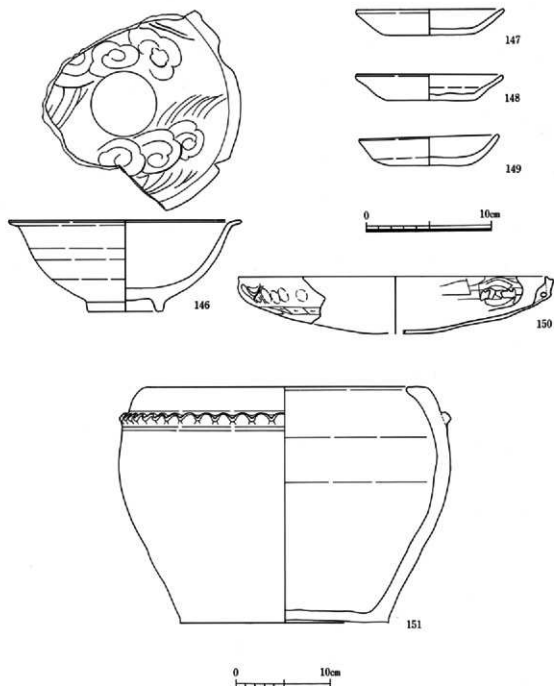
第32表 近世の遺物(5) SK75D



第41図 近世の遺物(6) SK75㉔

図版番号	遺構	器 種		法 量				軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面			外 面
41-136	SK75	調理具	磁鉢	陶器	—	—	—	—	—	—	丹波	E-140
137	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	—	—	〃	E-141
138	〃	貯蔵具	壺	〃	17.5	(15.0)	—	13.1	鉄軸	鉄軸	瀬戸美濃	E-145
139	〃	供膳具	鉢	磁器	7.5	10.6	—	[4.1]	—	—	白磁	E-146
140	〃	〃	〃	〃	7.2	10.8	—	4.5	—	—	青磁	E-147
141	〃	〃	〃	〃	7.4	11.0	—	4.6	—	—	〃	E-148
142	〃	〃	〃	〃	7.4	(8.9)	—	5.2	—	—	山水文	E-149
143	〃	〃	小碗	〃	4.4	(6.3)	—	2.9	—	—	〃	E-150
144	〃	〃	鉢	〃	8.5	(28.7)	—	[10.4]	—	—	青磁、輪刻花文	E-151
145	〃	〃	神仏具	〃	—	—	—	2.9	—	—	〃	E-152

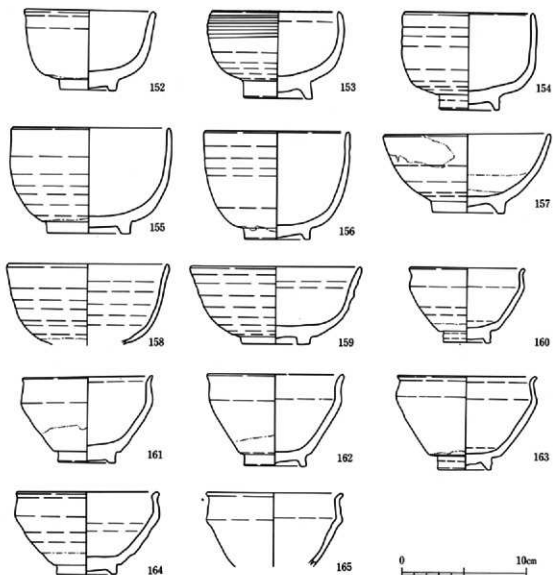
第33表 近世の遺物(6) SK75㉔



第42図 近世の遺物(7) SK75㉓ (146、150、151は1:4)

図版番号	遺構	器 種		材 質	法 量				軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用 途	器 形		器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面			
42-146	SK75	供膳具	鉢	磁器	9.8	[24.7]	—	8.0	—	—	青磁、陰刻	肥前	E-153
147	*	灯火具	皿	土器	2.1	[11.6]	—	6.5	—	—	油煙付着		E-154
148	*	"	"	"	2.1	[11.6]	—	7.0	—	—	芯痕3ヶ所		E-155
149	*	"	"	"	2.3	10.9	—	6.0	—	—			E-156
150	*	調理具	鍋	"	—	32.0	—	—	—	—	内耳3ヶ所、抱拵		E-157
151	*	貯蔵具	甕	陶器	25.3	[28.8]	—	22.4	—	—		常滑	E-158

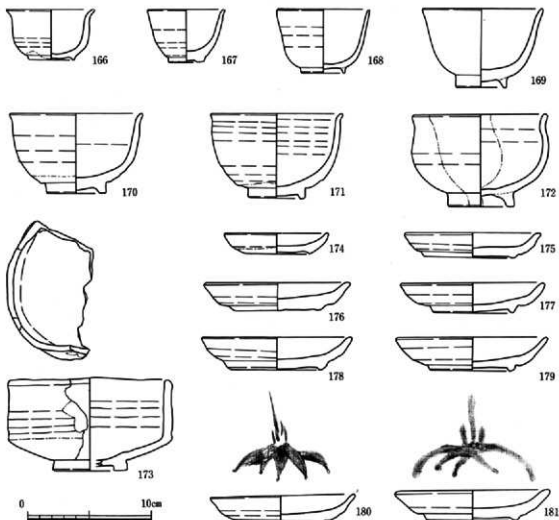
第34表 近世の遺物(7) SK75㉓



第43図 近世の遺物(8) SX04①

図版番号	遺構	器種			量				釉薬・調整等		備考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
43-152	SX04	供養具	碗	陶器	6.3	12.0	—	4.5	灰釉	灰釉		E-159
153	※	※	※	※	6.9	9.8	—	5.4	※	※	瀬戸美濃	E-160
154	※	※	※	※	7.7	(10.1)	—	4.6	灰(+長石釉)	灰(+長石釉)		E-161
155	※	※	※	※	8.6	12.4	—	6.6	灰釉	灰釉		E-162
156	※	※	※	※	8.6	11.4	—	5.2	※	※		E-163
157	※	※	※	※	6.2	13.1	—	5.7	※	※	白泥による刷毛目	E-164
158	※	※	※	※	—	(12.7)	—	—	鉄釉	鉄釉		E-165
159	※	※	※	※	6.3	(13.3)	—	5.4	※	※	志戸呂	E-166
160	※	喫茶具	天目茶碗	※	6.0	(9.1)	—	3.8	※	※	不明	E-167
161	※	※	※	※	6.8	10.3	—	4.5	※	※	瀬戸美濃	E-168
162	※	※	※	※	7.3	(10.8)	—	4.9	※	※		E-169
163	※	※	※	※	7.5	11.6	—	4.2	※	※		E-170
164	※	※	※	※	6.6	11.1	—	4.8	※	※		E-171
165	※	※	※	※	—	(10.7)	—	—	灰釉	灰釉		E-172

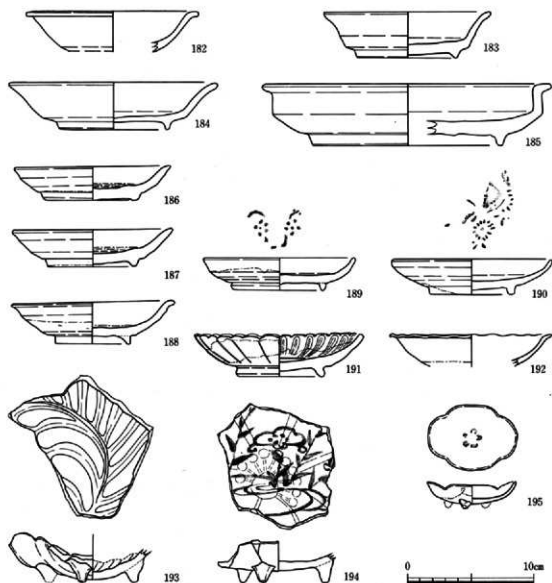
第35表 近世の遺物(8) SX04①



第44図 近世の遺物(9) SX04②

図版番号	遺構	器種			法			量		物業・調整等		備考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
44-166	SX04	供膳具	小杯	陶器	4.0	7.0	—	3.8	灰胎	灰胎		E-173	
167	"	"	"	"	4.2	[6.0]	—	2.8	"	"		E-174	
168	"	"	小碗	"	5.1	[7.3]	—	3.6	"	"		E-175	
169	"	"	碗	"	6.3	9.4	—	4.0	"	"		E-176	
170	"	"	"	"	6.4	10.4	—	4.8	鉄胎	鉄胎		E-177	
171	"	"	"	"	6.7	10.4	—	4.4	"	"		E-178	
172	"	"	"	"	7.4	10.4	—	5.2	長石胎, 鉄胎	長石胎, 鉄胎	餅分け	E-179	
173	"	"	"	"	7.5	[12.8]	—	5.7	鉄胎	鉄胎	幾何学文様(長石胎), 黒磁器	E-180	
174	"	灯火具	皿	"	1.6	8.2	—	5.1	長石胎	長石胎		E-181	
175	"	"	"	"	1.9	10.7	—	7.2	"	"		E-182	
176	"	"	"	"	2.3	11.1	—	6.7	"	"		E-183	
177	"	"	"	"	2.4	11.3	—	6.2	"	"		E-184	
178	"	"	"	"	3.6	11.8	—	7.2	"	"		E-185	
179	"	"	"	"	2.7	12.7	—	6.4	"	"	口縁部打痕	E-186	
180	"	"	"	"	2.2	11.5	—	6.5	"	"	鉄胎	E-187	
181	"	"	"	"	2.4	11.7	—	7.2	"	"	鉄胎	E-188	

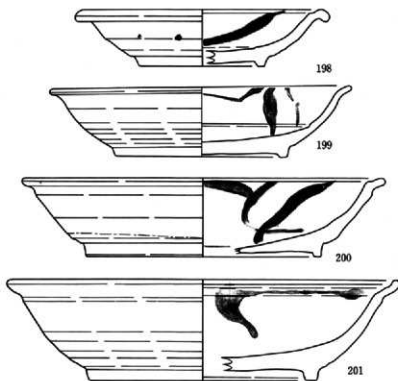
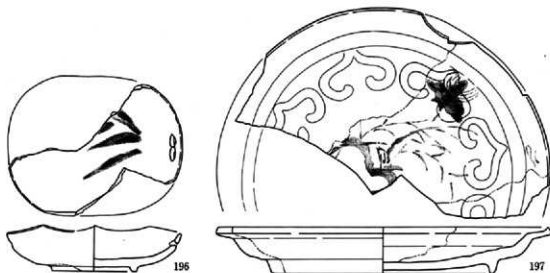
第36表 近世の遺物(9) SX04②



第45図 近世の遺物⑩ SX04③

図版番号	遺構	器 種				量			軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面			
45-182	SX04	灯火具	皿	陶器	—	(13.0)	—	—	長石軸	長石軸	見込みに灰化物付着	瀬戸美濃	E-189
183	〃	〃	〃	〃	3.6	13.1	—	7.9	〃	〃	〃	〃	E-190
184	〃	〃	〃	〃	3.7	16.4	—	8.8	〃	〃	貫入多し	〃	E-191
185	〃	〃	〃	〃	4.9	(22.6)	—	(15.2)	〃	〃	〃	〃	E-192
186	〃	供養具	〃	〃	2.7	12.2	—	7.1	灰軸	灰軸	軸部付、高直付、見込みに 口縁部加底灰化物付着	〃	E-193
187	〃	〃	〃	〃	2.9	12.6	—	7.1	〃	〃	軸部付	〃	E-194
188	〃	〃	〃	〃	3.3	12.8	—	6.0	〃	〃	軸部付	〃	E-195
189	〃	〃	〃	〃	2.6	12.2	—	7.2	〃	〃	鉄摺絵(梅文)	〃	E-196
190	〃	〃	〃	〃	2.8	(12.5)	—	(6.7)	〃	〃	(花文)	〃	E-197
191	〃	〃	〃	〃	3.4	12.9	—	6.8	〃	〃	口縁部鉄軸嵌付	〃	E-198
192	〃	〃	〃	〃	—	(12.8)	—	—	鉄軸	鉄軸	不明	〃	E-199
193	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	灰軸	灰軸	3足付、型打ち(木ノ型形)	瀬戸美濃	E-200
194	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	〃	〃	3足付、型打ち(流木花文)	〃	E-201
195	〃	〃	〃	〃	1.8	12.5	—	—	〃	〃	3足付、鉄、摺絵(花文)	〃	E-202

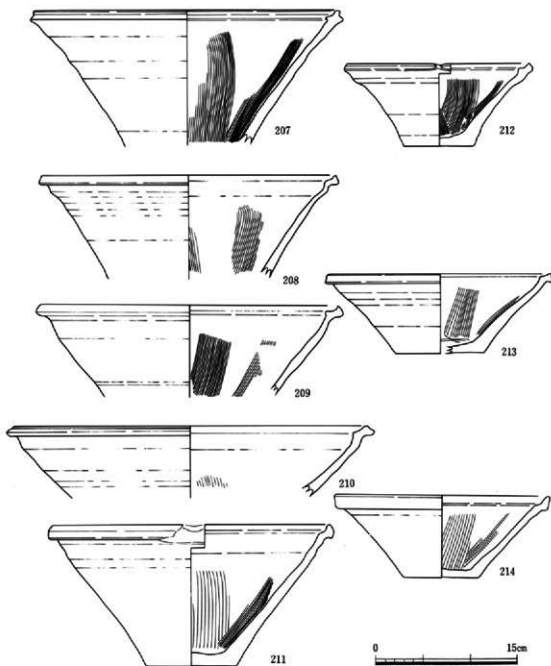
第37図 近世の遺物⑩ SX04③



第46図 近世の遺物01 SX04④

図版番号	遺構	器 種			法 量				軸系・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
46-196	SX04	供膳具	皿	陶器	3.65	[14.0]	—	6.7	灰軸	灰軸	鉄胎(笹竹)端部に透し、瀬戸装束	E-203
197	〃	〃	〃	〃	3.7	[26.4]	—	17.7	銅線軸、灰軸	銅線軸、灰軸	鉄胎、軸部	〃 E-204
198	〃	〃	鉢	〃	4.5	[18.2]	—	[10.2]	長石軸	長石軸	内面緑釉施ちらし	〃 E-208
199	〃	〃	〃	〃	5.6	[24.2]	—	13.7	〃	〃	内面緑釉施ちらし	〃 E-209
200	〃	〃	〃	〃	6.25	[28.5]	—	[18.6]	〃	〃	鉄胎	〃 E-210
201	〃	〃	〃	〃	8.0	[31.0]	—	[18.4]	〃	〃	内面緑釉施ちらし	〃 E-211

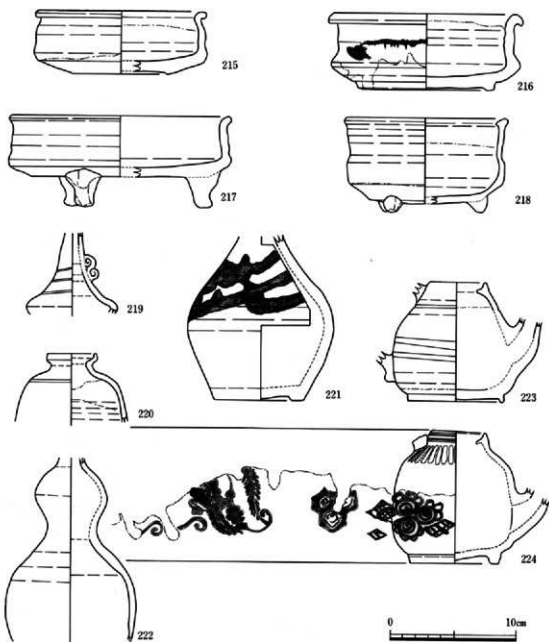
第38表 近世の遺物01 SX04④



第48図 近世の遺物⑩ SX04⑩ (207~214は 1 : 4)

図版番号	遺構	器 種		法 量				物業・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
48-207	SX04	調理具	楕鉢	陶器	—	(33.0)	—	—	鉄軸	鉄軸	瀬戸美濃	E-217
208	〃	〃	〃	〃	—	(32.0)	—	〃	〃	〃	〃	E-218
209	〃	〃	〃	〃	—	(32.3)	—	〃	〃	〃	〃	E-219
210	〃	〃	〃	〃	—	(38.5)	—	〃	〃	〃	外面上部(一部)油煙付着	E-220
211	〃	〃	〃	〃	14.8	(29.3)	—	9.8	〃	〃	〃	E-221
212	〃	〃	〃	〃	8.75	(19.8)	—	7.5	〃	〃	口縁部打痕あり	E-222
213	〃	〃	〃	〃	9.4	(24.2)	—	(9.6)	〃	〃	〃	E-223
214	〃	〃	〃	〃	8.1	(23.1)	—	8.3	〃	〃	〃	E-224

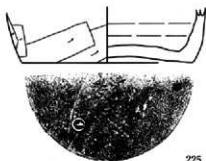
第40表 近世の遺物⑩ SX04⑩



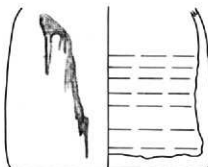
第49図 近世の遺物⑩ SX04⑦

図版番号	遺構	器 種			法 量				釉薬・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
49-215	SX04	神仏具	香炉	陶器	5.0	(13.2)	—	(7.1)	鉄釉	鉄釉	口縁部打痕痕	瀬戸美濃	E-225
216	*	*	*	*	6.0	(14.5)	—	10.8	鉄釉	*	灰釉掛け流し	*	E-226
217	*	*	*	*	7.3	(17.6)	—	(13.0)	灰釉	灰釉	3足付、口縁部打痕痕	*	E-227
218	*	*	*	*	7.5	(12.6)	—	(9.0)	鉄釉	鉄釉	3足付	*	E-228
219	*	その他	花生	*	—	—	(7.2)	—	灰釉	灰釉	焼成前に把手・火尻・脚部等に黒釉	*	E-229
220	*	貯蔵具	瓶	*	—	(3.8)	(9.0)	—	*	*	*	*	E-230
221	*	*	*	*	—	—	11.6	7.1	鉄釉	鉄釉	灰釉流し掛け	*	E-231
222	*	*	*	*	—	—	10.4	—	灰釉	灰釉	*	*	E-232
223	*	*	*	*	9.6	4.2	—	7.5	—	*	釉割痕顯著	*	E-233
224	*	*	*	*	10.6	4.4	—	7.1	—	*	髷巻柄し(字?)、器蓋に下フチ	*	E-234

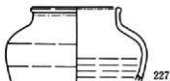
第41表 近世の遺物⑩ SX04⑦



225



226



227



229



233



234



230



235



231



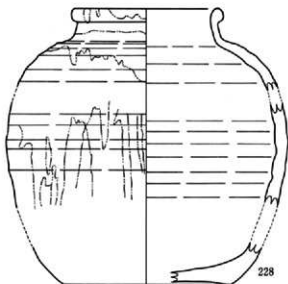
236



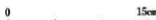
232



237



228



15cm

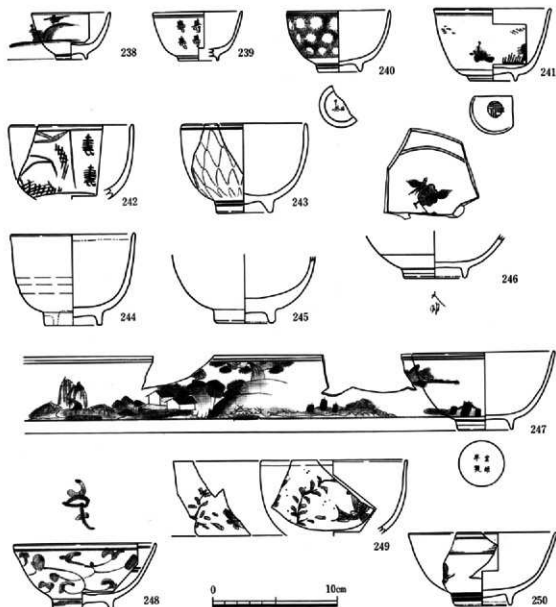


10cm

第50図 近世の遺物09 SX04⑤ (225-228は1:4)

図版番号	遺構	器 種			法 量			軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
50-225	SX04	貯蔵具	甕	陶器	—	—	15.8	13.7	—	—	底部に◎刺印	備前 E-235
226	〃	〃	〃	〃	—	—	16.4	15.5	鉄軸	鉄軸	灰釉施し掛け、外面全面に付おさえ	瀬戸美濃 E-236
227	〃	〃	甕	〃	(21.9)	(6.9)	—	(11.3)	—	〃	〃	E-237
228	〃	〃	〃	〃	—	(15.8)	(30.6)	(18.4)	〃	〃	灰釉施し掛け	E-238
229	〃	その他	花生	〃	—	—	(5.5)	4.0	灰釉	—	鉄軸	E-239
230	〃	貯蔵具	甕	〃	—	—	(5.4)	3.6	鉄軸	鉄軸	〃	E-240
231	〃	その他	鉢	〃	2.7	4.5	—	4.7	灰釉	灰釉	把手欠損?	E-241
232	〃	〃	蓋	〃	2.0	5.0	—	—	—	長石釉	鉄軸	E-242
233	〃	〃	蓋	〃	1.5	4.1	—	—	—	鉄軸	〃	E-243
234	〃	〃	蓋	〃	1.5	6.4	—	—	—	〃	〃	E-244
235	〃	〃	蓋	〃	2.0	7.6	—	—	—	〃	〃	E-245
236	〃	〃	蓋	〃	1.7	8.4	—	—	—	〃	〃	E-246
237	〃	〃	蓋	〃	2.7	9.2	—	—	—	〃	〃	E-247

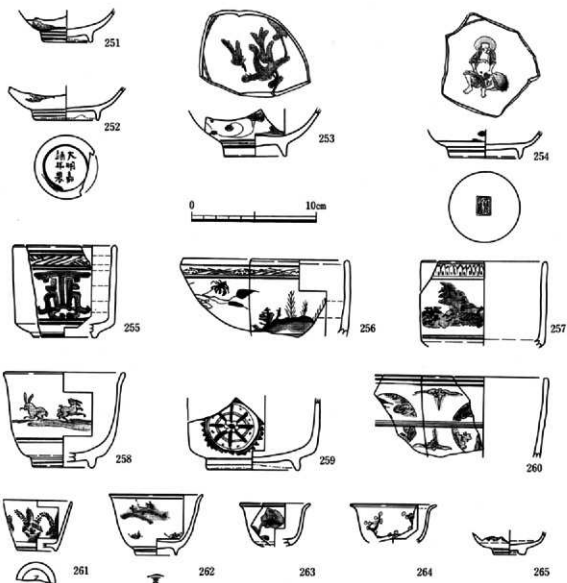
第42表 近世の遺物09 SX04⑤



第51図 近世の遺物⑩ SX04⑩

国際番号	遺構	器種		材質	法量				軸差・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
51-238	SX04	伊懸具	小碗	磁器	3.7	6.3	—	2.4	—	—	山水文	肥前	E-248
239	〃	〃	〃	〃	3.9	[7.2]	—	[3.0]	—	—	寿字文	〃	E-249
240	〃	〃	碗	〃	4.2	[8.2]	—	3.4	—	—	摺輪雪輪文? 「□明年製」	〃	E-250
241	〃	〃	〃	〃	5.8	[9.3]	—	3.8	—	—	〃	〃	E-251
242	〃	〃	〃	〃	—	[9.8]	—	—	—	—	寿字文	〃	E-252
243	〃	〃	〃	〃	7.1	[10.0]	—	4.2	—	—	一重網目	〃	E-253
244	〃	〃	〃	〃	7.3	10.8	—	4.6	—	—	掛け分け、高台無軸	〃	E-254
245	〃	〃	〃	〃	—	—	—	4.4	—	—	青磁	〃	E-255
246	〃	〃	〃	〃	—	—	—	4.8	—	—	見込みボタン文、高台内「大明」	〃	E-256
247	〃	〃	〃	〃	6.2	11.2	—	4.2	—	—	山水文、高台内「宣明年製」	〃	E-257
248	〃	〃	〃	〃	5.2	[11.4]	—	4.8	—	—	ボタン唐草、見込みボタン文 中国	〃	E-258
249	〃	〃	〃	〃	—	[10.6]	—	—	—	—	色絵、魚文(鉄、緑、赤)	〃	E-259
250	〃	〃	〃	〃	5.8	[11.9]	—	4.4	—	—	高台内カンナ削り裏	〃	E-260

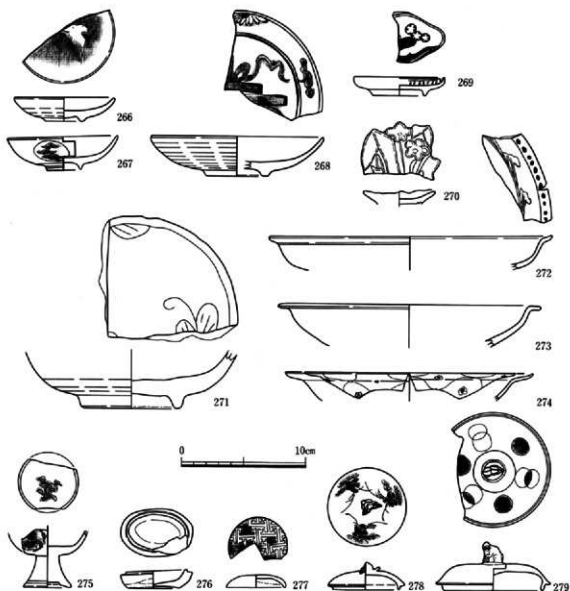
第43表 近世の遺物⑩ SX04⑩



第52図 近世の遺物01 SX04④

図版番号	遺構	器種		法 量				物素・調整等		備 考	登録番号
		用途	形 式	器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面		
S2-251	SX04	供養具	碗	磁器	—	—	3.8	—	—	高台内カンナ削り痕	中国 E-261
252	*	*	*	*	—	—	5.2	—	—	*	E-262
253	*	*	*	*	—	—	5.0	—	—	ボタン唐草、見込みボタン	E-263
254	*	*	*	*	—	—	5.6	—	—	富士火入唐文、見込みボタン 高台内カンナ削り痕、唐草唐文	E-264
255	*	*	*	*	7.3	(8.0)	(4.5)	—	—	肥前	E-265
256	*	*	*	*	—	(7.8)	—	—	—	山火唐草文	E-266
257	*	*	*	*	—	(9.8)	—	—	—	山水文	E-267
258	*	*	*	*	7.6	(9.8)	(4.8)	—	—	ウサギ文	E-268
259	*	*	*	*	—	—	7.2	—	—	唐草文?	中国 E-269
260	*	*	*	*	—	(10.0)	—	—	—	山水丸文	E-270
261	*	*	*	*	4.0	(5.5)	(3.2)	—	—	口鉄、唐絵	肥前 E-271
262	*	*	*	*	4.8	(7.5)	3.2	—	—	山水文	E-272
263	*	*	*	*	—	(5.4)	—	—	—	ボタン文?カンナ削り痕	中国 E-273
264	*	*	*	*	—	(6.8)	—	—	—	梅樹文?カンナ削り痕	E-274
265	*	*	*	*	—	—	2.4	—	—	*	E-275

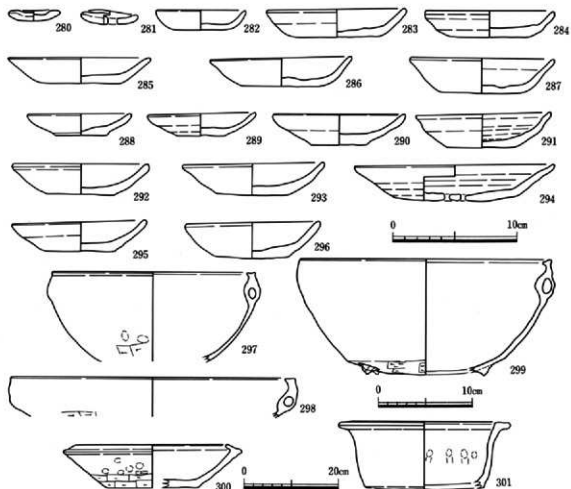
第44表 近世の遺物01 SX04④



第53図 近世の遺物⑧ SX04④

図版番号	遺構	器 種		寸 量				軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
53-266	SX04	供養具	皿	磁器	1.9	(8.1)	—	3.0	—	—	鳥文、吹墨技法	肥前 E-276
267	*	*	*	*	2.7	8.8	—	2.7	—	—	三福松丸文	* E-277
268	*	*	*	*	3.2	(13.8)	—	(5.0)	—	—	宝文	* E-278
269	*	*	*	*	1.5	(7.1)	—	4.2	—	—	赤明り細工墨打ち(高台も同様)	* E-279
270	*	*	*	*	—	5.9	—	—	—	—	青磁、壺打ち(花形)	* E-280
271	*	*	*	*	—	—	—	7.8	—	—	青磁、へろ形文様	* E-281
272	*	*	*	*	—	(22.5)	—	—	—	—	—	* E-282
273	*	*	*	*	—	(19.2)	—	—	—	—	青磁	* E-283
274	*	*	*	*	—	(20.0)	—	—	—	—	一重網目、上絵付花文(赤黄緑)	中国 E-284
275	*	神仏具	仏飯具	—	—	—	—	3.6	—	—	ボタン文?見込みボタン文	* E-285
276	*	貯蔵具	蓋物	—	1.4	4.9	—	4.1	—	—	密合	肥前 E-286
277	*	その他	蓋	—	1.0	4.7	—	—	—	—	幾何学文は壺押し(磁刺)	* E-287
278	*	*	蓋	—	2.2	6.2	—	—	—	—	草花文	* E-288
279	*	*	蓋	—	3.9	9.1	—	—	—	—	つまみ部は玉取り獅子形	* E-289

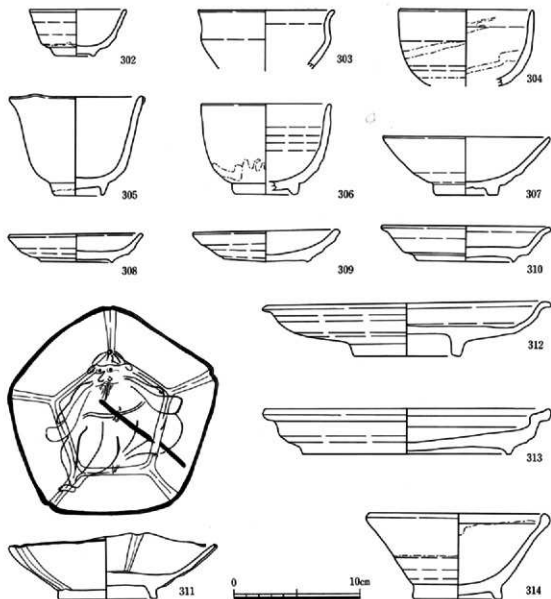
第45表 近世の遺物⑧ SX04④



第54図 近世の遺物⑩ SX04⑩ (297~299)は1:4、300、301は1:8)

図版番号	遺構	器 種			法 量				軸差・調査等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
54-280	SX04	供膳具	皿	土師	0.8	3.0	—	—	—	—	—	E-290	
281	"	"	"	"	(1.1)	4.2	—	—	—	—	底部穿孔1ヶ所	E-291	
282	"	灯火具	"	"	1.6	(6.9)	—	3.8	—	—	—	E-292	
283	"	"	"	"	2.2	(11.0)	—	7.0	—	—	外面一部、内面油煙付着	E-293	
284	"	"	"	"	2.1	(10.2)	—	6.4	—	—	口縁部一部油煙付着	E-294	
285	"	"	"	"	2.0	(11.1)	—	6.2	—	—	見込みに少量油煙付着	E-295	
286	"	"	"	"	2.3	11.1	—	6.8	—	—	口縁全周打痕痕、油煙付着	E-296	
287	"	"	"	"	2.8	(11.3)	—	6.7	—	—	口縁部1ヶ所芯痕、油煙少量付着	E-297	
288	"	"	"	"	1.7	8.0	—	4.2	—	—	—	E-298	
289	"	"	"	"	1.7	8.4	—	3.8	—	—	—	E-299	
290	"	"	"	"	2.5	(10.4)	—	4.4	—	—	口縁部芯痕13~14ヶ所、油煙付着	E-300	
291	"	"	"	"	2.7	10.6	—	5.0	—	—	全面黒色を呈し口縁部に油煙付着	E-301	
292	"	"	"	"	2.4	10.7	—	5.4	—	—	口縁部油煙付着	E-302	
293	"	"	"	"	2.5	11.3	—	5.6	—	—	口縁部油煙付着	E-303	
294	"	"	"	"	2.9	15.8	—	9.5	—	—	見込みに穿孔2ヶ所、内面油煙付着	E-304	
295	"	"	"	"	2.4	10.6	—	5.4	—	—	内、外面油煙付着	E-305	
296	"	"	"	"	2.8	10.5	—	6.0	—	—	—	E-306	
297	"	調理具	鍋	"	—	(21.6)	—	—	—	—	外面全面に灰付着、内耳2ヶ所	E-314	
298	"	"	"	"	—	(30.4)	—	—	—	—	口縁部ナデ	E-315	
299	"	"	"	"	—	(12.3)	26.6	—	12.4	—	口縁部ナデ	E-316	
300	"	火具	鉢	"	9.1	(32.2)	—	(19.3)	—	—	外面全面に灰付着、内耳2ヶ所、3足付	E-318	
301	"	"	"	"	14.4	(37.0)	—	(25.6)	—	—	—	常滑	E-319

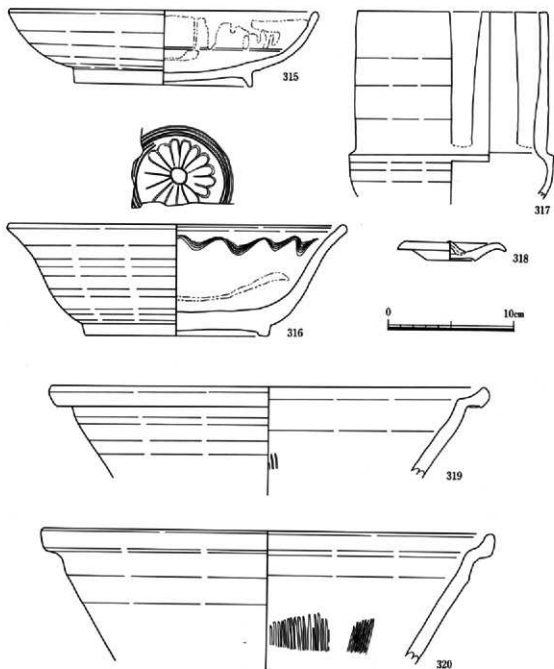
第46表 近世の遺物⑩ SX04⑩



第55図 近世の遺物⑨ SD12D

図版番号	遺構	型		種	法				釉薬・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形		材質	器高	口径	胴径	底径	内面		
55-302	SD12	供膳具	小碗	陶器	3.7	7.7	—	3.2	灰釉	灰釉		機戸美濃 E-320
303	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	—	(10.8)	—	—	鉄釉	鉄釉		〃 E-321
304	〃	供膳具	碗	〃	—	(10.6)	—	—	〃	〃	灰釉流し掛け	〃 E-322
305	〃	〃	〃	〃	7.9	10.5	—	4.4	長石釉	長石釉		〃 E-323
306	〃	〃	〃	〃	7.3	(10.2)	—	(5.0)	〃	〃		〃 E-324
307	〃	〃	〃	〃	4.7	13.2	—	4.9	灰釉	灰釉		肥前 E-325
308	〃	〃	皿	〃	2.2	10.6	—	5.8	〃	〃		機戸美濃 E-326
309	〃	〃	〃	〃	2.4	11.6	—	6.7	〃	〃		〃 E-327
310	〃	〃	〃	〃	2.8	(13.2)	—	7.6	〃	〃		〃 E-328
311	〃	〃	〃	〃	5.0	16.5	—	7.8	〃	〃	鉄絵 (南山人?)	〃 E-329
312	〃	〃	〃	〃	4.3	22.0	—	8.4	〃	〃		肥前 E-330
313	〃	〃	〃	〃	3.6	22.8	—	16.6	〃	〃		機戸美濃 E-331
314	〃	その他	鉢	〃	5.9	(14.2)	—	7.3	鉄釉	鉄釉	煙硝溜	〃 E-332

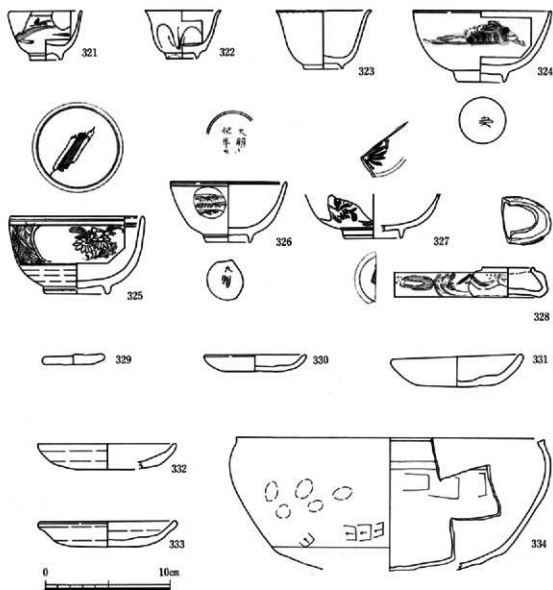
第47表 近世の遺物⑨ SD12D



第56図 近世の遺物01 SD12②

図版番号	遺構	器 種			法 量			軸索・調整等		備 考	登録番号		
		用途	器形	材質	容高	口径	胴径	底径	内面			外面	
56-315	SD12	供膳具	鉢	陶器	5.9	(24.2)	—	14.3	鉄軸	鉄軸	鉄軸渡し掛け	蔵戸美濃	E-333
316	〃	〃	〃	〃	8.9	(26.6)	—	14.6	灰軸	灰軸	磁軸索ちらし 見込み印花文	〃	E-334
317	〃	その他	その他	〃	—	(15.0)	—	—	鉄軸	鉄軸	用途不明、3方向に縦通し	〃	E-335
318	〃	〃	蓋	〃	1.4	8.6	—	—	—	—	—	〃	E-336
319	〃	調理具	搥鉢	〃	—	(34.6)	—	—	鉄軸	鉄軸	—	〃	E-337
320	〃	〃	〃	〃	—	(36.0)	—	—	〃	〃	—	〃	E-338

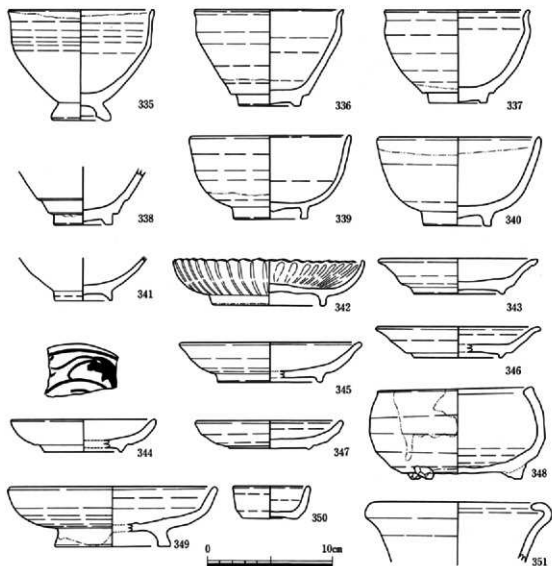
第48図 近世の遺物01 SD12②



第57図 近世の遺物② SD12③

図版番号	遺構	器		種	法				量		軸差・調整等		備	考	登録番号
		用途	器形		材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
57-321	SD12	供膳具	小碗	磁器	3.9	5.7	—	2.5	—	—	—	—	山水文	肥前	E-340
322	〃	〃	小杯	〃	3.9	6.0	—	2.6	—	—	—	—	蘭文	〃	E-341
323	〃	〃	〃	〃	4.2	7.4	—	3.1	—	—	—	—	白磁	〃	E-342
324	〃	〃	碗	〃	5.7	11.0	—	3.8	—	—	—	—	—	〃	E-343
325	〃	〃	〃	〃	6.2	10.5	—	5.0	—	—	—	—	菊花文	〃	E-344
326	〃	〃	〃	〃	4.8	(9.2)	—	3.6	—	—	—	—	「大明〇化年製」、高台内「大明」	〃	E-345
327	〃	〃	〃	〃	—	—	—	(4.5)	—	—	—	—	上絵付(赤・緑)	〃	E-346
328	〃	貯蔵具	蓋物	〃	2.4	(3.8)	—	(5.0)	—	—	—	—	香合	〃	E-347
329	〃	供膳具	皿	土器	8.5	4.5	—	—	—	—	—	—	—	〃	E-348
330	〃	灯火具	〃	〃	1.4	8.0	—	4.4	—	—	—	—	—	〃	E-349
331	〃	〃	〃	〃	2.4	10.3	—	7.7	—	—	—	—	—	〃	E-350
332	〃	〃	〃	〃	2.0	11.2	—	(5.2)	—	—	—	—	—	〃	E-351
333	〃	〃	〃	〃	2.0	(10.8)	—	5.3	—	—	—	—	—	〃	E-352
334	〃	調理具	鍋	〃	—	(24.6)	—	—	—	—	—	—	—	〃	E-353

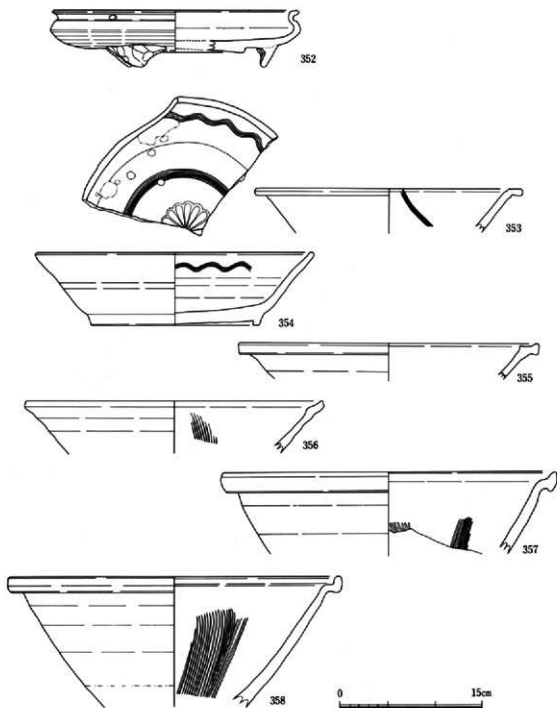
第49表 近世の遺物③ SD12③



第58図 近世の遺物② SD08①

図版番号	遺構	用途	器形	材質	法 量			輪葉・調整等		備 考	登録番号		
					器高	口径	胴径	底径	内 面			外 面	
58-335	SD08	供膳具	碗	陶器	8.8	11.8	—	4.8	長石釉	長石釉	口縁部縁輪掛け	瀬戸美濃	E-354
336	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	7.7	(12.2)	—	5.0	鉄釉	鉄釉	〃	〃	E-355
337	〃	〃	〃	〃	7.6	(11.3)	—	4.6	〃	〃	〃	〃	E-356
338	〃	〃	〃	〃	—	—	—	4.6	長石釉	長石釉	段付白天目茶碗	〃	E-357
339	〃	供膳具	碗	〃	6.8	12.8	—	5.9	鉄釉	鉄釉	高台縁輪化懸掛け	〃	E-358
340	〃	〃	〃	〃	7.3	12.7	—	5.4	〃	〃	うのふ輪流し掛け、尾呂系碗	〃	E-359
341	〃	〃	〃	〃	—	—	—	4.6	灰釉	灰釉	高台に砂目履5ヶ所	肥前	E-360
342	〃	〃	皿	〃	3.8	15.1	—	9.0	〃	〃	〃	瀬戸美濃	E-361
343	〃	〃	〃	〃	2.8	12.6	—	7.6	〃	〃	〃	〃	E-362
344	〃	〃	〃	〃	2.7	11.4	—	(6.0)	〃	〃	鉄釉	〃	E-363
345	〃	〃	〃	〃	3.3	14.3	—	(8.4)	〃	〃	〃	〃	E-364
346	〃	〃	〃	〃	2.5	12.2	—	(7.0)	〃	〃	〃	〃	E-365
347	〃	〃	〃	〃	2.3	11.4	—	6.5	〃	〃	〃	〃	E-366
348	〃	神仏具	香炉	〃	4.8	16.4	—	(9.4)	鉄釉	鉄釉	〃	〃	E-367
349	〃	灯火具	灯明具	〃	2.7	6.0	—	(4.4)	灰釉	灰釉	〃	〃	E-368
350	〃	その他	鉢	〃	7.2	12.5	—	9.0	鉄釉	鉄釉	灰釉流し掛け、3足付	〃	E-369
351	〃	〃	〃	〃	—	11.8	—	—	〃	〃	灰釉流し掛け	〃	E-370

第59表 近世の遺物② SD08①



第59図 近世の遺物00 SD08② (352~358)1 : 4)

図版番号	遺構	器種			法量			胎案・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
59-352	SD08	供膳具	鉢	陶器	6.2	(25.6)	—	(12.4)	鉄軸	鉄軸	3足付	瀬戸焼遺	E-371
353	"	"	"	"	—	(28.4)	—	—	灰物	灰物			E-372
354	"	"	"	"	7.7	(29.4)	—	(18.6)	"	"	鉄軸		E-373
355	"	調理具	播鉢	"	—	(32.2)	—	—	鉄軸	鉄軸			E-374
356	"	"	"	"	—	(31.8)	—	—	"	"			E-375
357	"	"	"	"	—	(36.6)	—	—	"	"			E-376
358	"	"	"	"	—	(36.5)	—	—	"	"			E-377

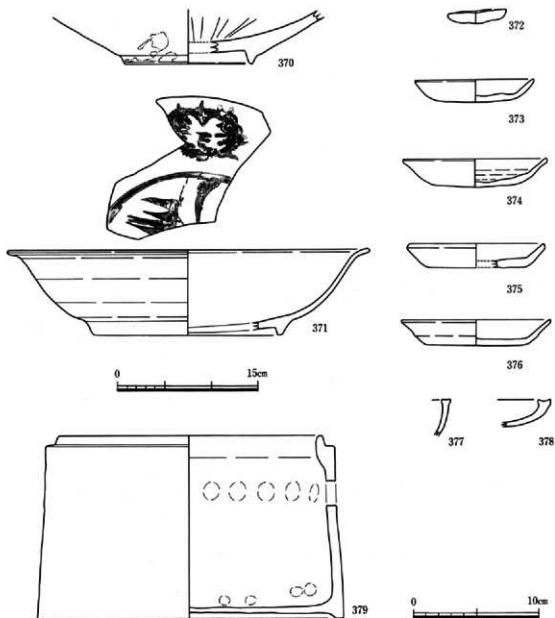
第51表 近世の遺物00 SD08②



第60図 近世の遺物⑨ SD08③ (359-361:1:4)

図版番号	遺構	器 種			法 量			釉薬・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面			外 面
60-359	SD08	調理具	踏鉢	陶器	—	—	—	—	—	—	丹波 E-378	
360	"	"	"	"	13.4	(33.8)	—	(12.6)	—	外面下半指押え痕	" E-379	
361	"	貯蔵具	壺	"	—	—	22.2	—	灰釉	灰釉	四耳迹	" E-380
362	"	供膳具	碗	磁器	6.6	(10.2)	—	4.4	—	—	一重網目	肥前 E-381
363	"	"	"	"	6.9	(10.4)	—	4.2	—	—	桜花文、高台内無釉	" E-382
364	"	"	"	"	—	(10.6)	—	—	—	—	—	" E-383
365	"	"	"	"	—	—	—	5.2	—	—	寿福文か	" E-384
366	"	"	"	"	—	—	—	5.0	—	—	高台内無釉	" E-385
367	"	"	小杯	"	4.0	(6.0)	—	2.6	—	—	蘭文、高台内無釉	" E-386
368	"	"	皿	"	3.1	(13.8)	—	8.0	—	—	—	中国 E-387
369	"	神仏具	仏飯具	"	7.5	(6.6)	—	7.6	—	—	若松文	肥前 E-388

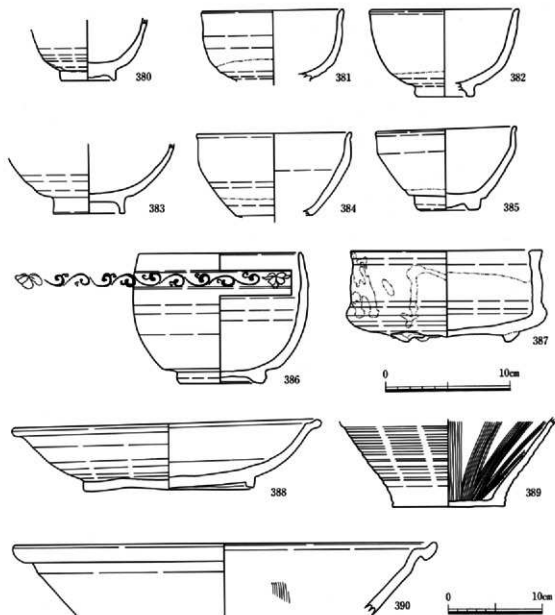
第52表 近世の遺物⑨ SD08③



第61図 近世の遺物09 SD08④ (379は1:4)

図版番号	遺構	器種			法量				胎案・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
61-370	SD08	供養具	鉢	磁器	—	—	—	(10.2)	—	—	青磁、内面へう彫り?	肥前	E-389
371	〃	〃	〃	〃	9.1	(38.6)	—	(20.2)	—	—	藍染木灰面 業行より2cm以上の胎紋付着	中国	E-390
372	〃	〃	風	土器	0.9	4.7	—	—	—	—	—	—	E-391
373	〃	灯火具	〃	〃	1.8	9.6	—	6.7	—	—	—	—	E-392
374	〃	〃	〃	〃	2.3	(11.4)	—	6.8	—	—	口縁一部油煙付着	—	E-393
375	〃	〃	〃	〃	2.0	(10.7)	—	(7.1)	—	—	口縁部に油煙付着	—	E-394
376	〃	〃	〃	〃	2.1	(11.8)	—	8.0	—	—	—	—	E-395
377	〃	調理具	鍋	〃	—	—	—	—	—	黒コハケ	—	—	E-396
378	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	E-397
379	〃	火具	鉢	瓦器	14.6	21.5	—	24.9	—	—	底部コクコ回転痕	—	E-398

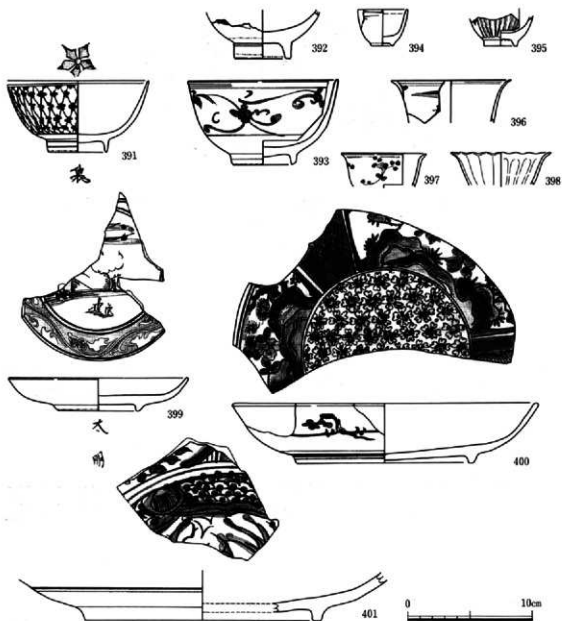
第53表 近世の遺物09 SD08④



第62図 近世の遺物の SK80Q (388~390)±1:4

図版番号	遺構	器種		法				釉薬・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
62-380	SK80	供膳具	碗	陶器	—	—	—	4.2	鉄釉	鉄釉	灰釉掛け流し	瀬戸美濃	E-401
381	〃	〃	〃	〃	—	(11.1)	—	—	〃	〃	錆釉化粧掛け	〃	E-402
382	〃	〃	〃	〃	7.0	(11.6)	—	(4.4)	〃	〃	〃	〃	E-403
383	〃	〃	〃	〃	—	—	—	5.6	〃	〃	〃	〃	E-404
384	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	—	(12.2)	—	—	〃	〃	〃	〃	E-405
385	〃	〃	〃	〃	6.5	11.0	—	4.6	〃	〃	〃	〃	E-406
386	〃	供膳具	鉢	〃	19.4	17.8	—	6.7	灰釉	灰釉	鉄絵(唐草文)	〃	E-407
387	〃	神仏具	香炉	〃	7.3	(15.7)	—	(9.2)	鉄釉	鉄釉	灰釉掛け流し、口縁部打渡肌	〃	E-408
388	〃	供膳具	皿	〃	5.3	24.0	—	13.5	灰釉	灰釉	鉄釉掛け流し	〃	E-409
389	〃	調理具	掻鉢	〃	—	—	—	11.8	—	—	—	信楽	E-410
390	〃	〃	〃	〃	—	(44.5)	—	—	鉄釉	鉄釉	—	瀬戸美濃	E-411

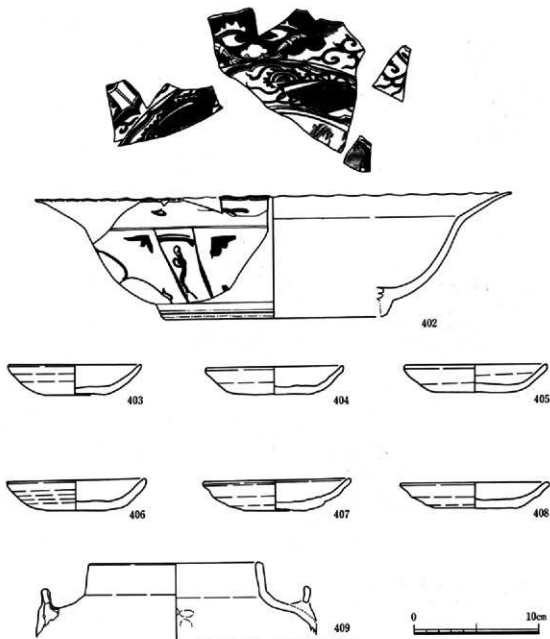
第54図 近世の遺物の SK80Q



第63図 近世の遺物② SK80②

図版番号	遺構	器 種			法 量			胎薬・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面			外 面
63-391	SK80	供膳具	碗	磁器	5.8	(11.3)	—	4.6	—	—	見込大杯裏文、内面刷の松字文？ 高台付？	肥前 E-412
392	〃	〃	〃	〃	—	—	—	4.4	—	—	露出部に筒軸	〃 E-413
393	〃	〃	〃	〃	6.8	(11.8)	—	4.6	—	—	唐草文？	〃 E-414
394	〃	〃	小碗	〃	2.9	(3.9)	—	1.7	—	—	—	〃 E-415
395	〃	〃	小杯	〃	—	—	—	2.7	—	—	高台内無軸、寿字文、へり彫り	〃 E-416
396	〃	〃	杯	〃	—	(9.4)	—	—	—	—	山水文？	中国 E-417
397	〃	〃	小杯	〃	—	(6.8)	—	—	—	—	樹木文？	〃 E-418
398	〃	〃	〃	〃	—	(8.0)	—	—	—	—	白磁	〃 E-419
399	〃	〃	皿	〃	2.7	(14.2)	—	6.8	—	—	内面刷の唐草文、高台内「大明」、口沿	肥前 E-420
400	〃	〃	〃	〃	4.8	(24.0)	—	14.0	—	—	芙蓉手、松竹梅文	〃 E-421
401	〃	〃	〃	〃	—	—	—	(18.8)	—	—	芙蓉手？	中国 E-422

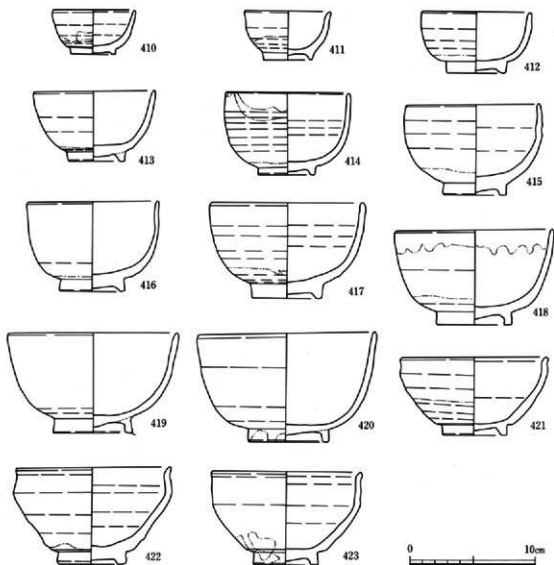
第55表 近世の遺物② SK80②



第64図 近世の遺物④ SK80③

図版番号	遺構	器 種		法 量				物理・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
64-402	SK80	供養具	鉢	磁粉	(9.8)	(38.1)	—	(17.4)	—	—	中国	E-423
403	"	灯火具	皿	土器	2.4	10.4	—	4.8	—	—		E-424
404	"	"	"	"	2.2	10.7	—	6.6	—	口縁一部油煙付着		E-425
405	"	"	"	"	2.2	11.1	—	6.3	—	—		E-426
406	"	"	"	"	2.4	10.4	—	4.8	—	—		E-427
407	"	"	"	"	2.4	11.6	—	5.0	—	口縁一部油煙付着		E-428
408	"	"	"	"	2.1	11.4	—	6.5	—	口縁全面油煙付着		E-429
409	"	調理具	釜	"	—	13.8	—	—	—	外面煤付着、茶釜形		E-430

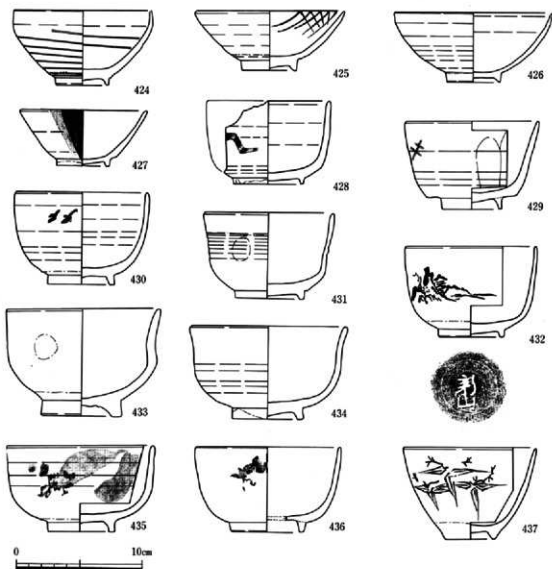
第56表 近世の遺物④ SK80③



第65図 近世の遺物⑧ SK52①

図版番号	遺構	器 種			注 量				軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
65-410	SK52	供膳具	小碗	陶器	3.7	6.5	—	3.4	灰釉	灰釉		瀬戸美濃	E-431
411	〃	〃	〃	〃	4.0	6.9	—	3.8	〃	〃		〃	E-432
412	〃	〃	碗	〃	5.0	(8.7)	—	4.6	〃	〃		〃	E-433
413	〃	〃	〃	〃	5.7	9.6	—	4.5	鉄釉	鉄釉		〃	E-434
414	〃	〃	〃	〃	6.8	9.7	—	4.5	鉄釉	鉄釉	うのみ釉流し掛け	〃	E-435
415	〃	〃	〃	〃	7.3	10.6	—	4.9	灰釉	灰釉		〃	E-436
416	〃	〃	〃	〃	7.3	10.5	—	5.1	鉄釉	鉄釉	内面灰釉流し掛け	〃	E-437
417	〃	〃	〃	〃	7.8	(11.8)	—	5.4	〃	〃		〃	E-438
418	〃	〃	〃	〃	7.7	12.5	—	5.9	〃	〃	うのみ釉流し掛け、尾呂茶碗	〃	E-439
419	〃	〃	〃	〃	8.2	(13.4)	—	6.4	灰釉	灰釉		〃	E-440
420	〃	〃	〃	〃	8.9	14.0	—	5.8	〃	〃	買入多し	〃	E-441
421	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	6.4	11.5	—	5.0	鉄釉	鉄釉		〃	E-442
422	〃	〃	〃	〃	8.0	12.2	—	5.4	〃	〃		〃	E-443
423	〃	〃	〃	〃	7.5	(11.8)	—	5.0	〃	〃		〃	E-444

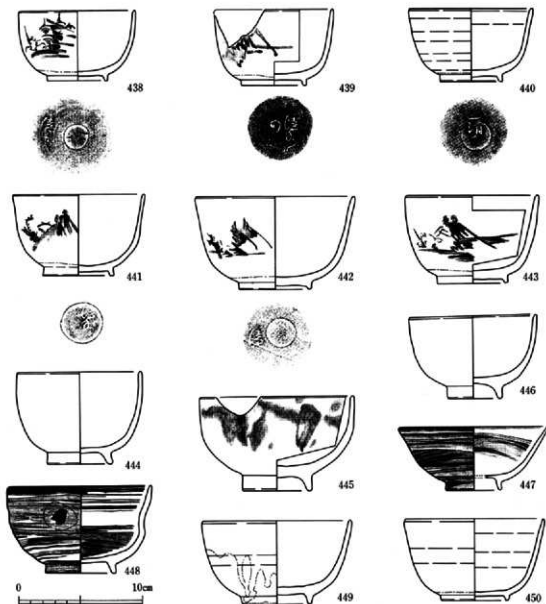
第57表 近世の遺物⑧ SK52①



第66図 近世の遺物① SK52②

図版番号	遺構	器種			法			量		釉薬・調整等		備考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
66-424	SK52	供膳具	碗	陶器	6.1	11.0	—	4.2	灰釉	灰釉		瀬戸美濃	E-447
425	"	"	"	"	5.7	11.7	—	4.9	"	"	内面呉須釉	"	E-448
426	"	"	"	"	5.7	[12.6]	—	4.2	鉄釉	鉄釉	高台鉢輪化粧掛け	"	E-449
427	"	"	"	"	4.6	10.1	—	4.2	灰+鉄釉	灰+鉄釉	掛け分け	"	E-450
428	"	"	"	"	6.9	9.8	—	5.5	灰釉	灰釉	呉須釉	"	E-451
429	"	"	"	"	7.2	10.6	—	4.6	"	"	"	"	E-452
430	"	"	"	"	7.5	[10.6]	—	5.3	"	"	"	"	E-453
431	"	"	"	"	7.0	10.2	—	5.4	"	灰+鉄釉	羅網茶碗	"	E-454
432	"	"	"	"	7.4	[10.3]	—	5.1	"	灰釉	呉須釉, 山水文, 調密茶碗	不明	E-455
433	"	"	"	"	8.7	12.3	—	6.4	長石釉	長石釉	高台内ラセン状の褶り	瀬戸美濃	E-456
434	"	"	"	"	7.5	12.5	—	5.6	灰釉	灰釉		"	E-457
435	"	"	"	"	7.0	11.8	—	5.3	"	"	呉須釉	不明	E-458
436	"	"	"	"	6.9	11.4	—	[5.6]	"	"		"	E-459
437	"	"	"	"	7.5	10.4	—	3.9	"	"	重(呉須), 枝(鉄釉), 高台内「新山」	"	E-460

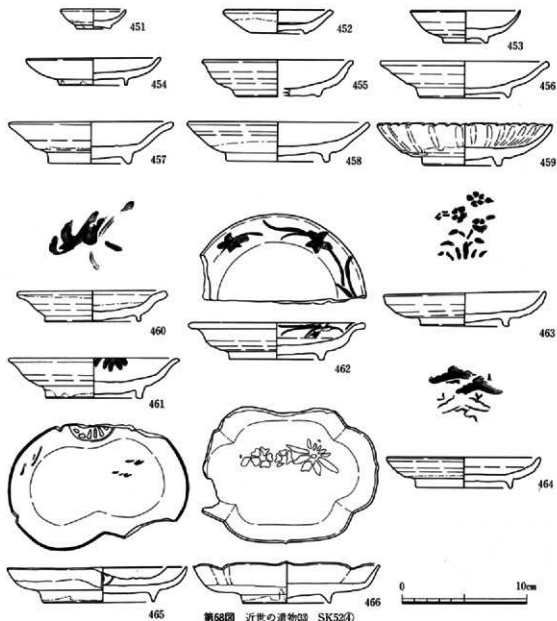
第58表 近世の遺物① SK52②



第67図 近世の遺物③ SK52③

図版番号	遺構	器 種			法 量				釉薬・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
67-438	SK52	供膳具	碗	陶器	5.7	9.3	—	4.9	灰釉	灰釉	呉須絵山文、高台内「清水」	肥前	E-462
439	〃	〃	〃	〃	6.2	9.3	—	5.2	〃	〃	〃	〃	E-463
440	〃	〃	〃	〃	6.0	[9.8]	—	4.9	〃	〃	高台内「一清」	〃	E-464
441	〃	〃	〃	〃	6.6	10.4	—	5.6	〃	〃	呉須絵山文、〃「清水」	〃	E-465
442	〃	〃	〃	〃	7.6	[12.5]	—	5.7	〃	〃	〃	〃	E-466
443	〃	〃	〃	〃	7.2	10.6	—	5.6	〃	〃	〃	〃	E-467
444	〃	〃	〃	〃	7.5	[10.0]	—	5.1	〃	〃	〃	〃	E-468
445	〃	〃	〃	〃	7.7	12.3	—	5.4	〃	〃	緑釉飛し	〃	E-469
446	〃	〃	〃	〃	6.7	10.2	—	4.3	〃	〃	〃	〃	E-470
447	〃	〃	〃	〃	5.2	11.9	—	[4.5]	透明釉	透明釉	白泥による刷毛目	〃	E-471
448	〃	〃	〃	〃	7.1	11.4	—	5.6	〃	〃	〃	〃	E-472
449	〃	〃	〃	〃	6.8	[11.8]	—	5.5	〃	〃	灰釉灰し掛け	京・信楽	E-473
450	〃	〃	〃	〃	6.7	11.0	—	5.2	灰釉	灰釉	呉須絵、高台内「清水」	〃	E-474

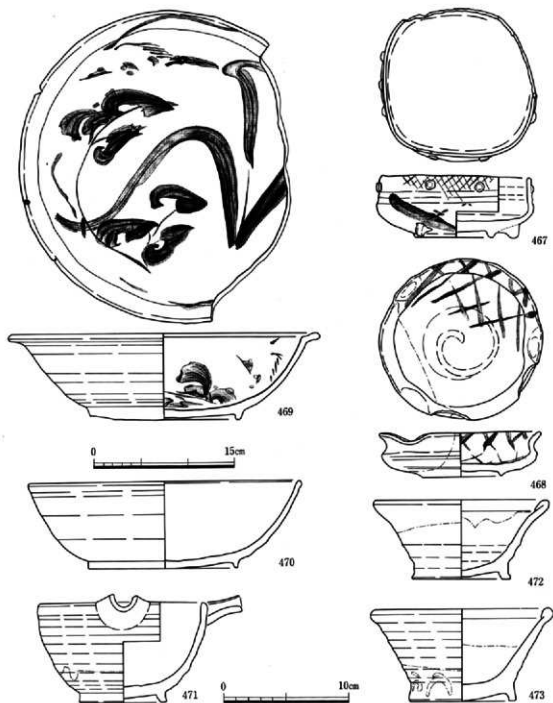
第59表 近世の遺物③ SK52③



第68図 近世の遺物③ SK52④

図版番号	遺構	器種		器高	口径		底径	軸差・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形		材質	胴径		外	内			面	
68-451	SK52	供膳具	皿	陶器	1.6	(5.2)	—	2.8	長石軸	長石軸	瀬戸美濃	E-475	
452	〃	〃	〃	〃	1.9	8.6	—	4.3	灰胎	灰胎	〃	E-476	
453	〃	〃	〃	〃	2.6	8.8	—	3.6	〃	〃	〃	E-477	
454	〃	〃	〃	〃	2.2	10.6	—	4.4	〃	灰+錆胎	〃	E-478	
455	〃	灯火具	〃	〃	3.0	(11.8)	—	(6.6)	長石軸	長石軸	〃	E-479	
456	〃	供膳具	〃	〃	3.0	13.3	—	7.1	灰胎	灰胎	〃	E-480	
457	〃	〃	〃	〃	3.4	12.8	—	3.5	〃	〃	輪壳仔	E-481	
458	〃	〃	〃	〃	3.2	14.3	—	8.1	〃	〃	〃	E-482	
459	〃	〃	〃	〃	3.4	14.5	—	6.2	〃	〃	口縁部縁軸掛け	E-483	
460	〃	〃	〃	〃	2.5	11.8	—	6.6	〃	〃	鉄胎、輪壳仔	E-484	
461	〃	〃	〃	〃	3.2	(13.6)	—	7.9	〃	〃	鉄胎、内面紋様5ヶ所	E-485	
462	〃	〃	〃	〃	2.9	(13.5)	—	(7.5)	〃	〃	鉄胎	E-486	
463	〃	〃	〃	〃	2.7	12.7	—	7.1	〃	〃	鉄胎箱、草花文	E-487	
464	〃	〃	〃	〃	2.5	12.1	—	7.5	〃	〃	〃、三隅松文	E-488	
465	〃	〃	〃	〃	2.8	13.4	—	6.9	〃	〃	白濁釉流し掛け、口錆	不明	E-489
466	〃	〃	〃	〃	3.4	13.2	—	7.0	〃	〃	白泥による磨胎、花文	瀬戸美濃	E-490

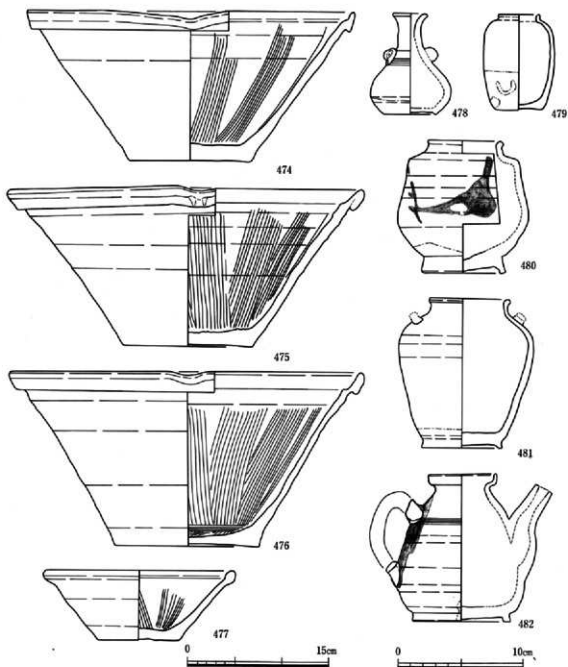
第60表 近世の遺物③ SK52④



第69図 近世の遺物00 SK52⑤ (469は1:4)

図版番号	遺構	器 種			法 量				軸葉・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
69-467	SK52	供養具	鉢	陶器	5.1	11.5	—	6.0	灰軸	灰軸	鉄軸、3足付	瀬戸美濃	E-491
468	〃	〃	〃	〃	3.6	12.7	—	6.3	緑釉+長石軸	緑釉+長石軸	鉄軸	〃	E-492
469	〃	〃	〃	〃	9.2	34.0	—	16.6	長石軸	長石軸	鉄軸、鉄軸管ちらし	〃	E-493
470	〃	〃	〃	〃	7.0	21.6	—	12.0	灰軸	灰軸	〃	〃	E-494
471	〃	調理具	〃	〃	8.1	13.2	—	6.8	〃	〃	片口	〃	E-495
472	〃	その他	〃	〃	5.6	(13.4)	—	(7.7)	鉄軸	鉄軸	煙筒指	〃	E-496
473	〃	〃	〃	〃	7.5	(14.0)	—	(8.3)	〃	〃	〃	〃	E-497

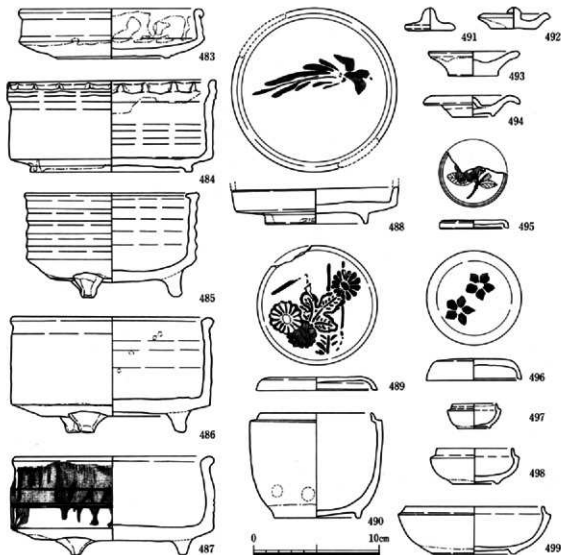
第61表 近世の遺物00 SK52⑤



第70図 近世の遺物09 SK52⑩ (474-477は1:4)

図版番号	遺構	器		材質	法				軸差・調整等		備考	登録番号
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
70-474	SK52	調理具	楕鉢	陶器	16.0	36.3	—	13.5	鉄軸	鉄軸		E-498
475	"	"	"	"	16.9	39.2	—	14.4	"	"		E-499
476	"	"	"	"	18.6	38.6	—	15.9	"	"		E-500
477	"	"	"	"	7.6	(20.3)	—	8.9	"	"		E-501
478	"	神仏具	瓶	"	8.3	2.8	—	4.2	"	"		E-504
479	"	貯蔵具	壺	"	6.8	3.2	—	3.7	"	"	鉄軸化粧掛け、蒸入れ	E-505
480	"	"	"	"	10.8	5.8	10.5	6.6	"	"	灰釉流し掛け	E-506
481	"	化粧具	瓶	"	12.2	6.2	10.8	6.4	"	"	うのみ釉流し掛け	E-507
482	"	貯蔵具	瓶	"	12.1	5.3	—	7.7	灰軸	灰軸	鉄軸流し掛け	E-508

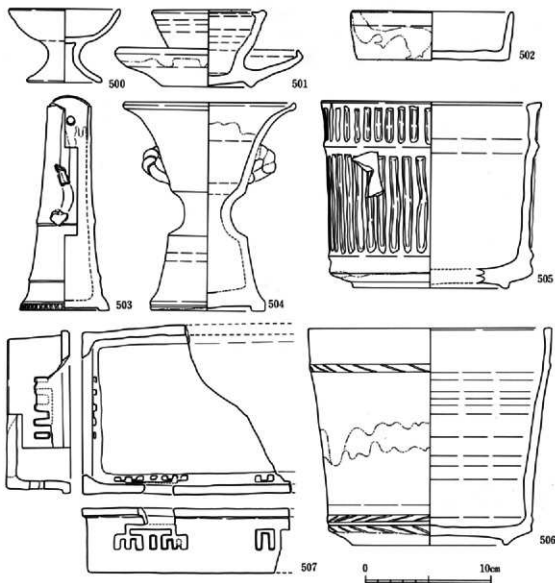
第62表 近世の遺物09 SK52⑩



第71図 近世の遺物⑨ SK52㉔

図版番号	遺構	器 種		法			量		釉薬・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
71-483	SK52	神仏具	香炉	陶器	4.1	14.3	—	8.9	鉄釉	鉄釉	瀬戸美濃	E-509	
484	〃	〃	〃	〃	7.5	16.4	—	12.9	鉄+灰釉	〃	掛分け	E-510	
485	〃	〃	〃	〃	8.5	13.6	—	9.0	鉄釉	〃	3足付	E-511	
486	〃	〃	〃	〃	9.5	15.7	—	16.0	灰釉	灰釉	内面緑釉ちらし	E-512	
487	〃	〃	〃	〃	8.1	14.5	—	16.1	〃	〃	3足、緑釉流し掛け	E-513	
488	〃	供養具	鉢	〃	—	13.3	—	8.0	〃	〃	鉄附絵、高文、手付鉢	E-514	
489	〃	その他	蓋	〃	1.1	9.6	—	〃	〃	〃	〃、菊花文	E-515	
490	〃	貯蔵具	蓋物	〃	8.5	5.9	—	6.8	〃	〃	〃	E-516	
491	〃	その他	蓋	〃	1.8	4.0	—	—	鉄釉	〃	〃	E-517	
492	〃	〃	〃	〃	1.7	5.7	—	—	〃	〃	〃	E-518	
493	〃	〃	〃	〃	2.0	7.2	—	—	〃	〃	〃	E-519	
494	〃	〃	〃	〃	1.7	7.7	—	—	〃	〃	〃	E-520	
495	〃	〃	〃	〃	0.7	5.5	—	—	灰釉	灰釉	うのふ輪流し掛け	E-521	
496	〃	〃	〃	〃	1.8	7.6	—	—	〃	〃	須須、枝葉文?	不明	
497	〃	貯蔵具	蓋物	〃	2.0	3.4	—	2.5	〃	〃	鉄附絵、桔梗文	瀬戸美濃	E-522
498	〃	〃	〃	〃	2.9	(6.0)	—	3.1	〃	〃	〃	E-524	
499	〃	〃	〃	〃	4.0	10.8	—	6.5	〃	〃	〃	不明	E-526

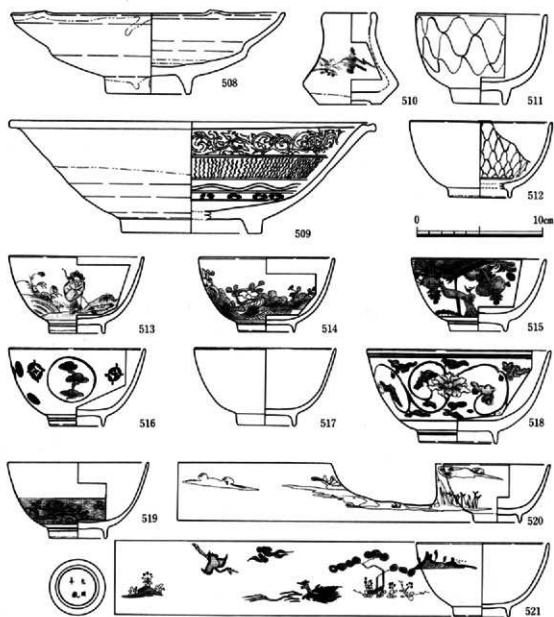
第63表 近世の遺物⑨ SK52㉔



第72図 近世の遺物⑦ SK52g)

図版番号	遺構	器 種		法 量				釉薬・調整等		備 考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面			外 面	
72-500	SK52	神仏具	仏舎具	陶器	6.0	8.7	—	5.4	長石釉	長石釉		瀬戸美濃	E-527
501	〃	灯火具	灯明具	〃	6.2	8.7	—	7.1	鉄釉	鉄釉		〃	E-528
502	〃	化粧具	びんだらい	〃	3.9	高3.0 幅1.0	—	高3.0 幅1.0	灰釉	灰釉	緑釉流し掛け	〃	E-529
503	〃	その他	花生	〃	17.2	3.5	—	7.2	鉄釉	鉄釉		〃	E-530
504	〃	〃	〃	〃	17.0	13.6	—	9.1	〃	〃	内面うのふ輪渡し掛け	〃	E-531
505	〃	〃	水差	〃	15.2	(17.4)	—	(12.4)	灰釉	灰釉	鉄釉流し掛け	〃	E-532
506	〃	〃	〃	〃	17.7	(19.4)	—	12.4	鉄釉	鉄釉	楕形	〃	E-533
507	〃	〃	その他	〃	5.1	高2.0 幅0.5	—	高2.0 幅0.5	灰釉	灰釉	煙草盆	〃	E-534

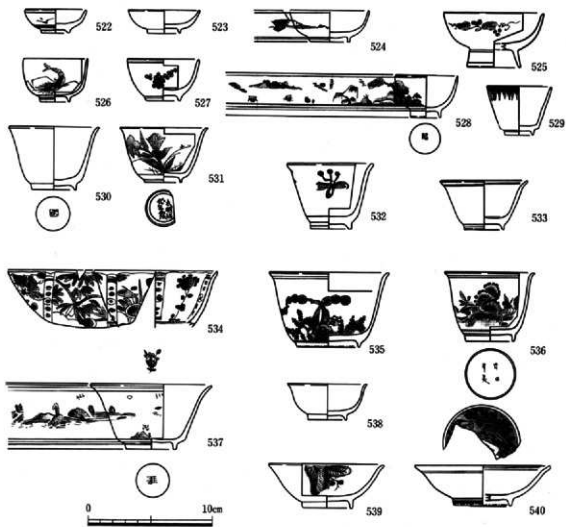
第64表 近世の遺物⑦ SK52g)



第73図 近世の遺物08 SK52③

図版番号	遺構	器種	用途	器形	材質	量				軸差・調整等		備考	登録番号
						器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
73-508	SK52	供膳具	鉢	陶器	6.6	21.7	—	6.7	緑+灰釉	灰釉	見込み蛇ノ目縁割ぎ	肥前	E-535
509	〃	〃	〃	〃	8.8	[30.6]	—	[11.3]	透明釉	透明釉	白泥象がん唐草文 三島手	〃	E-536
510	〃	その他	灰落し	〃	7.5	3.9	—	4.9	灰釉	灰釉	〃	〃	E-537
511	〃	供膳具	椀	磁器	7.3	[10.3]	—	4.2	—	—	一重網目	〃	E-538
512	〃	〃	〃	〃	6.3	[11.3]	—	[4.8]	—	—	〃	〃	E-539
513	〃	〃	〃	〃	6.2	11.0	—	5.5	—	—	唐人物と三ヶ月	〃	E-540
514	〃	〃	〃	〃	6.1	10.8	—	4.5	—	—	桜花流水文	〃	E-541
515	〃	〃	〃	〃	5.9	10.7	—	4.5	—	—	桐木文(しだれ桜?)	〃	E-542
516	〃	〃	〃	〃	6.2	11.2	—	4.4	—	—	宝文と三輪松丸文	〃	E-543
517	〃	〃	〃	〃	6.2	11.4	—	4.7	—	—	白磁、口縁	〃	E-544
518	〃	〃	〃	〃	17.5	15.0	—	6.3	—	—	牡丹唐花	〃	E-545
519	〃	〃	〃	〃	6.2	[11.2]	—	4.4	—	—	唐障子、唐文?、高台内「大明年製」	〃	E-546
520	〃	〃	〃	〃	4.6	8.6	—	3.8	—	—	色絵、山水文?	〃	E-547
521	〃	〃	〃	〃	5.9	10.6	—	4.4	—	—	色絵、鶴亀松文	〃	E-548

第65表 近世の遺物08 SK52③



第74図 近世の遺物⑧ SK52⑧

図版番号	遺構	器種		材質	法				量		釉薬・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
74-522	SK52	供膳具	小碗	磁器	1.9	5.0	—	2.4	—	—	—	—	草文、紋様6ヶ所	肥前	E-550
523	"	"	"	"	1.9	5.7	—	2.5	—	—	—	—	白磁	"	E-551
524	"	"	"	"	2.5	6.2	—	2.8	—	—	—	—	山水文	"	E-552
525	"	"	"	"	4.3	8.0	—	(4.2)	—	—	—	—	つる草文、紋様2ヶ所	"	E-553
526	"	"	"	"	3.6	5.0	—	2.2	—	—	—	—	鶴老文、紋様3ヶ所	"	E-554
527	"	"	"	"	3.4	5.7	—	2.6	—	—	—	—	雛花文	"	E-555
528	"	"	"	"	3.5	4.9	—	2.4	—	—	—	—	山水文、高台内「福」	"	E-556
529	"	"	唐口	"	3.9	(5.3)	—	2.3	—	—	—	—	雨降文	"	E-557
530	"	"	"	"	5.1	7.2	—	3.6	—	—	—	—	白磁	"	E-558
531	"	"	小杯	"	4.5	7.0	—	2.9	—	—	—	—	稲梗文、高台内「大明化年製」	"	E-559
532	"	"	"	"	5.3	6.9	—	3.2	—	—	—	—	桐文	"	E-560
533	"	"	"	"	4.0	(6.9)	—	3.0	—	—	—	—	—	"	E-561
534	"	"	杯	"	—	(9.9)	—	—	—	—	—	—	芙蓉手	"	E-562
535	"	"	"	"	6.0	(9.6)	—	5.0	—	—	—	—	鶴松文	"	E-563
536	"	"	"	"	5.6	7.3	—	4.0	—	—	—	—	鯉かご蓮木文、高台内「宣徳年製」	"	E-564
537	"	"	"	"	5.2	(9.8)	—	4.0	—	—	—	—	色絵山水文、高台内「瀨」	中国	E-565
538	"	"	小杯	"	2.9	(6.3)	—	3.2	—	—	—	—	白磁	肥前	E-566
539	"	"	"	"	3.5	9.2	—	4.0	—	—	—	—	新枝文	"	E-567
540	"	"	杯	"	3.3	(10.6)	—	(4.4)	—	—	—	—	—	"	E-568

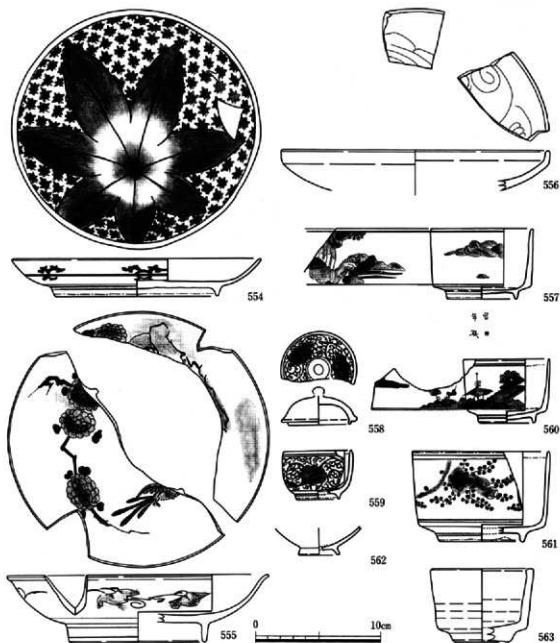
第66表 近世の遺物⑧ SK52⑧



第75図 近世の遺物⑩ SK52⑩

図版番号	遺構	器 種		法 量				軸差・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面			外 面
75-541	SK52	供養具	皿	磁器	1.7	7.0	—	(4.1)	—	—	牡丹唐草文	E-569
542	〃	〃	〃	〃	1.9	7.3	—	3.9	—	—	紅葉に唐文、口錆	E-570
543	〃	〃	〃	〃	2.2	8.9	—	3.8	—	—	白磁	E-571
544	〃	〃	〃	〃	2.4	8.5	—	3.8	—	—	花鳥文、裏文折れ松葉、糸切り変形高台	E-572
545	〃	〃	〃	〃	2.3	8.6	—	3.5	—	—	青磁、見込みに陽刻文、型打ち	E-573
546	〃	〃	〃	〃	2.1	9.2	—	5.6	—	—	コンニャク印判、紅葉文	E-574
547	〃	〃	〃	〃	2.1	9.3	—	5.4	—	—	花蝶文	E-575
548	〃	〃	〃	〃	2.1	9.6	—	5.6	—	—	矢羽文、裏文折れ松葉	E-576
549	〃	〃	〃	〃	2.6	11.2	—	6.1	—	—	藍紙唐、裏と松文	E-577
550	〃	〃	〃	〃	3.2	12.8	—	7.7	—	—	牡丹唐草文 裏文唐草文	E-578
551	〃	〃	〃	〃	2.8	13.4	—	8.7	—	—	〃	E-579
552	〃	〃	〃	〃	3.9	—	—	7.0	—	—	牡丹唐草文、牡丹唐草文、	E-580
553	〃	〃	〃	〃	2.6	12.1	—	7.0	—	—	芙蓉手、花鳥文	E-581

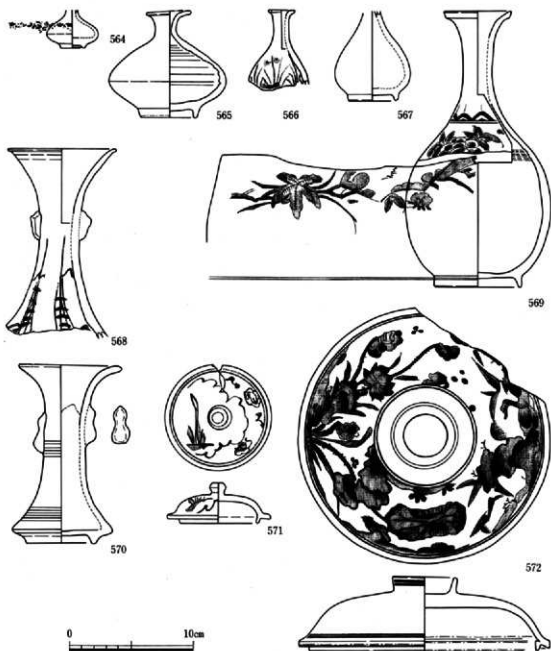
第76表 近世の遺物⑩ SK52⑩



第76図 近世の遺物(II) SK52②

図版番号	遺構	器 種			法 量				輪業・調整等		備 考	登録番号
		用 途	器 形	材 質	器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面		
76-554	SK52	供膳具	皿	磁器	3.1	19.8	—	13.0	—	—	カエグ文 裏文唐草文	肥前 E-583
555	〃	〃	〃	〃	5.6	(20.7)	—	(10.8)	—	—	唐文?、裏文ツナ唐草、裏面磁器片	〃 E-584
556	〃	〃	〃	〃	—	(21.6)	—	—	—	—	白磁、線彫り(除形)	〃 E-585
557	〃	〃	鉢	〃	5.8	8.2	—	5.6	—	—	山水文、高台内「宣明年製」	〃 E-586
558	〃	その他	蓋	〃	4.0	6.1	—	—	—	—	牡丹唐草文、134の蓋	〃 E-587
559	〃	貯蔵具	蓋物	〃	3.9	(5.4)	—	(3.4)	—	—	〃、135の身	〃 E-588
560	〃	〃	〃	〃	5.1	(7.0)	—	4.6	—	—	山水文	〃 E-589
561	〃	〃	〃	〃	7.2	(11.2)	—	(6.8)	—	—	唐文文	〃 E-590
562	〃	その他	その他	〃	—	—	—	3.2	—	—	白磁、底部に焼成前穿孔、用途?	〃 E-591
563	〃	〃	火入れ	〃	6.1	(7.8)	—	(4.4)	—	—	青磁	〃 E-592

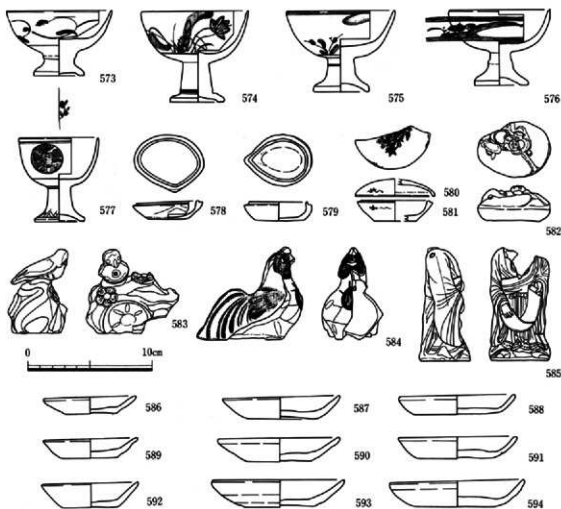
第68表 近世の遺物(II) SK52②



第77図 近世の遺物④ SK52③

図版番号	遺構	器 用途	器 形状	種 材質	法 量				軸差・調整等		備 考	登録 番号
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
77-564	SK52	化粧具	壺	磁器	—	—	4.1	1.9	—	—	描繪、草花文	肥前 E-593
565	〃	〃	〃	〃	8.7	3.4	9.4	4.5	—	—	白磁 嬰油壺	〃 E-594
566	〃	神仏具	瓶	〃	—	2.0	—	—	—	—	草花文?、口縁輪花	〃 E-595
567	〃	〃	〃	〃	—	—	6.0	3.8	—	—	—	〃 E-596
568	〃	〃	〃	〃	—	—	8.2	—	—	—	網干文	〃 E-597
569	〃	その他	花生	〃	22.2	5.4	11.8	7.0	—	—	紅葉文?	〃 E-598
570	〃	神仏具	瓶	〃	14.6	8.7	3.3	5.5	—	—	青磁	〃 E-599
571	〃	その他	蓋	〃	3.2	8.5	—	—	—	—	草花文	〃 E-600
572	〃	〃	〃	〃	6.0	20.5	—	—	—	—	花鳥文	〃 E-601

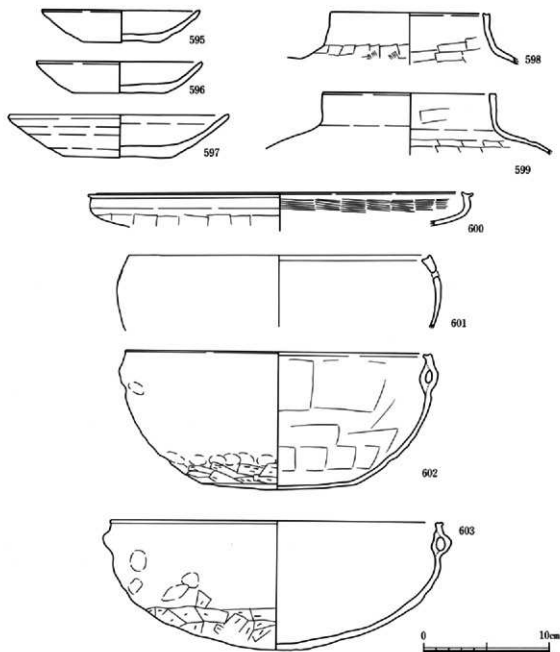
第69図 近世の遺物④ SK52③



第78図 近世の遺物(4) SK52③

図版番号	遺構	器 種			法 量				釉薬・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面		
78-573	SK52	神仏具	仏飯具	磁器	5.3	8.4	—	4.0	—	—	唐花文	肥前 E-602
574	〃	〃	〃	〃	7.5	8.7	—	4.2	—	—	草文	〃 E-603
575	〃	〃	〃	〃	6.6	8.5	—	4.4	—	—	〃	〃 E-604
576	〃	〃	〃	〃	8.2	8.0	—	4.2	—	—	山水文	〃 E-605
577	〃	〃	〃	〃	6.9	6.4	—	3.8	—	—	彌勒鳥丸文、見込み草花文	〃 E-606
578	〃	貯蔵具	蓋物	〃	1.4	4.6	—	3.1	—	—	白磁、型打ち二枚貝形 香合	〃 E-607
579	〃	〃	〃	〃	1.5	4.7	—	3.9	—	—	白磁、型打ち	〃 E-608
580	〃	その他	蓋	〃	—	(6.5)	—	—	—	—	七宝つなぎ文、175の蓋	〃 E-609
581	〃	貯蔵具	蓋物	〃	1.7	(5.4)	—	(3.5)	—	—	白磁、型打ち 174の身	〃 E-610
582	〃	その他	水酒	〃	2.8	—	—	4.4	—	—	白磁、型打ち 福神鬺刺	〃 E-611
583	〃	〃	〃	〃	6.9	—	—	—	—	—	上絵付(赤、青、緑、黒)型作り	〃 E-612
584	〃	〃	〃	〃	7.5	—	—	—	—	—	上絵付(赤、青、緑、黒)型作り	〃 E-613
585	〃	〃	〃	〃	—	—	—	4.7	—	—	青磁、型作り 僧形	〃 E-614
586	〃	灯明具	皿	土器	1.4	7.3	—	4.2	—	—	口縁部志度 2ヶ所	E-615
587	〃	〃	〃	〃	1.8	9.3	—	5.4	—	—	〃 3ヶ所	E-616
588	〃	〃	〃	〃	1.6	(9.1)	—	6.7	—	—	—	E-617
589	〃	〃	〃	〃	1.6	7.5	—	4.4	—	—	—	E-618
590	〃	〃	〃	〃	1.9	9.6	—	5.1	—	—	—	E-619
591	〃	〃	〃	〃	1.8	9.3	—	6.0	—	—	—	E-620
592	〃	〃	〃	〃	2.0	7.7	—	4.3	—	—	口縁部油耀付着	E-621
593	〃	〃	〃	〃	2.2	10.4	—	5.5	—	—	—	E-622
594	〃	〃	〃	〃	2.1	10.6	—	6.0	—	—	—	E-623

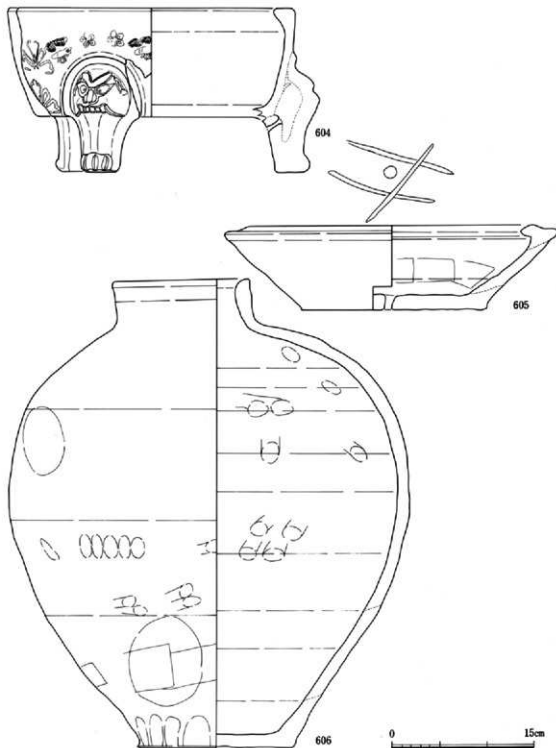
第70表 近世の遺物(4) SK52③



第79図 近世の遺物④ SK52④

図版番号	遺構	用途	器形	材質	法 量				軸差・調整等		備 考	登録番号
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
79-595	SK52	灯火具	皿	土器	2.6	12.5	—	6.0	—	—		E-626
596	*	*	*	*	2.5	13.1	—	7.0	—	—		E-627
597	*	*	*	*	3.5	17.4	—	8.4	—	—		E-628
598	*	調理具	釜	*	—	12.9	—	—	—	—		E-631
599	*	*	*	*	—	14.0	—	—	—	—		E-630
600	*	*	鍋	*	—	(29.6)	—	—	—	—	炮烙	E-633
601	*	*	*	*	—	(24.4)	—	—	—	—	口縁部下焼成後穿孔	E-634
602	*	*	*	*	11.0	(24.7)	—	12.5	—	—	内耳2ヶ所	E-635
603	*	*	*	*	10.3	27.0	—	—	—	—	、未使用、復付着なし	E-636

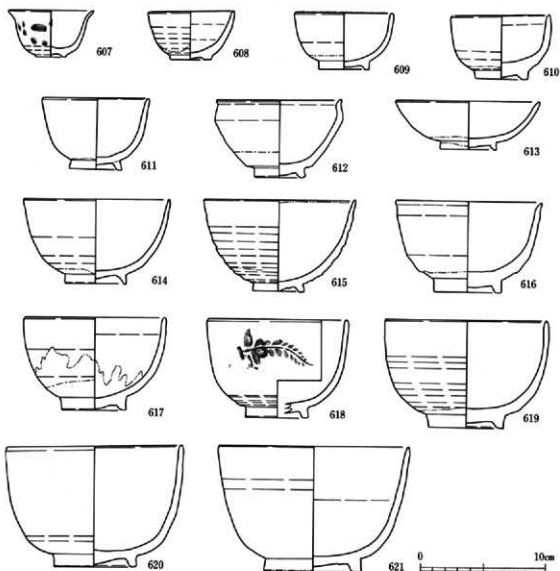
第71表 近世の遺物④ SK52④



第80図 近世の遺物⑨ SK52⑨ (604~606:1 : 4)

図版番号	遺構	器種		法量				軸差・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
80-604	SK52	火具	鉢	瓦器	17.4	(20.3)	—	(24.6)	—	—	3足付、貼付文(花文)	E-639
605	〃	その他	〃	土器	8.9	30.0	—	19.8	—	—	底部焼成後穿孔 焼成前麻割 雪割	E-640
606	〃	貯蔵具	壺	陶器	49.4	14.0	43.4	15.7	—	—	〃	E-641

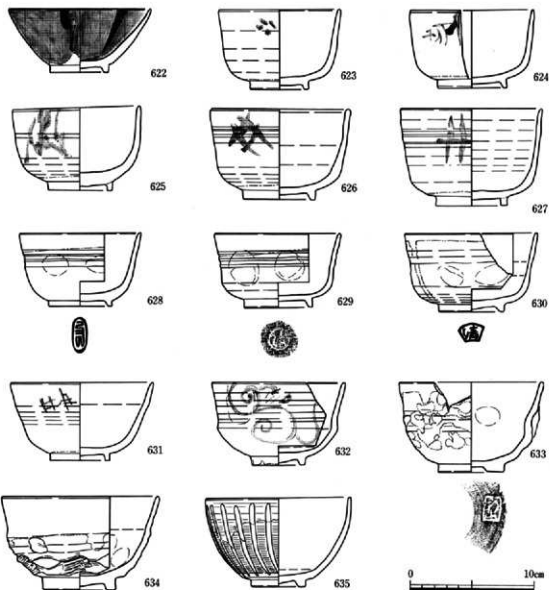
第72表 近世の遺物⑨ SK52⑨



第81図 近世の遺物⑩ SK78㊦

図版番号	遺構	器 種			法 量				胎素・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
81-607	SK78	供膳具	碗	陶器	3.7	(6.7)	—	2.4	灰釉	灰釉	呉須絵	不明	E-642
608	〃	〃	〃	〃	3.9	6.8	—	3.3	〃	〃		瀬戸美濃	E-643
609	〃	〃	〃	〃	5.5	8.0	—	4.0	鉄釉	鉄釉		〃	E-644
610	〃	〃	〃	〃	5.2	7.8	—	4.2	灰釉	灰釉		〃	E-645
611	〃	〃	〃	〃	5.7	8.4	—	4.3	〃	〃		〃	E-646
612	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	6.3	9.8	—	4.5	鉄釉	鉄釉		〃	E-647
613	〃	供膳具	碗	〃	3.9	11.3	—	4.4	灰釉	灰釉		〃	E-648
614	〃	〃	〃	〃	7.8	11.5	—	5.0	鉄釉	鉄釉		〃	E-649
615	〃	〃	〃	〃	7.3	12.0	—	3.8	灰釉	〃	内面鉄釉塗り掛け	〃	E-650
616	〃	〃	〃	〃	7.2	(11.4)	—	5.2	鉄釉	〃	見込みに細かい凹軋キズ有り	〃	E-651
617	〃	〃	〃	〃	7.4	11.1	—	5.1	〃	鉄釉	内、外裏うの字輪状し掛け、泉島茶碗	〃	E-652
618	〃	〃	〃	〃	7.9	(11.0)	—	(5.0)	灰釉	灰釉	呉須狸絵(曇花文)	〃	E-653
619	〃	〃	〃	〃	8.6	(13.0)	—	6.0	〃	〃		〃	E-654
620	〃	〃	〃	〃	9.6	14.0	—	6.7	〃	〃		〃	E-655
621	〃	〃	〃	〃	10.0	(15.2)	—	7.8	〃	〃		〃	E-656

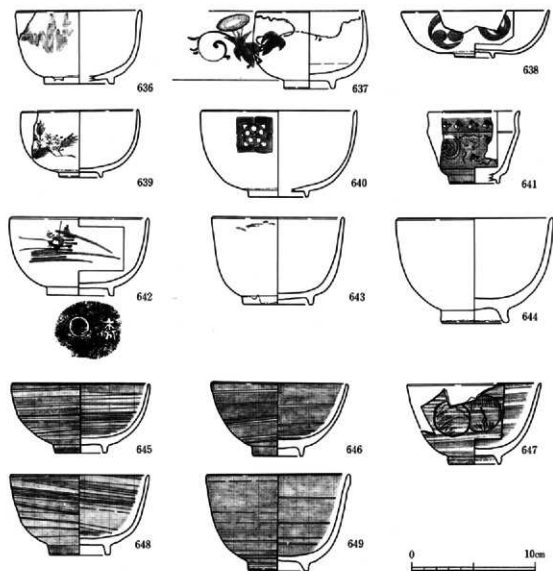
第73表 近世の遺物⑩ SK78㊦



第82図 近世の遺物⑦ SK78②

図版番号	遺構	器種			法量				軸差・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
82-622	SK78	供餅具	碗	陶器	5.1	11.3	—	4.6	灰+鉄軸	灰+鉄軸	掛け分け	瀬戸美濃	E-658	
623	"	"	"	"	6.4	(9.6)	—	4.6	灰軸	灰軸	呉須胎	"	E-659	
624	"	"	"	"	6.8	(9.8)	—	5.4	"	"	"	御室茶臼	"	E-660
625	"	"	"	"	6.7	10.0	—	5.1	"	"	"	"	"	E-661
626	"	"	"	"	7.3	10.8	—	5.7	"	"	"	"	"	E-662
627	"	"	"	"	7.8	10.1	—	5.7	"	"	"	"	"	E-663
628	"	"	"	"	5.7	9.7	—	5.1	"	鉄+灰軸	掛け分け、刻印(?)、裏側茶臼	"	"	E-664
629	"	"	"	"	5.9	10.0	—	5.4	"	"	掛け分け、刻印丸印(清)	"	"	E-665
630	"	"	"	"	5.3	10.3	—	5.1	"	"	"	扇印(清)	"	E-666
631	"	"	"	"	6.3	11.2	—	4.7	"	灰軸	呉須胎	"	"	E-667
632	"	"	"	"	6.6	10.6	—	4.2	"	"	鉄胎	"	"	E-668
633	"	"	"	"	7.2	(11.3)	—	5.1	"	鉄+灰軸	掛け分け、裏石軸裏し 高台に刻印(新山)	"	"	E-669
634	"	"	"	"	7.6	(12.5)	—	5.8	"	"	掛け分け、外面へタによる形	"	"	E-670
635	"	"	"	"	7.1	11.4	—	4.1	"	"	"	外面へタによる器形	"	E-671

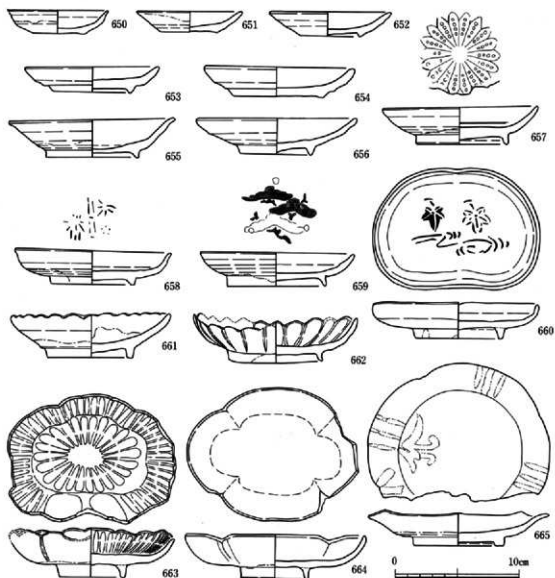
第74表 近世の遺物⑦ SK78②



第83図 近世の遺物④ SK78③

図版番号	遺構	器 種				法 量				軸差・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
83-636	SK78	供膳具	椀	陶器	5.9	[9.9]	—	[5.5]	灰輪	灰輪	兵須輪、御室赤輪	不明	E-674
637	〃	〃	〃	〃	6.2	8.3	—	3.8	灰+長石輪	灰+長石輪	上絵付、朝顔文(赤、緑、紫)	〃	E-675
638	〃	〃	〃	〃	3.8	[11.7]	—	3.1	灰輪	灰輪	〃、三ツ巴文(白、青)京・信楽	〃	E-676
639	〃	〃	〃	〃	5.4	9.4	—	3.5	〃	〃	兵須+鉄輪(あじさい?)	〃	E-677
640	〃	〃	〃	〃	7.0	[12.3]	—	[4.6]	〃	〃	上絵付(白、青)割落鎌者	〃	E-678
641	〃	供膳具	天目茶碗	〃	5.8	[7.2]	—	[4.0]	〃	〃	白泥象がん	北九州	E-679
642	〃	供膳具	椀	〃	6.2	11.0	—	5.2	〃	〃	兵須輪、山水文、高台内「木下赤」	〃	E-680
643	〃	〃	〃	〃	7.0	[10.4]	—	5.6	〃	〃	〃	〃	E-681
644	〃	〃	〃	〃	8.4	[12.4]	—	5.1	〃	〃	〃	〃	E-682
645	〃	〃	〃	〃	5.6	10.8	—	4.0	透明輪	透明輪	白泥による縞毛目	〃	E-683
646	〃	〃	〃	〃	5.8	10.8	—	4.0	〃	〃	〃	〃	E-684
647	〃	〃	〃	〃	6.4	[10.6]	—	4.1	〃	〃	〃、鉄粒(丸文)	〃	E-685
648	〃	〃	〃	〃	6.4	10.9	—	4.7	〃	〃	〃	〃	E-686
649	〃	〃	〃	〃	7.7	10.3	—	4.3	〃	〃	〃	〃	E-687

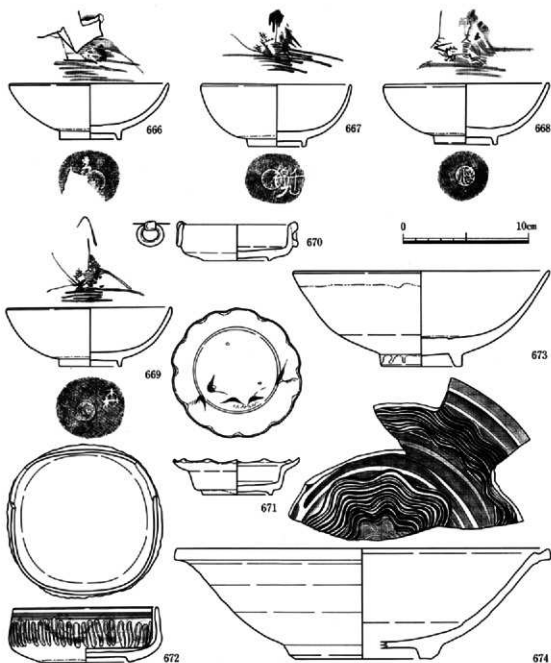
第75表 近世の遺物④ SK78③



第84図 近世の遺物(4) SK78④

図版番号	遺構	器種		材質	法			量		釉薬・調整等		備考	登録番号
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
84-650	SK78	供膳具	皿	陶器	1.9	8.0	—	4.1	陶釉	緑釉		E-688	
651	"	"	"	"	1.6	8.4	—	4.4	灰釉	灰釉		E-689	
652	"	"	"	"	2.0	9.5	—	4.6	"	"	口縁部油煙付着	E-690	
653	"	灯火具	"	"	2.0	10.7	—	6.0	長石釉	長石釉		E-691	
654	"	"	"	"	2.4	11.9	—	7.1	"	"		E-692	
655	"	供膳具	"	"	3.0	13.2	—	7.4	灰釉	灰釉	輪光げ	E-693	
656	"	"	"	"	2.9	12.7	—	5.7	"	"		E-694	
657	"	"	"	"	3.0	12.2	—	7.2	"	"	鉄摺絵、矢羽根華文	E-695	
658	"	"	"	"	2.7	12.4	—	6.5	"	"	、笹竹文	E-696	
659	"	"	"	"	2.7	12.2	—	7.8	"	"	鉄摺絵、三様松文	E-697	
660	"	"	"	"	2.8	12.9	—	6.8	"	"	鉄摺絵、流木紅華文、型打ち	E-698	
661	"	"	"	"	3.4	12.7	—	6.9	"	"	内面緑釉流し	E-699	
662	"	"	"	"	3.3	[13.0]	—	17.4	"	"	型打ち	E-700	
663	"	"	"	"	3.9	14.3	—	5.2	"	"		E-701	
664	"	"	"	"	3.5	14.3	—	5.4	"	"		E-702	
665	"	"	"	"	2.6	14.3	—	7.2	錆+灰釉	錆+灰釉	鉄絵、美濃唐津	E-703	

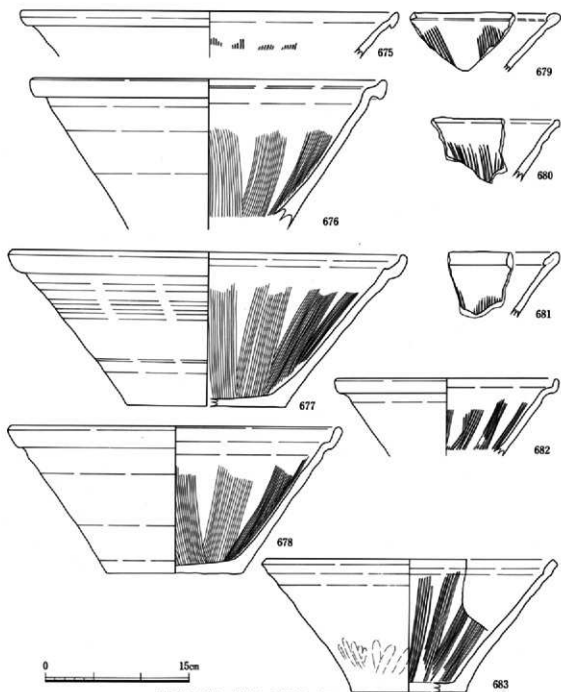
第76表 近世の遺物(4) SK78④



第85図 近世の遺物⑤ SK78⑤

図版番号	遺構	器 種			量				釉薬・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
85-666	SK78	供膳具	皿	陶器	4.5	12.3	—	4.9	灰釉	灰釉	呉須絵、山水文、高台内不明	肥前 E-707
667	〃	〃	〃	〃	5.0	12.6	—	4.6	〃	〃	〃 「千鶴丸」	E-708
668	〃	〃	〃	〃	4.9	13.1	—	5.0	〃	〃	〃 不明	E-709
669	〃	〃	〃	〃	4.7	13.1	—	5.0	〃	〃	〃 「麻」	E-710
670	〃	〃	鉢	〃	3.9	(8.4)	—	5.3	〃	〃	瀬戸灰漬	E-712
671	〃	〃	〃	〃	2.8	10.5	—	5.1	〃	〃	鉄胎	E-713
672	〃	〃	〃	〃	4.4	11.4	—	6.8	〃	〃	呉須絵、唐草文	E-714
673	〃	〃	〃	〃	7.6	20.3	—	6.3	緑釉	緑+透明釉	餅分け、足込み絵/目輪割ぎ、肥前	E-715
674	〃	〃	〃	〃	8.8	(29.6)	—	(10.8)	灰釉	灰釉	白泥による刷毛目	E-716

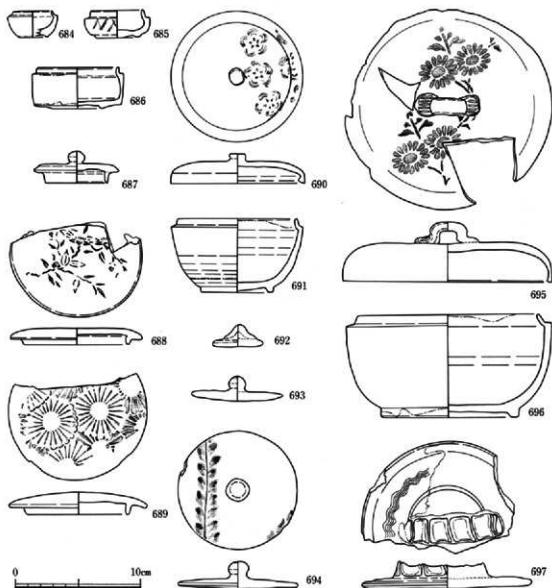
第77表 近世の遺物⑤ SK78⑤



第86図 近世の遺物60 SK78㊦ (675~683は1:4)

図版番号	遺構	器 種			法			量		胎素・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面			
86-675	SK78	調理具	鉢鉢	陶器	—	(39.6)	—	—	鉄胎	鉄胎		瀬戸美濃	E-717
676	"	"	"	"	—	36.7	—	—	"	"		"	E-718
677	"	"	"	"	16.2	(41.0)	—	(16.6)	"	"		"	E-719
678	"	"	"	"	15.4	(34.2)	—	14.0	"	"		"	E-720
679	"	"	"	"	—	—	—	—	"	"		"	E-721
680	"	"	"	"	—	—	—	—	"	"		"	E-722
681	"	"	"	"	—	—	—	—	"	"		"	E-723
682	"	"	"	"	—	(23.0)	—	—	"	"		"	E-724
683	"	"	"	"	14.1	(30.4)	—	(12.0)	—	—	外面下半指押之痕	丹波	E-725

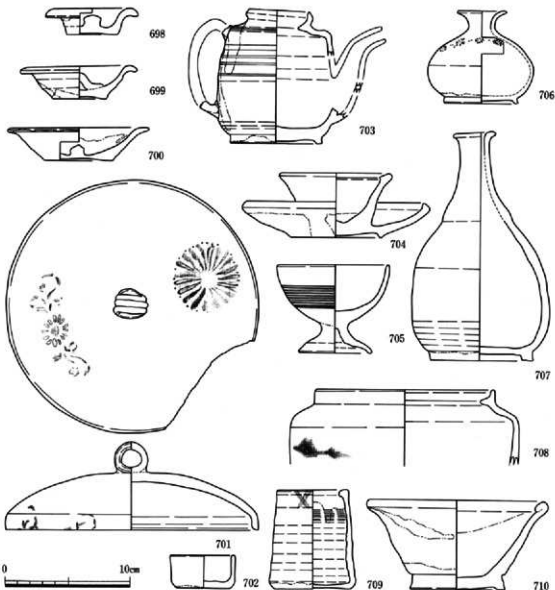
第78表 近世の遺物60 SK78㊦



第87図 近世の遺物⑤ SK78⑦

図版番号	遺物	器種		法量			釉薬・調整等		備考	登録番号			
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径			内面	外面	
87-684	SK78	貯蔵具	蓋物	陶器	2.1	(3.2)	—	(2.3)	灰釉	灰釉	瀬戸美濃	E-729	
685	※	※	※	※	2.2	(4.1)	—	3.2	長石釉	長石釉	鉄絵	E-730	
686	※	※	※	※	3.8	6.5	—	3.9	灰釉	灰釉	※	E-731	
687	※	その他	蓋	※	2.0	6.9	—	—	—	—	※	E-732	
688	※	※	※	※	1.3	10.5	—	—	—	—	鉄摺絵。花文	E-733	
689	※	※	※	※	1.8	11.0	—	—	—	—	※、菊花文	E-734	
690	※	※	※	※	2.3	10.6	—	—	—	—	※、桜花文	E-735	
691	※	貯蔵具	蓋物	※	5.9	(9.6)	—	5.8	—	—	※	E-736	
692	※	その他	蓋	※	1.8	4.1	—	—	—	鉄絵	※	E-737	
693	※	※	※	※	1.9	7.4	—	—	—	灰釉	※	E-738	
694	※	※	※	※	2.1	10.5	—	—	—	—	鉄摺絵。下り藤文	不明	E-739
695	※	※	※	※	4.8	(16.8)	—	—	—	—	※、菊花文	瀬戸美濃	E-740
696	※	貯蔵具	蓋物	※	8.2	14.4	—	10.5	※	※	※	E-741	
697	※	その他	蓋	※	1.9	(13.6)	—	—	—	鉄+5の土	掛け分け。波状文	※	E-742

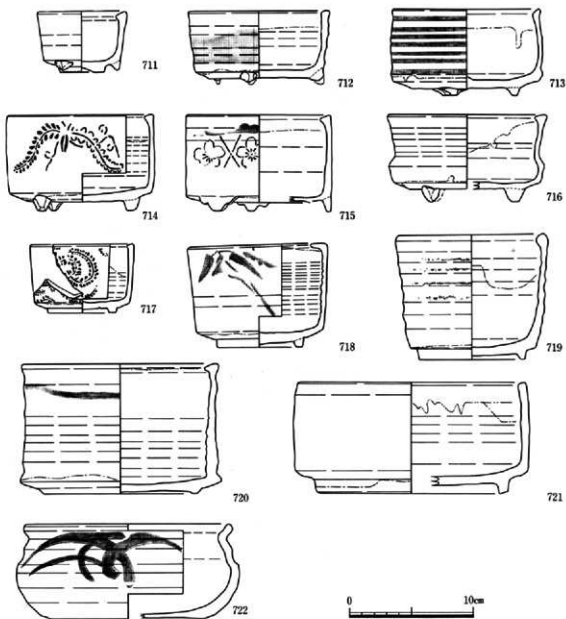
第79図 近世の遺物⑤ SK78⑦



第88図 近世の遺物④ SK78⑧

図版番号	遺構	器種		器高	口径	量		軸差・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形			材質	胴径	底径	内面			外面
88-698	SK78	その他	蓋	陶器	2.1	7.4	—	—	鉄軸	鉄軸	底部回転承切り状	瀬戸美濃 E-743
699	〃	〃	〃	〃	2.5	9.3	—	—	〃	〃	〃	E-744
700	〃	〃	〃	〃	3.6	11.3	—	—	〃	〃	〃	E-745
701	〃	〃	〃	〃	7.0	20.3	—	—	灰軸	鉄撥絵、菊文	〃	E-746
702	〃	〃	鉢	〃	2.7	5.2	—	4.2	灰軸	〃	〃	E-748
703	〃	貯蔵具	瓶	〃	10.7	4.8	—	7.2	鉄軸	鉄軸	灰軸渡し掛け	E-749
704	〃	灯火具	灯明具	〃	5.1	8.7	—	7.2	〃	〃	〃	E-750
705	〃	神仏具	仏飯具	〃	12.1	8.7	—	6.7	灰軸	灰軸	〃	E-751
706	〃	化粧具	壺	〃	7.4	3.7	—	5.8	〃	〃	鉄撥絵、花文、髪油壺	E-752
707	〃	貯蔵具	瓶	〃	18.1	2.9	—	8.3	鉄軸	鉄軸	尾呂徳利	E-753
708	〃	蓋物	〃	〃	[14.0]	—	—	灰軸	灰軸	呉須絵	肥前 E-754	
709	〃	その他	灰濁し	〃	7.9	[5.6]	—	6.2	〃	〃	不明	E-755
710	〃	〃	鉢	〃	7.1	14.0	—	7.4	鉄軸	鉄軸	灰軸渡し掛け、煙硝塗	瀬戸美濃 E-756

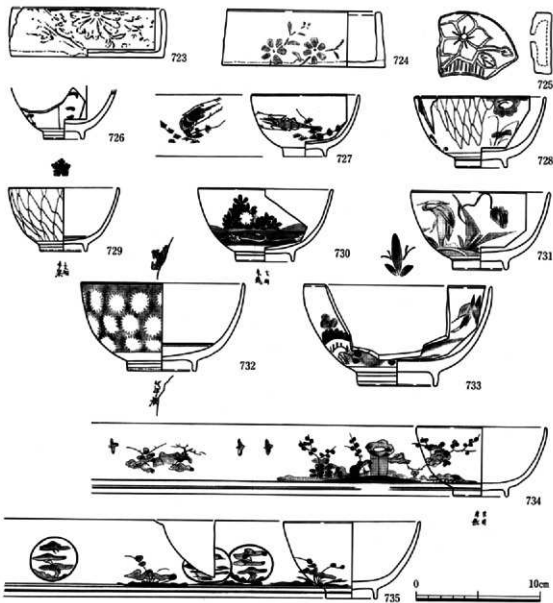
第89表 近世の遺物⑤ SK78⑧



第89図 近世の遺物50 SK78⑨

図版番号	遺構	器		種	法	量				胎裏・調整等		備	考	登録番号
		用途	器形			材質	器高	口径	胴径	底径	内面			
89-711	SK78	神仏具	香炉	陶胎	4.9	6.9	—	3.6	灰輪	灰輪	3足付	瀬戸美濃	E-757	
712	"	"	"	"	5.6	11.2	—	8.0	"	"	髹髹器し掛け、 3足付、口縁部打潰損	"	E-758	
713	"	"	"	"	6.9	(11.5)	—	8.4	鉄輪	鉄輪	口縁部打潰損、3足付	"	E-759	
714	"	"	"	"	7.7	11.5	—	8.5	灰輪	灰輪	鉄摺輪、藤文、3足付	"	E-760	
715	"	"	"	"	7.7	11.4	—	8.0	"	"	桜花文、3足付	"	E-761	
716	"	"	"	"	7.0	(12.2)	—	(8.7)	錆+灰輪	"	3足付	不明	E-762	
717	"	"	"	"	5.5	8.1	—	5.5	灰輪	"	鉄摺輪、藤文	瀬戸美濃	E-763	
718	"	"	"	"	8.1	11.1	—	6.7	"	"	呉須輪、笹文	"	E-764	
719	"	"	"	"	10.0	11.5	—	8.4	"	"	裏台内彫彫、外面一部赤色化(剥離)	"	E-765	
720	"	"	"	"	10.4	(15.6)	—	12.2	—	—	鉄輪渡し掛け	"	E-766	
721	"	"	"	"	18.9	(18.2)	—	(15.4)	錆+鉄輪	鉄輪	"	"	E-767	
722	"	"	"	"	7.6	15.8	—	(12.0)	灰輪	灰輪	鉄輪、笹文	"	E-768	

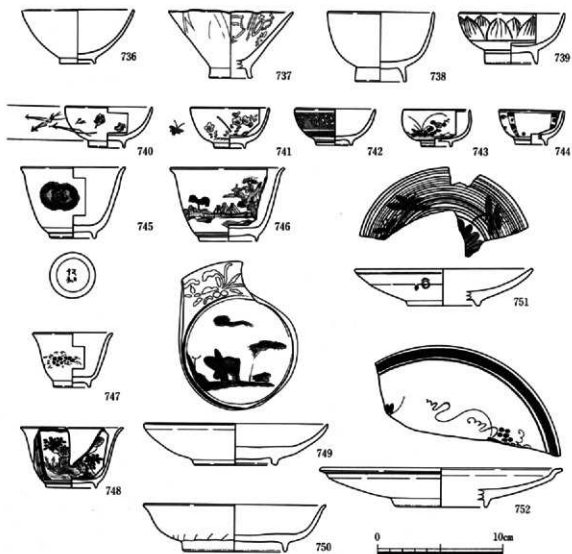
第81表 近世の遺物50 SK78⑨



第90図 近世の遺物⑥ SK78⑩

図版番号	遺構	器 用途	器形	材質	法			施薬・調整等		備考	登録 番号	
					器高	口径	胴径	底径	内面			外面
90-723	SK78	化粧具	びんぶさ	陶器	4.0	—	—	—	灰釉	灰釉	鉄繪、花文	瀬戸美濃 E-769
724	"	"	"	"	4.4	—	—	"	"	"	"	E-770
725	"	貯蔵具	水滴	"	1.7	—	—	—	—	—	墨打ち 栴檀文	E-771
726	"	伊勢具	椀	磁器	—	—	(3.0)	—	—	—	天香手	肥前 E-772
727	"	"	"	"	5.0	8.5	—	3.3	—	—	上絵付、御老文(赤、緑、黒、金)	E-773
728	"	"	"	"	5.7	10.2	—	4.2	—	—	一重銅目、草花文	E-774
729	"	"	"	"	5.1	8.8	—	3.7	—	—	一重銅目・口縁、墨以瓦文(赤、黒、緑、金)	E-775
730	"	"	"	"	5.8	(10.2)	—	4.5	—	—	一重銅目・口縁、墨以瓦文(赤、黒、緑、金)	E-776
731	"	"	"	"	6.3	11.0	—	4.4	—	—	信濃に草文、高台内「大明年製」	E-777
732	"	"	"	"	7.0	13.1	—	5.5	—	—	信濃文、墨以瓦文(赤、黒、緑、金)	E-778
733	"	"	"	"	9.4	21.4	—	9.3	—	—	信濃文	E-779
734	"	"	"	"	5.6	10.4	—	14.4	—	—	梅樹文、高台内「大明年製」	E-780
735	"	"	"	"	5.2	10.9	—	4.2	—	—	三層松丸文	E-781

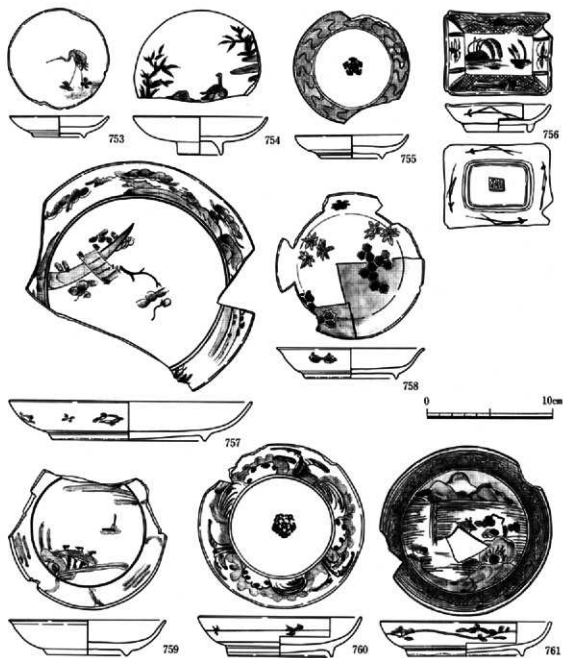
第82表 近世の遺物⑥ SK78⑩



第91図 近世の遺物⑥ SK78⑩

図版番号	遺構	器		型	法		量		胎薬・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形		材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
91-736	SK78	供膳具	碗	磁器	4.3	(8.9)	—	2.8	—	—	白磁	肥前	E-782
737	"	"	"	"	5.4	(9.8)	—	(3.5)	—	—	見込み呉須文、型打ち、内、外面布目	"	E-783
738	"	"	"	"	5.5	8.5	—	4.0	—	—	白磁	"	E-784
739	"	"	"	"	4.1	8.4	—	4.1	—	—	蓮弁文	"	E-785
740	"	"	"	"	3.2	6.9	—	2.9	—	—	上絵付、折松葉文(赤、緑、金)	"	E-786
741	"	"	"	"	3.2	6.4	—	2.4	—	—	、花蝶文(赤、青、緑)	"	E-787
742	"	"	"	"	2.9	6.4	—	2.7	—	—	摺絵(飯花文)	"	E-788
743	"	"	"	"	2.9	(5.8)	—	(2.3)	—	—	草花文	"	E-789
744	"	"	"	"	2.7	(5.2)	—	(2.5)	—	—	"	"	E-790
745	"	"	杯	"	5.7	8.3	—	3.7	—	—	高台内、大塚製、青磁文?	"	E-791
746	"	"	"	"	5.9	8.8	—	4.6	—	—	山水文	"	E-792
747	"	"	小杯	"	4.4	6.3	—	2.8	—	—	摺絵(花文)	"	E-793
748	"	"	"	"	4.9	8.2	—	4.0	—	—	天香手草花文?、高台内?宜明半製。	"	E-794
749	"	"	皿	"	3.4	(14.7)	—	6.2	—	—	うまさ文、陽刻、口刷	"	E-795
750	"	"	"	"	3.8	14.4	—	8.1	—	—	青磁、壺付き鉄軸	"	E-796
751	"	"	"	"	3.0	(14.0)	—	(5.6)	—	—	花蝶文?	"	E-797
752	"	"	"	"	2.3	(19.2)	—	(7.4)	—	—	ぶどう文	"	E-798

第83表 近世の遺物⑥ SK78⑩



第92図 近世の遺物60 SK78②

国庫番号	遺構	器種		材質	法				軸差・調整等		備考	登録番号
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
92-753	SK78	供膳具	皿	磁粉	1.7	7.8	—	4.0	—	—	鴉文	肥前 E-799
754	"	"	"	"	3.2	[10.8]	—	3.6	—	—	水鳥文	" E-800
755	"	"	"	"	2.9	8.9	—	4.9	—	—	唐草文、桐花文、見込み五弁花(コシロツクサ類)	" E-801
756	"	"	"	"	2.3	8.5	—	—	—	—	水鳥文、唐文折枝葉、高台内四角(木切立風)	" E-802
757	"	"	"	"	3.1	19.2	—	12.1	—	—	樹木文、真文宝文	" E-803
758	"	"	"	"	2.4	11.6	—	7.2	—	—	唐草文、かえで文、真文宝文	" E-804
759	"	"	"	"	2.8	12.5	—	6.4	—	—	唐付き鉄輪化粧掛汁	" E-805
760	"	"	"	"	3.2	12.9	—	8.2	—	—	官輪文、見込み五弁花(コシロツクサ類)	" E-806
761	"	"	"	"	2.7	13.4	—	9.0	—	—	唐草文、山水文、口縁、真文草文	" E-807

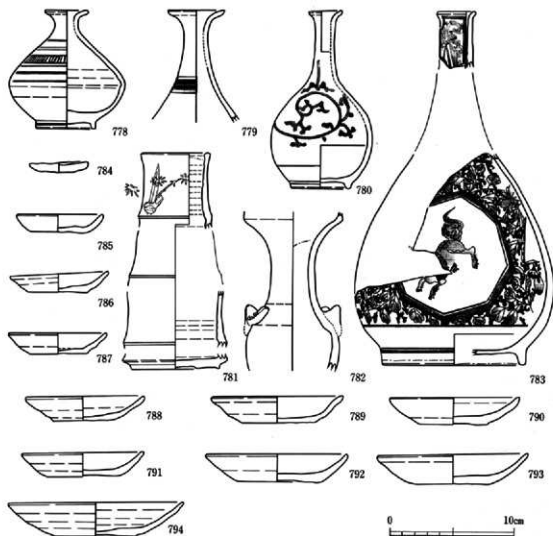
第84表 近世の遺物60 SK78②



第93図 近世の遺物⑥ SK78⑬

図版番号	遺構	器		種	法	量			軸差・調整等		備考	登録番号
		用途	器形			材質	器高	口径	胴径	底径		
93-762	SK78	貯蔵具	鉢	磁器	9.4	(21.4)	—	(9.3)	—	—	白土・黒土系磁器、見込み丹弁花 肥前	E-808
763	〃	貯蔵具	鉢	〃	4.6	(9.0)	—	5.6	—	—	山水文	〃 E-809
764	〃	〃	〃	〃	5.6	(8.6)	—	(5.5)	—	—	宝雲文	〃 E-810
765	〃	その他	蓋	〃	2.8	(8.8)	—	—	—	—	唐花文(コンユ+ク判)766の蓋	〃 E-811
766	〃	貯蔵具	蓋物	〃	6.5	(8.4)	—	(5.4)	—	—	〃 765の身	〃 E-812
767	〃	その他	蓋	〃	—	11.5	—	—	—	—	唐花文	〃 E-813
768	〃	〃	〃	〃	5.6	(11.8)	—	—	—	—	山水文	〃 E-814
769	〃	〃	〃	〃	—	(5.3)	—	—	—	—	上絵付草花文	〃 E-815
770	〃	〃	〃	〃	2.1	7.7	—	—	—	—	青磁	〃 E-816
771	〃	〃	〃	〃	3.2	11.2	—	—	—	—	白磁	〃 E-817
772	〃	神仏具	仏教具	〃	4.9	5.4	—	3.2	—	—	唐絵+ゾイ、五三桐文	〃 E-818
773	〃	〃	〃	〃	5.5	8.0	—	4.6	—	—	唐降文	〃 E-819
774	〃	〃	〃	〃	7.2	(9.1)	—	4.9	—	—	青磁染付、見込み唐文	〃 E-820
775	〃	〃	〃	〃	6.0	8.3	—	4.0	—	—	山水文	〃 E-821
776	〃	貯蔵具	蓋物	〃	1.5	(5.3)	—	3.4	—	—	白磁	〃 E-822
777	〃	その他	水漏	〃	8.5	—	—	5.0	—	—	彫刻、樹木とオウム	〃 E-823

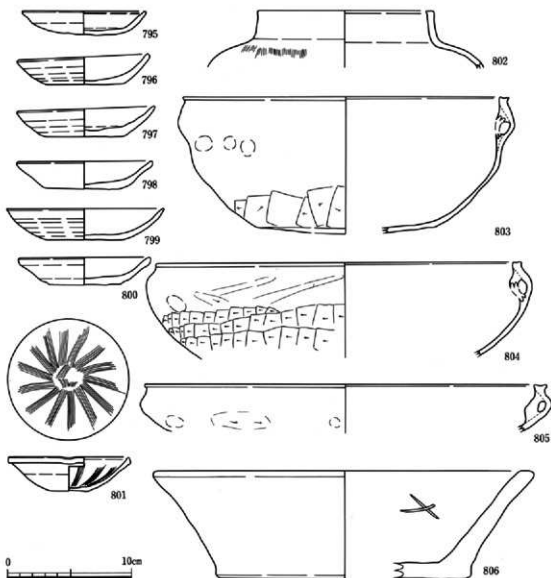
第95図 近世の遺物⑥ SK78⑭



第94図 近世の遺物⑧ SK78⑧

図版番号	遺構	器 種			法 量				軸差・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
94-778	SK78	化粧具	壺	磁器	9.5	3.3	—	4.7	—	—	上絵付(赤)	肥前 E-824
779	〃	調理具	瓶	〃	—	(4.6)	—	—	—	—	〃	E-825
780	〃	神仏具	〃	〃	14.3	2.6	—	4.6	—	—	唐草文	E-826
781	〃	その他	花生	〃	—	(5.2)	—	7.0	—	—	白磁、白土磨輪 笹竹文	E-827
782	〃	神仏具	瓶	〃	—	—	—	—	—	—	青磁	E-828
783	〃	貯蔵具	〃	〃	—	2.9	—	(11.2)	—	—	獅子、唐草文	E-829
784	〃	供養具	皿	土器	0.8	4.5	—	—	—	—	—	E-830
785	〃	灯火具	〃	〃	1.5	6.9	—	4.5	—	—	—	E-831
786	〃	〃	〃	〃	1.5	7.7	—	4.9	—	—	全面に黒色付着物	E-832
787	〃	〃	〃	〃	1.6	7.8	—	4.5	—	—	口縁部に3ヶ所芯痕	E-833
788	〃	〃	〃	〃	1.9	9.4	—	4.7	—	—	—	E-834
789	〃	〃	〃	〃	1.9	9.7	—	5.8	—	—	—	E-835
790	〃	〃	〃	〃	2.2	10.2	—	5.5	—	—	—	E-836
791	〃	〃	〃	〃	2.1	10.2	—	5.8	—	—	—	E-837
792	〃	〃	〃	〃	2.2	11.3	—	6.4	—	—	—	E-838
793	〃	〃	〃	〃	2.3	11.9	—	5.9	—	—	口縁部に油埋付着	E-839
794	〃	〃	〃	〃	2.7	13.9	—	6.2	—	—	〃	E-840

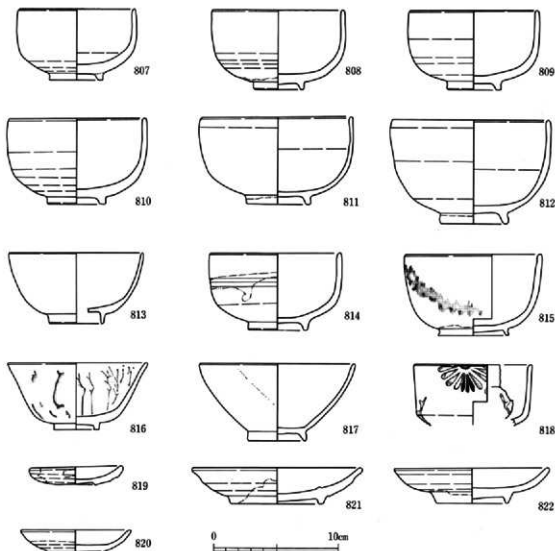
第95表 近世の遺物⑧ SK78⑧



第95図 近世の遺物④ SK78④

図版番号	遺構	器		種	法	量				胎素・調整等		備考	登録番号
		用途	器形			材質	器高	口径	胴径	底径	内面		
95-795	SK78	灯火具	皿	土器	1.9	9.7	—	—	—	—	—	油煙付着	E-841
796	〃	〃	〃	〃	2.1	10.2	—	6.2	—	—	—	—	E-842
797	〃	〃	〃	〃	2.2	10.8	—	6.2	—	—	—	—	E-843
798	〃	〃	〃	〃	2.2	10.6	—	5.8	—	—	—	口縁部に2ヶ所芯痕	E-844
799	〃	〃	〃	〃	2.5	12.4	—	6.1	—	—	—	底部調整痕ナシ、平滑、芯痕あり	E-845
800	〃	〃	〃	〃	2.2	10.3	—	5.6	—	—	—	口縁部に1ヶ所芯痕	E-846
801	〃	〃	〃	〃	2.7	9.6	—	2.7	—	—	—	口縁部に油煙付着、本来の用途不明	E-849
802	〃	調理具	釜	〃	—	(13.4)	—	—	—	—	—	釜、内面に内容物付着	E-850
803	〃	〃	鍋	〃	—	(26.0)	—	—	—	—	—	内面横ヘケ、内耳2ヶ所	E-851
804	〃	〃	〃	〃	—	30.0	—	—	—	—	—	横付着ナシ未使用?、内面横ヘケ、内耳2ヶ所	E-852
805	〃	〃	〃	〃	—	(32.0)	—	—	—	—	—	胎粘	E-853
806	〃	その他	鉢	〃	8.6	30.0	—	(19.7)	—	—	—	一部外面に2次の焼付痕	常滑 E-854

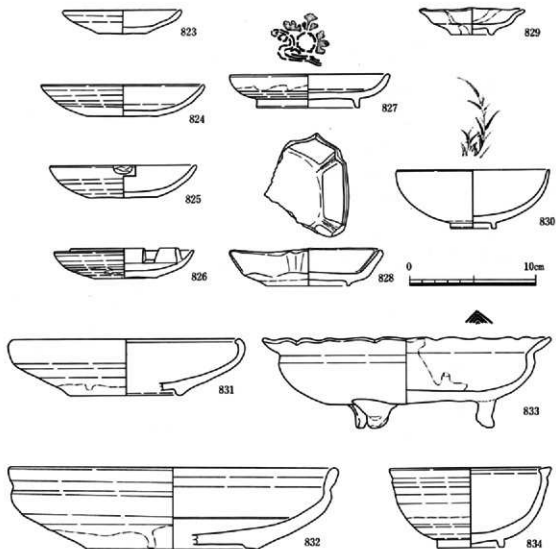
第87表 近世の遺物④ SK78④



第96図 近世の遺物⑥ SK135①

図版番号	酒類	器 種			法 量			軸差・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面		
96-807	SK135	供膳具	碗	陶器	5.7 (9.1)	—	4.1	灰釉	灰釉		瀬戸美濃 E-857
808	〃	〃	〃	〃	6.4	10.6	—	4.0	〃	〃	E-858
809	〃	〃	〃	〃	6.3	10.1	—	4.2	〃	〃	E-859
810	〃	〃	〃	〃	6.8	10.7	—	4.5	〃	〃	E-860
811	〃	〃	〃	〃	7.0	11.8	—	5.0	〃	〃	E-861
812	〃	〃	〃	〃	8.4	(12.3)	—	5.2	〃	〃	E-862
813	〃	〃	〃	〃	5.6	(10.6)	—	(4.2)	透明釉	透明釉	灰手、内面にハケ目 肥前 E-863
814	〃	〃	〃	〃	6.1	10.2	—	4.7	灰釉	灰+鉄釉	掛け分け、腰錐茶碗 瀬戸美濃 E-864
815	〃	〃	〃	〃	6.5	(10.7)	—	(5.6)	〃	灰釉	貝覆輪 肥前 E-865
816	〃	〃	〃	〃	5.4	11.0	—	3.6	透明釉	透明釉	内・外面に打ハケ目、白土化粧 〃 E-866
817	〃	〃	〃	〃	6.2	(12.2)	—	4.6	灰釉	灰釉	瀬戸美濃 E-867
818	〃	〃	〃	〃	—	(9.2)	—	—	〃	〃	内・外面に上絵付、菊文(赤、青)京・奈良 E-868
819	〃	〃	皿	〃	1.4	7.25	—	2.9	〃	〃	瀬戸美濃 E-869
820	〃	〃	〃	〃	1.8	(8.6)	—	4.4	〃	〃	〃 E-870
821	〃	〃	〃	〃	2.9	(13.3)	—	(7.3)	〃	〃	〃 E-871
822	〃	〃	〃	〃	2.8	(12.2)	—	5.7	〃	〃	〃 E-872

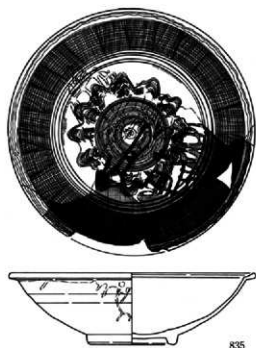
第88表 近世の遺物⑥ SK135①



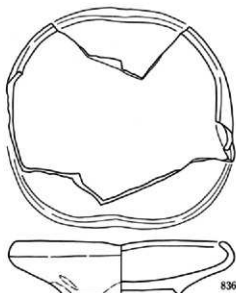
第97図 近世の遺物② SK135②

図版番号	遺構	器種			法量				釉薬・調整等		備考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
97-823	SK135	灯火具	皿	陶器	1.9	9.3	—	4.0	鉄釉	鉄釉	瀬戸美濃	E-873
824	"	"	"	"	2.5	12.85	—	5.7	"	"	外面の一部に油煙付着	E-874
825	"	"	"	"	2.6	11.6	—	5.5	"	"	外面に油煙付着	E-875
826	"	"	"	"	2.4	(11.0)	—	5.0	"	"	内、外面に油煙付着	E-876
827	"	供養具	"	"	2.65	12.45	—	8.2	灰釉	灰釉	鉄摺絵、菊水文	E-877
828	"	"	"	"	3.0	(11.9)	—	6.5	"	"	摺打ち	E-878
829	"	"	"	"	2.15	(8.2)	—	3.3	灰+鉄釉	灰+鉄釉	餅分け	E-879
830	"	"	"	"	4.7	12.0	—	3.6	灰釉	灰釉	鉄絵、草文?	関西 E-880
831	"	"	鉢	"	4.5	(18.2)	—	(9.0)	"	"	瀬戸美濃	E-881
832	"	"	"	"	6.5	25.9	—	(13.8)	"	"	"	E-882
833	"	"	"	"	7.3	(22.6)	—	(12.2)	灰+鉄釉	灰+鉄釉	内面餅分け、内面に刷印あり	肥前 E-883
834	"	"	"	"	6.4	(12.5)	—	5.3	灰釉	灰釉	瀬戸美濃	E-884

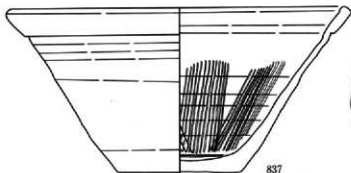
第89図 近世の遺物② SK135②



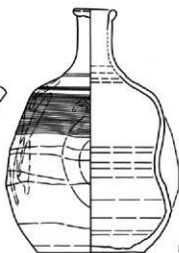
835



836



837



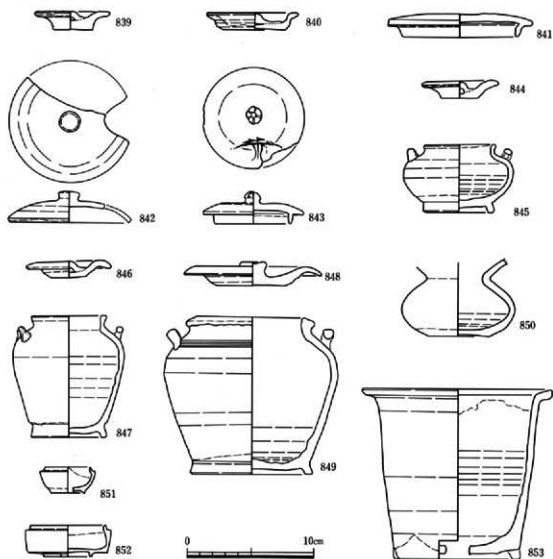
838



第98図 近世の遺物⑧ SK135③ (836, 837は1:4, 835は1:8)

図版番号	遺構	用途	器形	材質	法 量				釉薬・調整等		備 考	登録番号
					器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面		
98-835	SK135	供膳具	鉢	陶器	15.2	52.4	—	17.8	褐色+緑釉	褐色+緑釉	三鳥手、二彩	肥前 E-885
836	〃	〃	〃	〃	3.9	[16.4]	—	9.4	灰釉	灰釉		瀬戸美濃 E-886
837	〃	調理具	楕鉢	〃	17.6	35.3	—	13.0	鉄釉	鉄釉		〃 E-887
838	〃	貯蔵具	瓶	〃	19.6	2.9	13.5	8.5	〃	〃	灰釉? 渡し掛け	〃 E-888

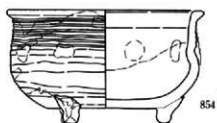
第99図 近世の遺物⑧ SK135③



第99図 近世の遺物⑥ SK135④

図版番号	遺構	器	種	用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面	釉美・調整等	備	考	登録番号
98-839	SK135	その他	蓋	陶器	1.4	6.0	—	—	—	—	—	—	灰釉		瀬戸美濃	E-889
840	*	*	*	*	1.3	7.2	—	—	—	—	—	—	鉄釉	*	*	E-890
841	*	*	*	*	1.8	11.5	—	—	—	—	—	—	*	*	*	E-891
842	*	*	*	*	2.5	9.8	—	—	—	—	—	—	*	*	灯明皿の蓋	E-892
843	*	*	*	*	2.5	8.0	—	—	—	—	灰釉	灰釉	*	*	鉄絵、松文?	E-893
844	*	*	*	*	1.4	6.1	—	—	—	—	—	—	鉄釉	*	845の蓋	E-894
845	*	貯蔵具	壺	*	5.4	5.5	8.7	5.1	—	—	鉄釉	*	*	844の身、御由黒塗	*	E-895
846	*	その他	蓋	*	1.3	6.7	—	—	—	—	—	—	*	*	847の蓋	E-896
847	*	貯蔵具	壺	*	9.8	4.8	8.8	5.1	—	—	—	—	*	*	846の身	E-897
848	*	蓋	*	*	1.9	10.9	—	—	—	—	—	—	*	*	849の蓋	E-898
849	*	貯蔵具	壺	*	12.6	8.5	13.8	9.4	—	—	—	—	*	*	848の身	E-899
850	*	化粧具	*	*	—	—	8.9	4.9	—	—	灰釉	灰釉	*	*	唾壺か	E-900
851	*	貯蔵具	蓋物	*	2.0	[3.0]	—	[2.6]	—	—	—	—	*	*	*	E-901
852	*	*	*	*	2.5	5.9	—	3.7	—	—	—	—	*	*	*	E-902
853	*	その他	鉢	*	13.7	14.8	—	9.8	—	—	—	—	*	*	榎木鉢	E-903

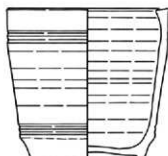
第91表 近世の遺物⑥ SK135④



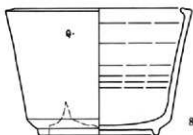
854



855



856



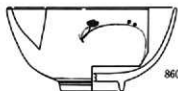
857



858



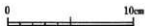
859



860



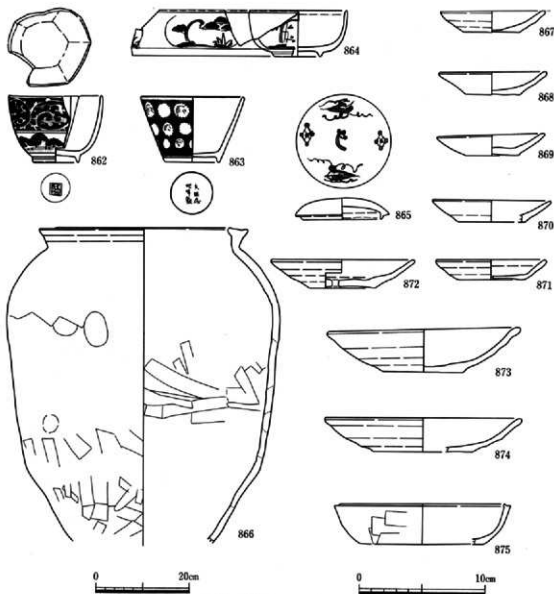
861



第100図 近世の遺物⑨ SK135⑤ (854は1:4、855~857は1:8)

図版番号	遺構	部 種		法	量	軸高・調整等		備 考	登録番号				
		用途	器形			材質	器高			口径	胴径	底径	内面
100-854	SK135	神仏具	香炉	陶器	12.1	20.0	—	12.4	灰軸	灰軸	緑釉、鉄軸渡し掛け、 <small>口縁部打痕痕</small> 、 <small>口縁部打痕痕</small> 、 <small>口縁部打痕痕</small>	瀬戸製造	E-904
855	〃	貯蔵具	甕	〃	30.5	[30.6]	—	21.4	鉄軸	鉄軸	灰釉渡し掛け	〃	E-905
856	〃	〃	〃	〃	31.9	[33.8]	—	23.8	〃	〃	口縁部打痕痕	〃	E-906
857	〃	火具	鉢	〃	27.2	[35.0]	—	25.2	灰軸	灰軸	〃	〃	E-907
858	〃	供養具	碗	磁器	4.7	9.4	—	4.4	—	—	竹文	肥前	E-908
859	〃	〃	〃	〃	—	10.6	—	—	—	—	菊文?コンキヤ印判	〃	E-909
860	〃	〃	〃	〃	6.7	[13.4]	—	[4.7]	—	—	梅樹文	〃	E-910
861	〃	〃	〃	〃	6.0	[14.8]	—	4.8	—	—	内・外面山水文	〃	E-911

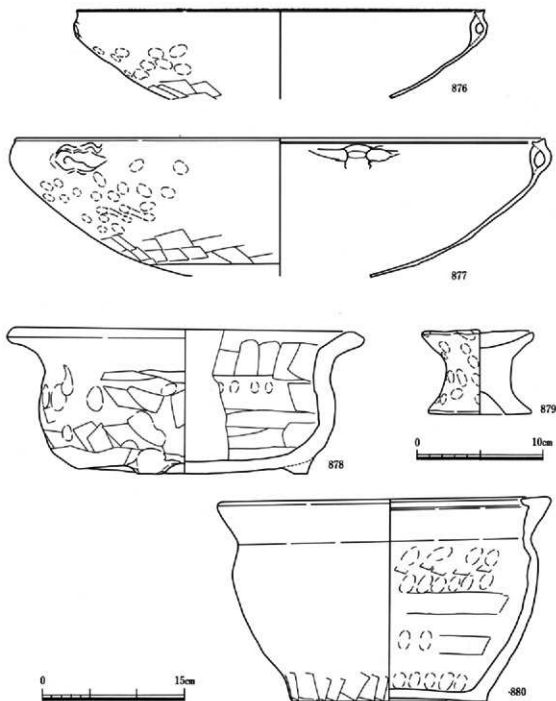
第92表 近世の遺物⑨ SK135⑤



第101図 近世の遺物⑧ SK135⑤ (866は1:8)

図版番号	遺構	器種		材質	量				軸差・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
101-862	SK135	伊勢具	小碗	磁器	5.5	(7.5)	—	3.5	—	—	唐草文、松文	肥前	E-912
863	〃	〃	猪口	〃	5.3	7.9	—	4.2	—	—	帯紋、雲輪文、口縁、タテ	〃	E-913
864	〃	〃	小碗	〃	4.7	(7.6)	—	3.6	—	—	松竹梅文?	〃	E-914
865	〃	その他	蓋	〃	1.7	6.3	—	—	—	—	木の葉文	〃	E-915
866	〃	貯蔵具	甕	陶器	—	36.8	—	—	—	—	丸絡め	宮崎	E-916
867	〃	灯火具	皿	土器	1.7	8.2	—	4.4	—	—	—	—	E-917
868	〃	〃	〃	〃	1.8	8.4	—	4.3	—	—	—	—	E-918
869	〃	〃	〃	〃	1.65	8.4	—	4.2	—	—	—	—	E-919
870	〃	〃	〃	〃	1.7	(9.2)	—	(4.3)	—	—	—	—	E-920
871	〃	〃	〃	〃	1.6	(8.5)	—	(5.2)	—	—	—	—	E-921
872	〃	〃	〃	〃	2.2	11.3	—	5.2	—	—	底部焼練後穿孔	—	E-922
873	〃	〃	〃	〃	3.4	14.9	—	6.2	—	—	—	—	E-923
874	〃	〃	〃	〃	2.8	(15.3)	—	(7.8)	—	—	—	—	E-924
875	〃	調理具	鍋	〃	3.2	(13.0)	—	(9.8)	—	ワコハケ	—	—	E-925

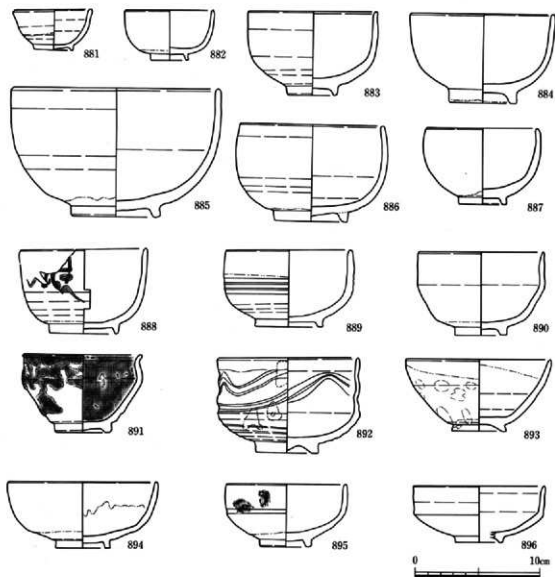
第93表 近世の遺物⑧ SK135⑤



第102図 近世の遺物⑧ SK135㉔ (880は1:4)

図版番号	遺構	器種			法量			軸差・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
102-876	SK135	調理具	鍋	土器	—	(32.4)	—	—	ヨコハケ	指押え、煎り	内耳2ヶ所	E-926	
877	〃	〃	〃	〃	—	(42.0)	—	—	〃	〃	内耳3ヶ所	E-927	
878	〃	火具	鉢	〃	11.6	26.9	—	18.2	指押え、ナデ	ヘラ磨り	3尾付、口縁部に打痕風 部分等に指押え	常滑	E-928
879	〃	その他	その他	〃	6.7	8.7	—	8.2	—	指押え	器台?	—	E-929
880	〃	火具	鉢	〃	21.6	34.3	—	20.2	指押えのち ナデ、板ナデ	ナデ、板ナデ	—	常滑	E-930

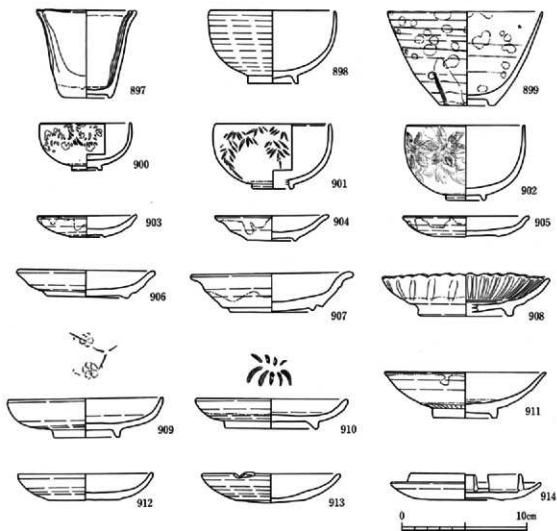
第94表 近世の遺物⑧ SK135㉔



第103図 近世の遺物⑧ SK144D

図版番号	遺構	器種		材質	法量				釉薬・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
103-881	SK144	供膳具	碗	陶器	3.2	6.1	—	3.1	灰釉	灰+精釉	内面に漆?が付着	瀬戸美濃	E-931
882	〃	〃	〃	〃	4.0	7.0	—	2.8	〃	灰釉	〃	〃	E-932
883	〃	〃	〃	〃	6.8	(10.2)	—	3.8	灰釉+唇部鉄釉	灰釉+唇部鉄釉	〃	〃	E-933
884	〃	〃	〃	〃	7.2	11.3	—	5.3	灰釉	灰釉	〃	〃	E-934
885	〃	〃	〃	〃	10.5	(16.4)	—	7.2	〃	〃	〃	〃	E-935
886	〃	〃	〃	〃	7.7	(11.4)	—	8.5	〃	〃	〃	〃	E-936
887	〃	〃	〃	〃	6.1	(8.8)	—	3.8	〃	〃	〃	〃	E-937
888	〃	〃	〃	〃	6.7	(10.0)	—	5.5	〃	灰釉	呉須絵, 山水文, 御室茶碗	〃	E-938
889	〃	〃	〃	〃	6.1	9.9	—	5.3	〃	灰+鉄釉	掛け分け, 腰筒茶碗	〃	E-939
890	〃	〃	〃	〃	5.6	(9.8)	—	4.1	〃	灰釉	〃	〃	E-940
891	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	6.3	9.4	—	4.3	鉄釉	鉄釉	釉薬が斑紋状となる	〃	E-941
892	〃	供膳具	碗	〃	7.6	11.2	—	5.0	〃	〃	〃	〃	E-942
893	〃	〃	〃	〃	5.8	11.4	—	4.2	灰釉	鉄+灰釉	掛け分け, 口唇部鉄釉	〃	E-943
894	〃	〃	〃	〃	5.3	(11.9)	—	4.3	鉄+灰釉	灰釉	掛け分け	〃	E-944
895	〃	〃	〃	〃	5.0	9.5	—	4.0	灰釉	〃	外面一部に呉須, 鉄釉掛け	〃	E-945
896	〃	〃	〃	〃	4.5	(10.5)	—	(3.8)	鉄釉	鉄釉	〃	〃	E-946

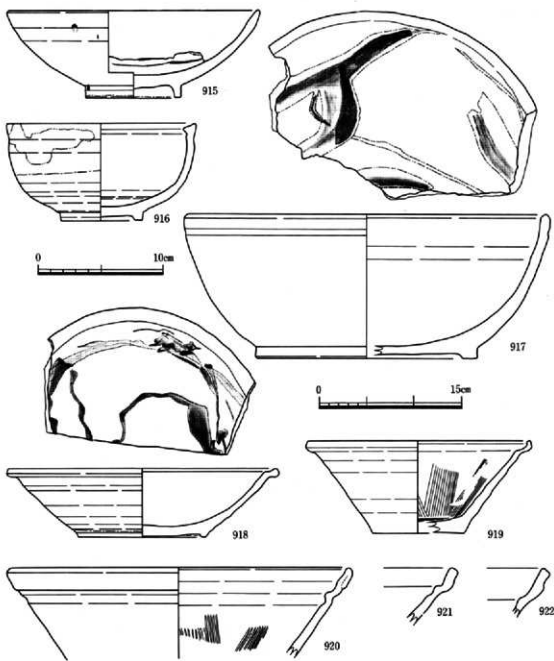
第95表 近世の遺物⑧ SK144D



第104図 近世の遺物群 SK144②

図版番号	遺構	器種			法			輪素・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
104-897	SK144	供膳具	碗	陶器	7.0	(8.0)	—	3.7	灰釉	灰釉	内面に布目肌、型作り 瀬戸美濃	E-947
898	〃	〃	〃	〃	5.8	(9.9)	—	4.0	鉄釉	鉄釉	不明	E-948
899	〃	〃	〃	〃	7.4	12.3	—	4.3	灰釉	灰釉	白泥敷し	E-949
900	〃	〃	〃	〃	3.8	7.2	—	2.3	〃	〃	上絵付、花文(赤、緑、青)京・信楽	E-950
901	〃	〃	〃	〃	5.2	(9.0)	—	(3.3)	〃	〃	〃、笹竹文(青、緑)	E-951
902	〃	〃	〃	〃	6.0	9.3	—	3.1	〃	〃	〃、蕪花文?(青、白)	E-952
903	〃	〃	皿	〃	1.7	7.8	—	1.8	〃	〃	瀬戸美濃	E-953
904	〃	〃	〃	〃	2.0	9.0	—	3.9	〃	〃	〃	E-954
905	〃	〃	〃	〃	1.6	9.9	—	5.0	〃	〃	外面、底部に墨塗り	E-955
906	〃	灯火具	〃	〃	2.1	10.9	—	6.5	長石釉	長石釉	〃	E-956
907	〃	供膳具	〃	〃	3.1	12.7	—	6.8	灰釉	灰釉	外面油煙付着	E-957
908	〃	〃	〃	〃	3.2	(13.3)	—	(7.4)	〃	〃	型打ち	E-958
909	〃	〃	〃	〃	3.1	12.5	—	5.2	〃	〃	真須繪絵、物文	E-959
910	〃	〃	〃	〃	2.4	12.0	—	7.4	〃	〃	鉄磨粉、笹文	E-960
911	〃	〃	〃	〃	3.7	(12.8)	—	5.1	緑釉	緑+灰釉	外面へフ割り 見込み絵/目録割ぎ 肥前	E-961
912	〃	灯火具	〃	〃	2.1	10.8	—	5.0	鉄釉	鉄釉	瀬戸美濃	E-962
913	〃	〃	〃	〃	2.3	11.0	—	5.1	〃	〃	〃	E-963
914	〃	〃	〃	〃	2.1	11.8	—	5.9	〃	〃	〃	E-964

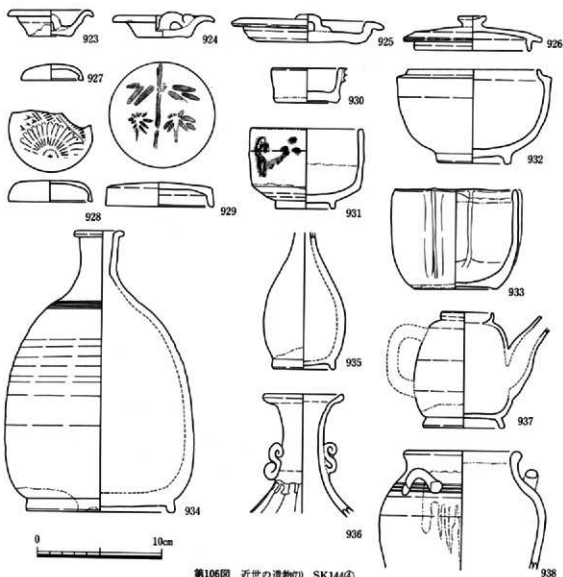
第96表 近世の遺物群 SK144②



第105図 近世の遺物⑦ SK144㊸ (918~922:2 1 : 4)

図版番号	遺構	器 種			法 量			釉薬・調整等		備 考	登録 番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
105-915	SK144	供膳具	鉢	陶器	6.9	(2.2)	—	7.8	灰釉	灰釉	内、外面鉄絵	瀬戸美濃	E-965
916	"	"	"	"	7.7	(15.1)	—	6.6	"	"	鉄釉流し掛け	"	E-966
917	"	調理具	"	"	15.3	(38.0)	—	(23.2)	長石釉	長石釉	鉄絵、緑釉流し掛け	"	E-967
918	"	供膳具	"	"	7.3	(28.4)	—	(13.6)	"	"	"	"	E-968
919	"	調理具	嚢鉢	"	9.9	(23.5)	—	(9.7)	鉄釉	鉄釉	"	"	E-969
920	"	"	"	"	—	(36.0)	—	—	"	"	"	"	E-960
921	"	"	"	"	—	—	—	—	"	"	"	"	E-971
922	"	"	"	"	—	—	—	—	"	"	"	"	E-972

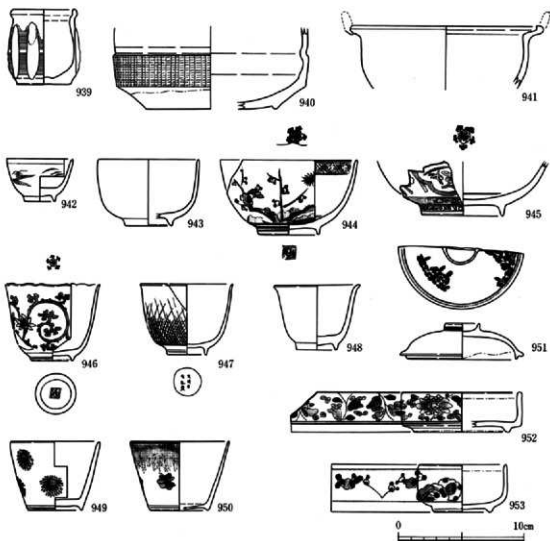
第97表 近世の遺物⑦ SK144㊸



第106図 近世の遺物⑦ SK144④

図版番号	遺構	器種		材質	法量				釉薬・調整等		備考	登録番号
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
106-923	SK144	その他	陶器	2.1	6.9	—	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬戸美濃	E-973
924	"	"	"	2.0	8.2	—	—	—	"	"	"	E-974
925	"	"	"	2.2	12.2	—	—	—	"	"	"	E-975
926	"	"	"	2.7	9.2	—	—	—	"	"	"	E-976
927	"	"	"	1.3	5.0	—	—	—	灰釉	不明	"	E-977
928	"	"	"	1.7	6.7	—	—	—	"	鉄器絵、矢羽模文	瀬戸美濃	E-978
929	"	"	"	1.9	8.6	—	—	—	"	呉須指、輪竹文	"	E-979
930	"	"	鉢	2.7	5.3	—	4.9	—	灰釉	把手欠損	不明	E-980
931	"	"	灰落し	6.4	8.8	—	4.4	—	"	鉄釉、呉須散し	瀬戸美濃	E-981
932	"	貯蔵具	蓋物	7.5	10.5	—	5.8	5.8	灰釉	灰釉	瀬戸美濃	E-982
933	"	"	鉢	7.9	(9.8)	—	6.6	—	灰釉	器下に白泥による化粧掛け	京・信楽	E-983
934	"	"	甕	22.4	3.4	15.3	12.5	—	鉄釉	"	瀬戸美濃	E-984
935	"	神仏具	"	—	—	—	6.5	4.5	灰釉	"	"	E-985
936	"	"	"	—	—	—	6.1	—	"	"	"	E-986
937	"	貯蔵具	"	9.2	3.9	7.9	6.4	—	鉄釉	"	"	E-987
938	"	化粧具	壺	—	8.6	13.3	—	—	青+5の4釉	器の内部に鉄器付着、器蓋も同様	"	E-988

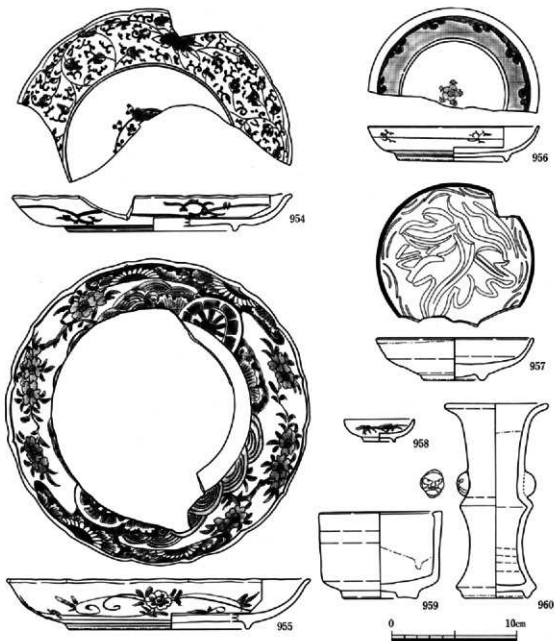
第98表 近世の遺物⑦ SK144④



第107図 近世の遺物⑦ SK144⑤

図版番号	遺構	器種		法量				軸系・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
107-939	SK144	その他	火入れ	陶器	5.9	4.8	—	4.3	—	鉄+灰胎	口縁端部打潰痕、掛け分け	瀬戸美濃	E-989
940	伊藤具	鉢	—	—	—	—	—	(10.6)	鉄胎	鉄胎	不明	E-990	
941	調理具	鍋	—	14.8	—	—	—	—	—	—	瀬戸美濃	E-991	
942	伊藤具	小碗	圓器	4.4	5.3	—	2.4	—	—	—	山水文	肥前	E-992
943	—	—	—	5.3	(8.0)	—	(3.8)	—	—	—	有線脚付、見込み五弁花(手書き)、口錆	—	E-993
944	—	—	碗	6.0	(10.8)	—	4.8	—	—	—	藍分茶湯碗、蘭文、見込み五弁花(手書き)	—	E-994
945	—	—	—	—	—	—	6.4	—	—	—	染錦手(呉須、金、緑)	—	E-995
946	—	—	小杯	6.1	(7.6)	—	3.2	—	—	—	浮白土唐草文(手書き)、口錆	—	E-996
947	—	—	—	5.6	(7.4)	—	3.1	—	—	—	高台内「大明成化年製」	—	E-997
948	—	—	—	5.2	6.7	—	3.2	—	—	—	白磁	—	E-998
949	—	—	蓋口	5.5	17.1	—	4.3	—	—	—	菊花文	—	E-999
950	—	—	—	5.4	(7.8)	—	(4.6)	—	—	—	雨降文、口錆	—	E-1000
951	—	—	その他	2.9	8.6	—	—	—	—	—	草花文	—	E-1001
952	—	—	貯蔵具	3.2	(9.6)	—	(8.0)	—	—	—	ボタノ唐花文	—	E-1002
953	—	—	—	3.8	6.8	—	4.4	—	—	—	雪輪文	—	E-1003

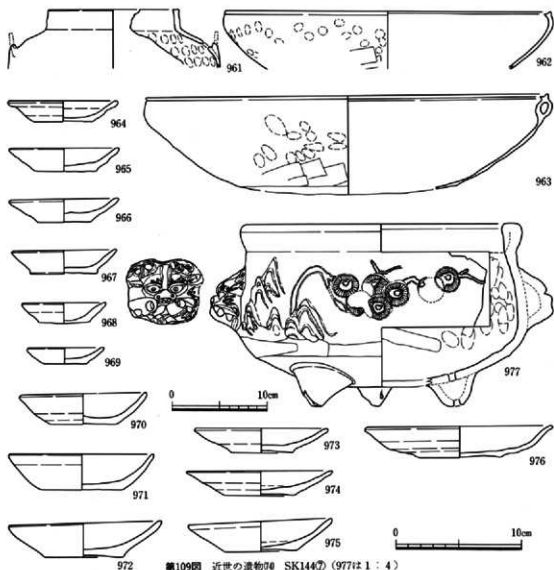
第99表 近世の遺物⑦ SK144⑤



第108図 近世の遺物⑦ SK144④

図版番号	遺構	器		種	法			量		軸差・調整等		備 考	登録番号
		用途	器形		材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
108-954	SK144	供膳具	皿	磁粉	2.8	22.0	—	13.4	—	—	—	ボタン唐草、見込み梅樹文	肥前 E-1004
955	〃	〃	〃	〃	4.0	24.4	—	14.4	—	—	水車文?	〃 E-1005	
956	〃	〃	〃	〃	2.8	13.6	—	8.7	—	—	唐草文、桜葉唐草文 見込み唐草文(字揃ま)	〃 E-1006	
957	〃	〃	〃	〃	3.4	12.6	—	4.4	—	—	青磁掛け分け、ヘラ彫り、口綱	〃 E-1007	
958	〃	〃	〃	〃	1.8	5.8	—	2.6	—	—	笹竹文	〃 E-1008	
959	〃	神仏具	香炉	〃	6.9	9.4	—	5.7	—	—	青磁	〃 E-1009	
960	〃	〃	瓶	〃	15.5	8.0	—	5.0	—	—	〃	〃 E-1010	

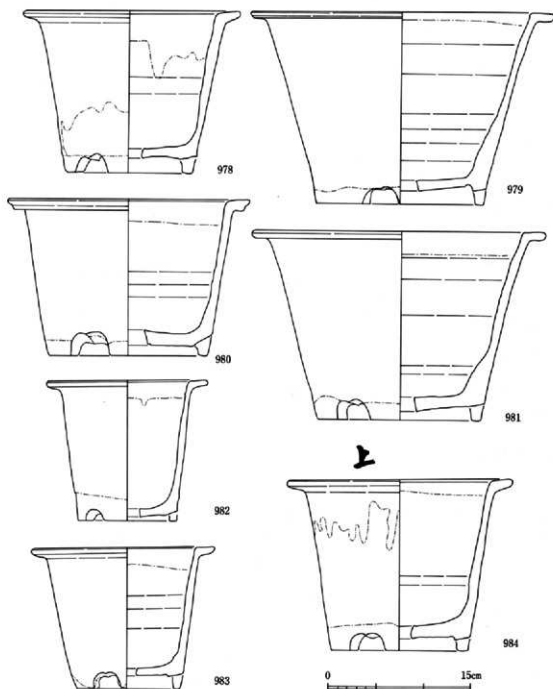
第100表 近世の遺物⑦ SK144④



第109図 近世の遺物⑦ SK144㉔ (977は1:4)

図版番号	遺構	器		種	法	量			釉薬・調整等		備考	登録番号
		用途	器形			材質	器高	口径	胴径	底径		
109-961	SK144	調理具	釜	土器	—	(13.0)	—	—	—	—	茶釜形	E-1011
962	〃	〃	鍋	〃	—	34.5	—	—	—	—	押入、削り	E-1012
963	〃	〃	〃	〃	—	42.6	—	—	—	〃	内耳3ヶ所?	E-1013
964	〃	灯火具	皿	〃	1.7	8.6	—	4.7	—	—	口縁部に4~5ヶ所芯痕	E-1014
965	〃	〃	〃	〃	1.7	5.5	—	4.8	—	—	口縁部油煙痕	E-1015
966	〃	〃	〃	〃	1.8	8.4	—	4.1	—	—	—	E-1016
967	〃	〃	〃	〃	1.9	8.15	—	5.3	—	—	—	E-1017
968	〃	〃	〃	〃	1.6	6.6	—	4.0	—	—	口縁部に1ヶ所芯痕	E-1018
969	〃	〃	〃	〃	1.3	5.9	—	3.4	—	—	—	E-1019
970	〃	〃	〃	〃	2.5	10.0	—	5.3	—	—	—	E-1020
971	〃	〃	〃	〃	2.8	(11.4)	—	6.4	—	—	内・外面に油煙付着	E-1021
972	〃	〃	〃	〃	2.5	12.0	—	6.2	—	—	口縁部に1ヶ所芯痕	E-1022
973	〃	〃	〃	〃	1.8	10.3	—	4.7	—	—	—	E-1023
974	〃	〃	〃	〃	1.8	11.3	—	5.5	—	—	—	E-1024
975	〃	〃	〃	〃	2.2	11.4	—	5.8	—	—	口縁部油煙痕	E-1025
976	〃	〃	〃	〃	2.4	14.6	—	6.4	—	—	口縁部/器内外面油煙付着	E-1026
977	〃	火具	鉢	瓦器	19.4	(28.6)	—	—	—	—	貼付文、松竹梅文、3文足付(中空)	E-1030

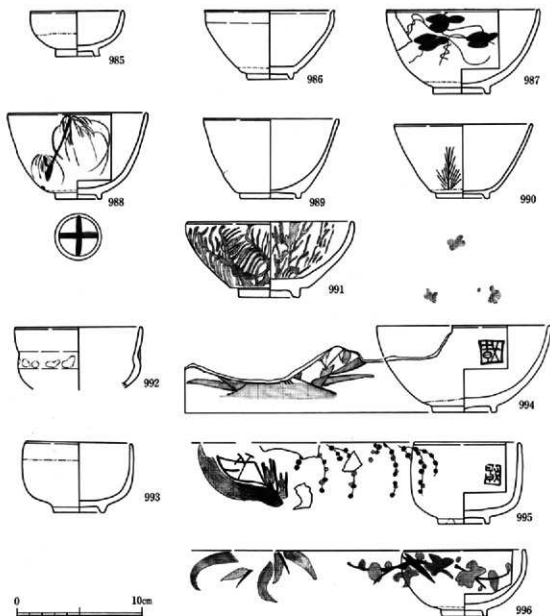
第101表 近世の遺物⑦ SK144㉔



第110図 近世の遺物⑨ SK136・145 (978~984は1:4)

図版番号	遺構	器		種	材質	法				輪葉・調整等		備	考	登録番号	
		用途	器形			器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
110-978	SK136	その他	鉢	陶器	15.6	22.2	—	13.3	—	—	—	灰釉	横木鉢	瀬戸美濃	E-1031
979	〃	〃	〃	〃	20.3	29.3	—	17.6	—	—	灰釉	〃	〃	E-1032	
980	〃	〃	〃	〃	16.4	(24.8)	—	(16.6)	—	—	〃	〃	〃	E-1033	
981	〃	〃	〃	〃	20.0	30.2	—	17.2	—	—	〃	〃	〃	E-1034	
982	SK145	〃	〃	〃	14.7	16.7	—	10.4	—	—	〃	〃	〃	E-1035	
983	〃	〃	〃	〃	14.8	19.0	—	10.8	—	—	〃	〃	〃	E-1036	
984	〃	〃	〃	〃	18.0	23.2	—	14.4	—	—	〃	内面の底部に墨書「上」	〃	E-1037	

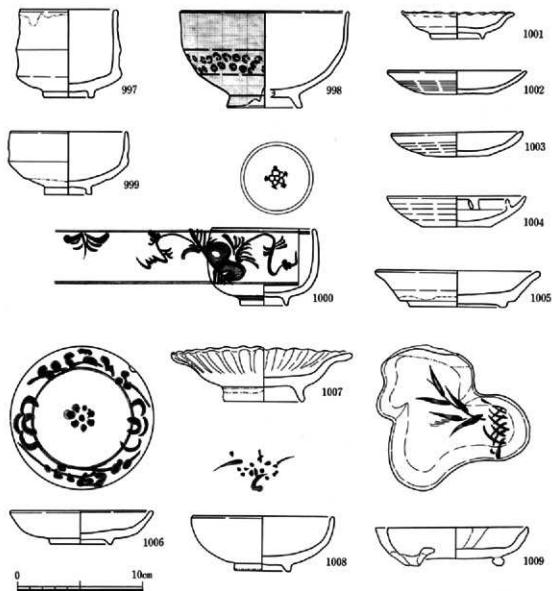
第102表 近世の遺物⑨ SK136, 145



第111図 近世の遺物⑦ SK84④

図版番号	遺構	器		種	法	量			胎薬・調整等		備	考	登録番号
		用途	器形			材質	器高	口径	胴径	底径			
111-985	SK84	供膳具	小碗	陶器	3.6	(7.5)	—	3.5	灰釉	灰釉		瀬戸美濃	E-1038
986	〃	喫茶具	天目茶碗	〃	5.5	(10.4)	—	3.6	〃	〃		〃	E-1089
987	〃	供膳具	碗	〃	6.7	12.0	—	4.5	〃	〃	鉄絵	不明	E-1040
988	〃	〃	〃	〃	7.0	11.0	—	3.7	〃	〃	〃, 新文 高台内星「十」	〃	E-1041
989	〃	〃	〃	〃	5.4	(10.8)	—	4.6	〃	〃		京・信楽	E-1042
990	〃	〃	〃	〃	6.0	(11.0)	—	4.1	〃	〃	鉄絵, 小杉茶碗	〃	E-1043
991	〃	〃	〃	〃	6.0	(13.2)	—	4.8	透明釉	透明釉	刷毛目	瀬戸美濃	E-1044
992	〃	〃	〃	〃	—	10.0	—	—	鉄釉	鉄+長石釉	長石散し	〃	E-1045
993	〃	〃	〃	〃	5.7	8.4	—	4.0	緑釉	灰+緑釉	折分け, 細茶碗	〃	E-1046
994	〃	〃	〃	〃	7.0	(13.0)	—	4.9	長石釉	長石釉	上絵付(赤, 青, 緑, 黄)	〃	E-1047
995	〃	〃	〃	〃	6.5	8.5	—	4.0	〃	〃	(赤, 緑, 黄, 鉄)	〃	E-1048
996	〃	〃	〃	〃	5.3	9.6	—	3.6	灰釉	灰釉	(赤, 黄)	〃	E-1049

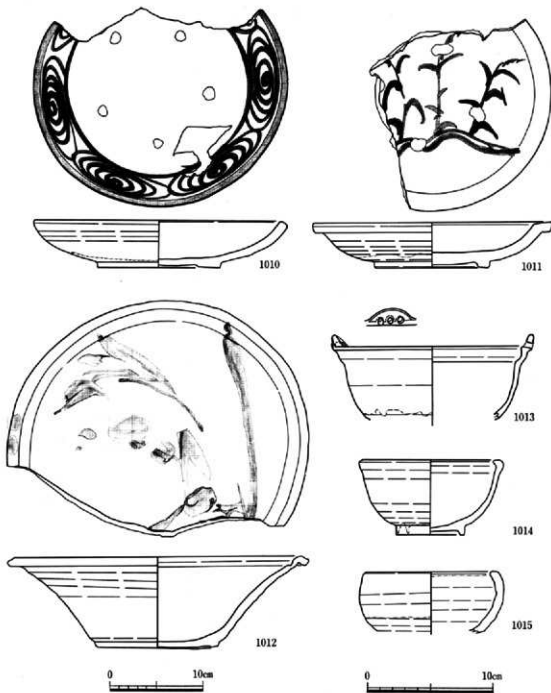
第103表 近世の遺物⑦ SK84④



第112図 近世の遺物⑦ SK84㉔

図版番号	遺構	器 種			法 量			軸差・調整等		備 考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
112-997	SK84	供膳具	碗	陶器	7.1	(7.8)	—	3.9	長石軸	鉄+長石軸	掛分け、内面貫入多し	瀬戸美濃	E-1090
998	〃	〃	〃	〃	7.8	(13.3)	—	(5.2)	灰軸	灰軸	白泥による象嵌	不明	E-1091
999	〃	〃	〃	〃	5.1	(9.4)	—	3.8	〃	〃		瀬戸美濃	E-1092
1000	〃	〃	〃	〃	6.2	8.1	—	3.8	透明軸	透明軸	呉須絵、陶胎染付、見込メ五弁花	〃	E-1093
1001	〃	〃	皿	〃	2.1	9.0	—	4.1	灰軸	灰軸		〃	E-1094
1002	〃	灯火具	〃	〃	1.9	11.0	—	5.0	鉄軸	鉄軸		〃	E-1095
1003	〃	〃	〃	〃	1.9	10.4	—	5.0	〃	〃		〃	E-1096
1004	〃	〃	〃	〃	2.5	(11.0)	—	5.5	〃	〃		〃	E-1097
1005	〃	供膳具	〃	〃	2.9	12.9	—	7.7	灰軸	灰軸	鉄軸	〃	E-1098
1006	〃	〃	〃	〃	2.7	11.2	—	5.0	透明軸	透明軸	呉須絵、陶胎染付	〃	E-1099
1007	〃	〃	〃	〃	4.4	14.4	—	6.4	長石軸	長石軸	貫入多し	〃	E-1090
1008	〃	〃	〃	〃	4.4	11.2	—	4.4	灰軸	灰軸	鉄+呉須絵、梅文置	〃	E-1091
1009	〃	〃	〃	〃	3.0	—	—	—	〃	〃	一筋軸掛分け、裏面内面両面 紅絵、墨文	〃	E-1092

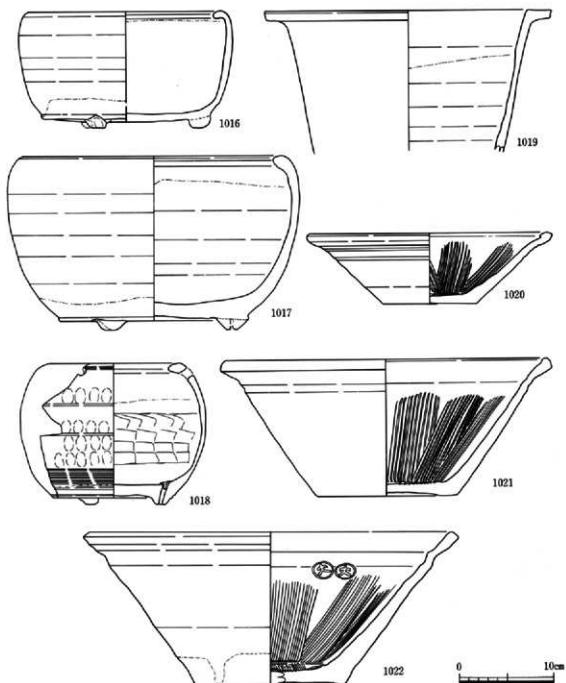
第104表 近世の遺物⑦ SK84㉔



第113図 近世の遺物⑧ SK84③ (1010~1012は1:4)

図版番号	遺構	器種		材質	量				釉薬・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
113-10110	SK84	伊勢具	皿	陶器	5.1	26.3	—	13.0	灰釉	灰釉	鉄絵、馬の目皿	瀬戸美濃	E-1064
1011	〃	〃	〃	〃	4.9	(25.3)	—	11.9	〃	〃	鉄+呉服絵、石皿	〃	E-1065
1012	〃	〃	鉢	〃	9.8	30.7	—	12.9	〃	〃	鉄絵	〃	E-1066
1013	〃	調理具	鍋	〃	—	21.0	—	—	鉄釉	鉄釉	〃	〃	E-1067
1014	〃	〃	鉢	〃	6.0	10.8	—	5.5	灰釉	灰釉	〃	〃	E-1068
1015	〃	火具	火容	〃	—	10.2	—	—	〃	〃	〃	〃	E-1069

第105表 近世の遺物⑧ SK84③



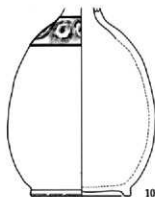
第114図 近世の遺物⑦ SK84④ (1016~1022: 1 : 4)

図版番号	遺構	器 種			法 量				軸系・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面	外 面			
114-1016	SK84	火具	鉢	陶器	(12.5)	20.2	—	17.6	鉄軸	鉄軸	3足付	瀬戸美濃	E-1070
1017	〃	〃	〃	〃	18.5	(27.6)	—	22.0	〃	〃	〃	〃	E-1071
1018	〃	〃	〃	〃	15.1	(14.0)	—	12.6	灰軸	灰軸	〃	〃	E-1072
1019	〃	その他	〃	〃	—	30.2	—	—	〃	〃	楠木鉢	〃	E-1073
1020	〃	調理具	鉢鉢	〃	7.6	(25.1)	—	10.0	鉄軸	鉄軸	〃	〃	E-1074
1021	〃	〃	〃	〃	14.6	(34.1)	—	(14.6)	〃	〃	〃	〃	E-1075
1022	〃	〃	〃	〃	16.2	(33.6)	—	(15.9)	〃	〃	内面②刻印2ヶ所	〃	E-1076

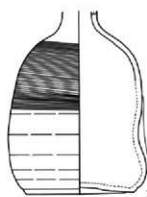
第106表 近世の遺物⑦ SK84④



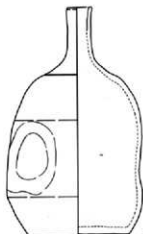
1023



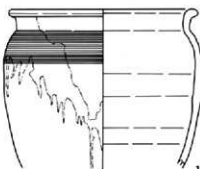
1024



1025



1026



1027



1028



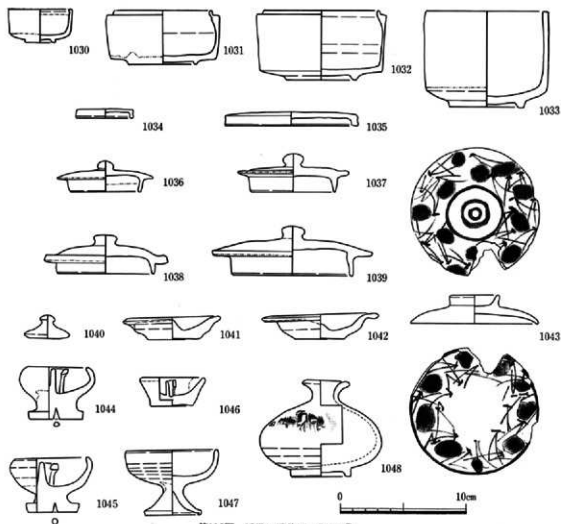
1029



第115図 近世の遺物⑧ SK84㊦ (1023~1027は1:4)

図版番号	遺構	用途	器形	材質	寸法				軸差・調整等		備考	登録番号	
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
115-1023	SK84	化粧具	壺	陶器	20.0	9.7	17.1	14.1	—	鉄軸	3耳付、御由墨書	瀬戸美濃	E-1077
1024	〃	貯蔵具	瓶	〃	—	—	15.5	10.4	—	灰軸	呉須絵	〃	E-1078
1025	〃	〃	〃	〃	—	—	15.0	11.3	—	鉄軸	〃	〃	E-1079
1026	〃	〃	〃	〃	24.1	2.4	14.4	10.5	—	鉄+灰軸	外面灰軸履し掛け、底部印	犬山	E-1080
1027	〃	〃	壺	〃	—	26.0	27.0	—	—	鉄軸	〃	〃	E-1081
1028	〃	その他	水筒	〃	3.2	—	—	8.9	—	灰軸	陽刻文、ぶどうとリス	〃	E-1082
1029	〃	〃	〃	〃	(6.8)	—	—	—	—	〃	大黒形	〃	E-1083

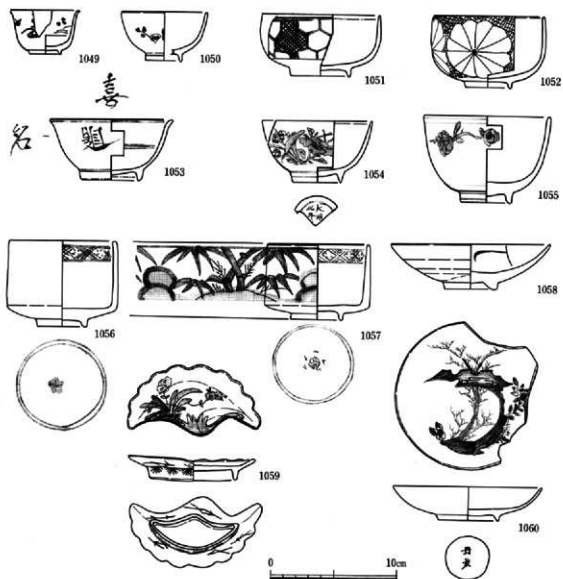
第107表 近世の遺物⑧ SK84㊦



第116図 近世の遺物⑧ SK84⑧

図版番号	遺構	器種		法	数			物業・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形		材質	器高	口径	胴径	底径			内面	外面
116-1030	SK84	貯蔵具	蓋物	陶器	2.7	(5.2)	—	2.4	灰釉	灰釉	瀬戸美濃	E-1084	
1031	〃	〃	〃	〃	4.3	(7.8)	—	5.6	〃	〃	〃	E-1085	
1032	〃	〃	〃	〃	5.6	9.0	—	5.6	〃	〃	〃	E-1086	
1033	〃	〃	〃	〃	7.7	9.8	—	6.0	〃	〃	〃	E-1087	
1034	〃	その他	蓋	〃	0.8	4.6	—	—	〃	〃	〃	E-1088	
1035	〃	〃	〃	〃	1.1	10.6	—	—	〃	〃	〃	E-1089	
1036	〃	〃	〃	〃	2.5	7.7	—	—	灰釉	〃	〃	E-1090	
1037	〃	〃	〃	〃	3.1	8.9	—	—	〃	〃	〃	E-1091	
1038	〃	〃	〃	〃	3.1	9.9	—	—	鉄釉	〃	〃	E-1092	
1039	〃	〃	〃	〃	3.9	12.8	—	—	〃	〃	〃	E-1093	
1040	〃	〃	〃	〃	1.8	3.7	—	—	〃	〃	〃	E-1094	
1041	〃	〃	〃	〃	1.8	7.8	—	—	〃	〃	〃	E-1095	
1042	〃	〃	〃	〃	1.9	9.3	—	—	〃	〃	〃	E-1096	
1043	〃	〃	〃	〃	2.3	10.8	—	—	長石釉	長石釉	鉄釉+呉須絵、松葉文	〃	E-1097
1044	〃	灯火具	ひょうそく	〃	4.2	4.8	—	3.9	鉄釉	鉄釉	〃	E-1098	
1045	〃	〃	〃	〃	4.4	5.9	—	3.9	〃	〃	〃	E-1099	
1046	〃	〃	〃	〃	2.3	4.9	—	3.3	灰釉	灰釉	〃	E-1100	
1047	〃	神仏具	仏教具	〃	5.1	7.3	—	4.4	〃	〃	〃	E-1101	
1048	〃	化粧具	窓	〃	7.8	3.1	9.6	4.7	灰+鉄釉	鉄釉散し、髮油窓	〃	E-1102	

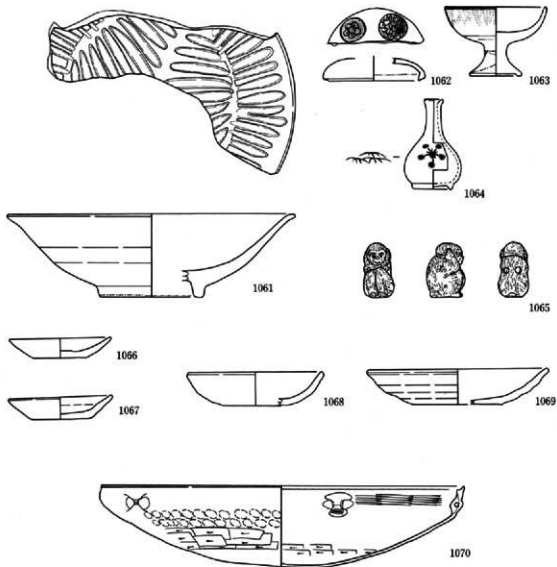
第106図 近世の遺物⑧ SK84⑧



第117図 近世の遺物⑧ SK84㉔

図版番号	遺構	器 用途	器 形状	材 質	法			量		軸差・調整等		備 考	登録 番号
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
117-1049	SK84	供膳具	小杯	磁器	3.5	5.4	—	2.5	—	—	草花文?	肥前	E-1103
1050	〃	〃	小碗	〃	3.9	[6.8]	—	[2.9]	—	—	草花文	〃	E-1104
1051	〃	貯蔵具	蓋物	〃	4.9	[9.3]	—	4.6	—	—	—	〃	E-1105
1052	〃	供膳具	碗	〃	5.7	[8.7]	—	3.5	—	—	菊散し文	〃	E-1106
1053	〃	〃	〃	〃	5.0	[9.8]	—	4.4	—	—	—	中国	E-1107
1054	〃	〃	〃	〃	5.0	[8.8]	—	[3.8]	—	—	花文、高台内「大明□化年□」	〃	E-1108
1055	〃	〃	〃	〃	6.7	[9.9]	—	4.1	—	—	花文	肥前	E-1109
1056	〃	〃	〃	〃	6.9	8.4	—	3.6	—	—	青磁染付	〃	E-1110
1057	〃	〃	〃	〃	6.1	7.8	—	4.0	—	—	笹竹文	〃	E-1111
1058	〃	〃	皿	〃	3.7	[12.5]	—	4.1	—	—	青磁、輪光け	〃	E-1112
1059	〃	〃	〃	〃	1.6	[10.7]	—	7.1	—	—	草花文、新松島文 型打ち、糸切職工	〃	E-1113
1060	〃	〃	〃	〃	2.7	11.8	—	4.7	—	—	樹木文、高台内「丹桂」	中国	E-1114

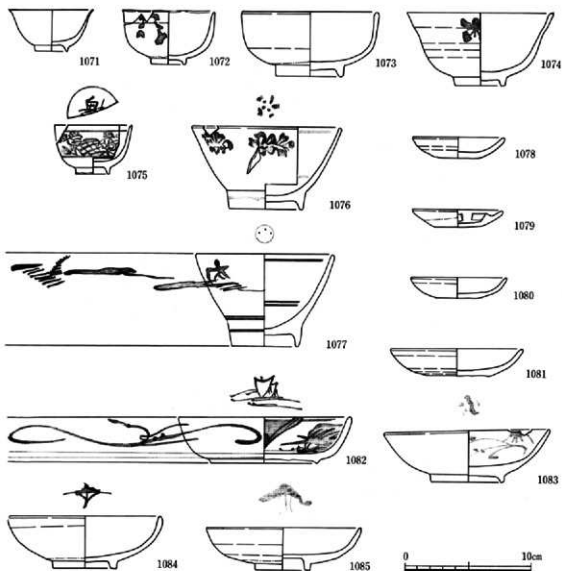
第109表 近世の遺物⑧ SK84㉔



第118図 近世の遺物⑧ SK84⑧

図版番号	遺構	器種		法 量				軸系・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
118-1061	SK84	供養具	鉢	磁器	6.7	(22.8)	—	(8.1)	—	—	青磁、内面文様押し	肥前 E-1115
1062	〃	その他	蓋	〃	—	(8.2)	—	—	—	—	丸文	〃 E-1116
1063	〃	神仏具	仏教具	〃	5.5	(8.0)	—	4.1	—	—	用縁り文	〃 E-1117
1064	〃	〃	蓋	〃	7.2	(1.5)	—	3.0	—	—	梅、竹文	〃 E-1118
1065	〃	その他	水筒	〃	4.3	—	3.0	3.0	—	鉄軸	筒か楕形	〃 E-1119
1066	〃	灯火具	皿	土器	1.6	8.1	—	4.3	—	—	口縁部油煙付着	E-1120
1067	〃	〃	〃	〃	1.8	8.3	—	4.6	—	—	—	E-1121
1068	〃	〃	〃	〃	2.7	(10.6)	—	(5.2)	—	—	—	E-1122
1069	〃	〃	〃	〃	2.8	(14.2)	—	(7.1)	—	—	—	E-1123
1070	〃	調理具	鍋	〃	8.7	38.8	—	—	横へテ、肩り面押し、肩り	—	炮烙、内耳3ヶ所	E-1124

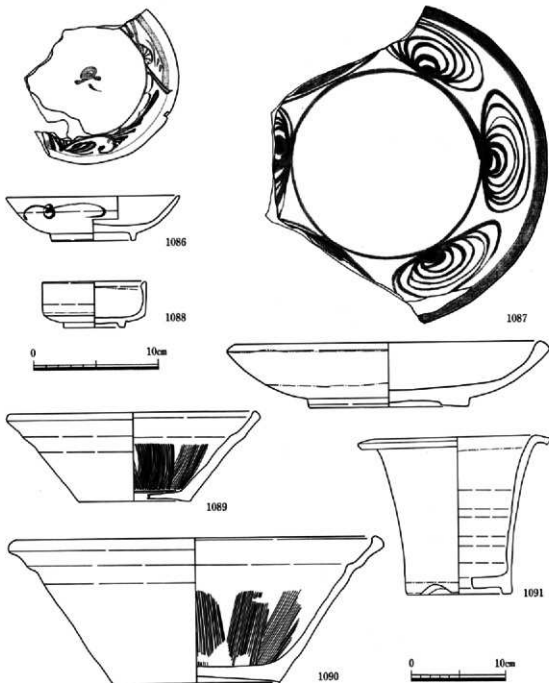
第110図 近世の遺物⑧ SK84⑧



第119図 近世の遺物⑩ SK56D

図版番号	遺構	器		材質	量				軸差・調整等		備考	登録番号
		用途	器形		器高	口径	胴径	底径	内面	外面		
119-1071	SK56	供膳具	杯	陶器	3.3	(6.7)	—	2.6	灰軸	灰軸	瀬戸美濃	E-1128
1072	〃	〃	小碗	〃	4.3	(7.4)	—	2.8	〃	〃	繪花、鉄絵、下り藤文?	E-1129
1073	〃	〃	碗	〃	5.2	(10.7)	—	5.4	鉄軸	鉄軸	〃	E-1130
1074	〃	〃	〃	〃	5.9	(11.4)	—	4.1	灰軸	灰軸	鉄絵、梅花文、口縁	E-1131
1075	〃	〃	小碗	〃	2.0	(6.1)	—	2.8	〃	〃	上絵付(赤、青)、カゴと花文 不明	E-1132
1076	〃	〃	碗	〃	6.7	11.8	—	6.0	〃	〃	呉須絵、陶胎染付	E-1133
1077	〃	〃	〃	〃	7.4	11.0	—	5.3	〃	〃	〃、陶胎染付	E-1134
1078	〃	〃	皿	〃	1.7	7.2	—	3.0	〃	〃	〃	E-1135
1079	〃	灯火具	〃	〃	1.4	7.2	—	3.6	〃	〃	〃	E-1136
1080	〃	〃	〃	〃	1.7	7.5	—	3.4	鉄軸	鉄軸	〃	E-1137
1081	〃	〃	〃	〃	2.2	10.4	—	4.6	〃	〃	〃	E-1138
1082	〃	供膳具	〃	〃	3.7	13.7	—	8.5	灰軸	灰軸	呉須絵、陶胎染付	E-1139
1083	〃	〃	〃	〃	4.2	(13.0)	—	5.6	〃	〃	唐草文、呉須絵	E-1140
1084	〃	〃	〃	〃	4.2	12.0	—	5.1	〃	〃	鉄絵	E-1141
1085	〃	〃	〃	〃	3.5	12.2	—	4.4	〃	〃	鉄絵、松文	E-1142

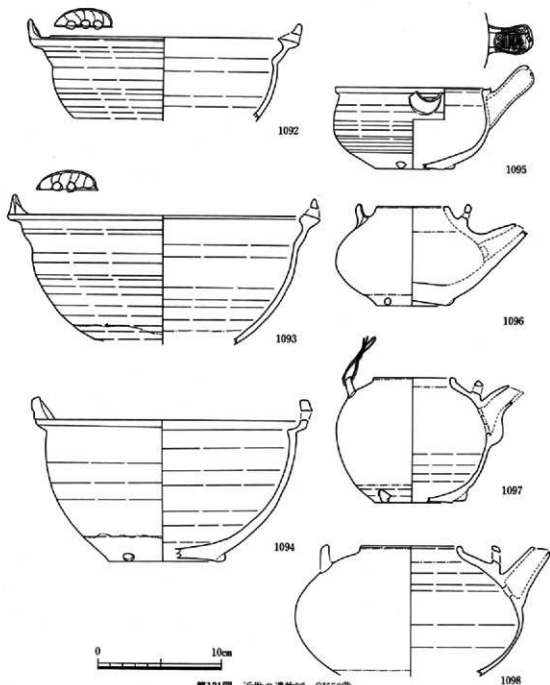
第111表 近世の遺物⑩ SK56D



第120図 近世の遺物⑧ SK56㉔ (1088, 1089:1.1 : 4)

図版番号	遺構	部			法			量		釉薬・調整等		備考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
120-1086	SK56	供膳具	皿	陶器	3.6	13.8	—	6.6	灰釉	灰釉	呉須絵、陶器染付、扇文	瀬戸美濃	E-1143
1087	〃	〃	〃	〃	5.2	(24.0)	—	12.6	〃	〃	鉄絵、馬の目皿	〃	E-1144
1088	〃	〃	鉢	〃	3.7	8.2	—	4.8	〃	〃	〃	〃	E-1145
1089	〃	調理具	鐏鉢	〃	9.5	26.6	—	(12.1)	鉄釉	鉄釉	〃	〃	E-1146
1090	〃	〃	〃	〃	15.1	(38.0)	—	17.8	〃	〃	〃	〃	E-1147
1091	〃	その他	鉢	〃	12.6	(12.7)	—	(8.2)	灰釉	硝木鉢	〃	〃	E-1149

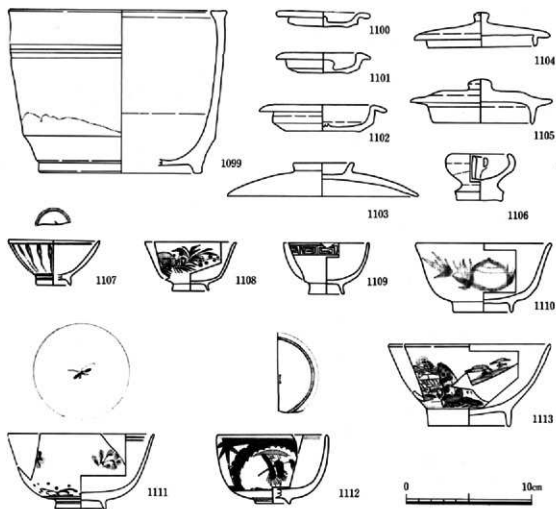
第121表 近世の遺物⑧ SK56㉔



第121図 近世の遺物⑩ SK56㉓

図版番号	遺構	器 種		材 質	器高	口径	量		軸差・調整等		備 考	登録 番号	
		用 途	器 形				胴径	底径	内 面	外 面			
121-1092	SK56	調理具	鍋	陶器	—	18.2	—	—	鉄軸	鉄軸	瀬戸美濃	E-1149	
1093	"	"	"	"	—	24.8	—	—	"	"	"	E-1150	
1094	"	"	"	"	11.3	20.6	—	(8.5)	"	"	"	E-1151	
1095	"	"	"	"	6.6	12.2	—	(5.4)	灰軸	灰軸	外面底部磨付着、肥手上漬跡印	不明	E-1152
1096	"	"	瓶	"	8.0	5.7	—	5.6	灰+緑軸	緑軸	掛け分け	瀬戸美濃	E-1153
1097	"	"	"	"	10.0	(6.4)	—	(6.1)	"	"	"	"	E-1154
1098	"	"	"	"	—	7.8	—	—	灰+鉄軸	鉄軸	"	"	E-1155

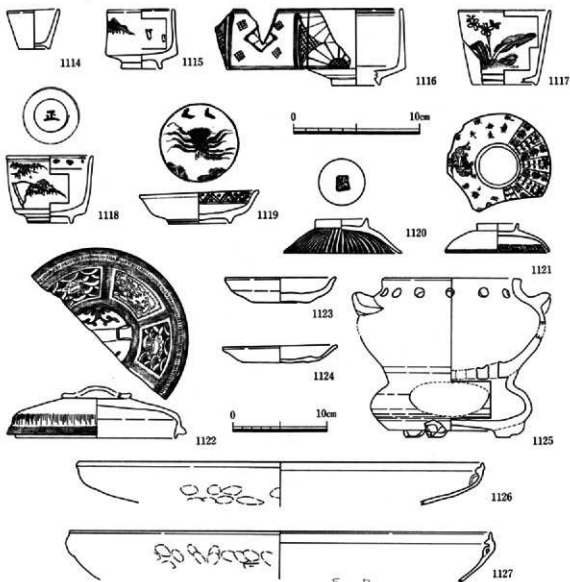
第113表 近世の遺物⑩ SK56㉓



第122図 近世の遺物④ SK56④

図版番号	遺構	部 種		法 量			種属・調整等		備 考	登録番号			
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径			内 面	外 面	
122-1099	SK56	貯蔵具	甕	陶器	13.1	17.3	—	(12.8)	鉄軸	鉄軸	瀬戸美濃	E-1156	
1100	※	その他	蓋	※	1.2	7.5	—	—	※	※	※	E-1157	
1101	※	※	※	※	1.7	7.6	—	—	※	フマ：梅花形	※	E-1158	
1102	※	※	※	※	2.1	10.3	—	—	※	灰釉	※	E-1159	
1103	※	※	※	※	2.7	15.6	—	—	※	灰釉	※	E-1160	
1104	※	※	※	※	2.8	10.9	—	—	※	鉄軸	内面煤付着	E-1161	
1105	※	※	※	※	3.6	11.3	—	—	※	緑釉	※	E-1162	
1106	※	灯火具	ひょうそく	※	3.8	4.5	—	3.5	鉄軸	※	※	E-1163	
1107	※	供膳具	小碗	磁器	3.6	(7.3)	—	(2.8)	—	—	※	E-1165	
1108	※	※	※	※	3.9	(7.3)	—	3.0	—	—	草花文	不明	E-1166
1109	※	※	※	※	4.2	(6.8)	—	2.8	—	—	雲文	瀬戸美濃	E-1167
1110	※	※	碗	※	5.5	(10.7)	—	4.7	—	—	宝珠文?	※	E-1168
1111	※	※	※	※	6.1	(11.7)	—	4.1	—	—	※	※	E-1169
1112	※	※	※	※	5.6	(8.8)	—	(2.8)	—	—	肥前	E-1170	
1113	※	※	※	※	6.6	(12.8)	—	6.4	—	—	山水文	※	E-1171

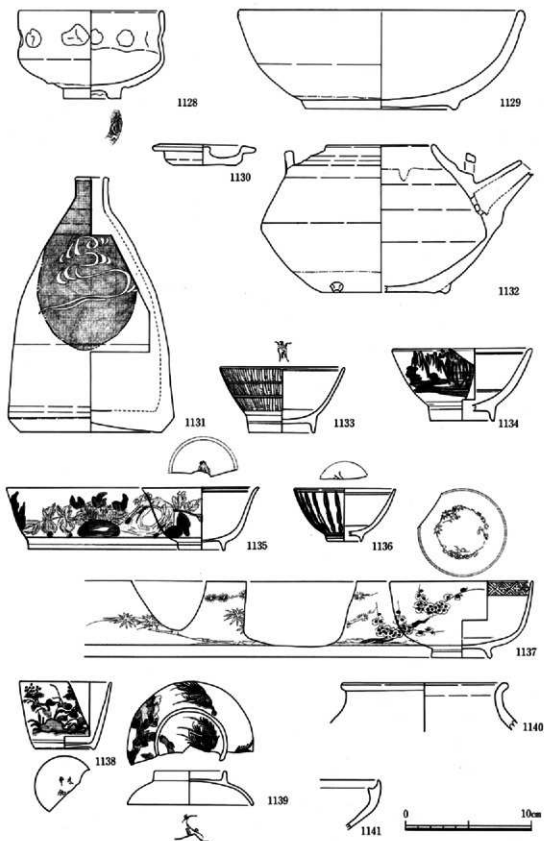
第114表 近世の遺物④ SK56④



第123図 近世の遺物08 SK56⑤ (1124~1126は1:4)

図版番号	遺構	器		種	法				量		軸長・調整等		備	考	登録番号
		用途	器形		材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
123-1114	SK56	伊勢具	小杯	磁器	3.1	4.1	—	2.5	—	—	—	—	山水文	肥前	E-1172
1115	〃	〃	小碗	〃	4.8	5.3	—	3.2	—	—	—	〃	瀬戸美濃	〃	E-1173
1116	〃	〃	碗	〃	6.1	(7.3)	—	(3.8)	—	—	—	菊散し文	〃	〃	E-1174
1117	〃	〃	猪口	〃	6.0	(7.3)	—	(5.0)	—	—	—	草花文	肥前	〃	E-1175
1118	〃	〃	碗	〃	5.4	(6.8)	—	3.6	—	—	—	笹竹文	不明	〃	E-1176
1119	〃	〃	皿	〃	2.5	9.4	—	4.9	—	—	—	〃	瀬戸美濃	〃	E-1177
1120	〃	その他	蓋	〃	2.7	9.5	—	—	—	—	—	麦藁手	〃	〃	E-1178
1121	〃	〃	〃	〃	2.3	8.3	—	—	—	—	—	牧童文	〃	〃	E-1179
1122	〃	〃	〃	〃	—	14.5	—	—	—	—	—	茶罌子・土師科(赤・赤)、電文・肥前 青島文	〃	〃	E-1180
1123	〃	灯火具	皿	土器	2.0	8.6	—	4.4	—	—	—	〃	〃	〃	E-1181
1124	〃	〃	〃	〃	1.3	8.9	—	4.5	—	—	—	〃	〃	〃	E-1182
1125	〃	火具	その他	〃	17.1	(13.2)	—	(13.1)	—	—	—	焼印	〃	〃	E-1183
1126	〃	調理具	鍋	〃	—	(43.4)	—	—	—	—	—	〃	〃	〃	E-1184
1127	〃	〃	〃	〃	—	(46.2)	—	—	—	—	—	〃	〃	〃	E-1185

第115表 近世の遺物08 SK56⑤



第124図 近世の遺物回 SD03

図版番号	遺構	器 種		法 量				軸葉・調整等		備 考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
124—1128	SD03	供膳具	椀	陶器	7.1	11.6	—	4.6	鉄軸	鉄軸	長石散し、曇付に刻印	瀬戸美濃	E-1186
1129	〃	〃	鉢	鉢	7.9	[22.5]	—	12.0	〃	〃	〃	〃	E-1187
1130	〃	その他	蓋	〃	1.7	8.2	—	—	〃	〃	〃	〃	E-1188
1131	〃	貯蔵具	瓶	〃	20.5	2.8	—	11.3	—	緑釉	雲と流水文(輪かき取り)	〃	E-1189
1132	〃	調理具	〃	〃	11.9	7.8	18.6	[8.9]	—	鉄	〃	〃	E-1190
1133	〃	供膳具	椀	磁器	5.3	[9.8]	—	5.2	—	—	梵字文	肥前	E-1191
1134	〃	〃	〃	〃	5.7	[11.0]	—	[5.0]	—	—	山水文	〃	E-1192
1135	〃	〃	〃	〃	5.0	9.3	—	3.7	—	—	牡丹文	瀬戸美濃	E-1193
1136	〃	〃	〃	〃	4.2	8.1	—	[2.8]	—	—	〃	肥前	E-1194
1137	〃	〃	〃	〃	6.1	11.3	—	4.7	—	—	外面・見込松竹梅文	〃	E-1195
1138	〃	〃	〃	〃	5.4	[7.3]	—	[4.8]	—	—	草花文 高台内「太」字盤	〃	E-1196
1139	〃	その他	蓋	〃	2.7	10.1	—	—	—	—	松文	〃	E-1197
1140	〃	火具	壺	土器	—	[13.0]	—	—	—	—	内面煤付着	〃	E-1198
1141	〃	調理具	鍋	〃	—	—	—	—	—	—	軸塔	〃	E-1199

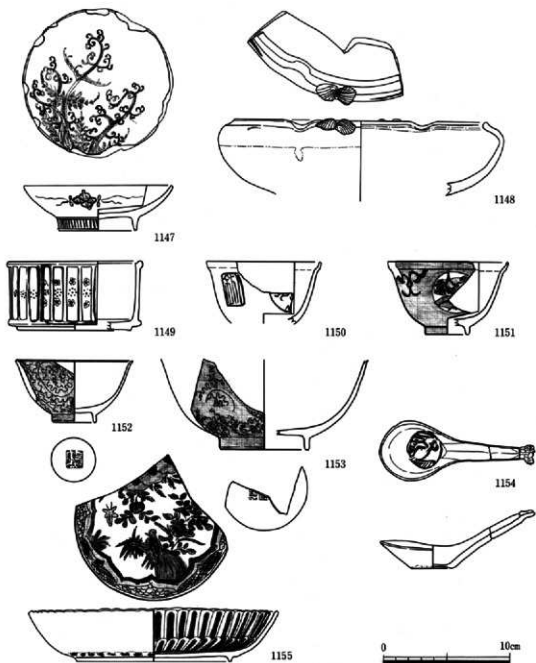
第116表 近世の遺物⑧ SD03



第125図 近世の遺物⑩ その他①

図版番号	遺構	器 種		法 量				軸葉・調整等		備 考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
125—1142	SK172	供膳具	鉢	陶器	5.9	15.3	—	5.8	長石軸	長石軸	鉄軸、志野織部(台付鉢)	美濃	E-1201
1143	SD14	その他	蓋	〃	4.3	7.9	—	—	灰釉	灰釉	鉄軸、織部、みみずく香伊の蓋	〃	E-1202
1144	検出	〃	水筒	〃	3.5	—	—	3.1	—	鉄軸	水鳥形、中世田原	瀬戸美濃	E-1203
1145	SD16	供膳具	鉢	〃	3.7	9.8	—	5.0	透明釉	透明釉	上絵付(赤、緑、黄)	不明	E-1204
1146	検出	〃	皿	〃	4.4	[20.6]	—	10.0	〃	〃	〃 (〃)	〃	E-1205

第117表 近世の遺物⑩ その他①



第126図 近世の遺物00 その他②

図版番号	遺構	器種		法				量		軸差・調整等		備考	登録番号
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
126-1147	SD13	供膳具	皿	磁器	3.6	11.8	—	6.4	—	—	摩手文 裏文宝文 鱗島	肥前	E-1206
1148	SK71	〃	〃	〃	—	(20.0)	—	—	—	—	青磁掛分け、口縁に貝形装飾	〃	E-1207
1149	SD14	貯蔵具	蓋物	〃	5.5	10.5	—	(9.0)	—	—	上給付(青、緑、赤) 虫籠形段重	〃	E-1208
1150	検出	供膳具	鉢	〃	—	(9.2)	—	—	—	〃 (赤)	中国(清)	〃	E-1209
1151	〃	〃	〃	〃	5.8	(9.5)	—	(3.4)	—	赤色釉	上給付(黄、緑、鉄、青)	〃	E-1210
1152	〃	〃	〃	〃	5.0	(9.3)	—	3.5	—	緑色顔料	軸上塗り、毛彫り、襷懸ぎ底	〃	E-1211
1153	〃	〃	〃	〃	—	—	—	(7.0)	—	〃	〃	〃	E-1212
1154	SD13	〃	その他	〃	4.6	12.4	4.8	3.2	—	—	透串、鶴文、襷懸ぎ底	〃	E-1213
1155	検出	〃	皿	〃	4.2	(19.8)	—	12.3	—	—	花鳥文、漆懸ぎ底	中国(明)	E-1214

第118表 近世の遺物00 その他②

焼塩壺

本道跡出土の焼塩壺は、身455点、蓋200点であった。身・蓋ともに成形技法が異なるタイプが出土しており、時期的にもそれぞれ時間幅がみられた。身・蓋の分類については渡辺誠氏により詳細に行われているものに依拠し、これに従うこととする。

(1) 身

身は成形技法の差などにより、9類に分かれる。柱状の芯で粘土紐を輪積み成形しているもの(身A類)、板状粘土を芯に巻き付け、底部に粘土塊を充填し、口縁部は段状に削り出された蓋受けをもつもの(身B類)、身B類の蓋受けが退化し痕跡的になったもの(身C類)、器形全体を同時に型によって作り、小型で器壁が極端に厚く蓋受けをもたないもの(身E類)、身B類の形態・製法にロクロによる調整を加えたもの(身H類)、形態は身B類と同様であるが、ロクロ成形のもの(身I類)、ロクロ成形による扁平な壺で、体部が極端に厚手のもの(身L類)、型に粘土塊を詰め込み、内面を布を巻いた芯によって押圧したもの(渡辺分類未出のため仮に身X類)、身C類と形態的には共通するが全体の器壁が薄く粗製であるもの(同様に未出のため仮に身Z類)に分類できる。

1-74・113-123は身A類である。円板状粘土による底部から、粘土紐を輪積みにして成形している。成形時の影響によるものか、ほとんどのものが六角柱形を呈しており、内・外面ともに僅かに稜線が認められる。口縁部は内・外両側に成形時の指頭圧痕が認められる。体部内側には粘土紐による継目の痕跡が認められ、接合痕は内傾である。胎土は密で直径1-3mm粗粒砂及び極粗粒砂を含む。この身A類には、時期及び生産地を決定する上で重要な判断材料となる刻印が押されているものが多い。43には方重に「ミなと藤左衛門」、44-69には一重枠または方重に「天下一堺ミなと藤左衛門」、71-74には一重枠に「天下一御壺師堺伊織」とそれぞれ2行に分割して記されている。これらの刻印は泉州淡村の焼塩メーカーが、屋号を入れたもの、承応三(1654)年に女院御所より「天下一」の美号を拝名してこれに加えたもの、延宝七(1679)年に靈司殿より「伊織」の呼名を拝名してさらに付け加えたものであり、それぞれ1654年以前、1654年-1679年、1679-1682年のものである。「天下一伊織」の下限である天和二(1682)年というのは、幕府の禁令によって「天下一」の名を用いることができなくなった年である。

75-96・124は身B類である。内面には板状粘土による継目及び、芯を覆った粗い平織りの布目の痕跡が認められるものが多い。外側体部には一重枠に「御壺師堺伊織」と2行に分割して記された刻印が押されている。これは先述したように、幕府の禁令に伴い「天下一」を削除した淡屋の刻印で、天和二(1682)年以降のものであるが、下限は不明である。

98-112・125-132は身C類である。口縁部はB類のようにはっきり削り出されておらず、痕跡的な程度蓋受け部がつくられている。刻印は98-99のような「泉州磨生^{磨生}御壺所」と、100-112のような「泉淡伊織」とがみられる。淡屋の子孫の記録によれば「~磨生~」は正徳三(1713)年が上限、「泉淡~」は淡村が堺町奉行所付から外れたことによるが、元文三(1738)年以降のものとしかわかっておらず、いずれも下限は不明である。

141-148は身E類である。内側には成形時に僅かに回転させながら引き抜いた痕跡がみられる。容量は極端に少ない。いずれも無印であり、形態も特異であるため不明な点が多い。

97は身H類である。身B類との相違は外側体部上方に、僅かにロクロ整形の痕跡が残る点である。方重に「泉州麻生」の刻印が押されている。漢屋の子孫の記録によれば、延宝年間（1673～80）から享保年間（1716～33）のもたとされる。

133は身I類である。外側体部は剝落しているが、内側にはロクロ目が明確に認められ、底部には回転糸切り痕が残る。

151は身L類である。底部に比べ、体部が極端に厚く偏平である。胎土は緻密で、雲母を多く含んでいる。

149・150は身X類である。それぞれの体部最大径は、使用する型の違いか、僅かに位置が異なるが、これが年代差につながるかどうかは不明である。底部は削り高台状に成形されている。

136～140は身乙類である。蓋受け部が痕跡的に認められるものと、平坦になってしまったものとがみられる。成形技法は身B・C類と共通するが、器壁が薄く底部の整形などがかなり粗雑である。

身A類のうち遺存度などからはっきり無印と確認できるものは、有印のものに先行するものと思われるが、一部のものは明らかに同一遺構から、有印のものと共に出土しており、併行してつくられていた可能性も窺える。SK155では、「天下～伊織」、「御壺塩師伊織」の刻印を持つものがまともに出て出土しているが、これらは17世紀後半～18世紀初頭と考えられるものである。これと一緒に、器高が9cm以下で小型輪積み成形の、遺存度が良好なものが出土している。従ってこの時期に商標を持たない身A類の小型品が出回っていたとするならば、漢屋以外のメーカーの存在も窺えるのである。

(2) 蓋

蓋は形態上4種に大別できるが、これらの範疇には入らないものも見受けられる。上面がやや曲面的で、側面が緩やかに外側へ開くもの（蓋A類）、上面が平坦で、側面への変換点をはっきりして、垂下か、やや内側に向くもの（蓋B類）、円板形に近く、内側断面が平坦または僅かに窪むもの（蓋C類）、断面が逆凸字形を呈するもの（蓋D類）である。

152～194は蓋A類である。内外面ともに丁寧にナデ調整されているものが多い。側面が特に顕著であるのは、整形に伴うものかと思われる。上面とその裏側は指頭圧によって凸凹な面になっているものが多い。この形態は、身A類に伴うものと思われる。

195～250・265～269は蓋B類である。内側には成形時にあてた布目痕が認められる。外側全体に丁寧なナデ調整が施されているものが多い。265には方重に判読不可能な刻印が、266～269には一重枠に「登坂」の刻印が押されている。この形態は身B・C類に伴うものと思われる。

251・252・262は蓋C類である。蓋B類が退化したものと思われる。身C類などに伴うものと思われる。

270～273は蓋D類である。他のものと異なり、落し蓋で、胎土は雲母を多く含み灰白色で堅緻密である。4点とも方重に「奈んばん七度本やき志本」という刻印が押されている。身L類に伴うものと思われる。

（松田 訓）

参考文献

渡辺 誠 1985 「焼塩」『講座日本技術の社会史2 塩業・漁業』

図版番号	遺構	種類	法量 (cm, cc)				備考	登録番号
			器高	口径	肩径	底径		
1	S K162	身A類	10.5	5.9		4.7	140	E-1223
2	検出		10.0	5.6		3.8	92	E-1224
3	S D14		9.1	5.5		3.7	85	E-1225
4	S K84		10.2	5.9		4.2	105	E-1226
5	S K144		10.0	(5.8)		4.8	(92)	E-1227
6	S K52-		10.2	6.1		4.9	136	E-1228
7	S K75		9.2	5.8		6.4	90	E-1229
8	S X04		9.1	5.4		4.3	(95)	E-1230
9	S D08		8.6	5.7		4.6	85	E-1231
10	S D15		9.3	5.8		5.0	103	E-1232
11	検出		9.1	5.7		3.4		E-1233
12	S K84		8.2	5.5		5.7	68	E-1234
13	S K54		(6.0)	(5.6)		4.2		E-1235
14	S K74		(8.3)	(4.7)		4.6		E-1236
15	検出		8.0	5.0		3.8		E-1237
16	S K135		7.9	(4.9)		4.2	43	E-1238
17	S K84		(8.2)	(5.0)		(4.2)		E-1239
18	S K52-		8.6	5.2		4.4	67	E-1240
19	S K52-		10.2	(7.0)		(5.8)		E-1241
20	S K52-		(9.0)	(5.7)		(3.6)	113	E-1242
21	S D12		8.0	5.3		4.7	61	E-1243
22	S K52-		8.4	(5.7)		4.2	74	E-1244
23	S K52-		8.3	5.1		3.3	62	E-1245
24	S K78		(7.9)	(4.8)		4.1	(50)	E-1246
25	S K103		10.9	(8.0)		(5.2)		E-1247
26	S K52-			(6.6)				E-1248
27	S K52-		(10.5)	(6.9)		(6.0)		E-1249
28	S K52		(9.9)	(6.4)		4.7		E-1250
29	S K52		(10.0)	(6.9)		(5.0)		E-1251
30	S K52		10.1	6.2		5.9		E-1252
31	S K171		9.9	5.6		4.6	90	E-1253
32	S K52		(10.0)	(6.1)		(4.5)		E-1254
33	S D15		(9.9)	(5.9)		5.4	100	E-1255
34	S D04		9.5	(5.8)		4.2	(85)	E-1256
35	S D14		9.6	5.8		4.5	96	E-1257
36	S D24		(9.2)	(5.7)		5.1		E-1258
37	S D14		8.3	5.4		3.9	75	E-1259
38	S K52-		8.3	5.1		3.3	68	E-1260
39	S D14		(7.6)	(5.4)		(3.1)		E-1261
40	S K52-		8.6	5.6		3.2	69	E-1262
41	S K52-		8.3	5.3		3.5	54	E-1263
42	検出		(8.0)	(5.2)		3.7		E-1264
43	S K84		12.2	6.3		5.3	205	刻印「 E 」なと 藤左衛門 (方重)
44	S K54		(10.4)	(6.0)		5.0		刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
45	S K165		(10.2)	(6.4)		5.0	(123)	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (方重)
46	S K52-		10.4	6.2		5.0	126	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
47	S K52		10.3	6.4		4.4	135	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
48	S K52-		9.9	6.3		4.9	132	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
49	S K52-		9.8	6.8		4.5	123	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
50	S K52		10.1	6.5		6.1	(149)	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
51	S K52-		9.8	6.7		5.2	151	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
52	S K52-		10.2	6.5		5.4	149	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
53	S K52-		9.9	6.5		5.4	(119)	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
54	S K52-		9.5	6.4		5.9	135	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
55	S K52-		10.8	6.3		4.8	160	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
56	S K52		9.7	6.3		5.1	120	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
57	S K52		10.5	6.3		4.9	(145)	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
58	S K52		9.9	6.1		5.2	(130)	刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)
59	検出		10.0	6.1		4.5	149	刻印「天(一辨 E)」なと 藤左衛門 (一重神)
60	S K144		(11.0)	(9.0)		(5.7)		刻印「天(一辨 E)」なと 藤左衛門 (方重)
61	S K52	9.9	6.4		5.4		刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)	
62	S K52-	(9.8)	(6.5)		(5.2)		刻印「天下一辨 E 」なと 藤左衛門 (一重神)	

第119表 近世の遺物時 焼磁器①(身)

図版番号	遺構	種類	法量 (cm, cc)				備考	登録番号		
			器高	口径	肩径	底径				
63	S X04	身A類	(6.4)				刻印「天下一界(なと) 藤左衛門」(方重)	E-1285		
64	S D14				(6.2)		刻印「天下一界(なと) 藤左(衛門)」(方重)	E-1286		
65	S K143		(6.0)				刻印「天下一界(なと) 藤左衛門」(方重)	E-1287		
66	S K52				5.9		刻印「(天下一界(なと) 藤左) 衛門」(一重神)	E-1288		
67	S K52		(6.4)				刻印「天下一界(なと) 藤左衛門」(一重神)	E-1289		
68	S X04		(6.0)				刻印「天下一界(なと) 藤左(衛門)」(方重)	E-1290		
69	S K52		(6.3)				刻印「天下一界(なと) (藤左衛門)」(一重神)	E-1291		
70	S K143		10.7	5.8	5.8	(127)		E-1292		
71	S K52		9.9	6.3	4.9	150	刻印「(天下一御堂塩師)見なと伊織」(一重神)	E-1293		
72	S K52		10.0	6.4	5.2	131	刻印「(天下一御堂塩師)見なと伊織」(一重神)	E-1294		
73	S K52		9.6	6.1	4.5	116	刻印「(天下一御堂塩師)見なと伊織」(一重神)	E-1295		
74	S K52		9.9	6.4	5.1	(127)	刻印「(天下一御堂塩師)見なと伊織」(一重神)	E-1296		
75	S K162		身B類	9.2	5.9	7.4	5.3	154	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1297
76	S D14			9.3	5.9	7.1	5.9	138	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1298
77	S K52	9.2		(5.1)	(7.5)	(6.2)		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1299	
78	S K52	9.7		5.7	7.5	6.0	144	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1300	
79	S K78	(10.1)		(6.1)	7.4	5.8	141	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1301	
80	S K78	10.1		5.9	7.3	5.5	140	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1302	
81	S K78	10.0		6.3	7.4	5.2	134	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1303	
82	S K78	9.8		5.9	6.9	6.0	119	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1304	
83	S K78	9.1		5.9	7.5	5.8	149	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1305	
84	S K78	(9.1)		(5.7)	7.3	5.4	145	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1306	
85	S K78	9.9		5.9	7.4	6.0	131	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1307	
86	S K78	10.0		5.4	7.4	6.0	146	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1308	
87	S K169	(10.3)		6.1	7.5	6.1		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1309	
88	S D14	9.3		5.8	7.5	5.9	(150)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1310	
89	S K52	(10.1)	6.1	7.1	5.6	(140)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1311		
90	S K52	9.5	5.1	7.1	5.3	(139)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1312		
91	S K78	(9.6)	(7.7)	(8.6)	(6.5)		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1313		
92	S K78	(11.5)	(5.9)	(7.3)	5.9	(142)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1314		
93	S K78	(9.6)	(7.1)	(8.9)	(6.4)		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1315		
94	検出		(6.4)	(7.5)			刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1316		
95	S K44	身C類	(9.7)	(6.0)	(7.2)	(5.5)		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1317	
96	S K78					(5.6)		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1318	
97	S K52		9.2	6.2	7.5	5.1	(135)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1319	
98	S K54		8.2	5.9	7.3	5.4	108	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1320	
99	S K144		(9.0)	(6.2)	(7.4)	(5.6)		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1321	
100	S K144		8.2	6.0	7.7	5.6	(110)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1322	
101	S K54		7.4	5.8	6.1	5.4	103	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1323	
102	S K61		(7.5)	(5.6)	(7.2)	5.4		刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1324	
103	S K54		7.8	5.3	7.3	5.4	99	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1325	
104	S K54		7.5	5.8	7.4	5.7	94	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1326	
105	S K54		7.4	5.9	7.2	5.2	90	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1327	
106	S K54		7.6	5.5	7.4	5.7	95	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1328	
107	S K54		7.7	5.6	7.1	5.3	94	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1329	
108	S K87		7.6	5.9	7.1	5.1	(112)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1330	
109	S K87	(7.7)	(5.7)	7.5	5.5	110	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1331		
110	S K42	(8.2)	(5.7)	(5.0)			刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1332		
111	検出	(7.8)	(5.5)	(5.4)			刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1333		
112	検出	8.3	6.0	7.3	5.6	(130)	刻印「(御) 鹽塩師(伊織) 伊織」(一重神)	E-1334		
113	S K171	身A類	7.5	4.7	3.5	(36)		E-1335		
114	S K38		7.2	5.8	4.1	5.6		E-1336		
115	S D14		7.3	4.8	3.8	4.0		E-1337		
116	S K135		7.7	4.9	4.1	(44)		E-1338		
117	S K52		8.0	4.9	3.0	7.0		E-1339		
118	S K78		7.4	4.7	4.4	(49)		E-1340		
119	S K51		8.9	5.7	4.1	111		E-1341		
120	S D13		8.4	5.2	4.2			E-1342		
121	S K52		8.0	(5.4)	4.0	7.7		E-1343		
122	S K78		8.4	5.1	4.5	4.8		E-1344		
123	S K78		8.6	4.4	3.8	4.5		E-1345		
124	S K78		9.7	5.3	7.5	(5.4)		E-1346		

第120表 近世の遺物⑧ 焼塩壺②(身)

図版番号	遺 構	種 類	法 量 (cm, cc)					備 考	登録番号	
			器高	口径	肩径	底径	容積			
125	S K144	身C類	9.0	5.4	7.4	5.5	49		E-1347	
126	S K135		9.2	5.3	7.1	5.8			E-1348	
127	S D05		9.1	5.2	7.3	5.4	112		E-1349	
128	S D13		7.8	5.4	6.7	4.5	95		E-1350	
129	S K84		8.2	5.8	7.0	4.9	105		E-1351	
130	検出		(7.4)(5.2)(6.2)(5.7)						E-1352	
131	検出		(7.3)(5.8)(7.4)(5.0)						E-1353	
132	S K54		(8.0)(5.9)(7.0)(3.5)						E-1354	
133	S K84		(5.4)(5.0)(6.9)(4.5)						E-1355	
134	S K101		7.8	5.7	7.0	3.6	130		E-1356	
135	S K97		7.7	5.3	6.7	4.7	120		E-1357	
136	S X04		7.4	5.4		4.7	93		E-1358	
137	検出		(6.4)(5.8)(7.0)(4.0)						E-1359	
138	検出	7.9	5.6	6.8	4.6			E-1360		
139	検出	7.1	5.4	6.2	4.0	(100)		E-1361		
140	S K101	7.3	5.5		4.4	(104)		E-1362		
141	S K38	身E類	(6.7)(4.4)			(3.8)		E-1363		
142	S D11		(6.2)(3.9)			(4.2)		E-1364		
143	S K84		6.4	4.2		3.1	32		E-1365	
144	S D14		5.7	5.0		3.0	29		E-1366	
145	S K44		5.7	4.1		3.0	(18)		E-1367	
146	S K89		6.7	4.4		3.3	30		E-1368	
147	検出		(6.3)	4.4		(3.6)	27		E-1369	
148	S K143		6.4	4.4		4.0	29		E-1370	
149	S K88		身F類	4.6	7.0		5.7	71		E-1371
150	S D24			(8.7)						E-1372
151	S K54			3.3	6.2		8.0	53		E-1373

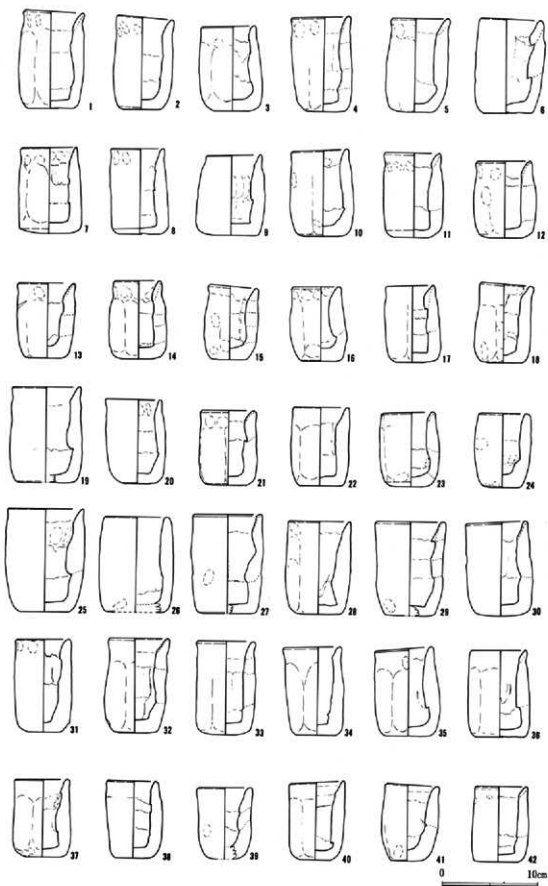
第121表 近世の遺物④ 焼塩釜③(身)

図版番号	遺 構	種 類	法 量 (cm, cc)				備 考	登録番号
			器高	口径	肩径	底径		
152	S K73	蓋A類	2.0	7.2	5.2		E-1374	
153	S K67		1.8	(5.2)	(4.8)		E-1375	
154	S K165		1.8	5.1	4.6		E-1376	
155	S D14		1.7	(5.2)	(5.3)		E-1377	
156	S K52		2.0	5.4	5.3		E-1378	
157	S K52		2.1	7.6	6.7		E-1379	
158	S K52		1.7	8.1	5.8		E-1380	
159	S K52		1.8	7.7	5.8		E-1381	
160	S K52		2.1	7.7	5.4		E-1382	
161	S K52		2.2	7.8	5.5		E-1383	
162	S K52		1.8	5.4	6.5		E-1384	
163	S K52		(2.2)	(7.5)	(5.0)		E-1385	
164	S K52		1.9	7.4	(5.5)		E-1386	
165	S K52		1.8	7.7	6.0		E-1387	
166	S K52		2.1	7.7	5.5		E-1388	
167	S K52		1.7	5.1	5.1		E-1389	
168	S K52		2.2	(5.8)	(5.5)		E-1390	
169	S K52	2.2	(5.4)	(5.0)		E-1391		
170	S K52	1.9	5.5	5.6		E-1392		
171	S K52	2.0	5.7	6.0		E-1393		
172	S K52	1.9	5.6	5.7		E-1394		
173	S K52	2.1	5.4	5.8		E-1395		
174	検出	1.9	5.4	5.4		E-1396		
175	検出	2.0	7.7	5.5		E-1397		
176	S K52	2.1	4.7	5.0		E-1398		
177	S K84	1.5	7.2	5.6		E-1399		
178	S D08	1.9	(8.0)	(5.6)		E-1400		
179	S X04	1.9	6.5	4.8		E-1401		
180	S X04	1.7	6.4	4.5		E-1402		
181	S X04	(1.7)	(5.0)	(5.2)		E-1403		
182	S D25	(1.6)	(3.5)	(5.3)		E-1404		
183	S K96	1.9				E-1405		
184	S K52	(1.9)	(6.0)	(4.6)		E-1406		
185	S K78	(1.7)	(4.9)	(2.0)		E-1407		
186	検出	1.5	3.9			E-1408		
187	検出	1.9	5.8			E-1409		
188	検出	1.7	5.5			E-1410		
189	検出	(2.0)	(6.4)	(4.3)		E-1411		
190	検出	1.9	3.6			E-1412		
191	S K78	(2.0)	(6.2)	(4.6)		E-1413		
192	S K109	1.5	2.8			E-1414		
193	S K84	1.9	6.5			E-1415		
194	検出	1.8	5.9			E-1416		
195	S K144	蓋B類	2.2	7.6	6.5		E-1417	
196	S K144		1.9	8.4	7.0		E-1418	
197	S K54		1.8	7.5	6.6		E-1419	
198	S K54		1.9	7.5	6.2		E-1420	
199	S K54		1.8	7.3	6.4		E-1421	
200	S K54		2.0	7.9	6.1		E-1422	
201	S K54		1.7	7.4	6.1		E-1423	
202	S K54		2.0	7.8	6.7		E-1424	
203	S K109		1.8	7.7	6.7		E-1425	
204	S D13		1.8	(7.5)	(6.2)		E-1426	
205	S D13		1.9	7.4	6.9		E-1427	
206	S D13		2.0	7.5	6.2		E-1428	
207	S K87		2.0	7.6	6.5		E-1429	
208	S K87		2.0	8.2	6.5		E-1430	
209	S K67		1.9	7.8	6.4		E-1431	
210	S K84		1.9	7.6	6.8		E-1432	
211	S D14		2.1	7.5	6.3		E-1433	
212	S D14		1.3	7.5	6.4		E-1434	
213	S K101		2.0	7.8	5.8		E-1435	

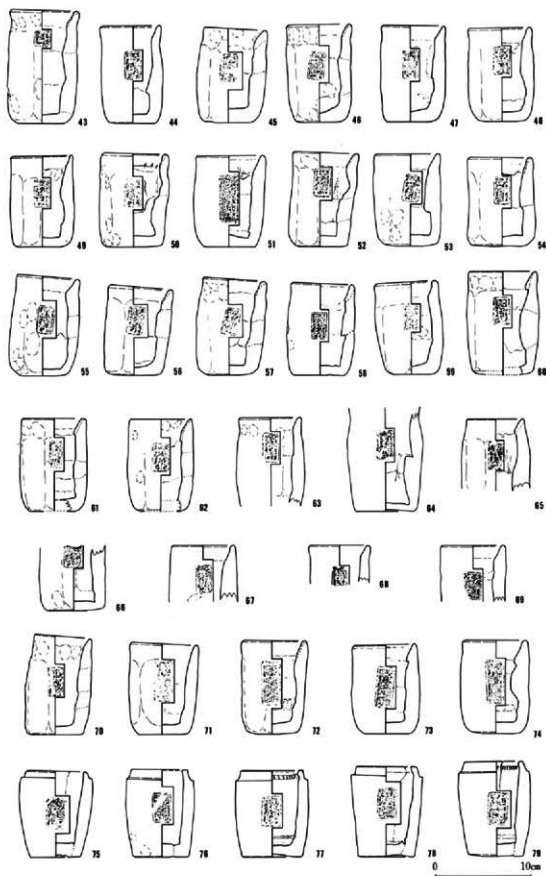
第122表 近世の遺物99 鈿座(蓋)

図版番号	遺 構	種 類	法 量 (cm, cc)					備 考	登録番号
			器高	口径	胴径	底径	容積		
214	S K52		2.1	7.4	6.4			E-1436	
215	S K101		1.8	7.0	5.9			E-1437	
216	S K52		2.3	(6.1)	6.3			E-1438	
217	S K78		2.3	7.4	6.3			E-1439	
218	S K78		(2.2)	(7.2)	(6.4)			E-1440	
219	S K78		(2.3)	(7.8)	(6.6)			E-1441	
220	S K78		2.3	7.5	6.1			E-1442	
221	S K78		(2.2)	(7.4)	6.3			E-1443	
222	S K78		2.4	7.1	6.3			E-1444	
223	S K78		(2.0)	(7.6)	6.3			E-1445	
224	S K78		2.3	7.7	6.4			E-1446	
225	S K78		(2.5)	7.0	6.3			E-1447	
226	S K78		(2.1)	(7.4)	6.8			E-1448	
227	S K78		2.6	6.9	6.5			E-1449	
228	S K78		2.1	6.9	6.4			E-1450	
229	S K78		2.5	6.9	6.4			E-1451	
230	S K78		2.5	7.8	6.4			E-1452	
231	S K78		2.1	7.4	6.3			E-1453	
232	S K78		2.5	7.6	6.1			E-1454	
233	S K78		2.5	7.8	6.4			E-1455	
234	S K78		2.8	6.9	6.1			E-1456	
235	検出		(1.8)	(7.0)	(6.0)			E-1457	
236	検出		(1.8)	(7.4)	(6.1)			E-1458	
237	検出		2.0	7.7	6.2			E-1459	
238	検出		2.4	7.1	6.9			E-1460	
239	検出		1.9	7.2	5.9			E-1461	
240	S X04		2.6	7.8	6.2			E-1462	
241	S K84		1.4	(7.4)	(5.0)			E-1463	
242	S K101		1.5	6.8	6.7			E-1464	
243	S K101		1.5	6.4	5.8			E-1465	
244	S D03		1.7	7.6	6.1			E-1466	
245	S K78		(1.7)	(7.0)	(6.4)			E-1467	
246	検出		1.5	7.0	6.1			E-1468	
247	検出		(1.9)	(6.6)	(5.6)			E-1469	
248	検出		1.9	6.7	5.7			E-1470	
249	検出		1.3	6.4	5.5			E-1471	
250	検出		1.6	7.4	6.5			E-1472	
251	検出	蓋C類	1.2	7.1	6.5			E-1473	
252	検出		1.4	6.8	6.3			E-1474	
253	検出		1.2	6.6	5.4			E-1475	
254	検出		1.2	6.6	6.0			E-1476	
255	検出		2.2	6.4	5.5			E-1477	
256	検出		1.5	7.4	6.0			E-1478	
257	検出		1.6	7.1	6.9			E-1479	
258	S K96		1.5	(7.3)	(6.2)			E-1480	
259	S K162		1.4	6.7	5.9			E-1481	
260	S K97		1.1	7.1	6.0			E-1482	
261	S D16		1.1	5.8	5.4			E-1483	
262	検出		1.1	6.1	5.6			E-1484	
263	検出		1.9	6.3				E-1485	
264	S K84		1.9	(6.9)				E-1486	
265	S K54	蓋B類	1.5	7.4	6.2		期印 (方重)	E-1487	
266	S K101		1.9	8.2	7.0		期印「鬘坂」(一重神)	E-1488	
267	検出		2.1	8.2	6.8		期印「鬘坂」(一重神)	E-1489	
268	検出		1.9	7.4	7.0		期印「鬘坂」(一重神)	E-1490	
269	検出		1.8	7.7	6.8		期印「(鬘坂)」(一重神)	E-1491	
270	S K170	蓋D類	(0.9)	(7.0)	(5.7)	(5.0)	期印「奈んばん七度 本やき志(本)」(方重)	E-1492	
271	S X03		1.2	6.8	5.3	4.4	期印「奈んばん七度 本やき志(本)」(方重)	E-1493	
272	S K78		1.0	6.5	5.15	4.7	期印「奈んばん七度 本やき志(本)」(方重)	E-1494	
273	S K54		0.8	5.1	4.0	3.3	期印「奈んばん七度 本やき志(本)」(方重)	E-1495	

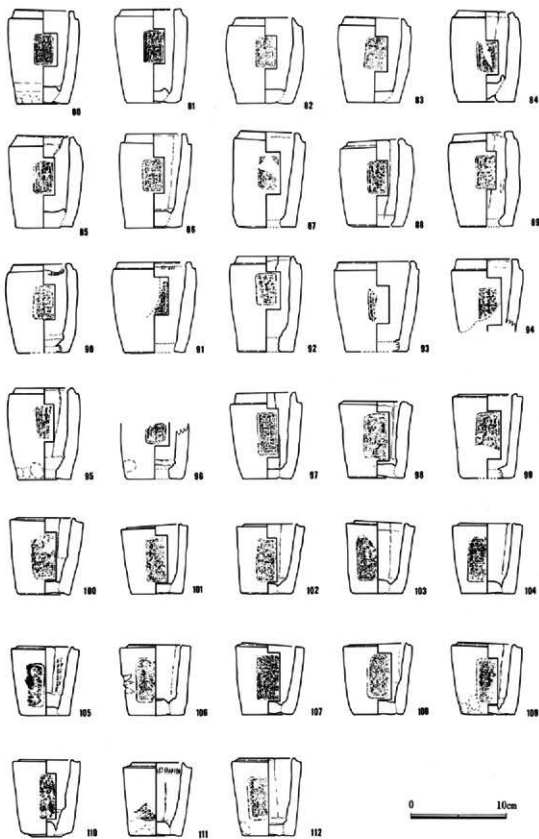
第123表 近世の遺物⑨ 焼埴壺(蓋)



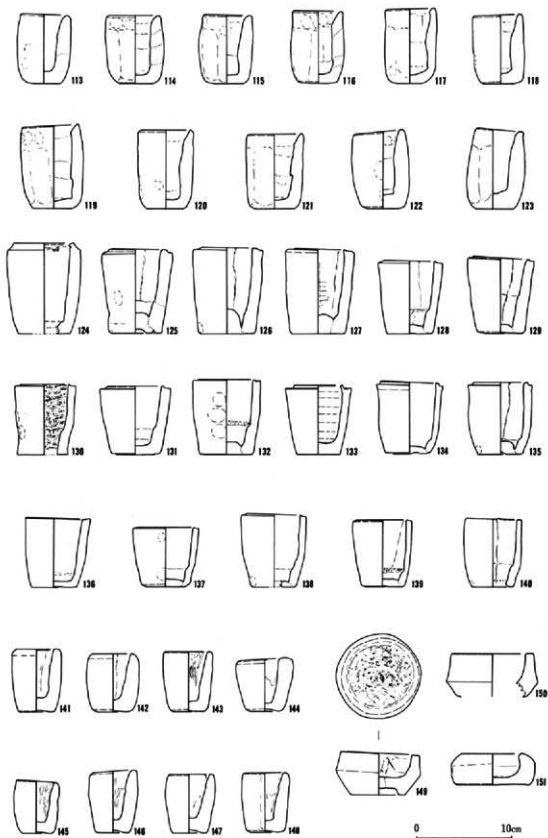
第127図 近世の遺物⑨ 陶磁器① (1:4)



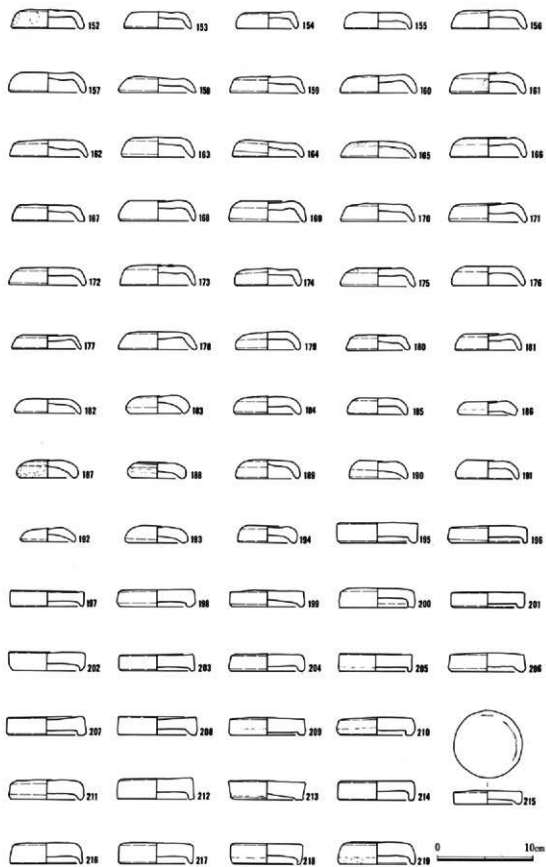
第128図 近世の遺物② 焼埴堂② (1 : 4)



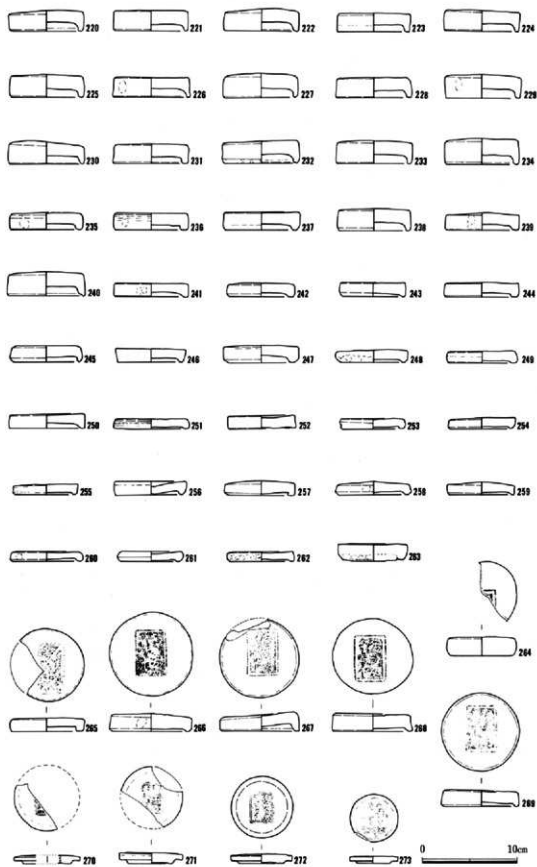
第129図 近世の遺物90 焼埴壺③ (1:4)



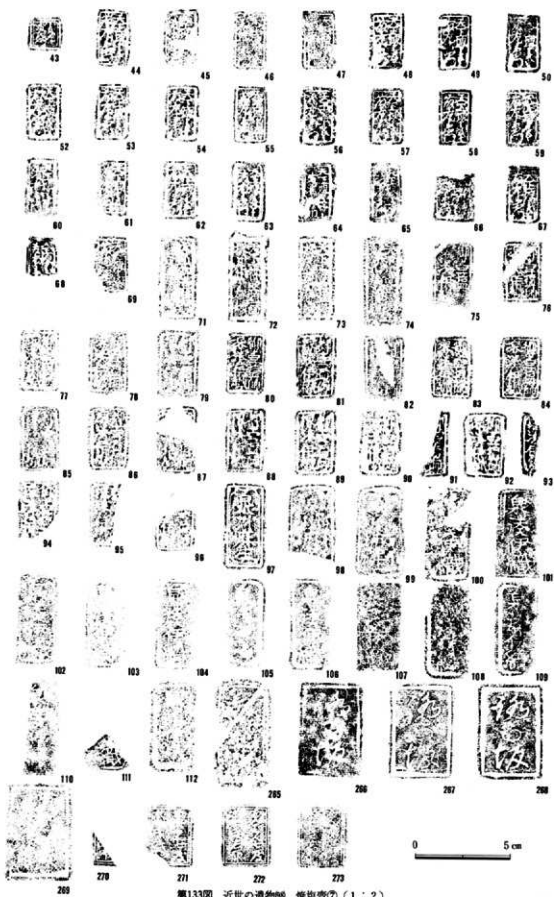
第130図 近世の遺物⑧ 焼塩壺④ (1:4)



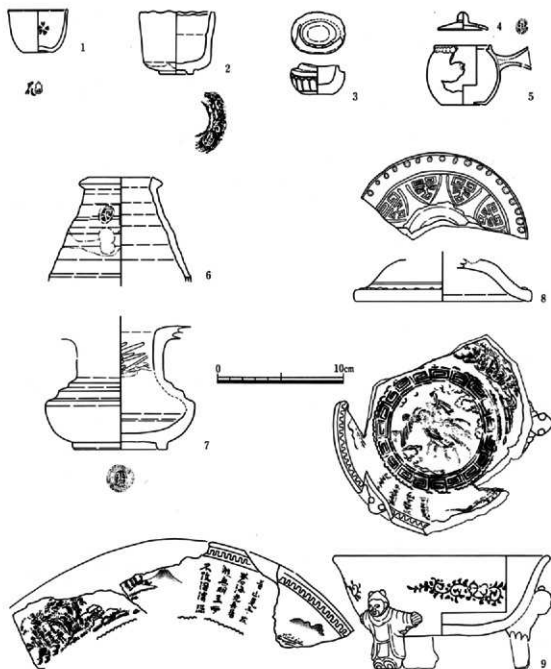
第131図 近世の遺物⑨ 焼塩壺⑤ (1:4)



第132図 近世の遺物の 兜塚堂④ (1:4)



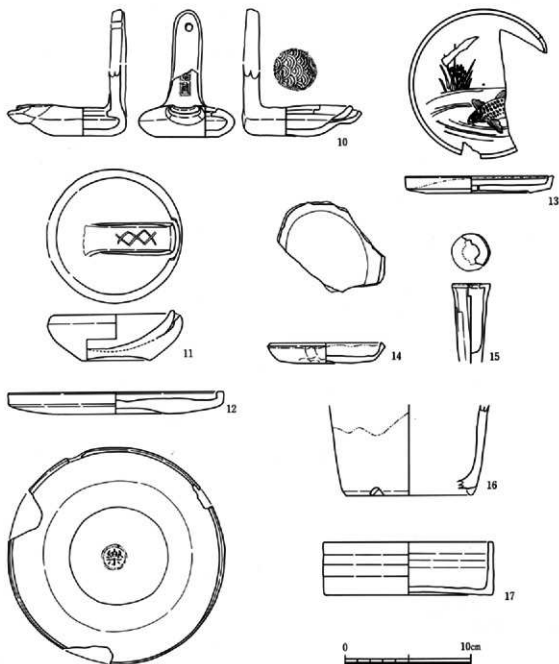
第133図 近世の遺物⑧ 純地窓⑦ (1:2)



第134図 近世の遺物⑧ 軟質陶器①

図版番号	遺構	器 用途	器形	材質	法			量		釉薬・調整等		備考	登録 番号
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
134-1	SK163	伊勢具	小碗	軟質陶器	3.4	(4.6)	—	2.3	白泥	白泥	風景、花文、藍間に鳳凰(中に「高橋」印あり)	E-1500	
2	SK67	〃	〃	〃	5.0	5.6	—	2.7	赤色釉料 +白泥	赤色釉料 +白泥	物の割落痕著、高台部で八十餘年、除刻	E-1501	
3	SD13	貯蔵具	蓋物	〃	2.3	(2.8)	—	(2.4)	紺緑釉	紺緑釉	香合	E-1502	
4	SK67	その他	蓋	〃	1.5	4.0	—	—	透明釉	透明釉	物の割落痕著、5の蓋	E-1503	
5	〃	調理具	瓶	〃	4.8	(4.3)	—	(3.4)	〃	〃	物の割落痕著、把手のくびれ部に「高橋」印	E-1504	
6	SK143	貯蔵具	壺	〃	—	(5.3)	—	—	緑+透明釉	緑+透明釉	緑釉流し掛け、口縁下に「高橋」印	E-1505	
7	SD14	神仏具	瓶	〃	—	—	—	7.3	鉄+緑釉	鉄釉	高台内「高橋」印	E-1506	
8	SK101	その他	蓋	〃	—	(14.2)	—	—	緑釉	緑釉	スタンプによる施文(外面)	E-1507	
9	検出	伊勢具	鉢	〃	9.1	(16.8)	—	—	白濁釉	白濁釉	外面、外面部、内面「高橋」印(裏面に「高橋」印)	E-1508	

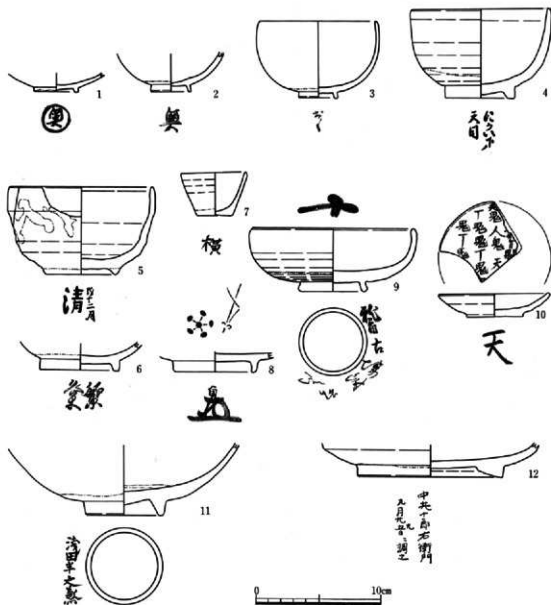
第124表 近世の遺物⑧ 軟質陶器①



第135図 近世の遺物(100) 軟質陶器②

図版番号	遺構	器 種			決 量			胎素・調整等		備 考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内 面			外 面
135-10	検出	灯火具	灯明具	軟質陶器	—	4.8	5.6	4.8	透明釉	透明釉	壁掛け用、器底表面に「(丸)印」 門前番地三ツ雲形印あり	E-1509
11	SK67	〃	〃	〃	3.7	9.3	—	5.4	赤色顔料 土白泥	赤色顔料 土白泥	外面白泥割落痕著、12と一対か	E-1510
12	SK101	〃	皿	〃	1.8	17.0	—	7.8	赤色顔料 土白泥	赤色顔料 土白泥	口縁部内外面腐付着?、「(丸)」の隠れ印	E-1511
13	SB01	〃	〃	〃	1.4	11.9	—	8.2	透明釉	透明釉	口縁部縁軌、鉄胎(コイとしょうぶ)、3足付	E-1512
14	検出	供膳具	〃	〃	1.6	—	—	(5.0)	〃	〃	口縁部縁軌、手づくね	E-1513
15	SK84	灯火具	その他	〃	—	—	—	—	實釉	—	—	E-1514
16	SK158	その他	鉢	〃	—	(5.3)	—	(9.8)	—	透明+緑釉	透明釉流し掛け、おもと鉢か	E-1515
17	SK52	化粧具	びんだけい	〃	4.2	13.5	—	13.4	透明釉	透明釉	底部内外面に布目痕	E-1516

第125表 近世の遺物98 軟質陶器②



第136図 近世の遺物(101) 墨書のある遺物①

図版番号	遺構	器種			量			軸差・調整等		備考	登録番号		
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面	
136-1	SK144	供膳具	鉢	陶器	—	—	—	3.6	灰釉	灰釉	高台内「奥」	京・嵯楽	E-1517
2	〃	〃	鉢	〃	—	—	—	3.2	〃	〃	〃「奥」	〃	E-1518
3	〃	〃	〃	〃	6.2	9.3	—	3.1	〃	〃	〃「おく」	〃	E-1519
4	検出	〃	〃	〃	7.1	11.0	—	5.4	鉄釉	鉄釉	〃「左のい」	瀬戸美濃	E-1520
5	SD13	〃	〃	〃	7.0	[11.4]	—	5.6	長石釉	長石釉	高台内「清」	〃	E-1521
6	SK52	〃	〃	〃	—	—	—	6.3	灰釉	灰釉	高台内「久米繁」	〃	E-1522
7	検出	〃	小碗	〃	3.4	5.2	—	2.8	〃	〃	底部「横」	〃	E-1523
8	〃	〃	皿	〃	—	—	—	6.3	〃	〃	高台内「貞」	〃	E-1526
9	〃	〃	〃	〃	5.1	[12.8]	—	5.0	〃	〃	高台内「清」	〃	E-1527
10	SD17	灯火具	鉢	土器	1.8	[8.8]	—	[4.4]	—	—	〃	〃	E-1528
11	検出	供膳具	鉢	陶器	—	—	—	6.2	灰釉	灰釉	高台内「清田平之丞」	瀬戸美濃	E-1529
12	SK78	〃	皿	〃	—	—	—	[11.3]	鉄釉	鉄釉	高台内「中北下町石衛門」	〃	E-1530

第126表 近世の遺物⑨ 墨書のある遺物①



第137図 近世の遺物(102) 墨書のある遺物②

図版番号	遺構	器種		法量				釉薬・調整等		備考	登録番号	
		用途	器形	材質	器高	口径	胴径	底径	内面			外面
137-13	SK135	貯蔵具	蓋物	陶器	3.2	7.5	—	4.6	灰釉	灰釉	東京府 江戸川区 日本橋区 江戸川 潮見町 船戸 底面「やうやうすまいて□□」不明	E-1531
14	SK52	供膳具	鉢	〃	3.4	8.7	—	—	鉄釉	鉄釉	底面「やうやうすまいて□□」不明	E-1532
15	映出	その他	蓋	〃	—	7.0	—	—	灰釉	灰釉	内面「寛保□」	船戸 E-1533
16	〃	〃	〃	〃	—	10.3	—	—	鉄釉	鉄釉	内面「成」か、花押の一種？	〃 E-1534
17	SK56	〃	鉢	〃	—	—	—	10.0	無釉	〃	底面「御座屋附」植木鉢	〃 E-1535
18	SK135	神仏具	香炉	〃	10.2	17.5	—	12.4	灰釉	灰釉	東京府 江戸川区 日本橋区 江戸川 潮見町 船戸 底面「久松」	E-1536
19	SK78	化粧具	びんだら	〃	4.2	—	—	—	〃	〃	「調之者也 元禄六西十月□□」	E-1537
20	SK52	その他	花生	磁器	13.2	4.3	—	—	—	—	底面「因の」	肥前 E-1538
21	SK101	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東京府 江戸川区 日本橋区 江戸川 潮見町 船戸 底面「因の」	S-31

第127表 近世の遺物(100) 墨書のある遺物②

人形・玩具類

本項では土師質、陶製、磁製の人形、ミニチュア及びその他の玩具類について紹介する。¹⁾置物や持ち遊ぶ物以外の、本来実用性のある陶磁製の水滴、根付、紅皿、神酒徳利などは、形態に関わらず陶製品、磁製品の項で扱っている。転用円板及び材質が焼物以外の玩具も除外しているのでそれぞれ別項を参照されたい。

本地点出土の人形・玩具類は総数947点に上った。そのうち、遺構からの出土は626点である。人形類の出現は17世紀後半の遺構からで、18世紀後半から19世紀にかけて量的に一挙に増加し、19世紀前半の遺構に属するものが遺構出土品の73%²⁾を占めている。中でも集中して出土したのがSK84の86点、SK44の63点で、共に19世紀前半の遺構である。特にSK84は残りの良い遺物も多かったため、この遺構より出土のものを中心的に取り上げて紹介する。

人形類は、素焼で10cm以下の小型の型作り製品を主体としている。型作りのものは、概ね4cm以下程度のより小型のものは中実で底部穿孔し、それよりやや大きいものは中空につくられている。なお、ここでは胎土の状態を土師質、陶製、磁製の3つに分類しているが、低火度焼成されたかわらけなどと同様の素焼、軟質の焼物を、施釉の有無にかかわらず土師質とし、高温焼成された陶製品と区別している。土師質製品の胎土については、主に白黄・白橙・橙・赤褐色の4種類位が観察されるが、赤色と白色の粘土を練り込んでいるもの、焼きむらで色の違っているものもある。施釉品及び焼きのよい手捻りの人物や猿は、白色に近い胎土であることが多いが、施釉品でもなかには、赤褐色の胎土の色を生かした描鉢(81)や釜の蓋のようなものもある。人形の一部とミニチュアの大部分は施釉品で、黄色がかかった透明釉に流れやすい性質の緑釉や茶色の釉を所々点じたもの、及び緑・茶色釉単色のものがある。軟質のものが多く、焼成不良や釉の掛かりの薄い場合には、無釉で彩色された場合との区別が難しいものもある。人形の施釉品は10cm以下の小型のものに限られている。彩色の残りはよくないが、ベースの白(胡粉)の他、黒・茶・赤・黄・緑・銀などの色が認められた。型作りの裏面の表現は簡略化されていることが多いが、彩色も省略されているものがある(23, 26)。型の合わせ方は、人・猿・狸などは前後、馬・犬・猫・鳥・魚は左右、亀・魚は上下、とモデルの形態によって使い分けられている。手捻りのものは、人物と猿の他に犬・鶏・雀などに見られる。

(1) 人形(第135~139図-1~60)

人形のモチーフは多様で、神像・人物では天神、福神(恵比寿・大黒など)、西行、童子や子守、などがあり、全部で140点、動物では猿、犬・狛犬、稻荷狐、狸、猫、馬、鶏、鳥、雀、鴛鴦、蛙、亀、魚など226点があった。天神、及び猿・馬・鶏など信仰にも関わると考えられる動物、鈴や笛になった鳥、などが特に数が多い。同じ題材にもさまざまなバリエーションが見られ、同型のものはあまり多くないが、「名古屋城三の丸遺跡(I)」³⁾の861番(I-861、以下同様)と同形の童子座像が8点以上、I-851と同形の鳥6点、I-858と同形の鞍馬(人の乗らないものも含め)10点、などが19世紀前半の異なる遺構より出土している。用途については、置物やもて遊ぶ以外に、笛、共土の玉を入れて鈴にしたもの、おもりをつけて起き上がりこぼしにしたものがある。亀や魚には、孔が底部ではなく上面にごく小さく開けられ、器壁もきわめて薄く作られたものがあり、水に浮かべられた可能性が考えられる。また、中空で径0.4cm程度の穿孔のあるものは笛としての使用も考えられる。

特殊大型品(1~4) 10cm以内の小型品を中心とする全体の傾向のなかにあつて、大きさの点で突出している人形が3点あったので、はじめにこれらについて説明する。その他には、僅かな破片を除いて20cmを超えるような大型品はほとんど出土していない。

1は磁製で柿右衛門様式の色絵婦人座像である。同じモチーフの伝世品が知られているが、発掘例は今回が初見である。製品としては17世紀後半に位置づけられるが⁴⁰、屋敷地2の18世紀前半から19世紀後半の複数の遺構より破片が出土している。成形は型作りで、頭部の前後、体部の前後、脇息及びその脚をそれぞれ別に型で抜いて組合わせており、底部は開口する。体部と脇息の接合部には針状の道具による引っかき傷、脇息とその脚との接合部には櫛状工具の痕がある。内面には指撫で痕が残る。器厚は0.3cmから0.5cm程度であるが、頭部は薄く、底部近くほど厚くして重さのバランスを取っている。髪は後ろでリング状に結った御所髷で、小袖に低い位置で帯を締めている。着物の模様は葛草と五弁の花、及び青海波文が上絵付され、脇息上面には波線文様が描かれている。彩色の剥落が著しいが、髪・眉・眼・葛草の輪郭・髪に黒、口・花・青海波文・脇息の装飾に赤、葛草に青、重ね着部分に赤・青・水色が残る。葛草と重ね着部にもう一色使われていたが、完全に抜け落ちてしまっている。

2は土師質で、屋敷地2の18世紀後半の土坑より出土している。顔、左右袖、左肩、笠の一部、スカート状の衣の前後、両足があるが、残念ながら一つに接合することはできなかった。笠と風呂敷包を持った茶装の僧立像であることから、西行と考えられる。胎土は赤褐色と白色の粘土を練り合わせた赤褐色で、かなり軟質であるが表面の残りはよく、顔と笠の部分は磨かれて黒光りしている。各部分は型による成形だが、上半身の丁寧な作りに比べ下半身は大雑把な表現になっている。足と衣の接合部には串状の道具で突いたような孔が多数見られる。顔と笠の中心及び中心から3.5cm離れた所に、それぞれ径0.4cmほどの孔が開けられている。推定高は60cm以上に達するが、足底が小さく単独で立っていたとは考えられない。伴出した3も同様の軟質な胎土をもつ型作り製品で、像の付属品の可能性がある。伏見人形に、盗難除の意味で庭園の燈籠か樹木の下に置く大型の西行の例があり⁴¹、これもそのような性格を持ったものではないかと考えられる。

4は屋敷地1と4を画する19世紀前半の遺構から出土した武者人形の底部である。濃い赤褐色の軟質の胎土で、大きさの割に極めて器壁が薄く、内面に布目が残る。他の小型人形は多くが白褐色か白黄色であり、胎土の色と薄さの点で際だっている。成形は型作り前後合わせだが、底面は型のずれが大きく接合していない。モチーフについては、波の上に僅かに鎧の裾と馬の手綱らしきものが観察されることから、現存の土人形にみられる「義経と能登守」や「熊谷と教盛」など歌舞伎の有名場面に取材した武者人形と考えられる⁴²。裏面にも波文が施されているが、表面に対してかなり表現が省略されている。表面底部に鏡文字で「又守守」の陽刻がある。おそらく「素焼」のことで、型の方に刻まれていた製作上の符丁であろう。

神像・人物(5~38) 5~8は天神である。形からは男雛と判別し難いが、対となる女雛らしきものが全く出土していないので天神と捉えることにする。5は菓子型の様な型から抜いた片面のみのもので、裏は平坦に均されている。7は数物を敷いた台座に腰掛け、笏を持たず刀を差している。腰掛けタイプはこれ1点のみであった。8は今回出土した最も大型の天神である。9は祠の中に天神の

入ったもの。裏壁には松と梅の陽文がある。10は狛犬か狐の控える調である。江戸の遺跡での類例に、内部に天神のあるものがあるが⁷⁾、これは扉が閉まった状態に表現されている。11~13は福神で、11は鯛抱き恵比寿、12は十字に結ばれた俵に乗り、小籠と袋を持った大黒。13はおそらく高20cmを超える大型の恵比寿、大黒布袋であろう。内面に布目があり薄作りである。

14は西行で、SK84から少なくとも3体分が出土している。白色で堅く焼き締まった特徴的な胎土をもっている。15はおそらく14のタイプの頭部で、粘土塊に顔を型押しし、耳を付け加えている。16も笠と荷を持っているので西行であろう。顔の表現は省略されている。17は膝下を出した西行。18は垂髪の少女座像。19は金太郎前掛けを着けた童子座像。6、12、18、19は共にSK84からの出土で、他に11も含めこれらの間には吊り目・三角形の鼻・太い唇など顔の作りと、胎土や大きさに共通性が見られる。20は馬に乗った被り物を着けた童子。前で帯を結んでいる。21は犬に乗った左肩肌脱ぎの童子で、現在まで伝わっているモチーフである。こめかみには髪が描かれている。22は三角帽子を被って首巻をした子どもを連れた人物像。前かみに作っているので老人かもしれない。23は童子の立像か。背面で単衣の紐を繰り結んでいる。24は小さい人形の様なものを入れた箱を下げた人物像。傀儡師に似ているが、水玉模様の足元までの長い着物を着ているので童子と思われる。箱には猫の顔が陰刻されている。25は赤子を抱いた婦人像。手捻りで、本体に切込みを入れて袖を作り出し、帯、型押しした頭部、赤子を付け足して仕上げている。26も童子か。手捻りで、ヘラでへそと袴の紐を描く。表に禪の刻痕がある。27は鉄砲を持ち被り物を着けた狐師像。狐草に関係するものかもしれない。手捻りだが顔は型押しで、こめかみに毛織え用の孔がある。28は27の頭部と同形同寸の男性頭部だが、型作り前後あわせて、眉と眼を茶彩し施釉されたもの。同タイプのものを素焼と施釉の両方で製作している一例である。他に舂を抱いた童子像にも、同型ではないが素焼の鈴になったものと施釉のものがあつた。29は婦人頭部で、首の先端が尖って差込み用になっているもの。側髪を大きく横に膨らませ、頭頂に櫛を挿している。30は帽子を被りラッパを吹く人物立像。朝鮮通信使の風俗に取材したものと思われる。底面に4条の沈線が入れている。31は被り物を着けた狐師の面で、裏面は一部を粘土で埋めて径0.3cmの孔を2個開けているが、貫通しているのは片方のみである。32は被り物を着けた人物の面。33は陶製の髭のある男性頭部。型作りの精巧なもので、一部は穴が開くほど薄く作られている。

34は磁製の童子頭部で、全体の形と用途は不明。唇を赤で上絵付する。35は童子頭部だが頭頂部が不整形に開口し、後頭部には斜めに穿たれた孔がある。首に接合していた様な痕跡は認められず、用途・性格不明である。36は青みを帯び白濁した釉の掛かる磁製の唐人人形で、有田周辺で焼かれた1630~40年代のもの⁸⁾。底が開口し、背部に斜めの穿孔がある。手捻り成形だが、くず粘土が付着したままの粗い作りである。底部をヘラ削りで平坦に調整している。37、38は磁製の棒状に作られた人物で、下方に続きがあるが、全体像・用途は不明。19世紀前半の遺構より出土している。

動物 (39~60) 39は桃を抱いた手捻りの猿で、顔のみ型押しし、背と腕に櫛目を付けている。40は39と同じ作りの肩車をした猿で、現存するのは3段である。最下段のみ櫛目を付けている。41は型作りの桃抱き猿で、体を茶彩している。42も型作りの猿。43は手捻りで、全面を赤彩していることから、人ではなく猿と考えられる。44、45は鞍馬である。44は手捻りの鞍を張り付け、尾も別に作って植え込んでいる。腹部には型の合わせ目に沿って他には見られない長さ3.4cmもの細長い孔があけられ

ているのだが、鈴にはなっていない。両ほおに墨で十文字帯が描かれている。45は型作り左右合わせで、足・耳・尾を張り付け、泥障とたてがみに沈線をほどこしている。46は飾り馬で、底部の前足下に穿孔がある。47は陶製の犬で、上半に灰釉を掛ける。箸置きかもしれない。48は手捻りの犬で、大小数点出土している。背に剝離痕があり、人物などが乗っていた可能性もある。49は型作りの狛犬で、別型で成形して張り付けた台座にのる。焼成後剝離した部分にも構わず彩色して製品としている。

50～52は鶏で、鶏も各種のタイプが数多く出土している。ほとんどのものが左向きに作られている。50は施釉された型作りの鶏である。51は手捻りで、底は開口している。同形小型のものも出土した。52は鈴になっており、体部は中空だが穿孔はない。53は磁製の鳥笛で、枝が吹き口になる。鳥の口と背に孔があり水滴も兼ねているものかもしれない。胎土は灰色で、黒・赤・薄緑で上絵付されている。54は手捻りの小鳥で、鈴になっている。55は陶製で、形から見て水鳥のようである。非常に薄手で、内側底部に白黄色の本体とは異なる橙色の四角い粘土塊を張り付け、起き上がりこぼしのようにしている。

56は猪。足と尾は張り付けであったが、尾以外は剝がれて残っていない。57は岩の様なものの上にくるまる、様式化されたデザインの兎である。58は亀で、型作り上下合わせて作られ、甲羅の頂部に径1mmの小孔がある。薄手の甍いもので、実際にしばらく水に浮かせられる。59は玩具の綱車のミニチュアで、車の台の側面には波文様が施されている。60は首輪をした猫。大小数点が出土しているが、皆左向きに作っている。

(2) ミニアチュア (第140図-61～90)

ミニチュアに含めたものには、建造物の小型品で箱庭用と考えられるものと、台所の調理具や食器を模したままごと用と考えられるものの2種類がある。

建造物 (61～69) 61～63は燈籠で、その他により小型のものも出土しているが完形品はない。61は燈籠の脚部で、筒部を型作りして底は平たく延ばした粘土で塞いでいる。底部に墨書があり、「等」のくずし字のようである。62は中空の屋根を持つ六角燈籠の上部で、筒部は8個の小孔を開けるもの2面、4個の方形の孔を開けるもの2面、1個の円孔1面、三日月形の孔1面、の6面から成る。屋根の頂部の中心からややずれた所に孔がある。なお内側の天井部には煤の様な付着物があった。63は平たい屋根を持つ六角燈籠の上部で、筒部は62と同形同寸である。64は欄干の付いた橋で、上面を型押しして縁をヘラで掻き落としている。橋は他に土師質の緑釉塗りの欄間のついたものが何片か出土し、長さ30cmに達する大型品もあった。65は民家の藁葺き屋根で、同形小型のものもある。内面には煤が付着していた。66は型作り対角線合わせの民家もしくは茶室で、ハート形の格子窓がついている。裏面は開口しているが、底部にも穿孔がある。67は磁器質の建物壁で、型作り対角線合わせの壁面に底面を張り合わせ、5本の足を付けている。裏面は細部を省略している。68は櫓か。二層の城郭建築で、欠損しているが石垣が右に続いている。69は船で、着物を左前に合わせた童子の様な人物が乗っている。船では他に笠と足だけで表現された人物を乗せた、土師質施釉のものが2点出土している。

器物 (70～90) 70は六角鉢で、内外面に胡粉を塗り、外面に緑彩を重ねている。71は陶製の織部風四方鉢で、長石釉に鉄彩している。高台は円形である。72は型作りの八角鉢で、高台も八角形に作って張り合わせている。内面には籠の綱目の様な文様と、亀甲形に亀の絵の陽文があり、さらにその上

から枝・葉・花を彩画している。73は平碗で、施釉された黄地に緑で草文を施している。74は土師質の四角い絵皿で、二見が蒲の夫婦岩に日の出の絵が型押し、彩色されている。75は六角の細頸壺で、各面には交互に格子文と亀甲文が施されている。76は陶製の細頸壺。轆轤成形で灰釉が掛け掛けされている。77は土師質轆轤成形の壺で、胴部に径8mmの孔が開く。78は用途不明の手づくねの小壺で、内面底部にヘラでかき混ぜた様な渦巻状の隆起がある。79は汁注ぎか。平らな上面に茶で斜格子文を描き、半球状の三足が付く。80は土瓶の上半。型作り上下合わせに別型の注口と耳を付けている。81は片口の搦鉢で、1条4本の櫛目を疎らにつけている。焼成後に打ち欠いて底部穿孔しており、ミニ盆栽の植木鉢に転用されたものかもしれない。82~84は型押しの蓋で、土瓶用と鍋釜用とがある。85は型作り上下合わせの羽釜で、九底に作られている。86は轆轤成形の茶釜形羽釜で、底部のすばまる形に作られている。87は七輪の上面。88は象形の耳が付いた火鉢。精巧な型の薄手のもので、銀彩が残っている。89は閉扇。把手には陰線で唐草文が付けられている。90は用途不明の土師質型作り製品で、縁を輪花に作り、上面に星文を付けている。

(3) その他の玩具類 (第140図-91~97)

91は土師質の鈴で、袋状に作った端を折り畳んで紐にしている。92は用途不明の陶製品で、表は3つの浅いくぼみにそれぞれ透明・鉄・灰釉を点じ、裏には「拾文」の印を押している。93~95は実物大の模造貨幣。93は表に「一分尖」、裏に花押と網紋の陽刻がある。94は桜文の取り囲む天保一分銀(1837年~)の模造品で、表に「一分銀」、裏に「定 銀座常是」の文字がある。95は二分判で、表には扇面型に網紋、「二文」の文字、網紋があり、裏には「光次」の文字と花押がある。96は土師質で、上面は型押しで樹紋の様な5つの丸い突起がつけられ、中心に径1mmの孔がある。孔に軸をさして独楽としたものであろう。97は面型で、頭巾を着けた山伏の顔か。面型は、この他には破片が1点あったのみである。

(4) おわりに

本地点における遺構出土の人形・玩具類を、図示しなかったものも含め時期順に見ておくこととする。人形類の出土は17世紀後半からで、36の磁製唐人人形は、本地点で最も出現の早いものの一つである。その他には天神、31の彌師面、20の馬乗り童子、土師質無釉の搦鉢などがあるが、19世紀の遺物と類似のものもあり、粉れ込みの可能性も否定できない。いずれにしても数量的にはわずかである。18世紀前半には、柿右衛門人形が廃棄されている。この時期には西行、天神、恵比寿、及び施釉小型の鶏や碗、78の手づくね小壺などがあるが、種類は多くない。土鈴は紐の細長いII-1615¹⁹タイプのものである。18世紀後半にはいと、猿、鞍馬などの動物や、ままご用の器物の種類も増え、燈籠などの箱庭具も出土している。この時期に見られるものに、2の大型西行のほか、II-1501タイプの手塗りの人物像、土師質施釉で轆轤製の器台(II-1558タイプ)、箸置きの可能性もある陶製小型の鳥や犬(47)などがある。また、鶏や雀などに土玉を入れて鈴にしたものが現れ、土鈴も横に広いタイプのも(91)が出ている。19世紀の前半は、人形・玩具が種類、数量とも一挙に増加している時期である。この時期になって現れるものに武者人形、模造貨幣、竈、各種蓋類、及び陶製轆轤成形の壺類などがある。また、鳥や、花卉の様な泥障を持つ鞍馬(1-858タイプ)で、同型ではないが似たような形と大きさのものがいくつも出土しており、人形・玩具類の生産量の増大と、一方では複数の製造者

が同じ様な製品を作るようになってきている状況がうかがえる。なお、江戸の遺跡で大量に出土する泥面子は、今回の名古屋城三の丸地区の調査では1点も出土していない。(八木佳素実)

註

- (1) 人形の製法や種別については、『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書3 東京大学本郷構内の遺跡 山下会館・御殿下記念館地点』東京大学遺跡調査室 1990 に詳しく紹介されている。
- (2) SX04を除いた割合。SX04は17世紀後半から19世紀に至る遺構で、人形類の出土も多い。器種からみるとおそらくその多くは19世紀前半頃のものと考えられるが、時期特定が困難であるため除外する。
- (3) (財)愛知県埋蔵文化財センター 1990『名古屋城三の丸遺跡Ⅰ 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』
- (4)(8) 大橋康二氏(九州陶磁文化館)の御教示による。
- (5) 塩見青嵐『伏見人形』1967 河原書店
- (6) 知立市歴史民俗資料館所蔵品に、4と同型ではないかと思われる「敦盛」がある。産地・年代は不詳であるが、三河系の土人形で20世紀前半のころのもの、と捉えられている。
- (7) 東京都新宿区教育委員会 1988『三栄町遺跡』
- (9) (財)愛知県埋蔵文化財センター 1990『名古屋城三の丸遺跡Ⅱ 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第16集』

No.	遺構	材質	出土	形状	状況	技法	法		備考	登録番号
							高さ	直径		
1	SK52	銅製	白	色絵輸入人像 (遺文村附け舟像)	製作9(前後他)	25.5	23.2	奥行19.5 厚0.3-0.5	彩色陶門構式。色絵。中空。	E-1539
2	SK78	土師製	赤褐色	西洋	製作9(前後他)	—	—	—	中空。空・腹に穿孔。	E-1540
3	SK79	土師製	赤褐色	西洋村置品?	製作9(前後)	6.1	5.9	奥行5.0	—	E-1541
4	SK10	土師製	赤褐色	武者人形	製作9(前後)	寛11.6	寛11.6	奥行10.6 厚0.3-0.5	内面有目珠。手足。底部に「クマシ」の刻銘。中空。	E-1542
5	SK161	土師製	赤褐色	天神	製作9	5.0	4.9	奥行1.9	—	E-1543
6	SK84	土師製	赤褐色	天神	製作9(前後)	3.6	3.4	奥行1.5	底部穿孔。	E-1544
7	SK104	土師製	白土	天神	製作9(前後)	寛3.4	4.8	奥行2.9	洗滌面。土表は黒。輪・敷物は黒。底部穿孔。	E-1545
8	SK84	土師製	白土	天神	製作9(前後)	寛8.8	9.1	奥行14.5 厚0.1-0.7	中空。	E-1546
9	SK10	土師製	赤褐色	天神御	製作9(前後)	5.4	4.9	奥行2.8	筒状丸。底部穿孔。	E-1547
10	SK54	土師製	赤褐色	網	製作9(前後)	3.8	3.3	奥行1.2	外面留付付着。	E-1548
11	SK54	土師製	赤褐色	巻比奇・網掛き	製作9(前後)	3.4	2.4	奥行1.5	外面留付付着。底部穿孔。	E-1549
12	SK10	土師製	赤褐色	大黒	製作9(前後)	3.4	2.4	奥行1.7	外面留付付着。底部穿孔。	E-1550
13	SK47	土師製	赤褐色	神像(顔部)	製作9(前後)	寛5.4	寛4.8	奥行12.2 厚0.2-0.3	内面有目珠。中空。	E-1551
14	SK84	土師製	白土	西洋	製作9(前後)	寛9.8	4.7	奥行14.0 厚0.4-0.7	底部開口。外面留付付着。土表は黒。管は赤。中空。	E-1552
15	SK84	土師製	白土	西洋(顔部)	製作9	寛2.5	寛2.3	奥行12.3	—	E-1553
16	SK161	土師製	白土	西洋	製作9(前後)	4.0	2.4	奥行12.0	底部穿孔。	E-1554
17	SK52	土師製	赤褐色	西洋	製作9(前後)	寛7.2	3.4	奥行2.7	外面留付付着。底部穿孔。中空?	E-1555
18	SK84	土師製	赤褐色	少女坐像	製作9(前後)	2.9	3.5	奥行2.0	底部穿孔。	E-1556
19	SK84	土師製	赤褐色	童子坐像	製作9(前後)	2.5	2.5	奥行2.1	外面留付付着。底部穿孔。	E-1557
20	SK14	土師製	赤褐色	童子・大黒?	手捻り+磨押し	寛5.2	5.2	奥行2.2	赤土。高文又は黒茶。管は赤。土表は黒。	E-1558
21	SK44	土師製	赤褐色	童子・大黒?	製作9(前後)	6.4	5.2	奥行2.7	白地。黒・赤・大文又は茶。土表は黒。赤は黒。底部穿孔。中空?	E-1559
22	SK10	土師製	赤褐色	童子と老人?	製作9(前後)	寛5.1	4.8	奥行2.6	黒・赤・土上は黒。土表は黒。管は赤。底部穿孔。中空。	E-1560
23	SK84	土師製	赤褐色	童子と立像	製作9(前後)	7.3	3.4	奥行2.4	黒・白・黒。土表は黒。底部穿孔。中空。	E-1561
24	SK44	土師製	白土	童子・後備座?	製作9(前後)	5.9	3.5	奥行2.8 厚0.2-0.4	黒・赤・土。管・下縁・赤の土表・人形の管は赤。底部穿孔。中空。	E-1562
25	SK21	土師製	赤褐色	子懸き輸入人像	手捻り+磨押し	6.2	寛3.5	奥行2.5	磨いた型押し。	E-1563
26	SK161	土師製	赤褐色	童子?	手捻り	寛6.3	寛3.5	奥行1.9 厚0.4	表面の丸彫。黄地	E-1564
27	SK47	土師製	赤褐色	顔部	手捻り+磨押し	6.3	寛4.8	奥行2.9	磨いた型押し。こめかみに丸彫。	E-1565
28	SK10	土師製	赤褐色	男性(顔部)	製作9(前後)	寛2.0	寛1.7	奥行1.5 厚0.4	黄地。黒・赤は赤。こめかみに丸彫。後面部に刻劃線。	E-1566
29	SK161	土師製	赤褐色	顔(人顔部)	製作9(前後)	2.8	2.4	奥行1.7	—	E-1567
30	SK86	土師製	赤褐色	男性立像・ラッパ吹き	製作9(前後)	5.3	2.7	奥行1.7	黄地。土層下部に緑地。	E-1568
31	SK14	土師製	赤褐色	顔部	技法?	5.9	寛4.3	奥行1.4 厚0.6	黄地の一部を粘土で埋め穿孔。	E-1569
32	SK84	土師製	赤褐色	男性・男性	技法?	4.5	3.4	奥行1.2 厚0.2-0.4	—	E-1570
33	SK52	土師製	赤褐色	男性(顔部)	製作9	寛1.6	寛1.8	奥行1.8 厚0.1	薄土。黒・赤・黒・管は黒茶。	E-1571
34	SK84	土師製	白土	童子(顔部)	磨押し?	寛2.2	寛1.4	奥行2.1 厚0.1	赤は赤土と給付。中空。	E-1572
35	SK10	土師製	赤褐色	童子顔部	手捻り+磨押し	2.8	4.0	奥行3.3 厚0.4	磨いた型押し。顔部は開口。後面部にφ0.9mmの斜めの穿孔。中空。	E-1573
36	SK161	土師製	赤褐色	顔人	手捻り	4.7	3.2	奥行1.9	底部開口。背面に斜めの穿孔。有田周縁。	E-1574
37	SK10	土師製	赤褐色	顔人?	製作9(前後)?	寛4.4	1.3	奥行0.9	磨・磨り・磨いた型。	E-1575
38	SK22	土師製	赤褐色	顔人?	製作9(前後)?	寛3.4	1.3	奥行1.4	土表に黄地。	E-1576
39	SK12	土師製	赤褐色	顔・顔掛き	手捻り+磨押し	7.2	4.4	奥行3.9 厚0.1	1.5cmほどの唇目を毛を表現。	E-1577
40	SK84	土師製	白土	顔・顔車	手捻り+磨押し	寛7.8	寛4.4	奥行3.1 厚0.1	管は赤土丸。中空。	E-1578
41	SK161	土師製	赤褐色	顔・顔掛き	製作9(前後)	寛6.7	寛5.4	奥行12.4 厚0.1-0.5	体部は黒。中空。	E-1579
42	SK167	土師製	赤褐色	顔?	製作9(前後)	7.0	6.3	奥行12.5 厚0.1-1.4	中空。	E-1580
43	SK13	土師製	赤褐色	顔?	手捻り	3.7	寛3.5	奥行11.4 厚0.1	全赤赤。	E-1581
44	SK135	土師製	白土	顔馬	製作9(左右)+手	寛8.2	10.8	奥行4.1	磨で磨。顔部に3.4×0.4mmの穿孔。中空。	E-1582
45	SK135	土師製	白土	顔馬	製作9(左右)	9.1	11.1	奥行3.8 厚0.3 厚0.5	磨いた型押し。中空。	E-1583
46	SK80	土師製	赤褐色	顔?	製作9(左右)	3.7	3.7	奥行1.3	外面留付付着。底部穿孔。	E-1584
47	SK14	土師製	赤褐色	犬	手捻り	2.0	2.2	奥行1.3	灰地。黒・尾に鉄線。	E-1585
48	SK10	土師製	赤褐色	犬	手捻り	4.1	5.1	奥行2.8 厚0.1	—	E-1586
49	SK42	土師製	白土	猫?	製作9(前後他)	6.0	3.7	奥行12.6 厚0.3	黄地。黒・管・土表は黒。体部は黄地。底部穿孔。	E-1587
50	SK52	土師製	赤褐色	顔部	製作9(左右)	3.1	3.1	奥行1.8	白地。緑彩。	E-1588
51	SK84	土師製	白土	顔部	手捻り	寛8.1	8.1	奥行2.9 厚0.4-0.5	—	E-1589
52	SK161	土師製	赤褐色	顔・顔	製作9(左右)	6.2	4.8	奥行3.3 厚0.5	外面留付付着。中空。	E-1590
53	SK10	土師製	赤褐色	顔部	製作9(左右他)	—	4.0	厚0.3-0.3	花崗岩・非鉄銅製は黄。黒・口・管・尾に赤。引眼に黄緑の上給付。中空。	E-1591
54	SK84	土師製	赤褐色	小舟・駒	手捻り	5.3	7.4	奥行3.3	管部に赤地。底部穿孔。中空。	E-1592
55	SK161	土師製	赤褐色	木馬・船上がり	製作9(左右)	3.7	3.2	奥行3.2 厚0.1	白濁した顔。黒・管・体部に鉄線。顔色粘土のおもり。中空。	E-1593
56	SK47	土師製	赤褐色	顔	製作9(上下)+手	寛2.4	5.6	奥行2.4	磨・足袋り付け。底部穿孔。中空。	E-1594
57	SK89	土師製	赤褐色	顔	製作9(前後)	3.3	2.7	奥行2.9	外面留付付着。底部穿孔。	E-1595
58	SK47	土師製	赤褐色	顔	製作9(上下)+手	寛2.7	7.1	奥行4.6	頂部に小孔。中空。	E-1596
59	SK84	土師製	赤褐色	顔車	製作9(左右)	3.4	3.5	奥行1.6	外面留付付着。底部穿孔。	E-1597
60	SK84	土師製	赤褐色	顔部	製作9(前後)	寛9.1	12.2	奥行18.1 厚0.3-1.0	外面留付付着。底部穿孔。中空。	E-1598
61	SK21	土師製	赤褐色	顔部(六角)	製作9(前後他)	寛7.8	寛10.4	厚0.3	黄地。黒。緑彩。表面磨き(磨)。	E-1599
62	SK47	土師製	赤褐色	顔部(六角)	製作9(上下他)	寛8.8	寛9.8	—	管は黒・管・土層上部にφ0.3mmの孔。内面留付付着。中空。	E-1600
63	SK84	土師製	白土	顔部(六角)	製作9(上下他)	8.5	寛13.7	—	管は磨いた型押し・黄地。内面有目珠。	E-1601
64	SK161	土師製	赤褐色	顔	磨押し?	2.7	8.4	奥行3.2 厚0.4	磨き下縁に鉄線。	E-1602
65	SK161	土師製	赤褐色	顔部	技法?+手	4.6	寛6.2	奥行6.5 厚0.2-0.5	底部穿孔。	E-1603
66	SK84	土師製	赤褐色	茶室	製作9(対角線)	2.5	2.8	奥行1.9	外面留付付着。底部穿孔。	E-1604
67	SK10	土師製	赤褐色	茶室	製作9(対角線)	3.1	4.6	奥行1.3 厚0.3	磨いた型押し。	E-1605
68	SK66	土師製	赤褐色	顔に童子?	磨押し?	寛2.8	寛1.6	奥行1.3	管は黒。管は白。石は黒。	E-1606
69	SK52	土師製	赤褐色	顔に童子?	製作9(上下)	寛1.8	寛3.1	奥行2.7 厚0.1	顔部は黒。外面留付付着。底部穿孔。	E-1607
70	SK67	土師製	赤褐色	顔・六角	磨押し	1.9	—	口径3.4 底径1.4	地に磨いた。外面は黒。	E-1608

第128表 近世の遺物(101) 人形・玩具類①

(1) ② (13)

No.	遺物	材質	胎土	物形	状	成形技法	法 量			備 考	登録番号
							高さ	最大幅	その他		
71	SK84	陶製	白黄	○	鉢・四方	轆轤	残 1.9	残 4.2	底径2.4	表石軸に磨蝕。	E-1609
72	SK47	土師黄	白黄	○	鉢・八角	型作り(上下)	1.8	—	口径5.7 底径2.3	底は赤・褐色。裏は黄緑。見込に亀紋。	E-1610
73	SK52	土師黄	白黄	○	平碗	型押し?	1.3	—	口径3.6 底径1.2	裏文は磨蝕。	E-1611
74	SK44	土師黄	白黄	○	鉢・方鉢	型作り(上下)	残 0.9	残 3.7	—	二見が縁の日の出、白地。目ばさ、黄は黄、若は青、外面黄緑付着。	E-1612
75	SK93	土師黄	白	○	縁轆轤・六角	型作り(前後)	残 5.3	3.6	底径2.0	縁轆轤。	E-1613
76	SD13	陶製	灰緑	○	縁轆轤	轆轤	5.2	3.8	口径1.7 底径2.4	灰緑。赤切り肌。	E-1614
77	SK161	土師黄	茶緑	○	有孔壺	轆轤	3.8	4.3	口径3.3 底径3.5	胴部にφ0.3mmの孔。	E-1615
78	SK04	土師黄	白黄	○	小壺	手造り	2.6	3.4	口径2.4 底径1.9	—	E-1616
79	SK04	土師黄	白	○	汁注ぎ?	型作り(上下他)	残 2.6	残 6.8	口径3.3 底径2.3	—	E-1617
80	SK44	土師黄	白黄	○	土甕	型作り(上下他)	残 2.4	6.9	口径2.2	縁轆轤上。	E-1618
81	SK26	土師黄	赤緑	○	縁轆	轆轤?	2.9	—	口径6.9 底径3.4	片口付。側面縁底穿孔。	E-1619
82	SK26	土師黄	緑	○	蓋	型押し	0.6	2.9	—	—	E-1620
83	SK44	土師黄	白黄	○	蓋	型押し	0.8	3.9	—	外面黄緑付着。	E-1621
84	SK44	土師黄	白黄	○	蓋	型押し	1.2	3.2	—	上面に縁轆。	E-1622
85	SK44	土師黄	白黄	○	茶釜	型作り(上下)	2.6	4.0	口径2.7	外面黄緑付着。	E-1623
86	SK84	土師黄	白	○	茶釜・茶釜形	轆轤	2.9	残 4.1	口径1.8 底径1.6	—	E-1624
87	SD22	土師黄	白黄	○	七輪	型作り	残 1.5	4.7	—	切羽残。	E-1625
88	奥出	土師黄	白黄	○	火鉢	型作り(前後他)	5.1	残 6.7	口径2.9 底径3.8	底面へりは赤。外面は緑。	E-1626
89	SD16	土師黄	緑	○	注簡	型押し?	残 5.1	残 4.4	—	把手は黄赤、羽根は白。	E-1627
90	SD1	土師黄	白黄	○	不明器物	型押し	1.8	6.2	底径2.5	—	E-1628
91	SK162	土師黄	白黄	○	鉢	手造り	4.0	4.5	—	—	E-1629
92	SK47	陶製	灰	○	削	型抜き?	—	3.0	厚0.6	表面のくぼみに透明筋。鉄軸。灰軸。裏に「前文」の印。	E-1630
93	SA03	土師黄	白黄	○	縁轆蓋物	型押し	残 2.0	1.2	厚0.2	裏に「一分元」裏に花押と釈文。	E-1631
94	SK04	土師黄	白	○	縁轆蓋物	型押し	2.2	1.6	厚0.3	裏に「一分元」裏に「室 藤原常長」。片面につき20の輪文が磨む。	E-1632
95	SK47	土師黄	白黄	○	縁轆蓋物	型押し	2.1	1.4	厚0.2	裏に扇面形に釈文。裏に「元次」と花押。	E-1633
96	SD13	土師黄	緑	○	加蓋	型押し	1.6	1.7	—	中心にφ0.1mmの孔。	E-1634
97	SK52	土師黄	白黄	○	飯釜・山伏?	型押し	残 4.9	残 7.7	厚0.2~1.1	—	E-1635

凡例

(1) ○は蓋軸あり。

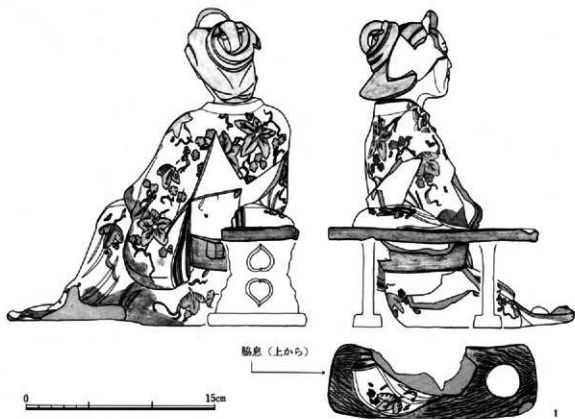
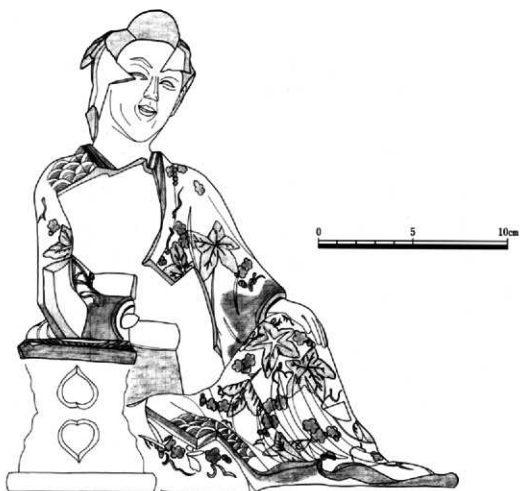
(2) ()内は残存部分。

(3) 型抜きは型を使っ形を抜くもの。型作りはそれらいくつが組み合わせ全体形を作るもの。型押しは、胎土の一部にのみ型を押しつけたもの。()内は型合せ方。

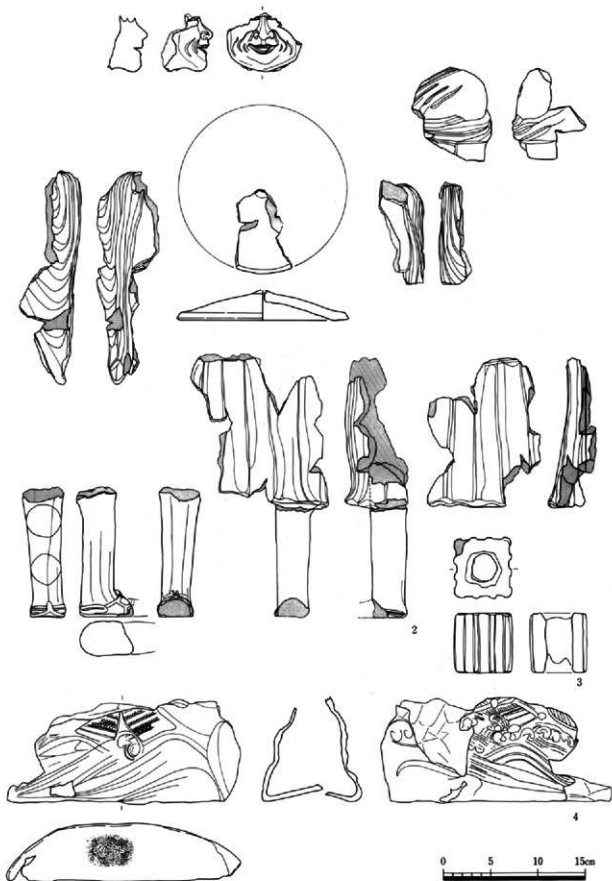
(4) 単位はcm。“残”は残存。“厚”は推定。

(5) 最大幅は、正面と思われる位置に置いた時の左右方向で表す。例とば高の鼻の先から尾の端まで。奥行はそれに対して前後の方向。

第129表 近世の遺物(102) 人形・玩具類②



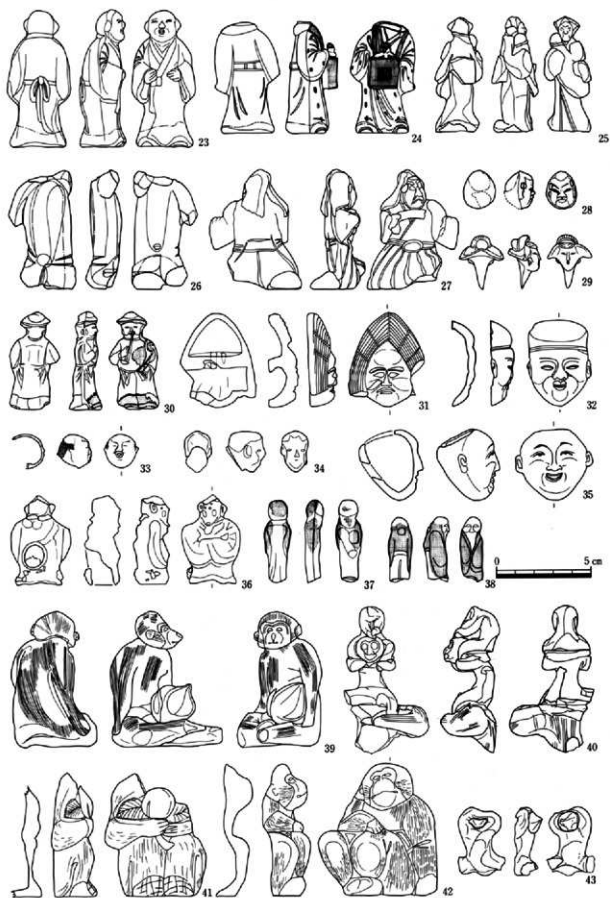
第138図 近世の遺物(103) 人形・玩具類① (正面は1:2、背面・側面は1:3)



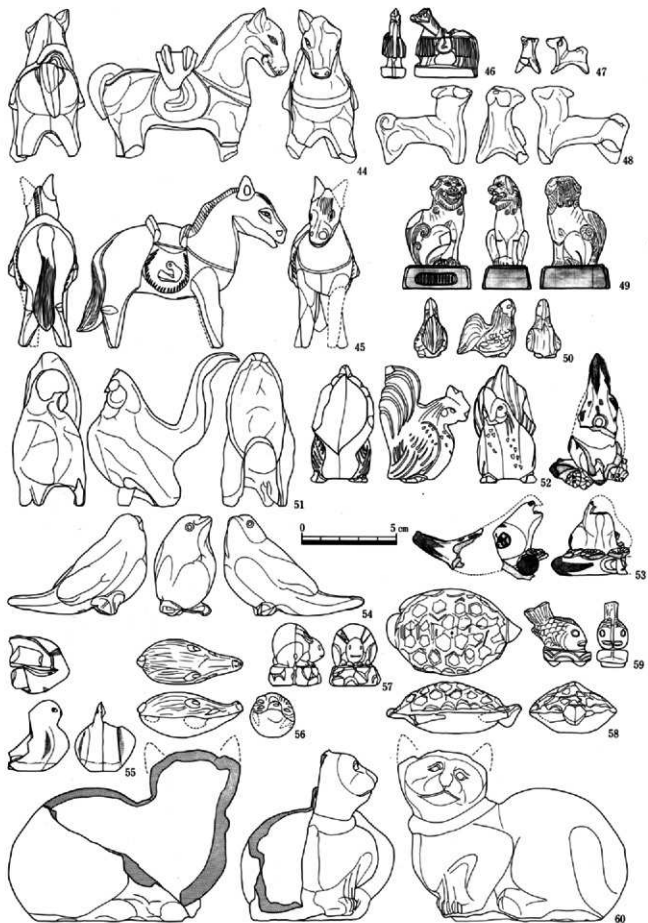
第139図 近世の遺物(104) 人形・玩具類②(1:4)



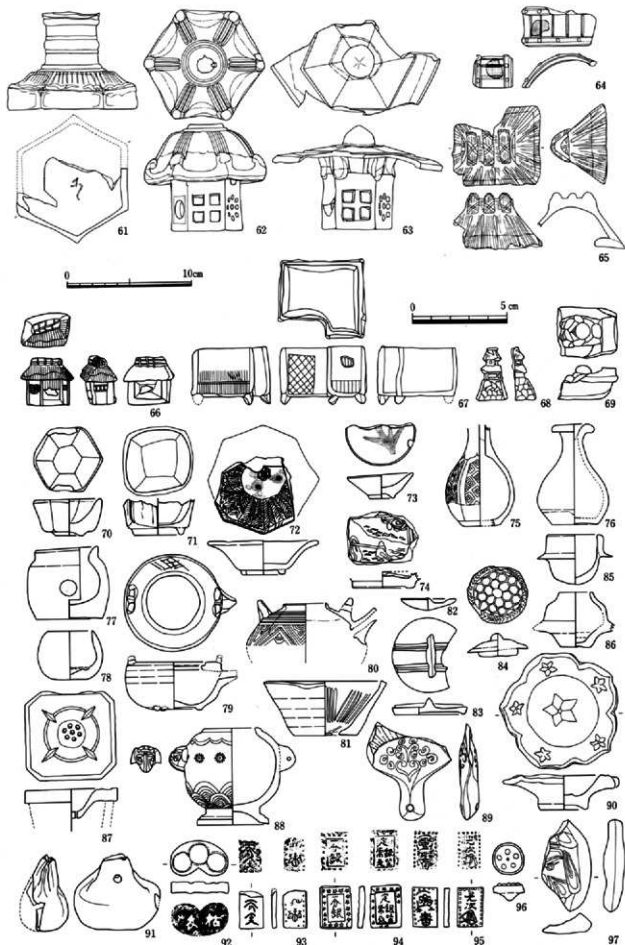
第140図 近世の遺物(105) 人形・玩具類③(1:2)



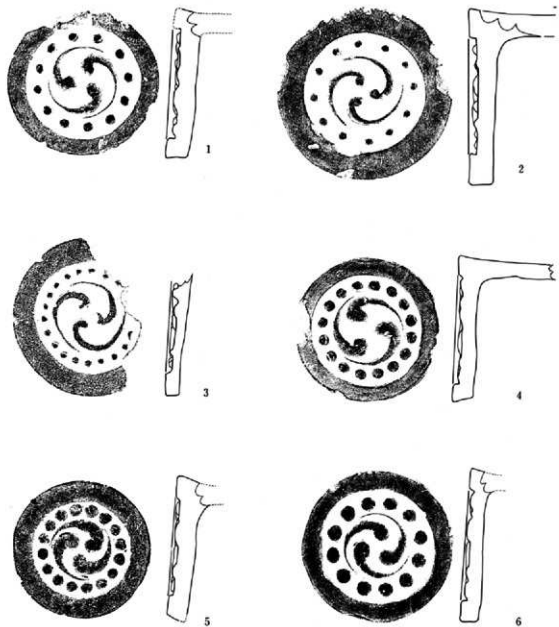
第141圖 近世の遺物(106) 人形・玩具類④(1:2)



第142図 近世の遺物(107) 人形・玩具類③(1:2)



第143図 近世の遺物(108) 人形・玩具類⑥(61~65は1:2、66~97は1:3)

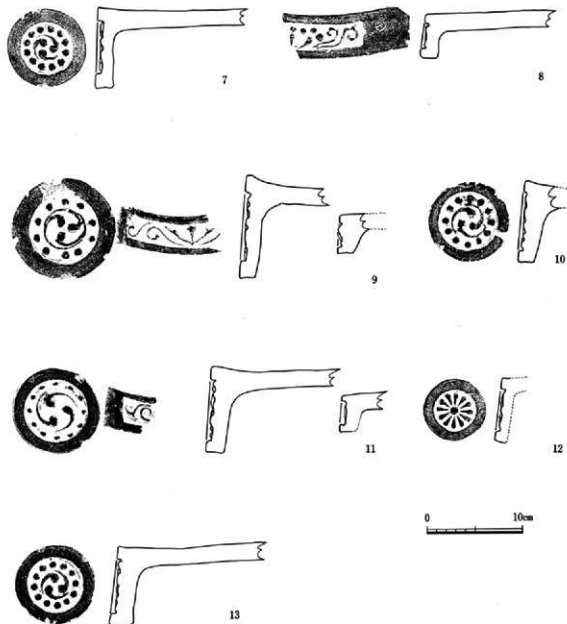


0 10cm

第144図 近世の遺物(109) 瓦①(1:4)

図版番号	遺構	種類	軒九部 (cm)			軒平部 (cm)			備考	登録番号
			径	内区径	珠文数	幅	内区幅	厚さ		
144-1	SX04	軒九瓦	—	12.0	12	—	—	—		E-1636
2	SK52	"	18.2	12.5	12	—	—	—		E-1637
3	SK80	"	—	—	—	—	—	—		E-1638
4	SK135	"	15.4	11.6	16	—	—	—	左周縁に刻印	E-1639
5	SK56	"	14.6	10.4	16	—	—	—		E-1640
6	"	"	15.7	11.9	12	—	—	—		E-1641

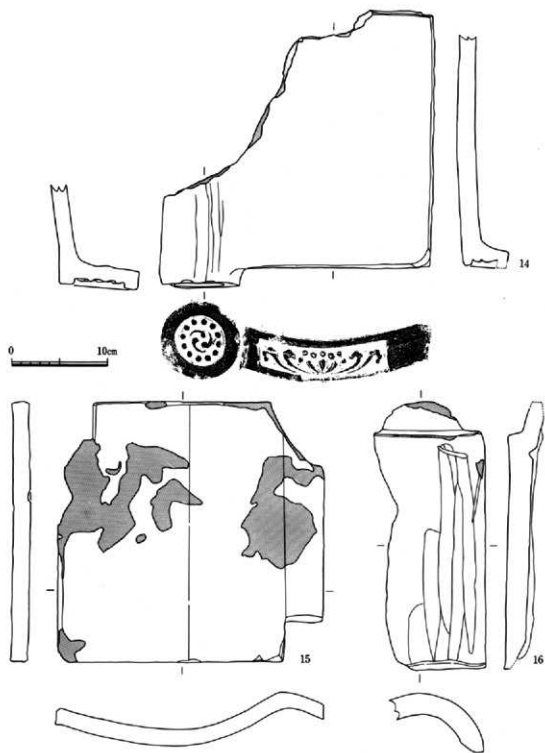
第130表 近世の遺物(103) 瓦①



第145図 近世の遺物(110) 瓦② (1:4)

図版番号	遺 構	種 類	軒丸部 (cm)			軒平部 (cm)				備 考	登録番号
			径	内区径	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚		
145-7	SX04	軒棧瓦	8.5	5.8	12	—	—	—	—		E-1642
8	"	"	—	—	—	—	—	4.6	2.8		E-1643
9	SK135	"	10.8	7.4	10	—	—	3.8	2.7		E-1644
10	"	"	8.6	6.3	12	—	—	—	—		E-1645
11	SK54	"	8.7	6.7	12	—	—	4.0	2.6		E-1646
12	"	"	6.5	4.6	—	—	—	—	—		E-1647
13	"	"	8.2	6.1	12	—	—	—	—		E-1648

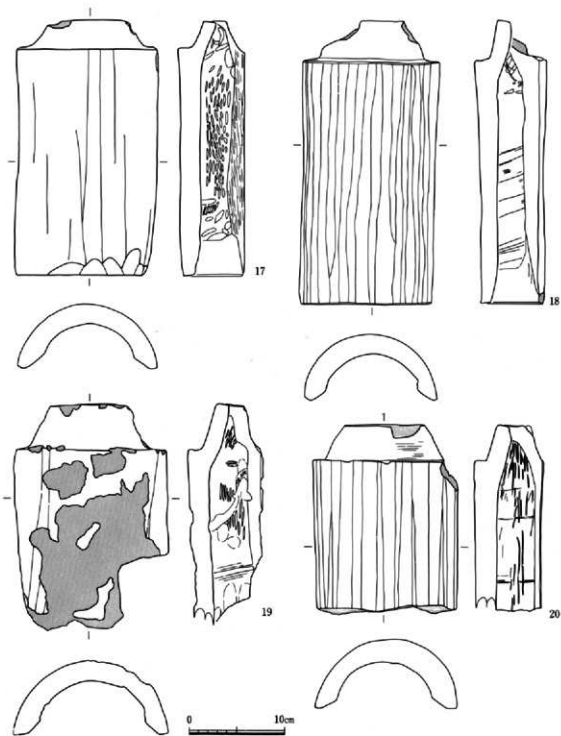
第131表 近世の遺物(104) 瓦②



第146図 近世の遺物(111) 瓦③ (1:4)

図版番号	遺 構	種 類	軒丸瓦 (cm)				軒平瓦 (cm)				備 考	登録 番号
			径	内区径	株文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚			
146-14	SK56	軒丸瓦	8.1	5.5	12	19.4	13.8	4.2	2.8		E-1649	
15	"	棟瓦	-	-	-	-	-	-	-	最大径23cm、最大幅17.7cm、厚1.8cm	E-1650	
16	SK80	丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	厚さ23cm	E-1651	

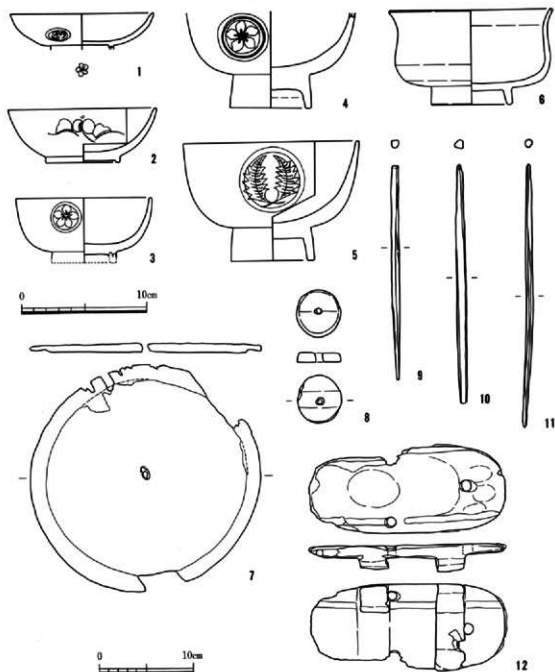
第132図 近世の遺物(105) 瓦③



第147図 近世の遺物(112) 瓦④ (1:4)

図版番号	遺 構	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考	登録 番号
147-17	SK149	丸瓦	27.4	15.1	2.8		E-1652
18	SK56	〃	30.1	13.9	2.2		E-1653
19	SK04	〃	24.1	16.2	2.2		E-1654
20	SK52	〃	—	15.2	2.2		E-1655

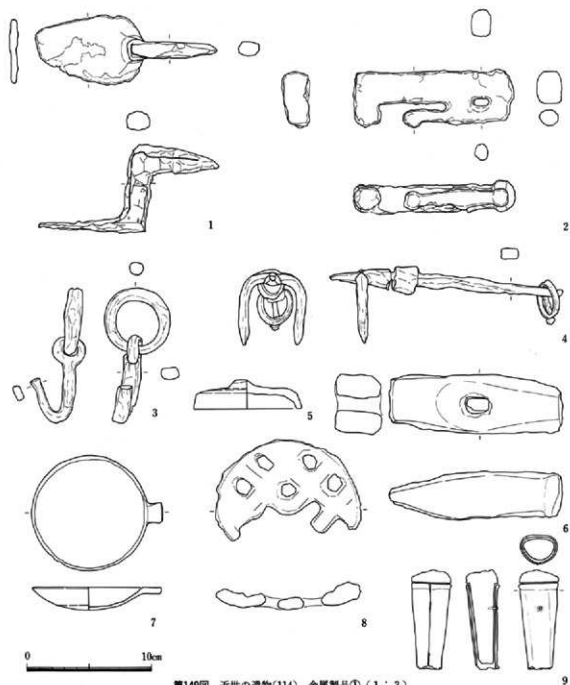
第133表 近世の遺物(106) 瓦④



第146図 近世の遺物(113) 木製品

図版番号	造構	種類	法 量			備 考	登録番号
148-1	SX04	碗	器高一	口径11.3	底径一	内面漆塗「丸に右施二巴」3ヶ所(金・朱)高台内母文	W-1
2	〃	〃	〃 4.4	〃 11.7	〃 5.9	〃 絞線3ヶ所(金・朱)	W-2
3	〃	〃	〃 —	〃 10.7	〃 —	〃 「丸に結梗」3ヶ所(金・銀・朱)	W-3
4	〃	〃	〃 —	〃 —	〃 6.5	〃 「二重丸に結梗」3ヶ所(金・銀)	W-4
5	〃	〃	〃 9.5	〃 13.8	〃 6.5	〃 「丸に抱き杓」3ヶ所(金)	W-5
6	〃	〃	〃 7.6	〃 12.7	〃 6.2	内・外面黒漆	W-6
7	〃	蓋	厚さ1.0	最大径24.3			W-7
8	〃	不明	〃 0.8	〃 3.8			W-8
9	〃	箸	径0.6	長さ17.1			W-9
10	〃	〃	〃 0.7	〃 19.0			W-10
11	〃	〃	〃 5.0	〃 20.9			W-11
12	〃	下駄	最大幅9.3	最大径20.8	高さ(2.9)		W-12

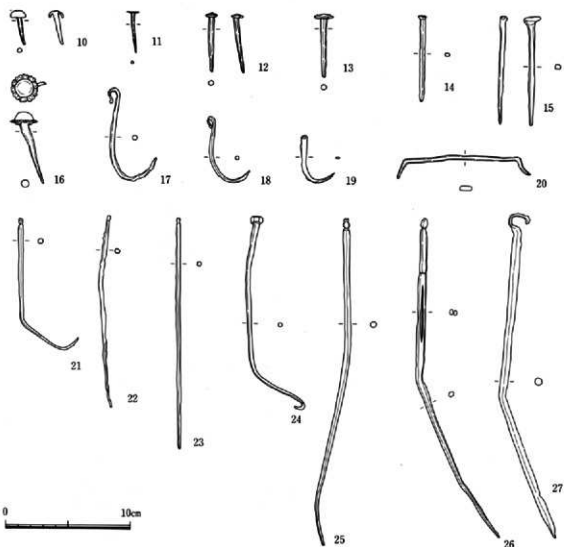
第134表 近世の遺物(107) 木製品



第149図 近世の遺物(114) 金属製品①(1:3)

図版番号	遺 構 種 類	材質	法 量 (cm)			備 考	登録番号
149-1	SK135 鏝	鉄	最大幅 5.6	長 さ 14.5	高さ 7.1	把手に木質残存	M-1
2	SX04 錠	〃	幅 4.2	長 さ 12.8	厚さ 2.5		M-2
3	SK147 鈎	〃	長 さ 10.7	輪の直径 5.2			M-3
4	検出	把手(引かき棒か)	〃 18.6	高 さ 6.0			M-4
5	SK84 蓋か	〃	径 高 2.3	口 径 8.6			M-5
6	SK67 金輪の頭部	〃	長 さ 13.8	幅 4.7			M-6
7	SK44 灯明皿か	〃	径 高 1.8	口 径 9.2	底径 1.5		M-7
8	SK101 鉄ヤナ	〃	最大径 11.5				M-8
9	検出	石突(取っ手か)	鋼	〃 3.1	最 長 8.0	木芯に目釘で固定	M-9

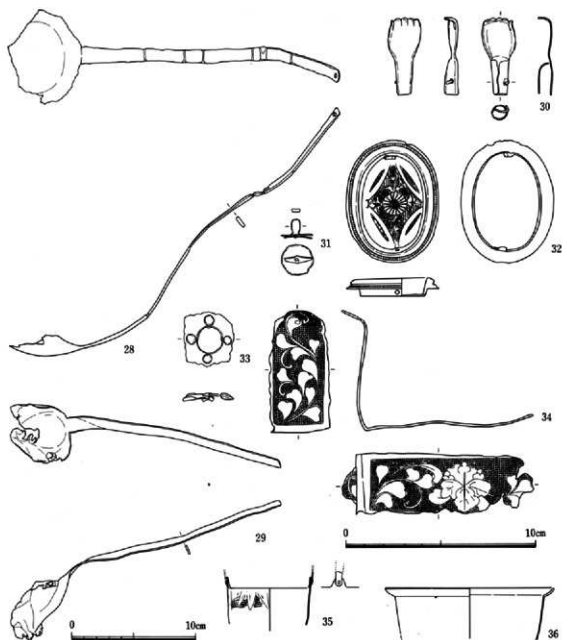
第135表 近世の遺物(108) 金属製品①



第150図 近世の遺物(115) 金属製品② (1:3)

図版番号	遺物種	種類	材質	長さ (cm)	直径 (cm)	備考	登録番号
150-10	検出	鋼	鋼	全長 2.8	直径 1.2		M-11
11	SD16	針	鋼	3.2	1.1		M-12
12	SK40	針	鋼	4.7	1.0		M-13
13	SK52	針	鋼	5.1	1.6		M-14
14	SK78	釘	鉄	6.8			M-15
15	SK97	針	鋼	8.7			M-16
16	検出	鋼	鋼	6.0	直径 2.1		M-17
17	SD24	釣り針	鋼	12.4			M-18
18	SK52	針	鋼	9.0			M-19
19	針	針	鋼	5.8			M-20
20	検出	鋼	鋼	11.8			M-22
21	SK144	火箸	鉄	13.7			M-23
22	SK78	針	鋼	15.7			M-24
23	SK52	針	鋼	18.5			M-25
24	SK56	針	鋼	18.5			M-26
25	針	針	鋼	26.5			M-27
26	SK95	針	鉄	27.1			M-28
27	SX04	針	鋼	28.2			M-29

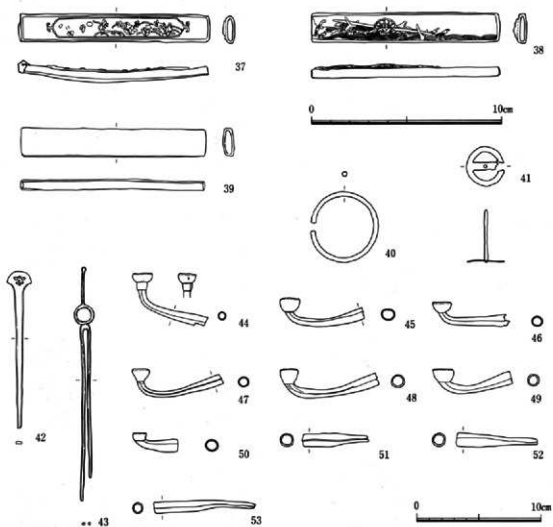
第136表 近世の遺物(109) 金属製品②



第151図 近世の遺物(116) 金属製品④ (28, 29は1:2、30-36は1:3)

図版番号	遺物種	類	材質	法量 (cm)			備考	登録番号
151-28	SK52	杓子	銅	長さ	28.7	横長7.6	縦長5.8	M-30
29	"	"	"	"	17.9	" 4.9	" 4.5	M-31
30	SK173	孫の手	"	手首部径	1.1	長さ6.1	最大幅2.5	M-32
31	検出	金具	"	全長	5.1	縦径1.6		M-33
32	SK84	襷の取手	"	横長	4.8	縦長6.4		M-34
33	SK171	留の金具	"	最大巾	4.3			M-35
34	SK143	"	"	高さ	3.2	厚さ0.1	五三桐文	M-36
35	SK94	容器	"	口径	6.6			M-37
36	SK35	"	"	"	12.4			M-38

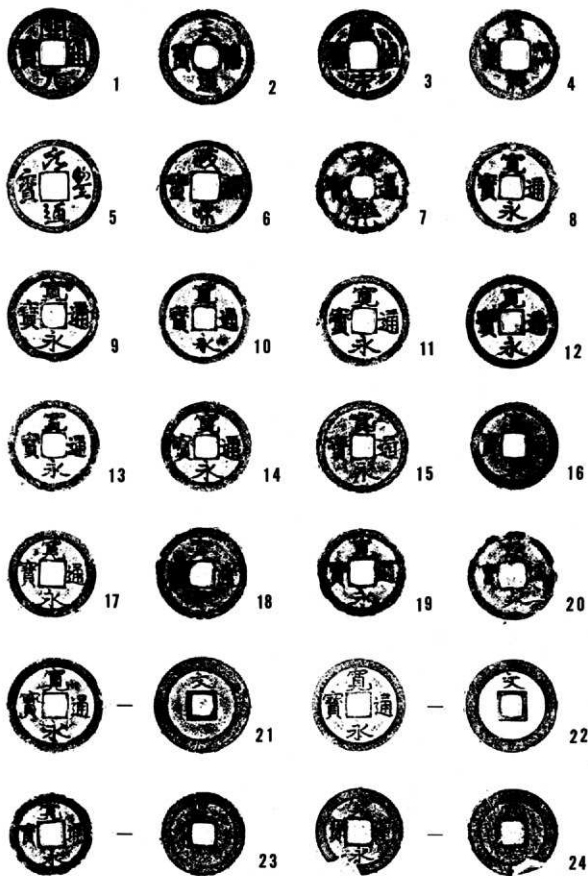
第137表 近世の遺物(110) 金属製品③



第152図 近世の遺物(117) 金属製品④ (37-39は1:2, 40-53は1:3)

図版番号	遺物種	種類	材質	法	量 (cm)	備考	登録番号
152-37	SK147	小柄	銅	全長	10.0	草花文(彫金)	M-39
38	SK132	"	"	"	9.9	水草文	M-40
39	SK107	"	"	"	9.7		M-41
40	SK67	金具	"	最大径	5.6	厚さ 0.4	M-42
41	SD13	鑿き立て	"	"	2.9	高さ 4.2	M-43
42	検出	筭	"	全長	12.5		M-44
43	SD13	"	"	"	18.7		M-45
44	検出	煙管(煙首)	"	首の長さ	6.25	火皿径 1.5 高さ 4.1	M-46
45	"	"	"	"	6.4	" 1.5 " 2.4	M-47
46	SK101	"	"	"	5.9	" 1.5 " 1.9	M-48
47	検出	"	"	"	7.1	" 1.2 " 2.3	M-49
48	"	"	"	"	7.5	" 1.4 " 2.3	M-50
49	"	"	"	"	5.7	" 1.6 " 1.9	M-51
50	SD13	"	"	"	3.0	" 10.0 " 2.0	M-52
51	検出	"(裂口)	"	長さ	5.1	最大径 1.1	M-53
52	SK67	"	"	"	6.8	" 1.1	M-54
53	SD13	"	"	"	8.1	" 0.8	M-55

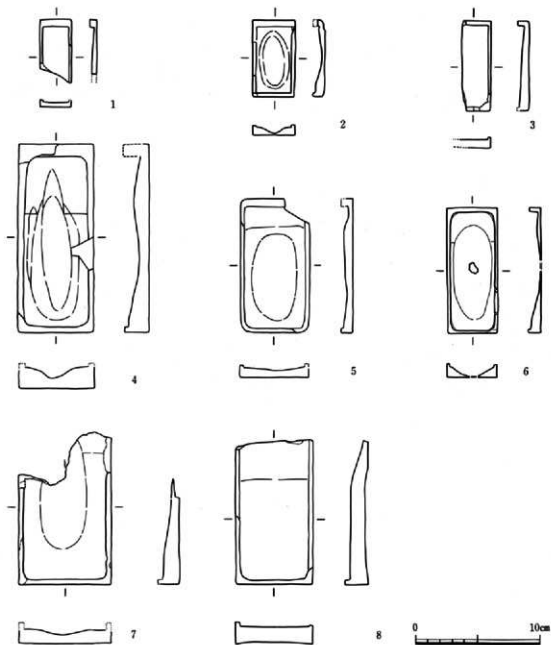
第138表 近世の遺物(111) 金属製品④



第153図 近世の遺物(118) 鐵貨(1:1)

図版番号	遺 物	種 類	法 量 (cm) (φ)			備 考	登録 番号
			徑	孔 徑	重 量		
153-1	検出	開元通宝	2.4	0.7	2.4	唐 銭、621年初铸	M-56
2	〃	天禧通宝	2.5	0.6	2.9	北宋銭、1017年 〃	M-57
3	〃	皇宋通宝	2.4	0.8	2.4	〃、1036年 〃	M-58
4	〃	嘉祐通宝	2.3	0.8	2.5	〃、1056年 〃	M-59
5	〃	元豊通宝	2.5	0.8	3.2	〃、1078年 〃 真書	M-60
6	SK78	政和通宝	2.4	0.7	3.9	〃、1111年 〃	M-61
7	SD21	永楽通宝	2.5	0.6	2.4	明 銭、1408年 〃	M-62
8	SK05	寛永通宝	2.4	0.6	2.6	古寛永	M-63
9	SK174	〃	2.4	0.6	3.1	〃	M-64
10	SK52	〃	2.4	0.6	3.4	〃	M-65
11	SD12	〃	2.4	0.6	3.0	〃	M-66
12	SK78	〃	2.4	0.6	3.3	〃	M-67
13	SD13	〃	2.4	0.6	2.6	〃	M-68
14	SX04下層	〃	2.4	0.6	2.7	〃	M-69
15	SK05	〃	2.4	0.6	3.3	新寛永	M-70
16	SD13	〃	2.3	0.7	2.1	〃	M-71
17	SK78	〃	2.3	0.6	2.6	〃	M-72
18	SK84	〃	2.4	0.7	2.5	〃	M-73
19	SK67	〃	2.3	0.6	2.1	〃	M-74
20	SX04下層	〃	2.4	0.6	1.5	〃	M-75
21	SK78	〃	2.5	0.6	3.7	〃 背文	M-76
22	SK52	〃	2.5	0.6	1.8	〃 背足	M-77
23	SD13	〃	2.2	0.6	3.2	〃 背文	M-78
24	SD14	〃	2.3	0.6	1.4	〃 背元	M-79

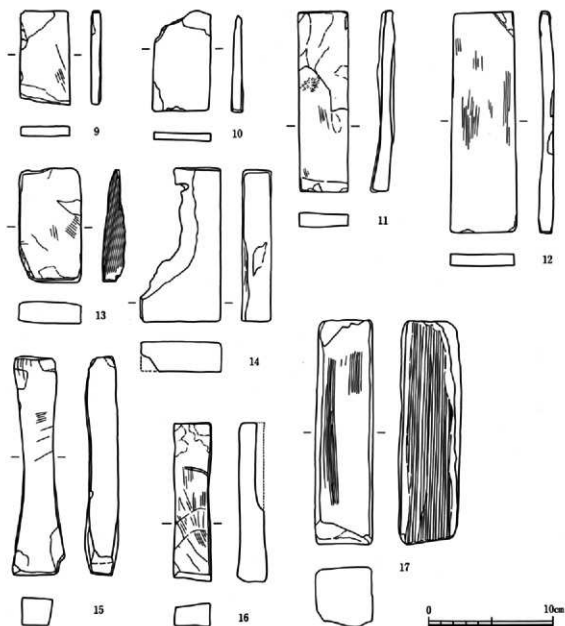
第139表 近世の遺物(112) 銭貨



第154図 近世の遺物(119) 石製品① (1 : 3)

図版番号	遺構	種類	石材	法 量(cm)			備 考	登録番号
				厚さ	幅	縦		
154-1	SK13	硯	頁岩	0.6	2.5	(5.1)		S-2
2	検出	"	"	0.9	3.4	6.1		S-3
3	SK84	"	"	0.9	2.3	7.2		S-4
4	検出	"	"	2.0	6.0	15.1		S-5
5	"	"	粘板岩	1.1	5.5	10.8		S-6
6	SK84	"	頁岩	1.1	4.0	10.0		S-7
7	SK107	"	礫炭質頁岩	—	7.3	(12.3)		S-8
8	SK101	"	頁岩	1.8	6.1	(11.6)		S-9

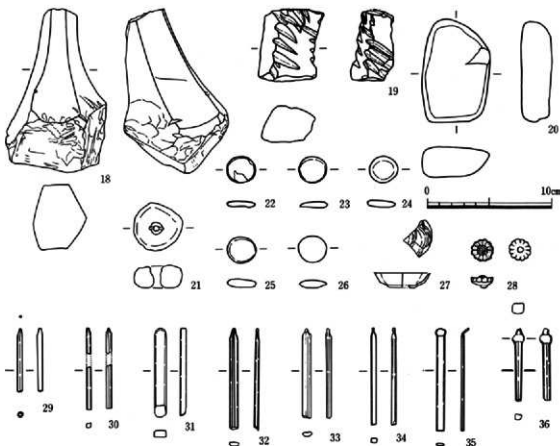
第140表 近世の遺物(113) 石製品②



第155図 近世の遺物(120) 石製品②(1:3)

図版番号	遺構	種類	石材	法量(cm)			備考	登録番号
				厚さ	横	縦		
155-9	SK150	砥石	礫灰岩	0.8	3.9	7.5		S-10
10	SK78	"	頁岩	0.9	4.5	8.0		S-11
11	SK158	"	"	1.3	4.0	14.5		S-12
12	SK52	"	"	1.2	5.3	17.7		S-13
13	SK75	"	"	1.7	4.9	9.2		S-14
14	SD14	"	礫灰岩	2.4	6.4	12.4		S-15
15	SK74	"	"	2.7	4.0	15.6		S-16
16	SK78	"	泥岩	2.3	2.9	12.6		S-17
17	SK52	"	"	4.8	4.6	18.1		S-18

第141表 近世の遺物(114) 石製品②



第156図 近世の遺物(121) 石製品③・ガラス製品(1:3)

図版番号	遺構	種類	石材	法 量(cm)			備 考	登録番号
				厚さ	横	縦		
156-18	検出	砥石	砂岩	—	7.7	(13.0)		S-21
19	SK100	＊	凝灰岩	3.2	4.7	5.8		S-22
20	SD14	砥石	浮石	2.5	5.2	8.4		S-23
21	SX04	＊	＊	1.8	最大径 3.5	—	用途不明	S-24
22	SD13	基石(黒)	玄武岩	0.4	径2.2	—		S-25
23	SK78	＊(黒)	ホルンフェルス	0.5	＊2.1	—		S-26
24	SK84	＊(黒)	＊	0.5	＊2.2	—		S-27
25	SX04	＊(黒)	玄武岩	0.7	＊2.3	—		S-28
26	検出	＊(白)	不明	0.6	＊2.2	—		S-29

第142表 近世の遺物(115) 石製品③

図版番号	遺構	種類	法 量(cm)			備 考	登録番号
			厚さ	横	縦		
156-27	SK88	小杯	器高 1.2	口径(4.5)	底径(2.0)	透明	X-1
28	SK101	鉢	厚さ 1.0	最大径 1.8	—	＊	X-2
29	＊	壺	高さ 5.1	＊	最小径 0.1	＊	X-3
30	SK47	＊	厚さ 0.4	横 0.4	縦 —	＊	X-4
31	＊	＊	＊ 0.5	＊ 0.1	＊ (7.1)	白濁、やや黄色がかる	X-5
32	SK101	＊	＊ 0.3	＊ 0.7	＊ (7.8)	片面中央に大き0.5mm前後の緑色ガラスが2本帯状に入る	X-6
33	SK107	＊	＊ 3.5	＊ 7.5	＊ (7.1)	透明	X-7
34	検出	＊	＊ 0.4	＊ 0.4	＊ (0.7)	やや白濁	X-8
35	SK107	＊	＊ 0.2	＊ 0.6	＊ (8.3)	明青色	X-9
36	SK101	＊	＊ 0.9	＊ 1.0	＊ (5.8)	透明	X-10

第143表 近世の遺物(116) ガラス製品

遺 構	和 名	学 名	最少個体数	
SX04	ウリの仲間		11	
SE07	不明貝片			
SK150	サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i> SOLANDER	1	
SK17	魚骨?		1	
SK52	鳥骨		1	
SK52	アカニシ	<i>Rapana Thomsiana</i> CROSSE	3	
SK52	イボアナゴ	<i>Halatis Sankariotis varia</i> (LNNE)	1	
SK52	クロアワビ	<i>Notohaliotis Discus</i> (REEVE)	3	
SK52	サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i> SOLANDER	8	
SK52	サトウガイ	<i>Anadara (Scapharca) satowi</i> (DUNKER)	5	
SK52	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (RODING)	37	
SK52	バイ	<i>Babyronia japonica</i> (REEVE)	1	
SK52	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i> (THUNBERG)	1	
SK52	マルタニシ	<i>Cipanopafudina chinensis malleana</i> (REEVE)	1	
SK52	ヤマトシジミ	<i>Corbicula (Cordicalina) leana</i> PRIME	35	
SK52	ウマ 中足骨ない・L中手骨	<i>Equus caballus</i>	1	
SK52	鳥骨		1	
SK52	魚骨?			
SK54	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (RODING)	1	
SK54	魚骨?			
SK58	スズキ 鯉蓋骨	<i>Lateolabrax japonicus</i> (CUVIER ET VALENCIENNES)	1	
SK108	魚骨?			
SK94	魚骨?			
SK158	不明			
SK84	魚骨?			
SK67	不明貝片			
SK44	不明貝片			
検出	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (RODING)	1	
検出	調査区西端部	サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i> SOLANDER	1
検出	調査区西端部	ハイカイ	<i>Anadara (Tagillarca) granosa bisenensis</i> SCHENCK et REIN-HART	1
検出	調査区西端部	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (RODING)	1
検出	調査区中央部	サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i> SOLANDER	1
検出	調査区中央部	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (RODING)	1
検出	調査区中央部	不明魚骨 (加工品)		1
検出	調査区北辺部	アワビの仲間		1
検出	調査区北辺部	不明魚骨 (シカ?) 指骨		1
検出	調査区北辺部	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (RODING)	1

<<同定者>> 森 勇一；永草康次；橋真美子；前田弘子；萬谷さつき

第144表 名古屋城三の丸遺跡近世遺構出土の自然遺物

第IV章 まとめ



第IV章 まとめ

ここまで、今回の調査で得られた成果について、幾つかの項目に章立てした上で、その事実関係をでき得る限り報告してきたつもりである。そこには、紙面の制約や編者の力量不足からくる遺漏が少なからず存在するわけであるが、その中の幾つかを、将来的な展望も含めた問題点として列挙し、本報告書のまとめにかえたい。

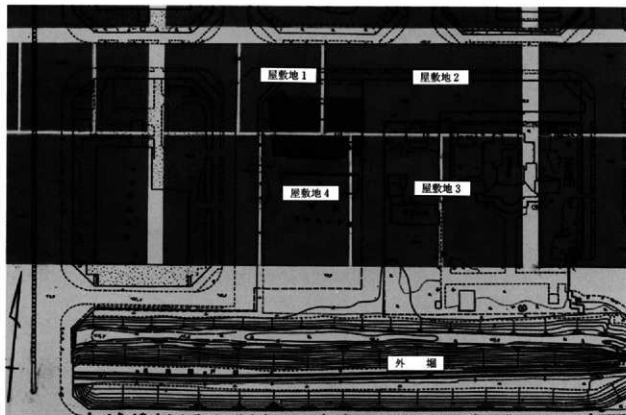
まず、第一点として、報告の大部分を占める遺構と遺物の記述についてであるが、単なる資料の羅列に終始した感が強く、その遺跡の動向を最もよく知り得る両者の相関関係についてはほとんど言及することができなかった。ただ、事実報告に第一義をおいた編集方針の中で、各遺構出土陶磁器の組成に関する基礎的なデータの提示、及びそれに即した形の用途に主眼を置いた陶磁器分類の2点のみがそうした意図を反映したものとと言えるが、これとて肝心なデータの処理・分析が不足しており、あらためて各方向から論じられねばならない。具体的には、組成から導き出される量的・質的差異に基づいて、生活様式や流通形態の変化などの時間軸の問題、各調査区内における個々の場の性格復元に代表される空間軸の問題、出土遺物に反映されるであろう階層性などの問題などが提起されてくることは明らかであり、それらがより豊かな近世三の丸像の構築には不可欠の要素となつてこよう。

次に第二点目は、名古屋城三の丸遺跡を取り巻く近世考古学の状況についてである。これは、第I章において述べたように、近年、三の丸をはじめ各地都市部を中心とした近世遺跡の発掘調査の目ざましい進展に喚起された問題点であると言えよう。近世においても当地方の経済的・文化的中心であった名古屋での城郭・城下町の調査状況は既述の通りであるが、同時に、西尾城・吉田城のような近隣諸藩の中小城郭や、勝川遺跡・清洲城下町遺跡にみられる街道沿いの宿場町、瀬戸にみられる一大窯業生産地など、規模や性格の異なる近世遺跡の様相が次第に明らかになりつつある。このような状況の中で、それぞれの持つ資料を同一レベルで比較・検討し、そこに見いだされる各種の同質・異質性から、各々の場の持つ特性及びその間の有機的な諸関係を明らかにしていく必要があろう。そして、その総体としての一近世像を常に意識し、追求してゆくと同時に、安易に文献に依存することのない、考古学の叙述しうる近世社会の姿を確立することが急務であろう。

最後に第三点目として、三の丸遺跡を中心とした戦国期の様相について考える必要があろう。というのも、今回の調査地点において戦国期の大溝S D501が確認されたことで、同溝の開削時期や経緯はもちろん、開削前後の城郭及び城下町の展開の如何についても新たな問題が提起されたからである。つまり、那古野城をめぐる時代の動向がより明らかになると同時に、当時の城郭・城下町のあり方も今一度問い直されようとしているのである。今後は、より広範囲に視野を向け、那古野城が尾張の中世城館の中でどのように位置づけられるのかを明確にしていかなければならないであろう。

以上、おおまかに3点を指摘したわけであるが、もとより、これらの課題の中には報告書の本来の趣旨から若干逸脱したのも含まれている。今後、調査の進展と議論の深化の中で、様々な形を取りつつ着実に解明されてゆくことを期待したい。

(金子健一)



第157図 屋敷地の復元 (1:2500)

屋敷地 1	屋敷地 2	屋敷地 3	屋敷地 4
鳥 沢 熊 之 助	石 黒 市 十 郎	大 道 寺 玄 蕃	伊 奈 左 門
一 之 右 衛 門	飯 島 土 佐	玄 蕃	左 衛 門
尾 崎 伝 兵 衛	左 原 大	玄 蕃	源 五 右 衛 門
新 左 衛 門	彦 四 郎	寺 尾 内 匠	左 助
堀 原 金 左 衛 門	寺 西 藤 左 衛 門	頼 母 之 助	下 条 庄 右 衛 門
五 左 衛 門	織 田 誠 殿 介	悦 之 助	新 内
兼 松 源 兵 衛	津 田 新 十 郎	山 澄 主 祝	成 瀬 竹 之 助
吉 田 主 水	金 十 郎 ^{※1}	生 駒 因 幡	津 田 兵 部
鉄 之 進	滝 川 友 之 助	津 瀬 源 又 六	幸 次 郎
天 野 四 郎 兵 衛	彦 左 衛 門	成 瀬 内 膳	横 井 伊 織
鉄 三 郎	織 田 周 防	津 田 幸 次 郎	遠 山 彦 左 衛 門
四 郎 兵 衛	山 村 甚 兵 衛	悦 幸 次 郎	成 瀬 喜 三 郎
	河 村 兵 馬	下 条 庄 右 衛 門	健 之 助
	半 左 衛 門	安 吉 郎	吉 左 衛 門
	織 田 宮 内 四 郎	乙 治 郎 ^{※2}	
	藤 誠 殿 介	滝 川 彦 次 郎	

第145表 居住者の変遷

奥村得義 1858『金城温古録』、松山若平 1745『土林河原』より作成。

屋敷地1～4の居住者の柄の並びは必ずしも同一時点の居住者を示すものではない。

※1 この段階まで屋敷地2は2軒に分れており、津田金十郎より以前の人物はその一方の西側の屋敷地の居住者。この時点で一軒に統合された可能性が高い。

※2 この段階で屋敷地3は東隣の屋敷地へ編入・統合。

付 表

(遺構一覽表)

凡 例	
()	残存・現存値
[]	推定値
—	計測・觀察不能

下層の遺構

溝
(SD)

遺構番号	規模(m)		方 向	底 部 の 傾 斜	備 考	登録番号
	幅	深 さ				
SD501	13.0	4.2	E-5°-S(溝底) E-5°-S(溝底)	東西：西から東へ下がる		SD501
502	0.7	0.4	E-5°-S	東から西へ下がる		502-SK548
503	0.5	0.3	N-15°-E	北から南へ下がる		503
504	1.2	0.2	E-7°-S(溝底) E-7°-S(溝底)	—		504
505	1.4	0.5	E-10°-S(溝底) E-10°-S(溝底)	東西：西から東へ下がる	南北：南から北へ下がる	505
506	2.8	1.2	E-8°-S	西から東へ下がる		506

溝 列
(SA)

遺構番号	規模(m)		方 向	備 考	登録番号
	柱穴数	延 長			
SA501	7	11.4	N-8°-E		
502	7	11.8	N-8°-E		—
503	6	12.2	N-8°-E		—
504	4	13.2	E-8°-S		—
505	5	10.2	E-4°-S(溝底) E-4°-S(溝底)		—
506	9	15.4	E-7°-S		—
507	5	11.2	E-8°-S		—
508	5	9.0	E-8.5°-E		—
509	—	—	—	欠 番	—
510	7	11.4	E-5°-N		—
511	4	5.2	N-8°-W		—
512	7	12.6	E-5°-N		—
513	9	23.8	E-7°-N(溝底) N-7°-E(溝底)		—
514	9	18.8	E-7°-N		—
515	4	2.6	N-6°-W		—
516	8	12.6	E-6.5°-N		—
517	5	13.4	E-10°-N		—
518	4	18.8	E-10°-N		—
519	12	33.8	E-8°-N(溝底) N-8°-E(溝底)		—

土 坑
(SK)

遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号	遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号
	長径	短径	深さ				長径	短径	深さ		
SK501	1.9	1.5	0.3		SK501	526	(1.7)	(0.8)	0.2		537
502	(0.9)	1.3	0.1		502	527	0.8	(0.4)	0.1		539
503	1.0	0.6	0.3		503	528	(0.6)	(0.7)	—		540
504	1.5	1.5	0.3		505	529	0.6	0.4	0.5		542
505	(2.4)	(0.9)	0.5		506	530	(3.0)	1.7	0.8		543
506	0.8	0.7	0.3		508	531	2.7	1.8	1.4		544
507	0.9	0.6	0.1		509	532	(1.7)	1.2	0.3		545
508	(0.8)	0.4	0.1		510	533	0.8	0.3	0.4		546
509	(0.6)	0.6	0.4		511	534	0.8	0.7	0.2		547
510	0.7	(0.4)	0.3		513	535	0.7	0.5	0.5		549
511	1.7	1.6	0.7		514	536	(0.2)	(0.2)	0.1		551
512	(1.0)	1.0	0.4		515	537	(0.5)	(0.2)	0.2		552
513	0.9	0.6	0.1		516	538	(1.1)	(0.5)	0.1		553
514	0.7	0.4	0.3		517	539	(2.0)	(0.3)	0.4		554
515	2.1	(0.6)	0.4		518	540	(1.0)	(0.7)	—		555
516	1.0	0.8	0.3		519	541	1.9	(0.5)	0.2		556
517	(0.8)	(0.3)	0.2		522	542	(0.9)	(0.7)	0.1		557
518	1.3	0.4	0.4		524	543	(1.0)	0.5	0.2		558
519	1.9	0.8	0.1		525	544	1.3	0.8	0.5		559
520	1.3	(0.6)	0.1		527	545	0.7	0.5	0.3		560
521	0.6	0.3	0.1		528	546	(1.8)	(0.4)	0.2		561
522	(1.3)	(0.8)	0.3		533	547	(2.4)	(0.6)	0.3		562
523	1.2	1.2	0.5		534	548	(2.2)	0.5	0.2		563
524	0.9	0.6	0.3		535	549	0.8	0.6	0.4		564
525	0.7	0.6	0.5		536	550	0.6	0.6	0.4		565

土 坑
(SK)

遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号	遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号
	長径	短径	深さ				長径	短径	深さ		
551	1.2	0.5	0.4		567	558	5.2	(1.1)	0.6		574
552	(0.5)	0.4	0.3		568	559	1.4	1.2	0.2		576
553	0.6	0.4	0.2		569	560	(3.7)	2.3	0.3		541
554	0.6	0.4	0.4		570	561	(0.4)	0.3	0.2		538
555	(1.7)	(1.3)	0.4		571	562	(1.2)	(0.4)	—		520
556	(1.9)	(2.1)	—		572	563	0.8	0.6	—		566
557	(1.6)	0.7	0.2		573						

建 物
(SB)

遺構番号	規模(m)		長 軸 方 向	備 考	登録番号
	長 辺	短 辺			
SB501	12.9	3.15	E-5°-N	長辺の両端は未確認	SB501

井 戸
(SE)

遺構番号	規 模(m)		備 考	登録番号	遺構番号	規 模(m)		備 考	登録番号
	長 径	短 径				長 径	短 径		
SE501	5.3	(1.4)		SE 501	SE 502	4.5	3.8		SK192

上層の遺構

溝
(SD)

遺構番号	規 模(m)		方 向	底部の傾斜	類 型	備 考	登録番号
	幅	深さ					
SD01	0.7	0.4	E-1.5°-N	やや西から東へ下がる	②		SD13
02	0.4	0.8	E-1.5°-N	西から東へ下がる	②		11
03	1.3	1.1	E-4°-N(東西) N-10°-W(南北)	東西・東から西へ下がる	①	南北・北から南へ下がる	27(16)
04	1.8	1.5	E-1°-S(東西) N-2°-W(南北)	東西・西から東へ下がる	①	南北・北から南へ下がる	41
05	0.9	0.3	E-5°-N	東から西へ下がる	②		46
06	1.0	0.9	E-7°-N	両端が下がる	②		55
07	1.0	0.3	N-7°-W	ほぼ水平	②		57
08	2.2	1.5	E-6°-N	両端が下がる	①		04
09	1.5	1.1	N-6°-W	ほぼ水平	①		60
10	1.5	0.8	N-6°-N	南から北へ下がる	①		63
11	1.4	1.0	N-13°-W	南から北へ下がる	②		65
12	1.7	1.0	E-3°-N(東西) N-10°-W(南北)	東西・ほぼ水平	②	南北・北から南へ下がる	SK191・SD66
13	1.4	0.2	E-1°-N	ほぼ水平	②		SK201
14	2.0	1.4	E-4°-N	西から東へ下がる	②		SD67-25-51
15	1.6	1.1	E-2.5°-N	両端が下がる	②		54
16	1.7	0.3	E-6°-N	東から西へ下がる	②		29
17	1.5	1.0	E-6°-N	東から西へ下がる	②		21
18	1.0	0.4	E-11.5°-N	ほぼ水平	②		39
19	1.0	0.7	E-4°-N(東西) N-10°-W(南北)	西から東へ下がる	②	南北・ほぼ水平	01
20	0.5	0.4	N-4°-W	北から南へ下がる	②		40
21	1.0	0.2	E-6°-N	やや東から西へ下がる	②	遺構図未掲載	05
22	1.1	0.7	E-6°-N	東から西へ下がる	②		26
23	0.3	0.1	E-4.5°-N	ほぼ水平	②	遺構図未掲載	15
24	0.8	0.3	E-5.5°-N	西から東へ下がる	②	遺構図未掲載	14
25	1.8	0.8	E-7°-N	西から東へ下がる	①		59

溝 列
(SA)

遺構番号	規 模(m)		方 向	備 考	登録番号
	柱穴数	延 長			
SA01	4	6.0	E-0.5°-N		SA01
02	6	10.3	E-5°-N		02
03	9	19.2	E-5°-N		03-P.15
04	13	26.6	E-3°-N(東西) N-7°-W(南北)		—
05	—	10.2	E-4°-N		04
06	10	29.4	E-6.5°-N		SD03

土 坑
(SK)

遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号	遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号
	長さ	幅	高さ				長さ	幅	高さ		
SK 01	(1.5)	(1.0)	0.4		SK 25	60	(1.9)	(0.9)	0.1		174
02	1.1	0.8	0.2		31	61	1.1	1.0	0.4		182
03	1.5	1.0	0.2		26	62	(2.4)	(1.8)	0.6		165
04	2.2	1.6	0.2		34	63	5.2	1.3	0.9		SD 42
05	1.1	0.9	0.4		19	64	1.8	0.9	0.3		SK164
06	1.7	1.5	0.3		35	65	2.4	1.4	0.2		212
07	1.8	1.7	0.3		36	66	2.0	0.9	0.5		163
08	1.3	0.9	0.4		38	67	2.0	1.4	0.3		269
09	1.2	1.1	0.7		39	68	3.0	2.0	0.4		213
10	2.1	1.7	0.4		40	69	2.4	(1.2)	1.0		214
11	2.7	1.8	1.6		294	70	1.7	1.3	0.3		224
12	1.3	1.0	0.3		53	71	2.0	1.6	0.7		225
13	2.0	1.7	0.2		17	72	3.0	2.0	0.3		217
14	2.1	1.9	0.5		18	73	(2.8)	(2.7)	0.7		171
15	2.1	1.2	3.0		42	74	(4.5)	3.1	0.1		172
16	(1.4)	(0.9)	0.1		16	75	(4.3)	(2.5)	1.2		170
17	(2.0)	(1.2)	0.4		12	76	(3.0)	0.7	1.1		270
18	2.5	1.2	0.9		SD 08	77	2.2	(1.7)	0.4		168
19	1.2	1.0	0.4		27	78	6.8	6.4	2.7		221
20	1.4	1.3	7.0		51	79	(5.7)	4.0	0.3		294
21	(1.5)	1.3	9.0		50	80	(3.5)	(2.5)	—		275
22	1.1	0.6	0.1		45	81	1.1	1.1	0.4		237
23	1.8	1.1	0.3		47	82	(2.5)	(1.5)	0.4		238
24	1.1	0.7	0.2		P. 48	83	1.4	0.8	0.4		241
25	0.9	0.7	0.2		P. 46	84	7.0	3.7	1.2		257
26	0.9	0.7	0.2		SK266	85	3.2	1.2	0.4		259
27	1.1	1.0	0.2		267	86	2.1	1.6	0.9		246
28	0.5	0.4	0.2		268	87	2.5	(1.4)	1.1		247
29	1.8	1.4	0.9		SE 05	88	(0.9)	1.9	0.4		240
30	1.0	0.9	0.2		—	89	(2.5)	(2.1)	0.3		261
31	1.0	0.9	0.2		SK 63	90	(3.7)	(1.6)	0.5		289
32	2.0	2.0	0.7		SE 07	91	2.2	1.4	0.3		263
33	6.8	5.0	0.9		08	92	(3.0)	0.7	0.4		200
34	(1.6)	1.3	0.3		SK 64	93	3.1	1.1	0.2		197
35	(4.3)	2.4	0.4		106	94	4.7	1.3	0.6		196
36	(3.2)	2.1	0.4		90	95	(2.6)	(2.0)	1.0		235
37	1.5	1.3	0.5		104	96	3.3	1.0	0.5		190
38	5.0	2.2	1.1		112	97	(2.7)	1.1	0.3		187
39	2.0	1.1	0.4		SE 11	98	(8.6)	2.4	0.3		SD 67
40	(2.1)	1.4	0.8		SK117	99	1.5	1.3	0.3		SK186
41	2.4	1.8	2.0		92	100	7.3	1.9	0.4		SD 52
42	3.4	1.0	0.4		SD 23	101	5.4	2.6	1.0		30
43	2.0	1.7	0.2		SK 95	102	2.2	1.2	0.5		SK126
44	3.8	1.8	1.0		SK96-272	103	1.4	0.8	0.6		127
45	2.9	1.0	0.5		114	104	1.6	1.2	—		283
46	4.0	1.0	1.0		121	105	1.8	(1.6)	0.2		251
47	2.3	2.2	1.4		119	106	1.7	1.2	0.5		254
48	0.9	0.8	0.3		115	107	2.7	1.9	0.4		146
49	6.2	(2.2)	0.5		156	108	(4.3)	0.8	0.2		194
50	3.0	1.6	7.0		148	109	1.5	1.1	0.8		252
51	1.9	1.3	0.5		149	110	(0.7)	0.5	0.4		206
52	[18.0]	8.5	0.8		155	111	0.9	0.8	0.2		208
53	2.4	1.7	0.2		181	112	(3.0)	1.3	0.3		198
54	[10.5]	5.3	1.3		182	113	1.5	(0.6)	0.4		199
55	6.5	6.0	1.3		292	114	1.7	0.9	0.2		195
56	4.0	2.6	0.9		180	115	1.1	0.6	0.5		210
57	4.9	(1.3)	—		178	116	0.9	0.7	0.3		249
58	1.3	1.1	4.0		177	117	1.2	0.8	0.3		268
59	(1.3)	(0.8)	0.2		173	118	1.0	0.7	0.5		145

土 坑
(SK)

遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号	遺構番号	規模(m)			備 考	登録番号
	長径	短径	深さ				長径	短径	深さ		
119	1.1	0.9	0.1		153	150	8.5	3.0	1.7		06
120	1.0	0.6	0.5		144	151	1.6	(0.8)	0.2		03
121	0.9	0.8	0.3		—	152	(1.1)	(0.8)	0.3		01
122	1.0	0.5	0.4		143	153	(3.0)	1.5	0.9		132
123	1.8	0.9	0.5		138	154	(2.9)	(1.5)	0.5		65
124	(2.4)	(1.7)	0.7		147	155	(2.7)	1.4	0.8		66
125	(2.8)	(1.2)	0.4		135	156	2.6	(0.8)	0.4		271
126	(1.0)	(0.5)	1.4		—	157	(1.6)	0.8	0.3		274
127	1.9	(1.3)	0.3		157	158	(4.9)	3.6	0.8		234
128	(1.9)	(1.2)	0.3		154	159	(1.4)	(0.9)	0.2		131
129	2.4	(0.4)	0.3		140	160	(2.8)	0.7	0.3		SD 36
130	(1.4)	(0.6)	0.1		60	161	0.6	0.6	0.1		SK 61
131	1.1	0.7	0.4		68	162	(2.7)	(1.4)	0.7		185
132	3.8	2.2	0.1		74	163	(2.5)	1.5	—	遺構図未掲載	55
133	2.4	1.0	0.2		73	164	(4.1)	(2.1)	1.0		158
134	(7.0)	(0.9)	0.9		291	165	(1.0)	(0.8)	0.2		262
135	4.0	3.8	1.1		123	166	1.0	0.8	0.2		13
136	3.2	0.8	0.4	植木跡列	89	167	2.8	(1.4)	0.3		98
137	(2.5)	(1.2)	0.6		130	168	2.0	1.3	—	遺構図未掲載	109
138	1.0	1.0	0.2		84	169	(1.4)	(0.8)	0.3		30
139	1.9	(1.3)	0.6		99	170	(0.9)	0.4	0.1		160
140	1.3	1.0	0.2		80	171	3.4	(0.6)	0.4		285
141	1.2	1.0	0.2		83	172	(3.0)	(2.0)	0.5		152
142	(1.0)	(0.8)	0.3		85	173	(0.5)	0.6	0.5		P. 88
143	(3.8)	(3.4)	1.1		129	174	—	—	0.1		SK110
144	8.0	4.3	1.5		05	175	2.4	(0.4)	0.4		28
145	1.0	0.4	0.2	植木跡列	100	176	1.2	1.2	0.2		05南
146	1.8	1.1	0.4		67	177	1.4	1.0	0.3		19南
147	(2.8)	(2.3)	1.2		11	178	1.5	1.2	0.3		21南
148	2.6	(1.4)	0.2		07	179	(1.8)	1.1	0.4		SK 44
149	(3.1)	(1.7)	1.0		131	180	1.2	0.7	0.2		134

その 他
(SX)

遺構番号	規模(m)			長 軸 方 向	備 考	登録番号
	長 辺	短 辺	深 さ			
SX01	3.4	0.6	0.2	E-1.5°-N		SK41
02	4.5	0.8	0.7	E-19.5°-N		SD18
03	5.6	2.0	0.8	N-5°-W		SK57
04	30.0	(4.5)	0.6	E-10.5°-N	北辺のテラス状平面上に削り出しの階段付属	SD07

建 物
(SB)

遺構番号	規模(m)		長 軸 方 向	備 考	登録番号
	長 辺	短 辺			
SB 01	7.1	4.2	E-8°-N	規模は3基の掘り形を組み合わせた時のもの	SD02-06-17

井 戸
(SE)

遺構番号	規模(m)		備 考	登録番号	遺構番号	規模(m)		備 考	登録番号
	長径	短径				長径	短径		
SE01	1.1	(1.1)			SE 01	SE 05	1.3	1.3	SE 09
02	(2.0)	1.8			02	06	1.2	1.2	10
03	1.0	0.9			03	07	3.6	2.5	12
04	1.8	1.7			06	08	(1.0)	1.0	13

凡例

表中の各遺構の深さについては、本文中とは異なり、検出面からの計測値となっている。

圖 版



名古屋城全景 (1963年5月) (上が北)



図版2 古代・中世の遺構(1)

1▲
調査区全景(上が北)



◀2
S B501
(北東から)

図版 3

古代・中世の遺構(2)

1 ▶

南部分

(S D505、S E501他)

(南から)



2 ▶

S D506

(東から)



3 ▶

S D506

(西から)

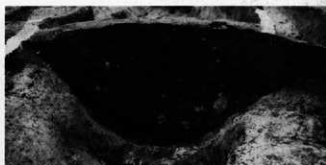


4 ▶ (右上)

S D505

土層セクション

(北から)



5 ▶ (右下)

S D506

土層セクション

(北から)



図版 4
古代・中世の遺構(3)
◀ 1
S D501 (東から)



◀ 2
S D501
西端部分
(北から)



図版 5

古代・中世の遺構(4)

1 ▶

S D501

西端部分 (東から)



2 ▶

S D501

コーナー部分

(北東から)



3 ▶

S D501

土層セクション

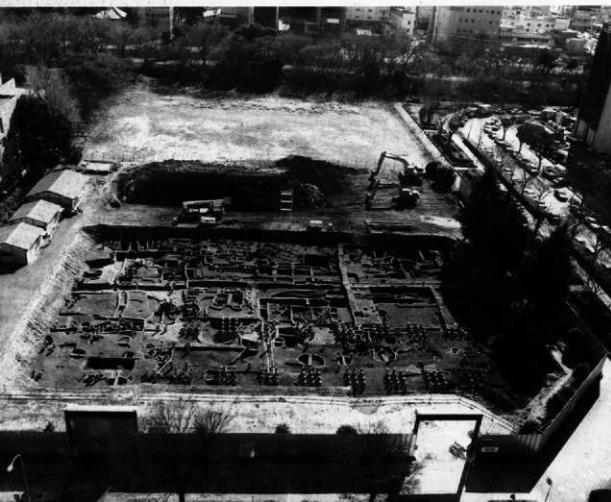
(南東から)





図版6 近世の遺構(1)

1▲ 調査区全景
(上が北)



◀2
調査区及び
外堀をのぞむ
(北から)



1 ▲ 西半部分（北から）

図版7 近世の遺構(2)

2 ▼ 東半部分（北西から）



図版 8
近世の遺構(3)

◀ 1
北東部分
(北から)



◀ 2
南東部分
(東から)



◀ 3
中央部分
(南から)



図版 9
近世の遺構(4)

1 ▶
調査区全景
(東から)



2 ▶
南西部分
(南から)





1



2



3



4

図版10 近世の遺構(5)

- 1、SD08 (西から)
- 2、SA05 (西から)
- 3、SD04 (南北方向部分) (南から)
- 4、SA03 (東から)

図版11
近世の遺構(6)

1 ▶
S K 52
土層セクション
(北東から)



2 ▶
S K 78
土層セクション
(西から)



3 ▶
S X 04
土層セクション
(北東から)





◀1
S K75・76・126
土層セクション
(西から)



◀2
S D09・10
土層セクション
(北から)



◀3
S D14・17
土層セクション
(西から)



1 ▲ SD08西端部土層セクション (西から)



2 ▶
SD08東端部
土層セクション
(西から)

図版14
近世の遺構(9)



◀ 1
S K136・145
植木鉢出土状態



◀ 2 (左)
S K26・27・
28・161

甕出土状態

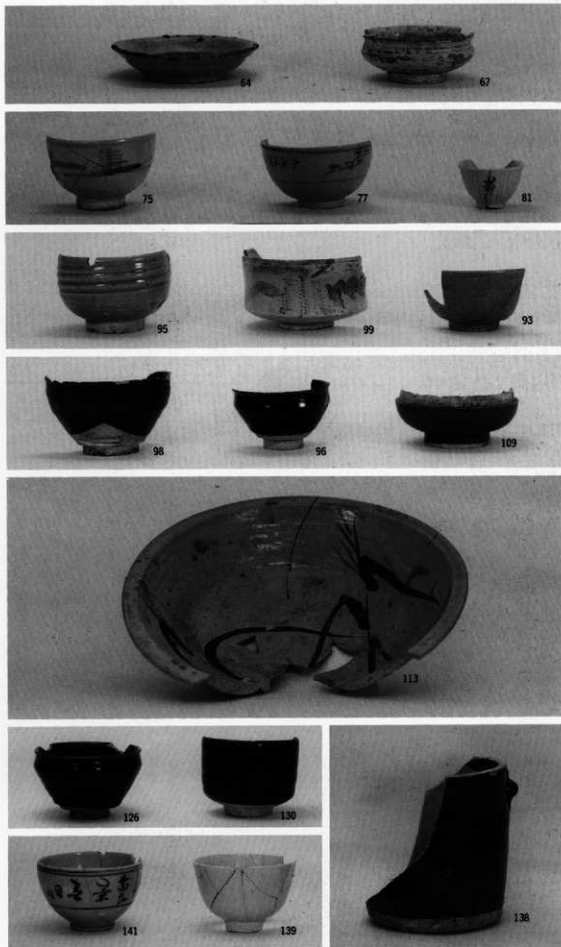


◀ 3 (右)
S X04漆器
出土状態

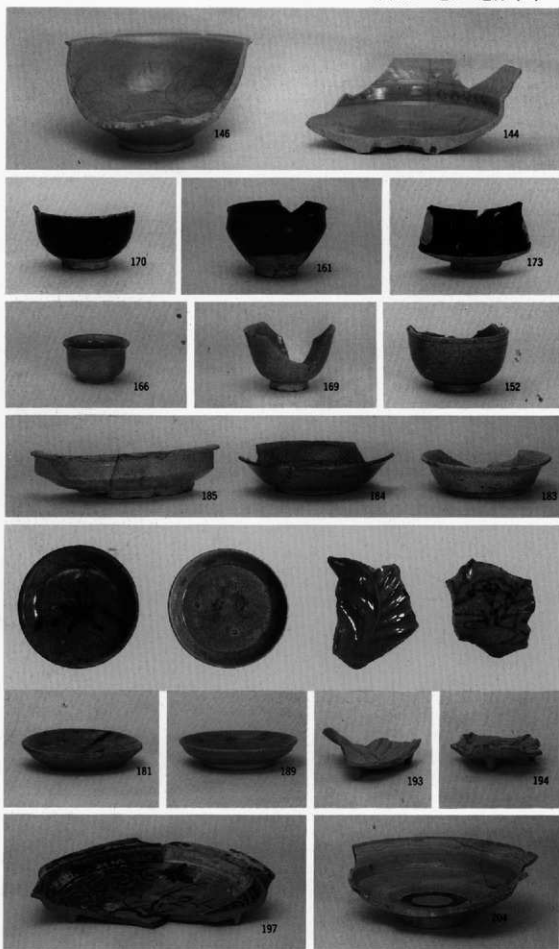


◀ 4
S X04
漆器出土状態

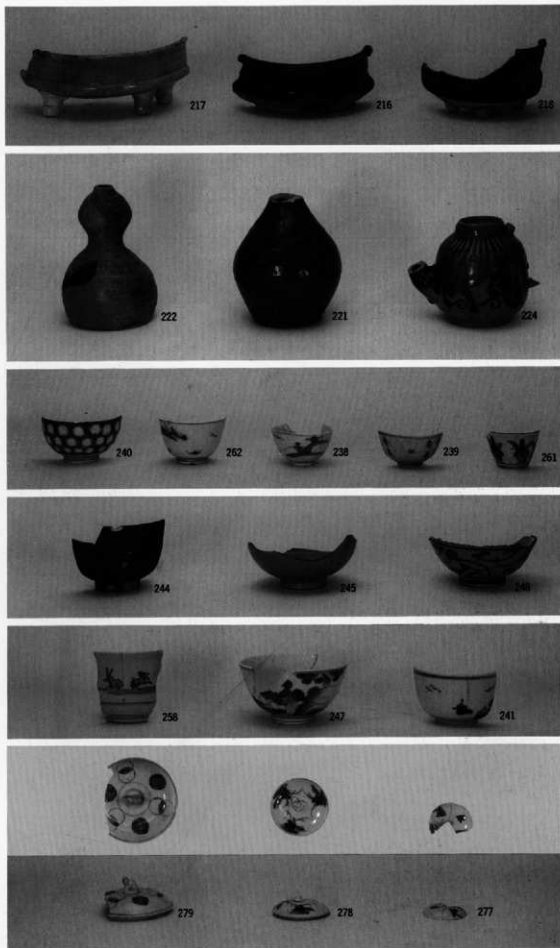
図版15 近世の遺物(1)



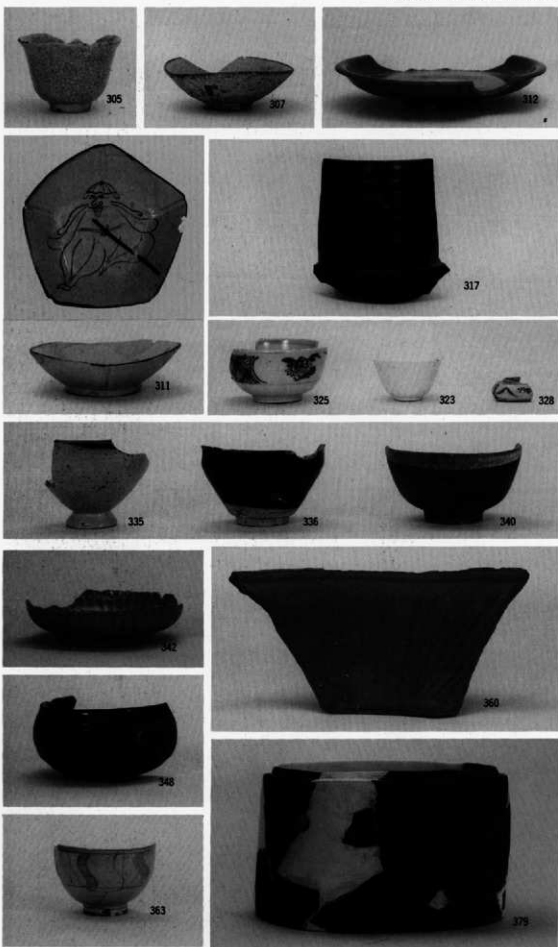
図版16 近世の遺物(2)



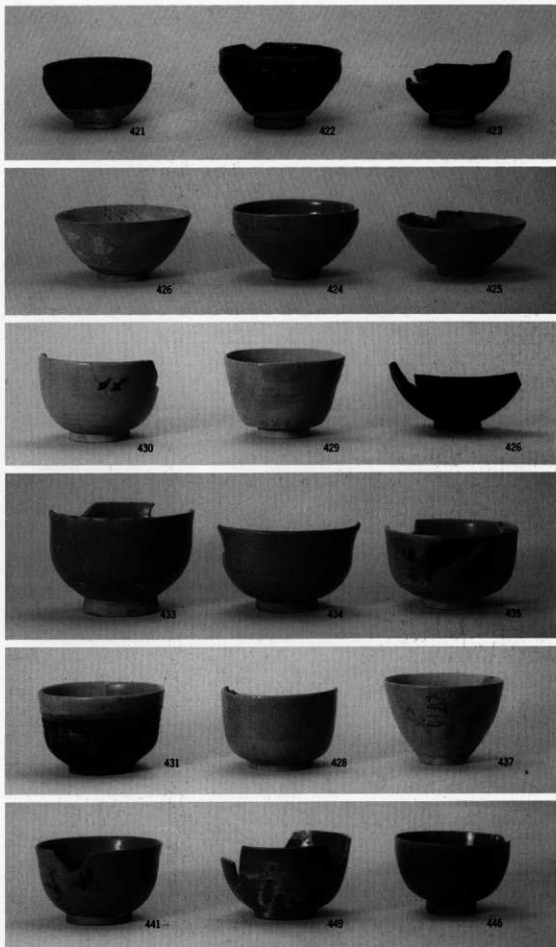
図版17 近世の遺物 (3)

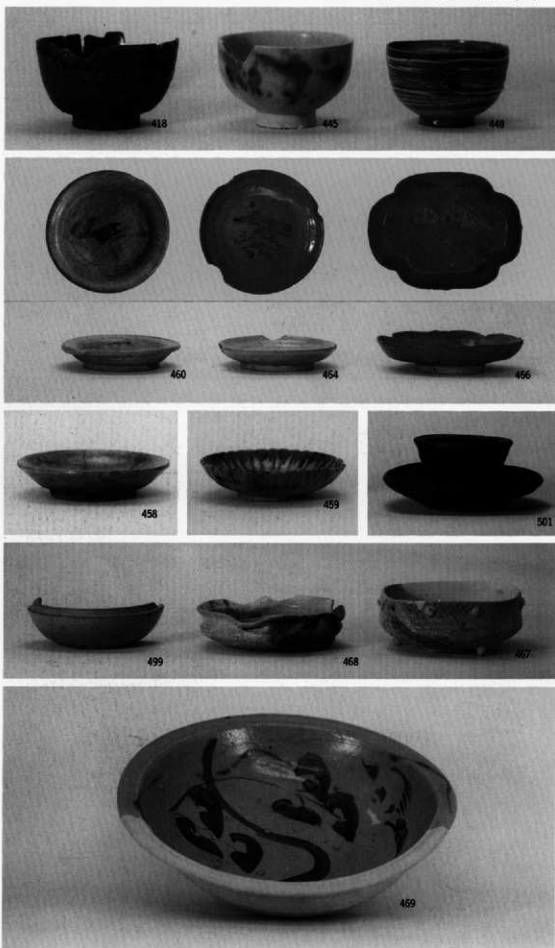


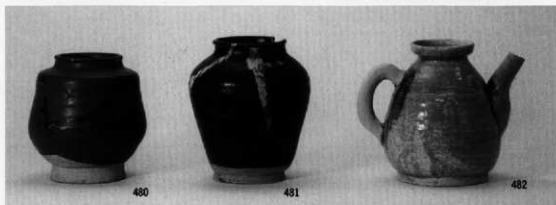
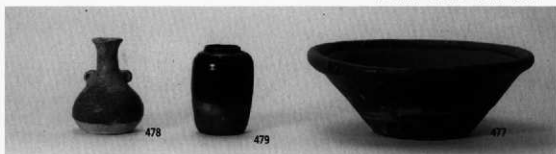
図版18 近世の遺物 (4)



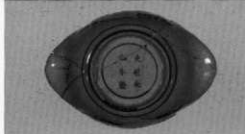
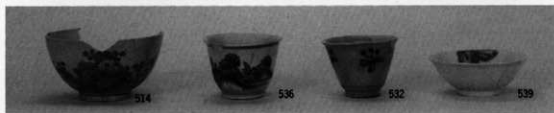
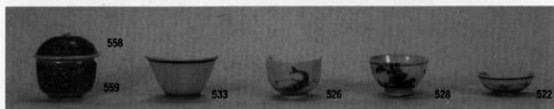
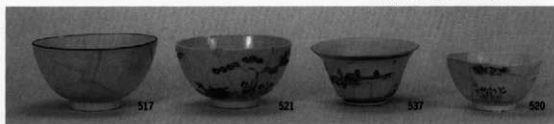
図版19 近世の遺物 (5)

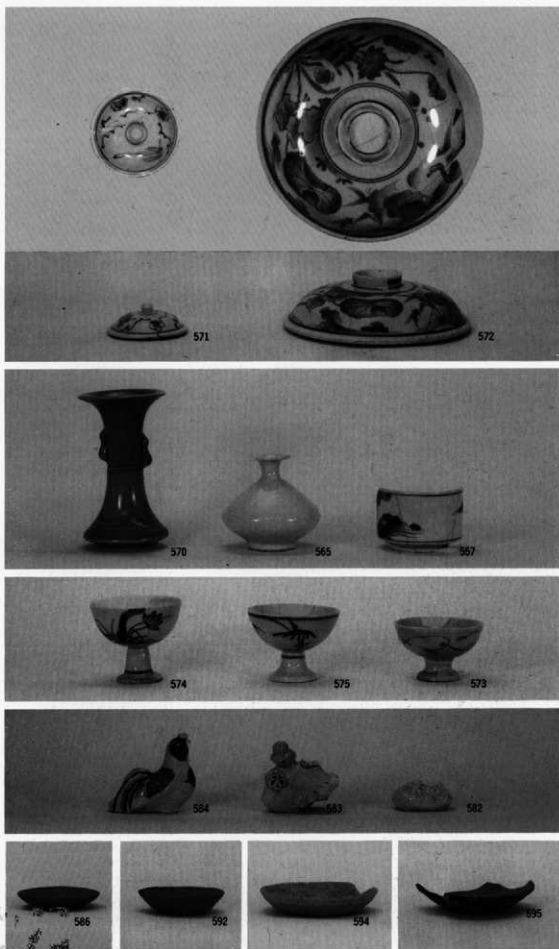




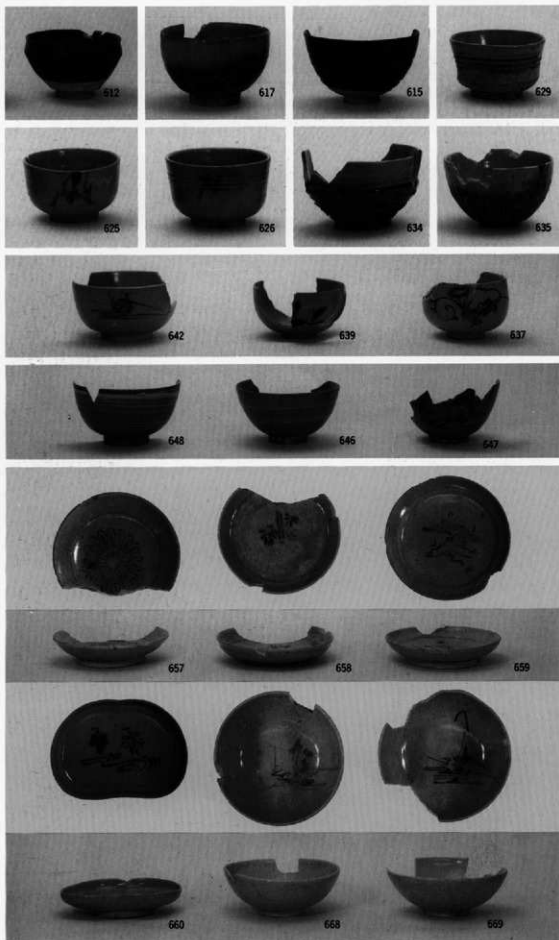


図版22 近世の遺物 (8)

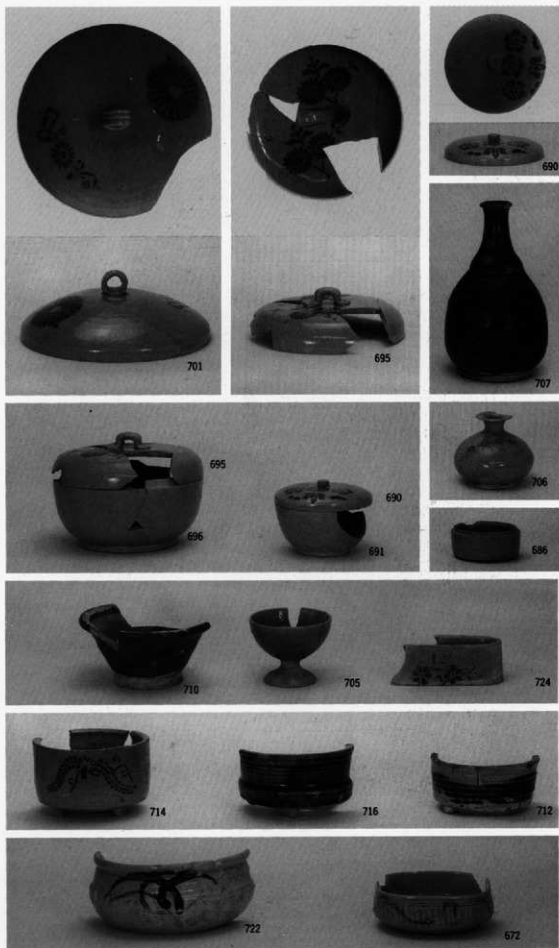


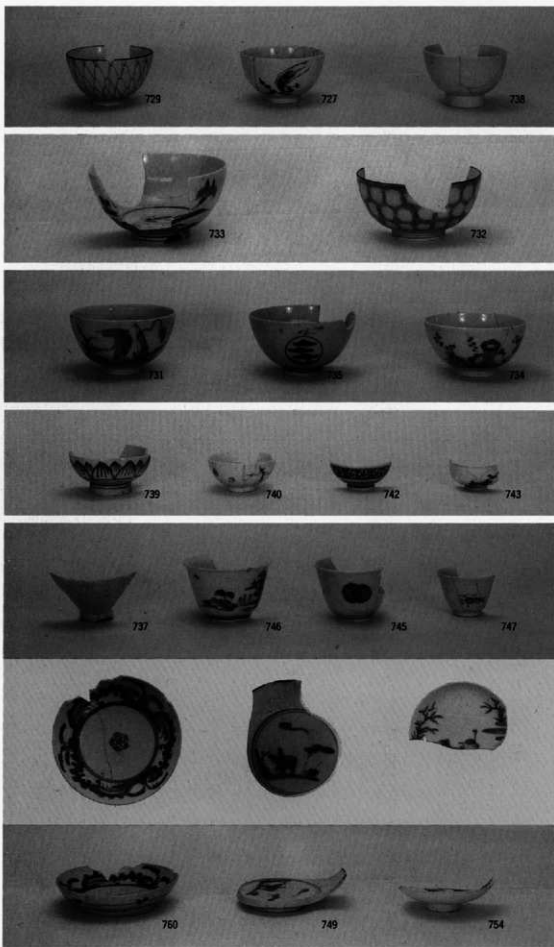


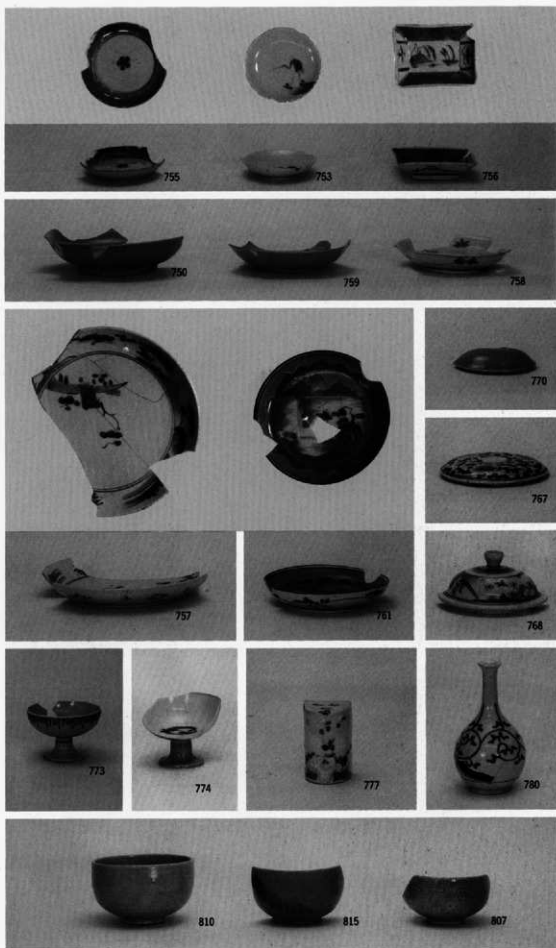
図版24 近世の遺物 (10)



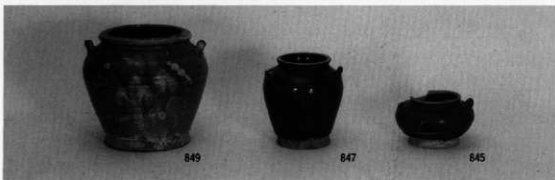
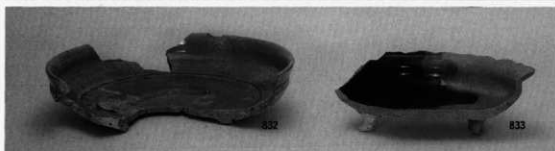
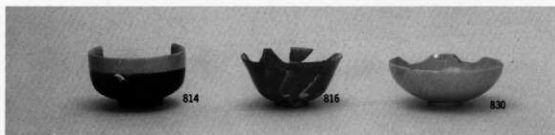
図版25 近世の遺物 (11)

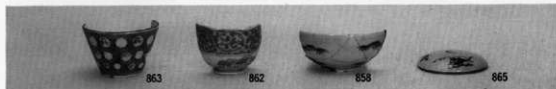


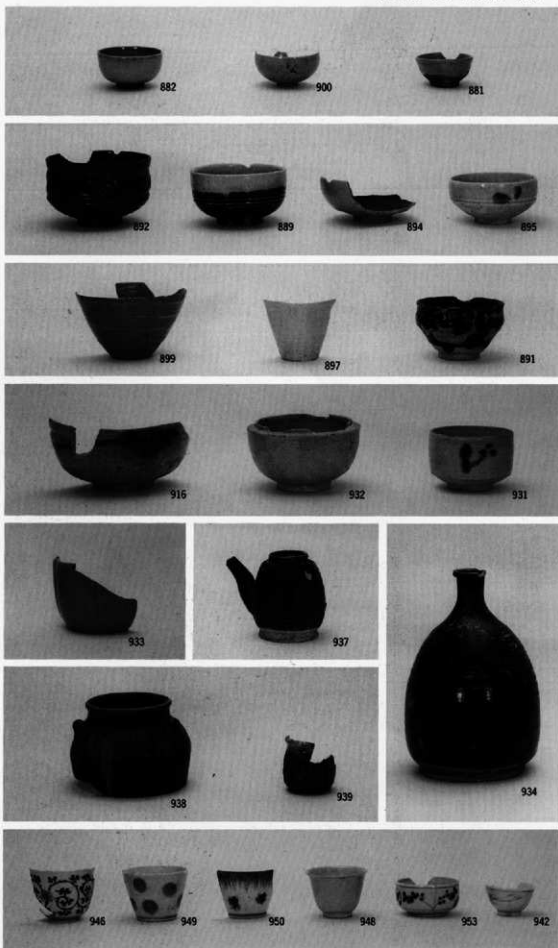




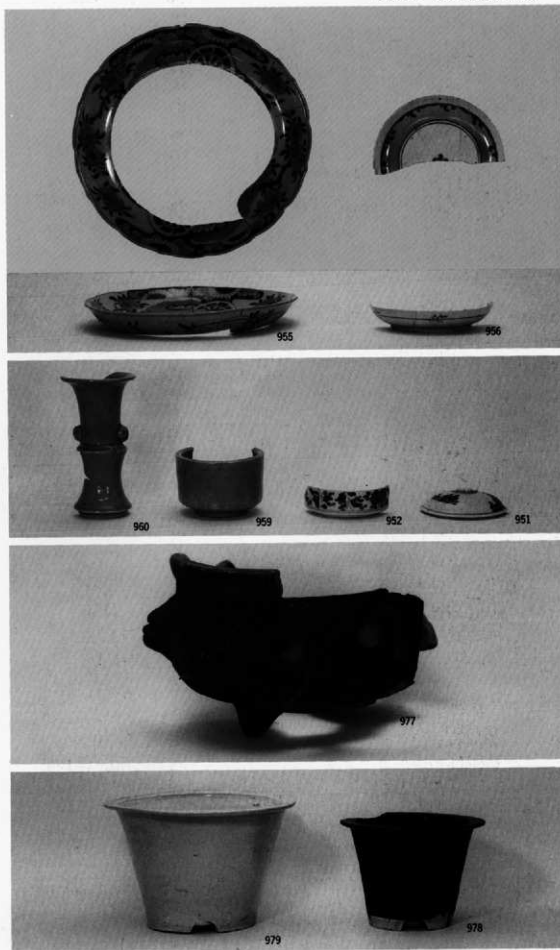
図版28 近世の遺物 (14)

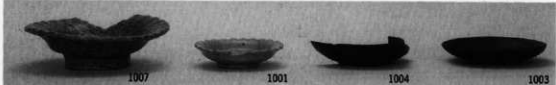
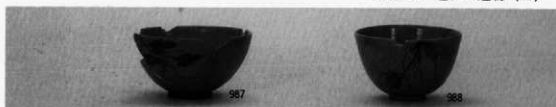


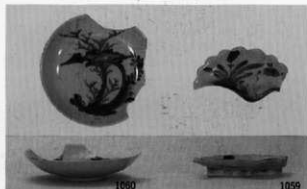
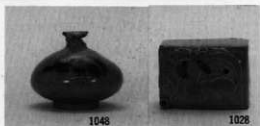




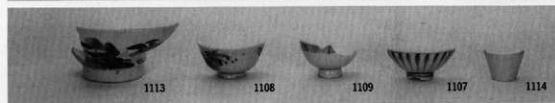
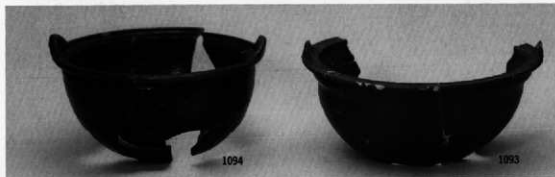
図版31 近世の遺物 (17)



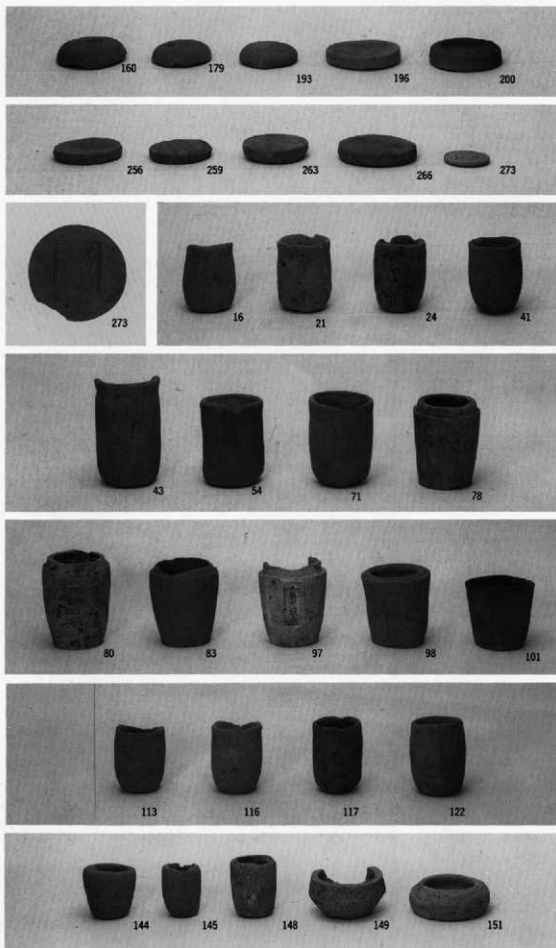




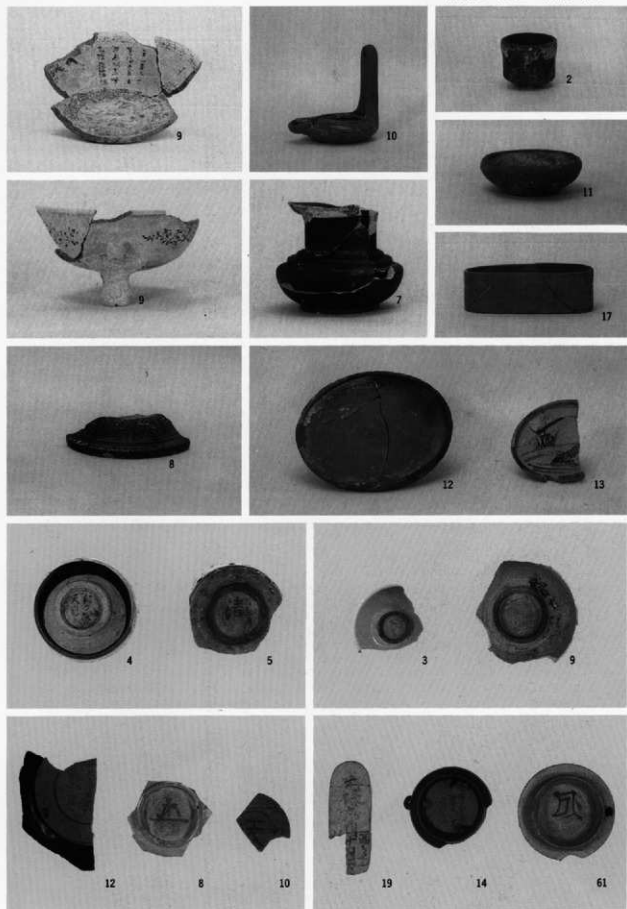
図版34 近世の遺物 (20)



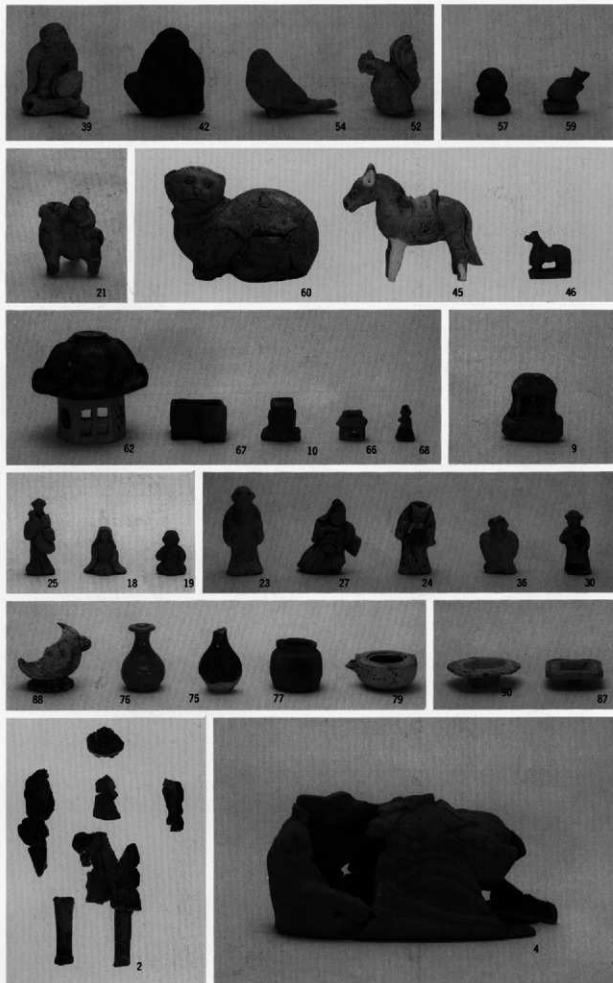
図版36 近世の遺物 (22)

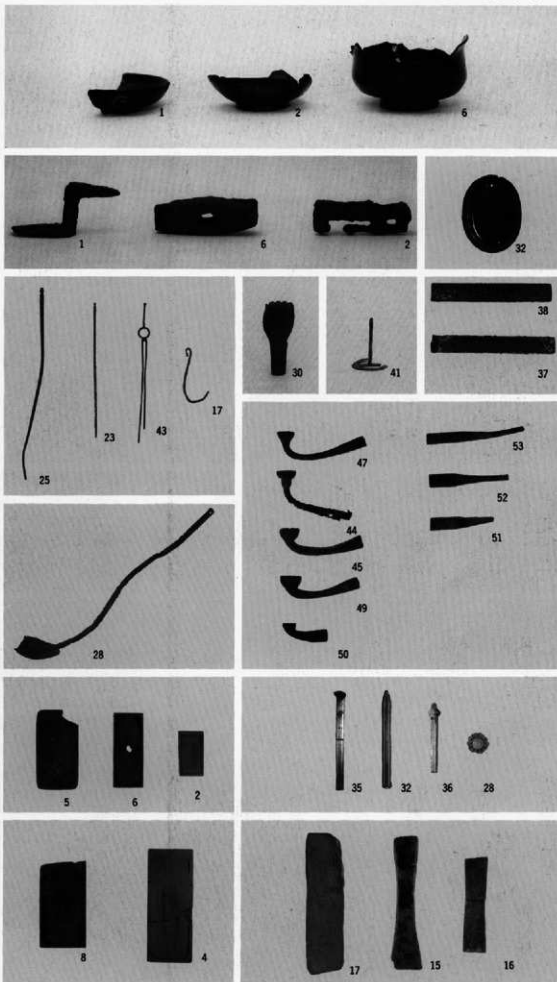


図版37 近世の遺物 (23)



軟質陶器・墨書のある遺物





图版40 调查区全体图(古代·中世)(1:200)



愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第37集

名古屋城三の丸遺跡（Ⅲ）

平成4年3月31日

編 集 行 財団法人
愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 西濃印刷株式会社